

6. 生 物

6. 生物

6.1 評価の進め方

6.1.1 評価方針

鳴鹿大堰は、既存の堰(旧鳴鹿堰堤)を改築する工事に平成元年に着手し、平成 11 年より暫定運用を、平成 16 年より本格運用を開始した。その際、平成元年度から九頭竜川中流域水生生物調査を実施し、鳴鹿大堰建設事業および暫定運用に伴う環境への影響を把握するとともに、鳴鹿大堰運用の適正管理に資することを主な目的として平成 16 年度までモニタリング調査を実施してきた。平成 17 年度以降はフォローアップ調査として、底生動物調査、付着藻類調査、魚類(魚道)調査等を実施している。また、平成 2 年度から河川水辺の国勢調査〔河川版〕も実施し、平成 17 年度までに 3 巡目の調査を終了、平成 18 年度から 4 巡目調査を実施している(表 6.1-1参照)。

したがって、定期報告書を作成するにあたっては、これらの既往調査結果を収集し、その調査内容を整理した上で、活用可能なデータを基に以下の検証・評価を行った。

(1) 評価項目

定期報告書において評価する項目は以下のとおりである。

1) 生物の生息・生育状況の変化の評価

鳴鹿大堰の改築及び魚道の改良に伴い影響・効果を受けると考えられる場所(湛水域内、流入河川、下流河川、湛水域周辺)及び連続性の観点から、環境の状況と生物の生息・生育状況とを経年的に比較・検討し、その変化の状況を検証する。

さらに、重要種^{*}についても、その確認地点や確認時の生息・生育状況を経年的に比較・検討し、その変化の状況を検証する。

それらの検証結果について、評価の視点を定めた上で評価を行い、改善の必要性のある課題を整理する。

※重要種

- ・「文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)」により天然記念物・特別天然記念物に指定されている種
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)」で指定されている種
- ・報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(環境省, 2006 年 12 月)」及び「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて(環境省, 2007 年 8 月)」に記載されている種
- ・「福井県の絶滅のおそれのある野生動物(福井県福祉環境部自然保護課, 2002 年 3 月)」に記載されている種
- ・「福井県の絶滅のおそれのある野生動物 福井県レッドデータブック(植物編)(福井県, 2004 年 3 月)」に記載されている種

(2) 調査の実施状況

鳴鹿大堰は、既存の堰(旧鳴鹿堰堤)を改築する工事に平成元年に着手し、平成 11 年より暫定運用となり、取水が開始され、魚道についても利用が可能となった(一部、工事により魚道が稼働していない期間もある)。その後、堰上流部の掘削、築堤・護岸工等の関連工事が実施され、平成 16 年より本格運用を開始した。

その際、生物調査としては平成元年度から九頭竜川中流域水生生物調査を実施し、鳴鹿大堰建設事業および暫定運用に伴う環境への影響を把握するとともに、鳴鹿大堰運用の適正管理に資することを主な目的として平成 16 年度までモニタリング調査を実施してきた。平成 17 年度以降はフォローアップ調査として、底生動物調査、付着藻類調査、魚類(魚道)調査等を実施している。また、平成 2 年度から河川水辺の国勢調査〔河川版〕も実施し、平成 17 年度までに 3 巡目の調査を終了、平成 18 年度から 4 巡目調査を実施している。

これまでに実施された生物調査の実施状況を表 6.1-1 に示す。

表 6.1-1 鳴鹿大堰における生物調査の実施状況

項目	平成																								
	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20					
鳴鹿大堰建設	堰本体工事等					築堤・護岸・導水路工等					本体概成					暫定運用開始					本格運用開始				
魚道工事(右岸)	-																								
魚道工事(左岸)	-																								
水生生物	魚類	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	▲					
	底生動物	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	■	●	■					
	プランクトン			▲	▲																				
	付着藻類	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	■	■	■					
陸域生物	植物		▲	▲	▲	▲	●				▲	●	▲			▲	●								
	鳥類		▲	▲		●					●					●									
	両生類・爬虫類・哺乳類		▲	●					●				●			▲									
陸上昆虫類等		▲	▲	●					●					●	▲										
魚道調査		▲	▲								▲	▲	▲	▲	▲	▲	■	■	■						

凡例) ●: 河川水辺の国勢調査(国実施〔河川版〕)、▲: モニタリング調査、■: フォローアップ調査

6.1.2 評価手順

生物に関する定期報告は、堰の改築(魚道の改良も含む)による環境変化の検証及び今後の方針の抽出を主たる目的とする。ここでは、生物に関する1回目の定期報告として、堰及びその周辺の環境特性の把握を行うとともに、堰改築後の生物の生息・生育状況に変化が生じているかどうかを検証・評価し、今後の方針を整理した。検討手順は図 6.1-1のとおりである。

(1) 資料の収集

鳴鹿大堰及びその周辺で実施されているモニタリング調査、フォローアップ調査、河川水辺の国勢調査等の既存の生物調査報告書について収集し、生物調査の実施状況等を整理した。また評価に必要な生物調査以外の資料(流況、水質等)についても収集した。

(2) 湛水域及びその周辺の環境の把握

モニタリング調査、フォローアップ調査、河川水辺の国勢調査等の既存の生物調査報告書の結果から、湛水域及びその周辺の環境の概要を把握した。

(3) 生物の生息・生育状況の変化の検証

鳴鹿大堰の改築及び魚道の改良に伴い影響・効果を受けると考えられる場所(湛水域内、流入河川、下流河川、湛水域周辺)及び連続性の観点から環境の状況と生物の生息・生育状況を経年的に比較し、変化の状況を把握した。

比較の結果、生物の生息・生育状況に変化がみられた場合には、それが堰の改築に伴う環境変化によるものか、あるいはその他の環境変化によるものかの観点から変化要因の検討を行い、堰との関連を検証した。

(4) 生物の生息・生育状況の変化の評価

「(3) 生物の生息・生育状況の変化の検証」における検証結果について、評価の視点を定めて評価を行い、今後の方針を検討した。

(5) まとめ

これまでの検討結果より、鳴鹿大堰及びその周辺の環境について、今後の方針をとりまとめた。

(6) 文献リストの作成

使用した文献等のリストを作成した。

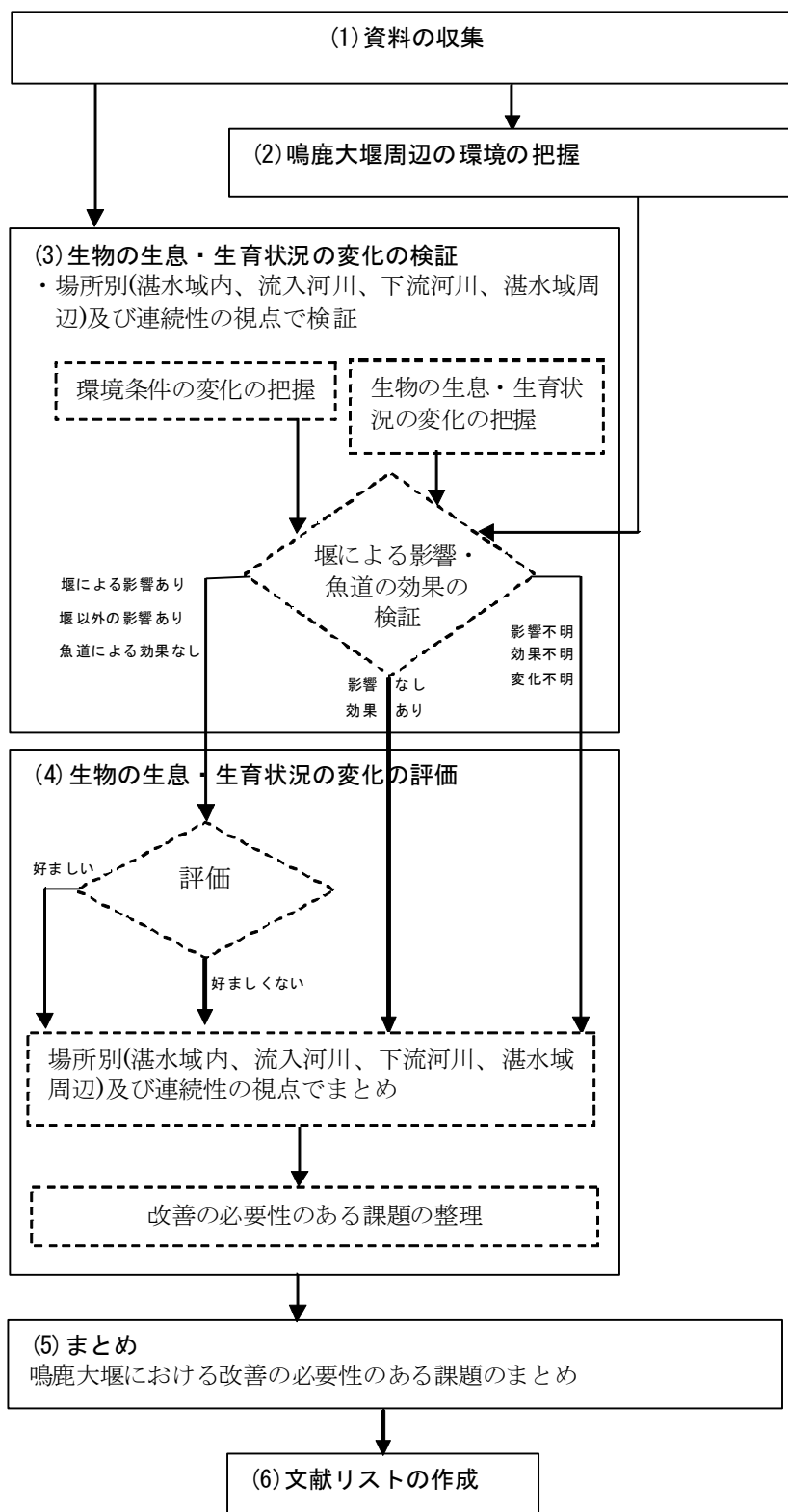


図 6.1-1 鳴鹿大堰定期報告書における生物に関する評価・検討手順

6.1.3 資料の収集

(1) 収集資料の整理

鳴鹿大堰では、河川水辺の国勢調査(以下、国勢調査と言う。)を平成2年(1992年)度から実施しており、平成17年(2005年)度で3巡目の調査を終えたところである。ここでは、鳴鹿大堰で実施している国勢調査の他に、モニタリング調査やフォローアップ調査等における生物調査報告書について表6.1-2に示した。

表 6.1-2(1) 鳴鹿大堰 生物調査実施状況

年度	調査件名	調査区分	対象生物								備考		
			魚類	底生動物	植物	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類等	付着藻類	魚道調査		プランクトン	
平成元年度 (1989年)	平成元年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	その他の調査	○	○*						○			*水生昆虫
平成2年度 (1990年)	平成2年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	その他の調査	○	○*						○	○		*水生昆虫
	平成2年度アラレガコ生息実態調査業務報告書	その他の調査	○										
平成3年度 (1991年)	九頭竜川中流域動植物等調査業務報告書	その他の調査			○	○	○	○					
	平成3年度 九頭竜川水系小動物調査報告書(本編)	国勢調査					○						
	九頭竜川中流域環境調査業務報告書	その他の調査			○	○	○	○					
	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	その他の調査	○	○*						○	○	○	*水生昆虫
	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査(その2)作業報告書	その他の調査	○*1	○*2	○					○		○	*1 甲殻類、貝類含む *2 水生昆虫
平成4年度 (1992年)	アラレガコ生息環境検討資料作成業務報告書	その他の調査	○										
	平成4年度 九頭竜川水系陸上昆虫類等調査報告書	国勢調査							○				
平成5年度 (1993年)	平成4年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	その他の調査	○*1	○*2	○					○		○	*1 甲殻類、貝類含む *2 水生昆虫
	平成5年度 九頭竜川河川水辺生物調査業務報告書(魚類)	国勢調査	○										
	平成5年度 九頭竜川河川水辺生物調査業務報告書(底生動物)	国勢調査		○									
	平成5年度 九頭竜川河川水辺生物調査業務報告書(鳥類)	国勢調査				○							
	平成5年度 九頭竜川河川水辺生物調査業務報告書(付着藻類)	その他の調査								○			
	平成5年度 九頭竜川中流域植物調査業務報告書	その他の調査			○								

表 6.1-2(2) 鳴鹿大堰 生物調査実施状況

年度	調査件名	調査区分	対象生物								備考	
			魚類	底生動物	植物	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類等	付着藻類	魚道調査		プランクトン
平成6年度 (1994年)	平成6年度 九頭竜川水系植物調査報告書	国勢調査			○							
	平成6年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	その他の調査	○*1	○					○			*1魚介類
平成7年度 (1995年)	平成7年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	その他の調査	○*1	○					○			*1魚介類
平成8年度 (1996年)	平成8年度 九頭竜川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書	国勢調査					○					
	平成8年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	その他の調査	○*1	○					○			*1魚介類
	平成8年度 九頭竜川回遊魚環境調査作業報告書	その他の調査	○									
平成9年度 (1997年)	平成9年度 九頭竜川水系陸上昆虫類等調査報告書	国勢調査						○				
	平成9年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	その他の調査	○*1	○					○			*1魚介類
平成10年度 (1998年)	平成10年度 九頭竜川水系魚介類調査報告書	国勢調査	○									
	平成10年度 九頭竜川水系底生動物調査報告書	国勢調査		○								
	平成10年度 河川水辺生物調査業務報告書(付着藻類およびアラレガコ)	その他の調査	○*1						○			*1アラレガコ
平成11年度 (1999年)	平成11年度 河川水辺生物調査業務報告書(九頭竜川水系鳥類調査)	国勢調査				○						
	平成10年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	その他の調査							○			
	平成11年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	その他の調査		○	○	○			○			
平成12年度 (2000年)	平成12年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系植物調査)報告書	国勢調査			○							
	平成11年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング業務報告書	その他の調査							○			
	平成12年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	その他の調査		○					○			
平成13年度 (2001年)	平成13年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査)報告書	国勢調査					○					
	平成13年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	その他の調査		○	○				○			
	平成13年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	その他の調査							○			

表 6.1-2(3) 鳴鹿大堰 生物調査実施状況

年度	調査件名	調査区分	対象生物							備考		
			魚類	底生動物	植物	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類等	付着藻類		魚道調査	プランクトン
平成14年度 (2002年)	平成14年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系陸上昆虫類等調査)報告書	国勢調査							○			
	平成14年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	その他の調査		○						○		
	平成14年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	その他の調査									○	
平成15年度 (2003年)	平成15年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務魚介類調査報告書	国勢調査	○									
	平成15年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務底生動物調査報告書	国勢調査		○								
	平成15年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	その他の調査		○						○		
	平成15年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	その他の調査									○	
平成16年度 (2004年)	平成16年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務報告書鳥類	国勢調査				○						
	平成16年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	その他の調査									○	
	平成16年度 鳴鹿大堰モニタリング調査検討業務報告書	その他の調査	○	○	○	○	○	○	○			
	平成16年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	その他の調査		○	○		○	○	○			
平成17年度 (2005年)	平成17年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務報告書	国勢調査			○							
	平成17年度 鳴鹿大堰環境調査業務報告書	その他の調査		○						○	○	
平成18年度 (2006年)	平成18年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務底生動物調査報告書	国勢調査		○								
	平成18年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務 報告書	その他の調査		○						○	○	
平成19年度 (2007年)	平成19年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査(魚類調査)報告書	国勢調査	○									
	平成19年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務 報告書	その他の調査		○						○	○	
平成20年 (2008年)	平成20年度九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務(陸上昆虫類等調査) 報告書	国勢調査							○			
	平成20年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務 報告書	その他の調査		○						○	○	

(2) 調査内容の整理

表 6.1-2に示す資料を用いて、各生物調査項目について調査内容の整理を行った。

1) 魚類調査

鳴鹿大堰における魚類調査の調査内容を表 6.1-3に、調査位置を図 6.1-2に示す。鳴鹿大堰魚道での魚類調査は、暫定運用開始以降の平成11年度から行われていたモニタリング調査を平成16年度で終了し、平成17年からはフォローアップ調査を行っている。

平成17年度のフォローアップ調査からは、鳴鹿大堰の魚道でのみ調査を継続して実施し、湛水域や下流域での調査は行っていない。なお、平成19年度の調査では、デニール式魚道と接続水路においても魚類調査を実施した。

表 6.1-3(1) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成元年度 (1989年)	平成元年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.1	No.1 坂東島	H01.11.9	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
		本川上流	St.2	No.2 北島	H01.11.9	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
		本川上流	St.3	No.3 浄法寺	H01.11.9	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
		本川下流	St.4	No.4 志比塚	H01.11.10	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
		本川下流	St.5	No.5 高速道路下	H01.11.10	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
		本川下流	St.6	No.6 福井大橋	H01.11.10	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
		本川下流	St.7	No.7 天池橋	H01.11.11	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
		本川下流	St.8	No.8 高屋橋	H01.11.11	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
		支川	St.9	No.9 永平寺川下流(法寺岡)	H01.11.9	投網(13.5,16.5,37.5mm)、刺網(13.5,16.5,18.0mm)
平成2年度 (1990年)	平成2年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.1	No.1 坂東島	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)
		本川上流	St.2	No.2 北島	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)
		本川上流	St.3	No.3 浄法寺	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)
		本川下流	St.4	No.4 志比塚	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)
		本川下流	St.5	No.5 高速道路下	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)
		本川下流	St.6	No.6 福井大橋	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)
		本川下流	St.7	No.7 天池橋	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)
		本川下流	St.8	No.8 高屋橋	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)
		支川	St.9	No.9 永平寺川下流(法寺岡)	H02.05.07~09 H02.09.05~07	投網(目合 15mm、網裾 3.5m)、刺網(目合 24mm、網裾 0.6m)

表 6.1-3(2) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成3年度 (1991年)	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.12	No.1 五松橋	H03.05.10 H03.07.22 H03.09.03 H03.11.05 H04.02.03	投網(目合 12~18mm、網丈 3.1~3.4m)、刺網(目合 30mm、網丈 60cm、網長 90cm 前後)、仕切り網(二本の竹棒に目合 10mm、網丈 0.8m、網長 1m の一枚網を取り付けたもの)
		本川下流	St.4 St.11	No.2 鳴鹿堰下流	H03.05.10 H03.07.22 H03.09.03 H03.11.05 H04.02.03	投網(目合 12~18mm、網丈 3.1~3.4m)、刺網(目合 30mm、網丈 60cm、網長 90cm 前後)、仕切り網(二本の竹棒に目合 10mm、網丈 0.8m、網長 1m の一枚網を取り付けたもの)
		本川上流	St.10	No.3 下浄法寺	H03.05.10 H03.07.22 H03.09.03 H03.11.05 H04.02.03	投網(目合 12~18mm、網丈 3.1~3.4m)、刺網(目合 30mm、網丈 60cm、網長 90cm 前後)、仕切り網(二本の竹棒に目合 10mm、網丈 0.8m、網長 1m の一枚網を取り付けたもの)
		支川	St.9	No.4 永平寺川(法寺岡)	H03.05.10 H03.07.22 H03.09.03 H03.11.05 H04.02.03	投網(目合 12~18mm、網丈 3.1~3.4m)、刺網(目合 30mm、網丈 60cm、網長 90cm 前後)、仕切り網(二本の竹棒に目合 10mm、網丈 0.8m、網長 1m の一枚網を取り付けたもの)
	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査(その2)作業報告書	湛水域内	St.13	貯水池上流側(鳴鹿橋~本覚寺)	H03.11.13~19 H04.01.08~16	投網(目合 18mm、網丈 3.4m)、刺網(脇投げ: 目合 30mm、網丈 60cm、網長 8m、一枚網: 目合 24~30mm、網長 20~40m、三枚網: 目合 50mm、網長 30m)、ピンドウ、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ
		湛水域内	St.14	貯水池下流側(堰~鳴鹿橋)	H03.11.13~19 H04.01.08~16	投網(目合 18mm、網丈 3.4m)、刺網(脇投げ: 目合 30mm、網丈 60cm、網長 8m、一枚網: 目合 24~30mm、網長 20~40m、三枚網: 目合 50mm、網長 30m)、ピンドウ、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ
		本川上流	St.3	貯水池周辺右岸側(下浄法寺地先)	H03.11.13~19 H04.01.08~16	投網(目合 18mm、網丈 3.4m)、刺網(脇投げ: 目合 30mm、網丈 60cm、網長 8m、一枚網: 目合 24~30mm、網長 20~40m、三枚網: 目合 50mm、網長 30m)、ピンドウ、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ
		本川上流	St.10	貯水池周辺右左側(谷口地先)	H03.11.13~19 H04.01.08~16	投網(目合 18mm、網丈 3.4m)、刺網(脇投げ: 目合 30mm、網丈 60cm、網長 8m、一枚網: 目合 24~30mm、網長 20~40m、三枚網: 目合 50mm、網長 30m)、ピンドウ、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ

表 6.1-3(3) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成4年度 (1992年)	平成4年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.10	No.1 下浄法寺	H04.05.27 H04.08.24 H04.11.05	投網(目合 18mm、網丈 3.4m)、仕切網(2~4本の竹棒に目合 10~12mm、網丈 0.8m の一枚網を取り付けたもの)、刺網(目合 24mm、網丈 90cm、網長 15~20m)、タモ網(目合 8mm、網の大きさ 350×250mm)、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ
		本川下流	St.4 St.11	No.2 鳴鹿堰下流	H04.05.27 H04.08.24 H04.11.05	投網(目合 18mm、網丈 3.4m)、仕切網(2~4本の竹棒に目合 10~12mm、網丈 0.8m の一枚網を取り付けたもの)、刺網(目合 24mm、網丈 90cm、網長 15~20m)、タモ網(目合 8mm、網の大きさ 350×250mm)、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ
		本川下流	St.12	No.3 五松橋	H04.05.27 H04.08.24 H04.11.05	投網(目合 18mm(秋季は 100mm併用)、網丈 3.4m)、仕切網(2~4本の竹棒に目合 10~12mm、網丈 0.8m の一枚網を取り付けたもの)、刺網(目合 24mm、網丈 90cm、網長 15~20m)、タモ網(目合 8mm、網の大きさ 350×250mm)、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ
		湛水域内	St.13	貯水池上流側	H04.05.25~30 H04.08.04 H04.08.24~31	刺網(目合 24~30mm、網長 15~30m)、三枚網(目合 50mm、網長 30m)、ピンドウ、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ、見つけ取り
		湛水域内	St.14	貯水池下流側	H04.05.25~30 H04.08.04 H04.08.24~31	刺網(目合 24~30mm、網長 15~30m)、三枚網(目合 50mm、網長 30m)、ピンドウ、ウナギ筒、カミ箆、しばづけ、見つけ取り
平成5年度 (1993年)	平成5年度 九頭竜川河川水辺生物調査業務報告書(魚類)	本川下流	St.3	中角付近	H05.6.1、16、25 H05.8.2、9 H05.10.19	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ
		本川下流	St.4	五松橋付近	H05.6.14 H05.8.9 H05.10.6、18、19	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ
		本川下流	St.5	鳴鹿堰直下流	H05.6.14、25 H05.10.18	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ
		湛水域内	St.6	鳴鹿堰湛水域	H05.6.16 H05.10.18	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ
		湛水域内	St.7	鳴鹿堰湛水上流端	H05.6.14 H05.10.18	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ

表 6.1-3(4) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成6年度 (1994年)	平成6年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.12	St.1 五松橋	H06.08.24~25 H06.10.18~19	投網(目合 12mm,網裾 2.5m、目合 18mm,網裾 2.5m)、タモ網(水際:目合 0.5mm,径 40cm、目合 5mm,径 100cm)(瀬:目合 10mm,径 80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合 24mm,網丈 0.8m,網長 15m、目合 30mm,網丈 2.0m,網長 30m、目合 50mm,網丈 2.0m,網長 30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		本川下流	St.4	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H06.08.24~25 H06.10.18~19	投網(目合 12mm,網裾 2.5m、目合 18mm,網裾 2.5m)、タモ網(水際:目合 0.5mm,径 40cm、目合 5mm,径 100cm)(瀬:目合 10mm,径 80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合 24mm,網丈 0.8m,網長 15m、目合 30mm,網丈 2.0m,網長 30m、目合 50mm,網丈 2.0m,網長 30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		湛水域内	St.15	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H06.08.24~25 H06.10.18~19	投網(目合 12mm,網裾 2.5m、目合 18mm,網裾 2.5m)、タモ網(水際:目合 0.5mm,径 40cm、目合 5mm,径 100cm)(瀬:目合 10mm,径 80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合 24mm,網丈 0.8m,網長 15m、目合 30mm,網丈 2.0m,網長 30m、目合 50mm,網丈 2.0m,網長 30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		湛水域内	St.16	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H06.08.24~25 H06.10.18~19	投網(目合 12mm,網裾 2.5m、目合 18mm,網裾 2.5m)、タモ網(水際:目合 0.5mm,径 40cm、目合 5mm,径 100cm)(瀬:目合 10mm,径 80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合 24mm,網丈 0.8m,網長 15m、目合 30mm,網丈 2.0m,網長 30m、目合 50mm,網丈 2.0m,網長 30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り

表 6.1-3(5) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成7年度 (1995年)	平成7年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.12	St.1 五松橋	H07.05.22~24 H07.08.28~30 H07.10.23~25	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m、目合50mm,網裾2.5m)、タモ網(水際:目合2mm,径40cm、目合5mm,径100cm)(瀬:目合2mm,径40cm、目合10mm,径80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合24mm,網丈0.8m,網長15m、目合30mm,網丈2.0m,網長30m、目合50mm,網丈2.0m,網長30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		本川下流	St.4	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H07.05.22~24 H07.08.28~30 H07.10.23~25	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m、目合50mm,網裾2.5m)、タモ網(水際:目合2mm,径40cm、目合5mm,径100cm)(瀬:目合2mm,径40cm、目合10mm,径80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合24mm,網丈0.8m,網長15m、目合30mm,網丈2.0m,網長30m、目合50mm,網丈2.0m,網長30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		湛水域内	St.15	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H07.05.22~24 H07.08.28~30 H07.10.23~25	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m、目合50mm,網裾2.5m)、タモ網(水際:目合2mm,径40cm、目合5mm,径100cm)(瀬:目合2mm,径40cm、目合10mm,径80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合24mm,網丈0.8m,網長15m、目合30mm,網丈2.0m,網長30m、目合50mm,網丈2.0m,網長30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		湛水域内	St.16	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H07.05.22~24 H07.08.28~30 H07.10.23~25	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m、目合50mm,網裾2.5m)、タモ網(水際:目合2mm,径40cm、目合5mm,径100cm)(瀬:目合2mm,径40cm、目合10mm,径80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合24mm,網丈0.8m,網長15m、目合30mm,網丈2.0m,網長30m、目合50mm,網丈2.0m,網長30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り

表 6.1-3(6) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成8年度 (1996年)	平成8年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.12	St.1 五松橋	H08.05.07~09 H08.09.11~13 H08.10.22~24	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m)、タモ網(目合2mm,径40cm、目合10mm,径60cm、目合10mm,径80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合15mm,網丈0.7m,網長15m、目合24mm,網丈0.9m,網長20m、目合24mm,網丈1.2m,網長30m、目合30mm,網丈0.9m,網長20m、目合30mm,網丈1.8m,網長30m、目合50mm,網丈1.5m,網長30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		本川下流	St.4	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H08.05.07~09 H08.09.11~13 H08.10.22~24	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m)、タモ網(目合2mm,径40cm、目合10mm,径60cm、目合10mm,径80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合15mm,網丈0.7m,網長15m、目合24mm,網丈0.9m,網長20m、目合24mm,網丈1.2m,網長30m、目合30mm,網丈0.9m,網長20m、目合30mm,網丈1.8m,網長30m、目合50mm,網丈1.5m,網長30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		湛水域内	St.15	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H08.05.07~09 H08.09.11~13 H08.10.22~24	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m)、タモ網(目合2mm,径40cm、目合10mm,径60cm、目合10mm,径80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合15mm,網丈0.7m,網長15m、目合24mm,網丈0.9m,網長20m、目合24mm,網丈1.2m,網長30m、目合30mm,網丈0.9m,網長20m、目合30mm,網丈1.8m,網長30m、目合50mm,網丈1.5m,網長30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		湛水域内	St.16	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H08.05.07~09 H08.09.11~13 H08.10.22~24	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m)、タモ網(目合2mm,径40cm、目合10mm,径60cm、目合10mm,径80cm×100cm(仕切り網))、刺網(目合15mm,網丈0.7m,網長15m、目合24mm,網丈0.9m,網長20m、目合24mm,網丈1.2m,網長30m、目合30mm,網丈0.9m,網長20m、目合30mm,網丈1.8m,網長30m、目合50mm,網丈1.5m,網長30m)、しばづけ、カニかご、見つけ取り
	平成8年度 九頭竜川回遊魚環境調査作業報告書		St.17	中角地区	H08.4~7月の各月1回	遡上状況の確認 小型定置網、投網、刺網、タモ網による回遊魚の捕獲
			St.18	五松橋地区	H08.4~7月の各月1回	遡上状況の確認 小型定置網、投網、刺網、タモ網による回遊魚の捕獲
			St.19	鳴鹿地区	H08.4~7月の各月1回	遡上状況の確認 小型定置網、投網、刺網、タモ網による回遊魚の捕獲

表 6.1-3(7) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成9年度 (1997年)	平成9年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.12	St.1 五松橋	H09.10.22~24	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m)、タモ網(目合2mm,径40cm)、サデ網(目合7mm,径80cm)、刺網(目合15mm,網丈0.7m,網長15m、目合24mm,網丈0.9m,網長20m、目合24mm,網丈1.2m,網長30m、目合30mm,網丈0.9m,網長20m、目合30mm,網丈1.5m,網長30m、目合50mm,網丈1.8m,網長20m、目合50mm,網丈1.5m,網長30m(三枚網))、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		本川下流	St.4	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H09.10.22~24	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m)、タモ網(目合2mm,径40cm)、サデ網(目合7mm,径80cm)、刺網(目合15mm,網丈0.7m,網長15m、目合24mm,網丈0.9m,網長20m、目合24mm,網丈1.2m,網長30m、目合30mm,網丈0.9m,網長20m、目合30mm,網丈1.5m,網長30m、目合50mm,網丈1.8m,網長20m、目合50mm,網丈1.5m,網長30m(三枚網))、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		湛水域内	St.15	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H09.09.03~04 H09.10.22~24	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m)、タモ網(目合2mm,径40cm)、サデ網(目合7mm,径80cm)、刺網(目合15mm,網丈0.7m,網長15m、目合24mm,網丈0.9m,網長20m、目合24mm,網丈1.2m,網長30m、目合30mm,網丈0.9m,網長20m、目合30mm,網丈1.5m,網長30m、目合50mm,網丈1.8m,網長20m、目合50mm,網丈1.5m,網長30m(三枚網))、しばづけ、カニかご、見つけ取り
		湛水域内	St.16	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H09.09.03~04 H09.10.22~24	投網(目合12mm,網裾2.5m、目合18mm,網裾2.5m)、タモ網(目合2mm,径40cm)、サデ網(目合7mm,径80cm)、刺網(目合15mm,網丈0.7m,網長15m、目合24mm,網丈0.9m,網長20m、目合24mm,網丈1.2m,網長30m、目合30mm,網丈0.9m,網長20m、目合30mm,網丈1.5m,網長30m、目合50mm,網丈1.8m,網長20m、目合50mm,網丈1.5m,網長30m(三枚網))、しばづけ、カニかご、見つけ取り

表 6.1-3(8) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成10年度 (1998年)	平成10年度 九頭竜川水系魚介類調査報告書	本川下流	九九福3	中角橋付近	H10.5.15、18、21 H10.6.18 H10.8.31 H10.10.5 H10.11.9	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ、サデ網、定置網
		本川下流	九九福4	五松橋付近	H10.5.18 H10.9.2 H10.10.7	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ、サデ網
		本川下流	九九福5	鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H10.5.18 H10.9.2 H10.10.7	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ、サデ網
		湛水域内	九九福6	鳴鹿堰堤湛水域	H10.5.14 H10.9.4 H10.10.8	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ
		湛水域内	九九福7	鳴鹿堰堤湛水域上流端	H10.5.14 H10.9.3 H10.10.8	投網、タモ網、刺網、どう、セルびん、カニかご、しばづけ、サデ網
	平成10年度 河川水辺生物調査業務報告書(付着藻類およびアラレガコ)	本川下流	二番瀬	天池橋付近	H10.12.13、21、22、25、29 H11.1.6~8	網戸漁
		本川下流	一番瀬	福井大橋下流	H10.11.18~21 H10.11.26 H10.12.8、9、12、18、21	網戸漁
平成15年度 (2003年)	平成15年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務魚介類調査報告書	本川下流	St.17	九九福3 中角橋付近	H15.05.18~22 H15.06.17(釣り) H15.08.18~23 H15.10.27~30	投網(網目12mm、網裾12m、網目18mm、網裾12m)、タモ網(網目3mm、口径30cm)、刺網(網目18mm、網丈90cm、長さ30mの二枚網、網目18mm、網丈120cm、長さ40mの一枚網、網目30mm、網丈90cm、長さ30mの二枚網、網目54mm、網丈90cm、長さ35mの三枚網)、サデ網(網目2mm、口径50cm)、延縄(丸セイゴ針12号)、定置網(袖網部5m、袋網部3m)、セルピン(口径3cm)、どう(口径10cm、長さ70cm)、カニかご、釣り
		本川下流	St.18	九九福4 五松橋付近	H15.05.18~22 H15.06.17(釣り) H15.08.18~23 H15.10.27~30	投網(網目12mm、網裾12m、網目18mm、網裾12m)、タモ網(網目3mm、口径30cm)、刺網(網目18mm、網丈90cm、長さ30mの二枚網、網目18mm、網丈120cm、長さ40mの一枚網、網目30mm、網丈90cm、長さ30mの二枚網、網目54mm、網丈90cm、長さ35mの三枚網)、サデ網(網目2mm、口径50cm)、延縄(丸セイゴ針12号)、定置網(袖網部5m、袋網部3m)、セルピン(口径3cm)、どう(口径10cm、長さ70cm)、カニかご、釣り

表 6.1-3(7) 鳴鹿大堰周辺魚類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成19年度 (2007年)	平成19年度 九頭 竜川水系河川水辺 国勢調査(魚類調 査)報告書	本川下流	St.7	九九福 3 中角橋付近	H19.05.17~22 H19.08.16~21 H19.10.18~24	投網、タモ網、定置網、刺網、 サデ網、はえなわ、どう、セル びん、カゴ網
		本川下流	St.6	九九福 4 福井大橋付 近	H19.05.17~22 H19.08.16~21 H19.10.18~24	投網、タモ網、定置網、刺網、 サデ網、はえなわ、どう、セル びん、カゴ網
		本川下流	St.12	九九福 5 五松橋付近	H19.05.17~22 H19.08.16~21 H19.10.18~24	投網、タモ網、定置網、刺網、 サデ網、はえなわ、どう、セル びん、カゴ網
		湛水域内	St.20	九九福 6 鳴鹿橋付近	H19.05.17~22 H19.08.16~21 H19.10.18~24	投網、タモ網、定置網、刺網、 サデ網、はえなわ、どう、セル びん、カゴ網

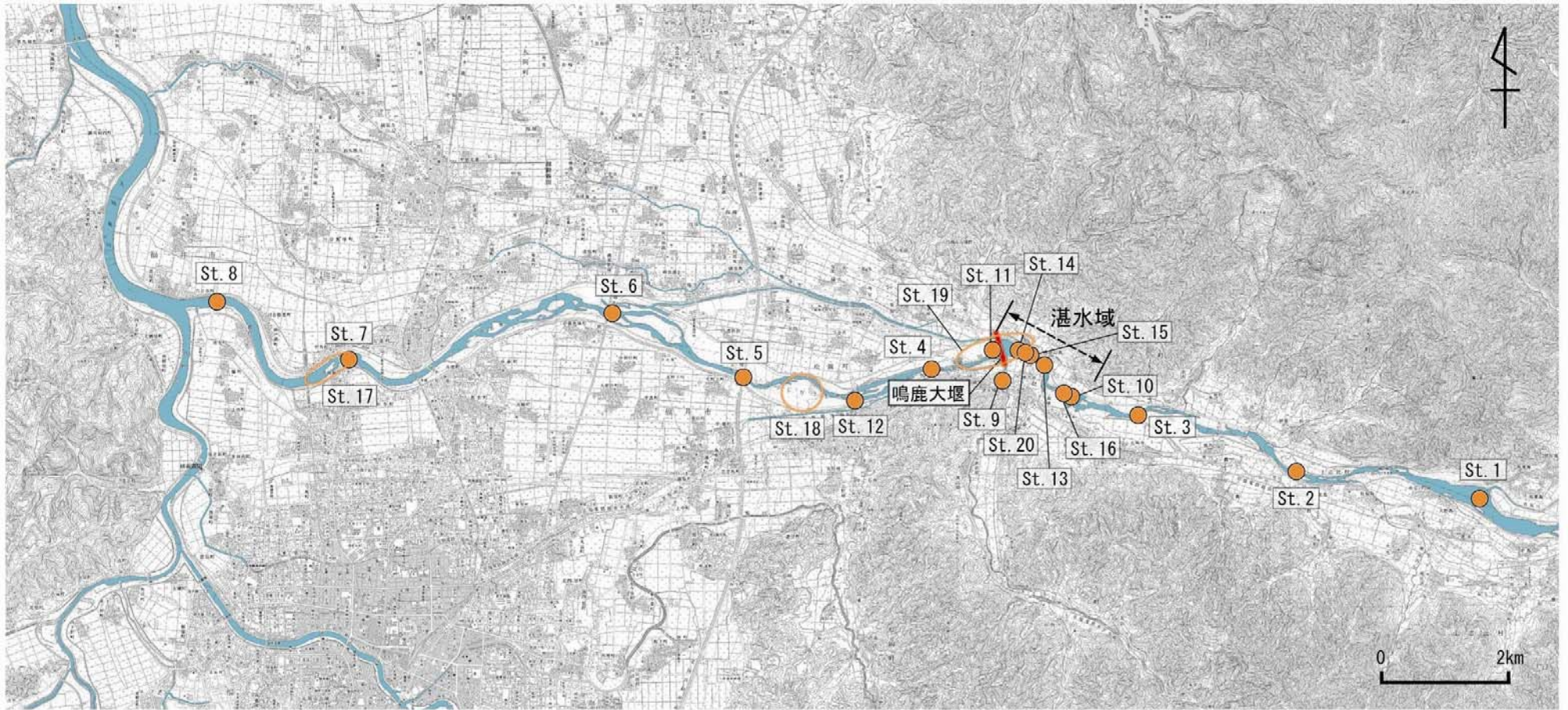


图 6.1-2 鳴鹿大堰周辺魚介類調査位置

2)底生動物

底生動物調査の調査内容を表 6.1-4に、調査位置を図 6.1-3に示す。

表 6.1-4(1) 鳴鹿大堰周辺底生動物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成元年度 (1989年)	平成元年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.1	No.1 坂東島	H01.11.11	サーバーネットによる採集
		本川上流	St.2	No.2 浄法寺	H01.11.11	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.3	No.3 志比堺	H01.11.11	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.4	No.4 福井大橋	H01.11.11	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.5	No.5 天池橋	H01.11.11	サーバーネットによる採集
		支川	St.6	No.6 永平寺川	H01.11.11	サーバーネットによる採集
平成2年度 (1990年)	平成2年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.1	No.1 坂東島	H02.05.12 H02.09.14	サーバーネットによる採集
		本川上流	St.2	No.2 浄法寺	H02.05.12 H02.09.14	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.3	No.3 志比堺	H02.05.12 H02.09.14	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.4	No.4 福井大橋	H02.05.12 H02.09.14	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.5	No.5 天池橋	H02.05.12 H02.09.14	サーバーネットによる採集
		支川	St.6	No.6 永平寺川	H02.05.12 H02.09.14	サーバーネットによる採集
平成3年度 (1991年)	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	湛水域内	St.7	No.1 下浄法寺	H03.05.13 H03.08.05 H03.09.04 H03.11.01 H04.02.01	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.3	No.2 鳴鹿堰堤下流	H03.05.13 H03.08.05 H03.09.04 H03.11.01 H04.02.01	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.8	No.3 五松橋下流	H03.05.13 H03.08.05 H03.09.04 H03.11.01 H04.02.01	サーバーネットによる採集
		支川	St.9	No.4 永平寺川	H03.05.13 H03.08.05 H03.09.04 H03.11.01 H04.02.01	サーバーネットによる採集
	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査(その2)作業報告書	湛水域内	St.10	鳴鹿大橋上流	H03.11.18	サーバーネットによる採集
		湛水域内	St.11	鳴鹿大橋下流	H03.11.18	サーバーネットによる採集

表 6.1-4(2) 鳴鹿大堰周辺底生動物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成4年度 (1992年)	平成4年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.7	No.1 下浄法寺	H04.05.22 H04.08.04 H04.11.04	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.3	No.2 鳴鹿堰下流	H04.05.22 H04.08.04 H04.11.04	サーバーネットによる採集
		本川下流	St.8	No.3 五松橋	H04.05.22 H04.08.04 H04.11.04	サーバーネットによる採集
		湛水域内	St.10	鳴鹿大橋上流	H04.05.29 H04.08.05	サーバーネットによる採集
		湛水域内	St.11	鳴鹿大橋下流	H04.05.29 H04.08.05	サーバーネットによる採集
平成5年度 (1993年)	平成5年度 九頭竜川河川水辺生物調査業務報告書(底生動物)	本川上流	St.2	中角付近	H05.04.23 H05.08.09 H05.11.01	コドラートによる採集(定量) タモ網及び大型のふるいによる採集(定性)
		本川上流	St.3	福井大橋付近	H05.04.26 H05.08.09 H05.11.02	コドラートによる採集(定量) タモ網及び大型のふるいによる採集(定性)
		本川上流	St.4	五松橋付近	H05.04.26 H05.08.09 H05.11.02	コドラートによる採集(定量) タモ網及び大型のふるいによる採集(定性)
		本川上流	St.5	鳴鹿堰直下流	H05.04.26 H05.08.25 H05.11.01	コドラートによる採集(定量) タモ網及び大型のふるいによる採集(定性)
		湛水域内	St.6	鳴鹿堰湛水域	H05.04.22 H05.08.22 H05.11.04	コドラートによる採集(定量) タモ網及び大型のふるいによる採集(定性)
		湛水域内	St.7	鳴鹿堰湛水上流端	H05.04.22 H05.08.25 H05.11.01	コドラートによる採集(定量) タモ網及び大型のふるいによる採集(定性)
平成6年度 (1994年)	平成6年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.8	St.1 五松橋	H06.08.20 H06.08.23 H06.10.15 H06.10.17	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		本川下流	St.3	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H06.08.20 H06.08.23 H06.10.15 H06.10.17	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		湛水域内	St.12	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H06.08.20 H06.08.23 H06.10.15 H06.10.17	コドラート(50cm×50cm)による採集3ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		湛水域内	St.13	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H06.08.20 H06.08.23 H06.10.15 H06.10.17	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上

表 6.1-4(3) 鳴鹿大堰周辺底生動物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成7年度 (1995年)	平成7年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.8	St.1 五松橋	H07.05.06 H07.05.08 H07.08.20 H07.08.23 H07.10.28 H07.10.30	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		本川下流	St.3	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H07.05.06 H07.05.08 H07.08.20 H07.08.23 H07.10.28 H07.10.30	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		湛水域内	St.12	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H07.05.06 H07.05.08 H07.08.20 H07.08.23 H07.10.28 H07.10.30	コドラート(50cm×50cm)による採集3ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		湛水域内	St.13	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H07.05.06 H07.05.08 H07.08.20 H07.08.23 H07.10.28 H07.10.30	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
平成8年度 (1996年)	平成8年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.8	St.1 五松橋	H08.04.25 H08.05.03 H08.08.23、24 H08.10.25、26	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		本川下流	St.3	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H08.04.25 H08.05.03 H08.08.23、24 H08.10.25、26	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		湛水域内	St.12	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H08.04.25 H08.05.03 H08.08.23、24 H08.10.25、26	コドラート(50cm×50cm)による採集3ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		湛水域内	St.13	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H08.04.25 H08.05.03 H08.08.23、24 H08.10.25、26	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
平成9年度 (1997年)	平成9年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.8	St.1 五松橋	H09.08.19 H09.08.20 H09.10.31	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		本川下流	St.3	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H09.08.19 H09.08.20 H09.10.31	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		湛水域内	St.12	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H09.08.19 H09.08.20 H09.10.31	コドラート(50cm×50cm)による採集3ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上
		湛水域内	St.13	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H09.08.19 H09.08.20 H09.10.31	サーバーネットによる採集(定量)6ヶ所 ハンドネット(0.1mm目)、タモ網(1mm目)による採集(定性)3ヶ所以上

表 6.1-4(3) 鳴鹿大堰周辺底生動物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成10年度 (1998年)	平成10年度 九頭竜川水系底生動物調査報告書	本川下流	九九福2	中角橋付近	H.10.4.28 H10.8.24 H10.11.5	サーバーネット(定量) ハンドネット(底性)
		本川下流	九九福3	福井大橋付近	H.10.4.28 H10.8.24 H10.11.5	サーバーネット(定量) ハンドネット(底性)
		本川下流	九九福4	五松橋付近	H.10.4.27 H10.8.25 H10.11.4	サーバーネット(定量) ハンドネット(底性)
		本川下流	九九福5	鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H.10.4.27 H10.8.25 H10.11.4	サーバーネット(定量) ハンドネット(底性)
		湛水域内	九九福6	鳴鹿堰堤湛水域	H.10.4.27 H10.8.25 H10.11.4	50cm 枠コドラート ハンドネット(底性)
		湛水域内	九九福7	鳴鹿堰堤湛水域上流端	H.10.4.27 H10.8.25 H10.11.4	サーバーネット(定量) ハンドネット(底性)
平成11年度 (1999年)	平成11年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H11.06.01~02 H11.10.25~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H11.06.01~02 H11.10.25~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H11.06.01~02 H11.10.25~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H11.06.01~02 H11.10.25~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H11.06.01~02 H11.10.25~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川上流	St.19	St.6 光明寺	H11.06.01~02 H11.10.25~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度

表 6.1-4(4) 鳴鹿大堰周辺底生動物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成12年度 (2000年)	平成12年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H12.05.22~23 H12.10.26~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H12.05.22~23 H12.10.26~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H12.05.22~23 H12.10.26~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H12.05.22~23 H12.10.26~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H12.05.22~23 H12.10.26~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.20	St.5-1 鳴鹿堰堤直上流右岸	H12.05.22~23 H12.10.26~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H12.05.22~23 H12.10.26~27	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
平成13年度 (2001年)	平成13年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H13.05.07~08 H13.10.22、 23、29	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H13.05.07~08 H13.10.22、 23、29	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H13.05.07~08 H13.10.22、 23、29	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H13.05.07~08 H13.10.22、 23、29	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H13.05.07~08 H13.10.22、 23、29	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.21	St.5-1 鳴鹿大堰直上流	H13.05.07~08 H13.10.22、 23、29	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H13.05.07~08 H13.10.22、 23、29	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度

表 6.1-4(5) 鳴鹿大堰周辺底生動物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成14年度 (2002年)	平成14年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H14.05.15~16 H14.10.22~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H14.05.15~16 H14.10.22~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H14.05.15~16 H14.10.22~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H14.05.15~16 H14.10.22~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H14.05.15~16 H14.10.22~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.20	St.5-1 鳴鹿大堰直上流	H14.05.15~16 H14.10.22~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H14.05.15~16 H14.10.22~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
平成15年度 (2003年)	平成15年度 九頭竜川中流部水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H15.05.19~20 H15.10.23~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H15.05.19~20 H15.10.23~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H15.05.19~20 H15.10.23~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H15.05.19~20 H15.10.23~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H15.05.19~20 H15.10.23~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		湛水域内	St.21	St.5-1 鳴鹿大堰直上流	H15.05.19~20 H15.10.23~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H15.05.19~20 H15.10.23~24	コドラート(50cm×50cm)による採集(定量)3ヶ所 ハンドネット(0.5mm目)による採集(定性)3ヶ所程度

表 6.1-4(6) 鳴鹿大堰周辺底生動物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成15年度 (2003年)	平成15年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務底生動物調査報告書	本川下流	St.14	九九福2 中角橋付近	H15.05.14~16 H15.08.18~23 H15.11.25~27	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)4ヶ所 タモ網(2mm)、サーバーネットによる採集(定性)6~7ヶ所
		本川下流	St.4	九九福3 福井大橋付近	H15.05.14~16 H15.08.18~23 H15.11.25~27	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)4ヶ所 タモ網(2mm)、サーバーネットによる採集(定性)6~7ヶ所
		本川下流	St.8	九九福4 五松橋付近	H15.05.14~16 H15.08.18~23 H15.11.25~27	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)4ヶ所 タモ網(2mm)、サーバーネットによる採集(定性)6~7ヶ所
平成16年度 (2004年)	平成16年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋 付近	H16.06.02~03 H16.10.18~19 H17.02.08	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川 距離標 21km 付近	H16.06.02~03 H16.10.18~19 H17.02.08	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川 距離標 24m 付近	H16.06.02~03 H16.10.18~19 H17.02.08	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川 距離標 26km 付近	H16.06.02~03 H16.10.18~19 H17.02.08	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋 付近	H16.06.02~03 H16.10.18~19 H17.02.08	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所
		湛水域内	St.21	St.5-1 鳴鹿 大堰直上流	H16.06.02~03 H16.10.18~19 H17.02.08	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所
		本川上流	St.19	St.6 光明寺 付近	H16.06.02~03 H16.10.18~19 H17.02.08	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所
平成17年度 (2005年)	平成17年度 鳴鹿大堰環境調査業務報告書	湛水域内	St.21	鳴鹿大堰直 上流	H17.06.08 H17.10.17	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所
		湛水域内	St.18	鳴鹿橋	H17.06.08 H17.10.17	サーバーネット(50×50cm)による採集(定量)3ヶ所 タモ網(0.5mm)による採集(定性)3ヶ所

表 6.1-4(7) 鳴鹿大堰周辺底生動物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成18年度 (2006年)	平成18年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務底生動物調査報告書	本川下流	St.14	九九福2 中角橋付近	H18.05.23~26 H18.08.08~11 H18.11.20~23	サーバーネット(定量) D フレームネット、サデ網、カニ籠、スコップ熊手(定性)
		本川下流	St.4	九九福3 福井大橋付近	H18.05.23~26 H18.08.08~11 H18.11.20~23	サーバーネット(定量) D フレームネット、サデ網、カニ籠、スコップ熊手(定性)
		本川下流	St.8	九九福4 五松橋付近	H18.05.23~26 H18.08.08~11 H18.11.20~23	サーバーネット(定量) D フレームネット、サデ網、カニ籠、スコップ熊手(定性)
	平成18年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	湛水域内	St.21	鳴鹿大堰直上流	H18.5.18 H18.11.21	コドラートによる採集(定量) タモ網による採集(定性)
		湛水域内	St.18	鳴鹿橋	H18.5.18 H18.11.21	コドラートによる採集(定量) タモ網による採集(定性)
平成19年度 (2007年)	平成19年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	湛水域内	St.21	鳴鹿大堰直上流	H19.5.24 H19.10.23	コドラートによる採集(定量) タモ網による採集(定性)
		湛水域内	St.18	鳴鹿橋	H19.5.24 H19.10.23	コドラートによる採集(定量) タモ網による採集(定性)
平成20年 (2008年)	平成20年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	湛水域内	St.21	鳴鹿大堰直上流	H20.5.27 H20.10.30	コドラートによる採集(定量) タモ網による採集(定性)
		湛水域内	St.18	鳴鹿橋	H20.5.27 H20.10.30	コドラートによる採集(定量) タモ網による採集(定性)



図 6.1-3 鳴鹿大堰周辺底生動物調査位置

3)植物プランクトン・動物プランクトン

植物プランクトン・動物プランクトン調査の調査内容を表 6.1-9に、調査位置を図 6.1-8に示す。

表 6.1-5 鳴鹿大堰周辺植物プランクトン・動物プランクトン調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成3年度 (1991年)	平成3年度 九頭竜川 中流域水生生物調査 (その2)作業報告書	湛水域内	St.1	鳴鹿大橋上流	H03.11.13	採水法 プランクトンネット法
		湛水域内	St.2	鳴鹿大橋下流	H03.11.13	採水法 プランクトンネット法
平成4年度 (1992年)	平成4年度 九頭竜川 中流域水生生物調査 作業報告書	湛水域内	St.1	鳴鹿大橋上流	H04.05.29 H04.08.05	採水法 プランクトンネット法
		湛水域内	St.2	鳴鹿大橋下流	H04.05.29 H04.08.05	採水法 プランクトンネット法

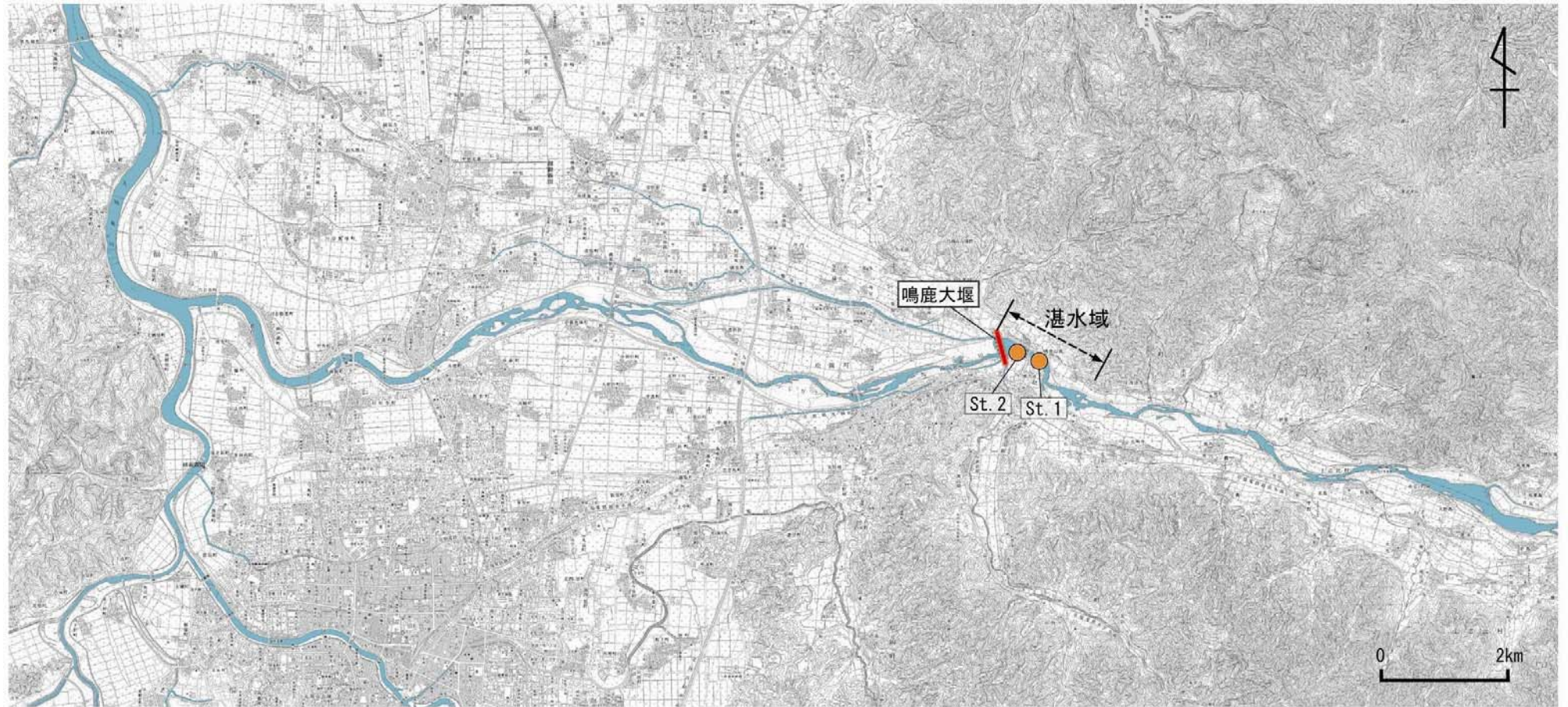


図 6.1-4 鳴鹿大堰周辺植物プランクトン・動物プランクトン調査位置

4)植物

植物調査の調査内容を表 6.1-6に、調査位置を図 6.1-5に示す。

表 6.1-6(1) 鳴鹿大堰周辺植物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成2年度 (1990年)	九頭竜川中流域動植物等調査業務報告書	全域	—	—		植生図作成調査(植生自然度) 群落組成調査 毎木調査
		本川下流	St.1	1	H02.08.16~18 H02.10.16~18	植物相調査
		本川下流	St.2	2	H02.08.16~18 H02.10.16~18	植物相調査
		湛水域内 本川上流	St.3	3	H02.08.16~18 H02.10.16~18	植物相調査
		本川下流	St.4	1	H03.03.30,31 H03.04.30 H03.05.01	桜並木調査
		本川下流	St.5	2	H03.03.30,31 H03.04.30 H03.05.01	桜並木調査
		本川下流	St.6	3	H03.03.30,31 H03.04.30 H03.05.01	桜並木調査
		本川下流	St.7	4	H03.03.30,31 H03.04.30 H03.05.01	桜並木調査
		本川下流	St.8	5	H03.03.30,31 H03.04.30 H03.05.01	桜並木調査
平成3年度 (1991年)	九頭竜川中流域環境調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H03.04.30 H03.05.01	植物相調査
		本川下流	St.2	R2	H03.04.30 H03.05.01	植物相調査
		湛水域内 本川上流	St.3	R3	H03.04.30 H03.05.01	植物相調査
		本川下流	St.4	1	H03.07.24,25	桜並木調査
		本川下流	St.5	2	H03.07.24,25	桜並木調査
		本川下流	St.6	3	H03.07.24,25	桜並木調査
		本川下流	St.7	4	H03.07.24,25	桜並木調査
		本川下流	St.8	5	H03.07.24,25	桜並木調査
	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査(その2)作業報告書	全域	—	—	H03.11.3,7,10,17 H04.01.15	植物相調査 植生調査(群落調査) 植生分布調査
平成4年度 (1992年)	平成4年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書				H03.11.13~18	沈水植物調査
					H04.05.25~27 H04.08.01~02	沈水植物調査
平成5年度 (1993年)	平成5年度 九頭竜川中流域植物調査業務報告書		St.9		H05.08.18~21 H05.10.14~16	植生分布調査
			St.9		H05.08.20~21 H05.10.14~16	植物相調査
平成6年度 (1994年)	平成6年度 九頭竜川水系植物調査報告書		St.2	福井大橋付近	H06.05.04~05 H06.06.04~05 H06.10.15~16	植物相調査
		全域			H06.7.21~10.28	植生分布調査
		全域			H06.09.10,12,18, 19,21~23,26 H06.10.2,3,5,6,8, 10,12,13,17,23,28	組成調査

表 6.1-6(2) 鳴鹿大堰周辺植物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成11年度 (1999年)	平成11年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	全域			H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植生分布調査
		本川下流	St.10	St.1 中角橋付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植物相調査
		本川下流	St.11	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植物相調査
		本川下流	St.12	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植物相調査
		本川下流	St.13	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植物相調査
		湛水域内	St.14	St.5 鳴鹿橋付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植物相調査
		本川上流	St.15	St.6 光明寺	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植物相調査
		本川下流	St.10	St.1 中角橋付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植生断面調査
		本川下流	St.11	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植生断面調査
		本川下流	St.12	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植生断面調査

表 6.1-6(3) 鳴鹿大堰周辺植物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成11年度 (1999年)	平成11年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.13	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植生断面調査
		湛水域内	St.14	St.5 鳴鹿橋付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植生断面調査
		本川上流	St.15	St.6 光明寺	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	植生断面調査
		本川下流	St.10	St.1 中角橋付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	コドラート調査
		本川下流	St.11	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	コドラート調査
		本川下流	St.12	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	コドラート調査
		本川下流	St.13	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	コドラート調査
		湛水域内	St.14	St.5 鳴鹿橋付近	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	コドラート調査
		本川上流	St.15	St.6 光明寺	H11.06.09~10 H11.06.12~14 H11.06.21、26 H11.09.13、16、27、30 H11.10.11、16、25 H11.11.28	コドラート調査
		平成12年度 (2000年)	平成12年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系植物調査)報告書	全域		
					H12.08.22~25 H12.10.16~19	群落組成調査
	九九福F3				H12.06.07~09 H12.10.16~19	植物相調査
	九九福F4				H12.06.07~09 H12.10.16~19	植物相調査
全域					H12.10.16~19	植生断面調査

表 6.1-6(4) 鳴鹿大堰周辺植物調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成13年度 (2001年)	平成13年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	湛水域内	St.22	カワヂシャ移植地	H13.09.21	現況調査
		湛水域内	St.17	低水護岸土地施工場所	H13.09.21	目視確認
平成16年度 (2004年)	平成16年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	湛水域内 本川上流	St.19		H16.10.13~14	植生図作成
					H16.10.13~14	群落組成調査
		本川下流	St.1	R1	H16.06.17~18 H16.06.25~26 H16.08.19~20 H16.10.12~13	植物相調査
		本川下流	St.2	R2	H16.06.17~18 H16.06.25~26 H16.08.19~20 H16.10.12~13	植物相調査
		本川下流	St.16	R3	H16.06.17~18 H16.06.25~26 H16.08.19~20 H16.10.12~13	植物相調査
		湛水域内	St.23	R4	H16.06.17~18 H16.06.25~26 H16.08.19~20 H16.10.12~13	植物相調査
		本川下流	St.3	R5	H16.06.17~18 H16.06.25~26 H16.08.19~20 H16.10.12~13	植物相調査
		湛水域内	St.22	カワヂシャ移植地	H16.06.17~18 H16.06.25~26 H16.08.19~20 H16.10.12~13	踏査、確認種の記録
		湛水域内	St.18	ビオトープ	H16.06.17~18 H16.06.25~26 H16.08.19~20 H16.10.12~13	踏査、確認種の記録
		平成17年度 (2005年)	平成17年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務報告書	全域		
全域					H17.09.12~16	群落組成調査
本川下流	St.20			九九福 F3 福井大橋付近	H17.05.25~27 H17.08.10~12 H17.09.12~16 H17.10.11~13	植物相調査
本川下流	St.21			九九福 F4 福井大橋付近	H17.05.25~27 H17.08.10~12 H17.09.12~16 H17.10.11~13	植物相調査
本川下流	St.20			九九福 F3 福井大橋付近	H17.05.25~27 H17.08.10~12 H17.10.11~13	植生断面調査
本川下流	St.21			九九福 F4 福井大橋付近	H17.05.25~27 H17.08.10~12 H17.10.11~13	植生断面調査

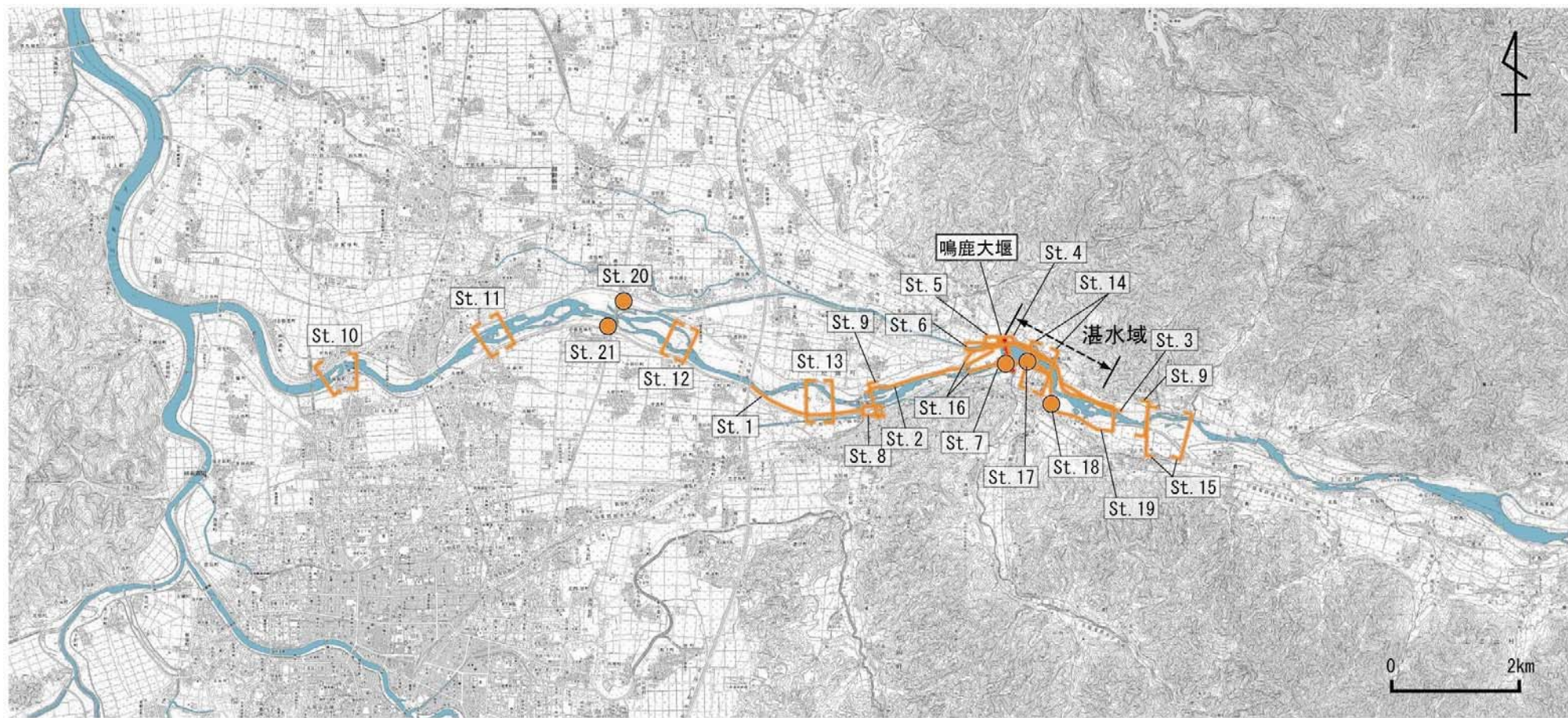


图 6.1-5 鳴鹿大堰周辺植物調査位置

5)鳥類

鳥類調査の調査内容を表 6.1-7に、調査位置を図 6.1-6に示す。

表 6.1-7(1) 鳴鹿大堰周辺鳥類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成2年度 (1990年)	九頭竜川中流域動物植物等調査業務報告書	本川下流	St.1	1	H02.08.17~18 H02.10.16~17 H03.01.10~11	ルートセンサス調査
		本川下流	St.2	2	H02.08.17~18 H02.10.16~17 H03.01.10~11	ルートセンサス調査
		湛水域内 本川上流	St.3	3	H02.08.17~18 H02.10.16~17 H03.01.10~11	ルートセンサス調査
		本川下流	St.4	P1	H02.08.17~18 H02.10.16~17 H03.01.10~11	ポイントセンサス調査
		本川下流	St.5	P2	H02.08.17~18 H02.10.16~17 H03.01.10~11	ポイントセンサス調査
		湛水域内	St.6	P3	H02.08.17~18 H02.10.16~17 H03.01.10~11	ポイントセンサス調査
平成3年度 (1991年)	九頭竜川中流域環境調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H03.04.30 H03.05.01 H03.05.27~28	ルートセンサス調査
		本川下流	St.2	R2	H03.04.30 H03.05.01 H03.05.27~28	ルートセンサス調査
		湛水域内 本川上流	St.3	R3	H03.04.30 H03.05.01 H03.05.27~28	ルートセンサス調査
		湛水域内	St.4	P1	H03.04.30 H03.05.01 H03.05.27~28	ポイントセンサス調査
		本川下流	St.5	P2	H03.04.30 H03.05.01 H03.05.27~28	ポイントセンサス調査
		湛水域内	St.6	P3	H03.04.30 H03.05.01 H03.05.27~28	ポイントセンサス調査
平成5年度 (1993年)	平成5年度 九頭竜川河川水辺生物調査業務報告書(鳥類)	本川下流	St.2	福井大橋～ 九頭竜橋	H05.05.05 H05.06.17、20 H05.11.04 H06.01.24、28	ラインセンサス法 定位記録法
		本川上流 湛水域内 本川下流	St.3	松岡町志比 境地先～永 平寺町下浄 法寺地先	H05.05.01 H05.06.16 H05.11.03 H06.01.16、26	ラインセンサス法 定位記録法
平成11年度 (1999年)	平成11年度 河川水辺生物調査業務報告書(九頭竜川水系鳥類調査)	本川下流	九九福2	九頭竜橋～ 福井大橋	H11.05.8 H11.06.28 H11.09.23 H11.11.03 H12.01.18	ラインセンサス法 定点記録法
		湛水域内 本川上流	九九福3	五松橋～直 轄管理区 間上流端	H11.05.6 H11.06.28 H11.09.21 H11.11.04 H12.01.19	ラインセンサス法 定点記録法

表 6.1-7(2) 鳴鹿大堰周辺鳥類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成11年度 (1999年)	平成11年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.8	St.1 九頭竜川距離標 15.3～19.8km	H11.07.01,02 H11.09.25,26,28 H11.10.22～25 H12.01.22～24	ライセンス調査 定位観測調査 任意観察調査
		本川下流	St.9	St.1 九頭竜川距離標 23.8～27.2km	H11.07.01,02 H11.09.25,26,28 H11.10.22～25 H12.01.22～24	ライセンス調査 定位観測調査 任意観察調査
		本川上流	St.10	St.1 九頭竜川距離標 31.2～32.8km	H11.07.01,02 H11.09.25,26,28 H11.10.22～25 H12.01.22～24	ライセンス調査 定位観測調査 任意観察調査
平成16年度 (2004年)	平成16年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務報告書 鳥類	本川下流	St.11	九九福2 九頭竜橋～福井大橋	(鳥類分布状況調査) H16.05.9,11,12,14,15 H16.06.18～21 H16.09.3,4,6 H16.10.12,16,18,22 H16.12.1～3,6,7,9,10 (鳥類集団分布地調査) H16.06.09,10 H16.10.06,10,18 H16.11.11 H16.12.01 H17.01.09,18	ライセンス法 定点記録法
		本川下流	St.12	九九福3 九頭竜川橋～五松橋	(鳥類分布状況調査) H16.05.9,11,12,14,15 H16.06.18～21 H16.09.3,4,6 H16.10.12,16,18,22 H16.12.1～3,6,7,9,10 (鳥類集団分布地調査) H16.06.09,10 H16.10.06,10,18 H16.11.11 H16.12.01 H17.01.09,18	ライセンス法 定点記録法
		湛水域内 本川上流	St.13	九九福4 五松橋～直轄管理区間上流端	(鳥類分布状況調査) H16.05.9,11,12,14,15 H16.06.18～21 H16.09.3,4,6 H16.10.12,16,18,22 H16.12.1～3,6,7,9,10 (鳥類集団分布地調査) H16.06.09,10 H16.10.06,10,18 H16.11.11 H16.12.01 H17.01.09,18	ライセンス法 定点記録法

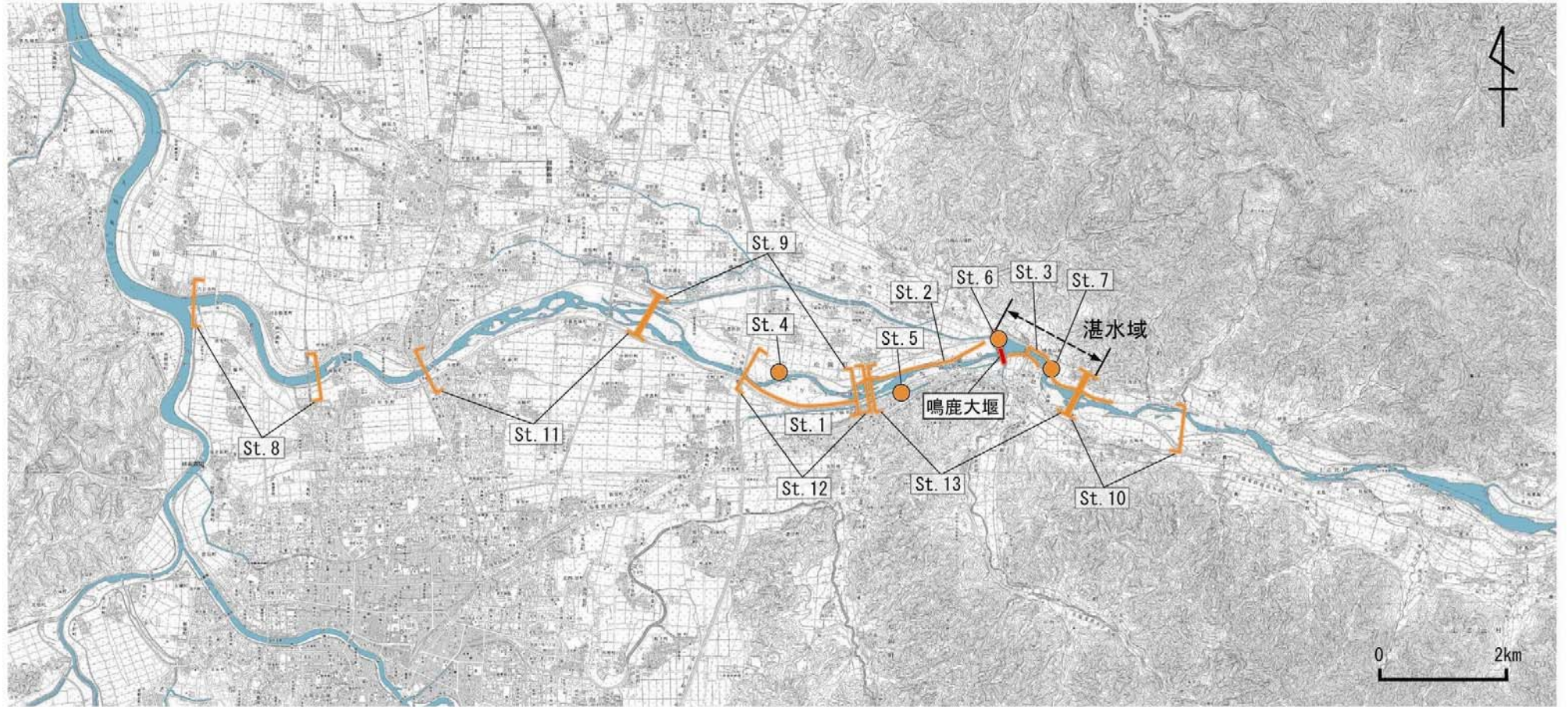


图 6.1-6 鳴鹿大堰周辺鳥類調査位置

6)両生類・爬虫類・哺乳類

両生類・爬虫類・哺乳類の調査内容を表 6.1-8に、調査位置を図 6.1-7に示す。

表 6.1-8(1) 鳴鹿大堰周辺両生類・爬虫類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成2年度 (1990年)	九頭竜川中流域動植物等調査業務報告書	本川下流	St.1	1	H02.08.16~19 H02.10.16~18	ルート踏査調査
		本川下流	St.2	2	H02.08.16~19 H02.10.16~18	ルート踏査調査
		湛水域内 本川上流	St.3	3	H02.08.16~19 H02.10.16~18	ルート踏査調査
平成3年度 (1991年)	平成3年度 九頭竜川水系小動物調査報告書(本編)	本川下流	st.☆1	福井大橋付近	H03.7.26、29、30 H03.08.01 H03.10.5、6	目撃法 鳴き声による確認
	九頭竜川中流域環境調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H03.05.27~28	ルート踏査調査
		本川下流 湛水域内 本川上流	St.2 St.3	R2 R3	H03.05.27~28 H03.05.27~28	ルート踏査調査 ルート踏査調査
平成8年度 (1996年)	平成8年度 九頭竜川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書	本川下流	St.3	福井大橋周辺	H08.06.05 H08.07.18 H08.08.30 H08.10.12,15~18	捕獲確認、目撃法、鳴き声(カエル類)、脱皮殻(ヘビ類)
		本川下流	St.4	五松橋周辺	H08.06.06 H08.07.20 H08.08.30 H08.10.15~16	捕獲確認、目撃法、鳴き声(カエル類)、脱皮殻(ヘビ類)
平成13年度 (2001年)	平成13年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査)報告書	本川下流	St.7	九九福3 福井大橋周辺	H13.05.28~06.01 H13.07.16~19 H13.08.01~04 H13.09.20~23 H13.10.25~28	両生類:捕獲確認、目撃法、鳴き声による確認 爬虫類:捕獲確認、目撃法、脱皮殻などによる確認、トラップ法(カニ簞)
		本川下流	St.8	九九福4 五松橋周辺	H13.05.28~06.01 H13.07.16~19 H13.08.01~04 H13.09.20~23 H13.10.25~28	両生類:捕獲確認、目撃法、鳴き声による確認 爬虫類:捕獲確認、目撃法、脱皮殻などによる確認、トラップ法(カニ簞)

表 6.1-8(2) 鳴鹿大堰周辺両生類・爬虫類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成16年度 (2004年)	平成16年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		本川下流	St.2	R2	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		本川下流	St.9	R3	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		本川下流	St.10	R4	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		湛水域内 本川上流	St.3	R5	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		湛水域内	St.11	ビオトープ	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		本川下流	St.4	M1	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	トラップ法
		本川下流	St.5	M2	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	トラップ法
		本川下流	St.12	M3-1	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	トラップ法
		本川下流	St.13	M3-2	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	トラップ法
		湛水域内	St.14	M4-1	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	トラップ法
		湛水域内	St.15	M4-2	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	トラップ法
		湛水域内	St.6	M5	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	トラップ法

表 6.1-8(3) 鳴鹿大堰周辺哺乳類調査実施状況

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成2年度 (1990年)	九頭竜川中流域動植物等調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H02.08.16~19 H02.10.16~18 H03.01.10~11	フィールドサイン調査
		本川下流	St.2	R2	H02.08.16~19 H02.10.16~18 H03.01.10~11	フィールドサイン調査
		湛水域内 本川上流	St.3	R3	H02.08.16~19 H02.10.16~18 H03.01.10~11	フィールドサイン調査
		本川下流	St.4	M1	H02.08.16~19 H02.10.16~18 H03.01.10~11	マウストラップ調査
		本川下流	St.5	M2	H02.08.16~19 H02.10.16~18 H03.01.10~11	マウストラップ調査
		湛水域内	St.6	M3	H02.08.16~19 H02.10.16~18 H03.01.10~11	マウストラップ調査
平成3年度 (1991年)	平成3年度 九頭竜川水系小動物調査報告書(本編)	本川下流	st.☆1	福井大橋付近	H03.08.03~5 H03.11.11~13 H04.01.20~22	目撃法 フィールドサイン法 トラップ法
	九頭竜川中流域環境調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H03.05.27~28	フィールドサイン調査
		本川下流	St.2	R2	H03.05.27~28	フィールドサイン調査
		湛水域内 本川上流	St.3	R3	H03.05.27~28	フィールドサイン調査
		本川下流	St.4	M1	H03.05.27~28	マウストラップ調査
		本川下流	St.5	M2	H03.05.27~28	マウストラップ調査
		湛水域内	St.6	M3	H03.05.27~28	マウストラップ調査
平成8年度 (1996年)	平成8年度 九頭竜川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書	本川下流	St.3	福井大橋周辺	H08.05.15 H08.07.16~20,23 H08.10.09~12,15 H09.02.13	目撃法、フィールドサイン法、トラップ法、夜間調査法
		本川下流	St.4	五松橋周辺	H08.05.17 H08.07.17~21,23 H08.10.09~12,15 H09.02.13	目撃法、フィールドサイン法、トラップ法、夜間調査法
平成13年度 (2001年)	平成13年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査)報告書	本川下流	St.7	九九福3 福井大橋周辺	H13.05.28~06.01 H13.07.16~19 H13.08.01~04 H13.09.20~23 H13.10.25~28 H14.01.23~26	目撃法、フィールドサイン法、トラップ法、無人自動撮影装置
		本川下流	St.8	九九福4 五松橋周辺	H13.05.28~06.01 H13.07.16~19 H13.08.01~04 H13.09.20~23 H13.10.25~28 H14.01.23~26	目撃法、フィールドサイン法、トラップ法、無人自動撮影装置

表 6.1-8(4) 鳴鹿大堰周辺哺乳類調査実施状況

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成16年度 (2004年)	平成16年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		本川下流	St.2	R2	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		本川下流	St.9	R3	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		本川下流	St.10	R4	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		湛水域内 本川上流	St.3	R5	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		湛水域内	St.11	ビオトープ	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	目撃法、フィールドサイン法、鳴き声確認法
		本川下流	St.8	M1	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	マウストラップ
		本川下流	St.5	M2	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	マウストラップ

表 6.1-8(5) 鳴鹿大堰周辺哺乳類調査実施状況

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成16年度 (2004年)	平成16年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	本川下流	St.12	M3-1	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	マウストラップ
		本川下流	St.13	M3-2	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	マウストラップ
		湛水域内	St.14	M4-1	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	マウストラップ
		湛水域内	St.15	M4-2	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	マウストラップ
		湛水域内	St.6	M5	H16.06.23~25,29 H16.08.12~14 H16.10.07~08 H16.11.05~06 H16.02.06~08	マウストラップ

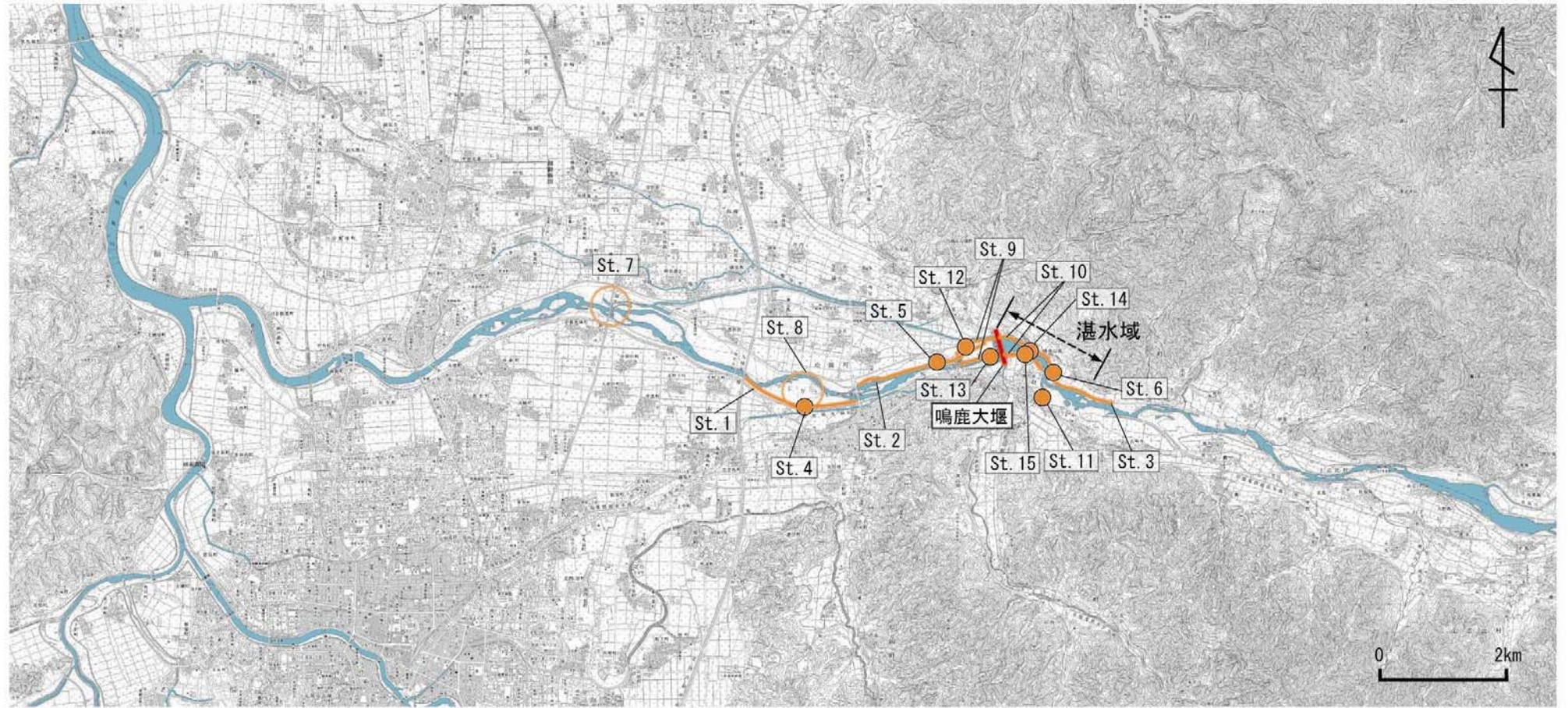


图 6.1-7 鳴鹿大堰周辺両生類・爬虫類・哺乳類調査位置

7)陸上昆虫類等

陸上昆虫類等調査の調査内容を表 6.1-9に、調査位置を図 6.1-8に示す。

表 6.1-9(1) 鳴鹿大堰周辺陸上昆虫類等調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成2年度 (1990年)	九頭竜川中流域動植物等調査業務報告書	本川下流	St.1	1	H02.08.16~19 H02.10.16~18	任意調査 スワイピング及ビーティング調査
		本川下流	St.2	2	H02.08.16~19 H02.10.16~18	任意調査 スワイピング及ビーティング調査
		湛水域内 本川上流	St.3	3	H02.08.16~19 H02.10.16~18	任意調査 スワイピング及ビーティング調査
		本川下流	St.4	B1	H02.08.16~19 H02.10.16~18	ベイトトラップ調査
		本川下流	St.5	B2	H02.08.16~19 H02.10.16~18	ベイトトラップ調査 ライトトラップ調査
		湛水域内	St.6	B3	H02.08.16~19 H02.10.16~18	ベイトトラップ調査
平成3年度 (1991年)	九頭竜川中流域環境調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H03.05.27~28	任意調査 スワイピング及ビーティング調査
		本川下流	St.2	R2	H03.05.27~28	任意調査 スワイピング及ビーティング調査
		湛水域内 本川上流	St.3	R3	H03.05.27~28	任意調査 スワイピング及ビーティング調査
		本川下流	St.4	B1	H03.05.27~28	ベイトトラップ調査
		本川下流	St.5	B2	H03.05.27~28	ベイトトラップ調査
		湛水域内	St.6	B3	H03.05.27~28	ベイトトラップ調査
		本川下流	St.7	L1	H03.05.27~28 H03.06.24	ライトトラップ調査 夜間踏査(ホタル類)
平成4年度 (1992年)	平成4年度 九頭竜川水系陸上昆虫類等調査報告書	本川下流	St.☆1	福井大橋付近	H04.05.07~13 H04.07.01~09 H04.09.08~11	任意採取法 スワイピング法 ビーティング法 ベイトトラップ法 ライトトラップ法
平成9年度 (1997年)	平成9年度 九頭竜川水系陸上昆虫類等調査報告書	本川下流	九九福3	福井大橋付近	H09.05.01、23、24、28、29 H09.06.03 H09.07.18、22~24 H09.08.17 H09.09.11、19~21、29 H09.10.02、03、06、07、18	任意採取法 スワイピング法 ビーティング法 ベイトトラップ法 ライトトラップ法(カーテン法、ボックス法)
		本川下流	九九福4	五松橋付近	H09.05.06、22~24、29 H09.06.05 H09.07.19、22、23、25 H09.09.10、19、20、30 H09.10.02、03、06、07	任意採取法 スワイピング法 ビーティング法 ベイトトラップ法 ライトトラップ法(カーテン法、ボックス法)

表 6.1-9(2) 鳴鹿大堰周辺陸上昆虫類等調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成 14 年度 (2002)	平成 14 年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系陸上昆虫類等調査)報告書	本川下流	St.8	九九福 3 福井大橋付近	H14.05.15~06.07 H14.07.08~08.27 H14.09.01~10.02	任意採取法 スウィーピング法 ビーティング法 ベイトトラップ法 ライトトラップ法(カーテン法、ボックス法)
		本川下流	St.9	九九福 4 五松橋付近	H14.05.15~06.07 H14.07.08~08.27 H14.09.01~10.02	任意採取法 スウィーピング法 ビーティング法 ベイトトラップ法 ライトトラップ法(カーテン法、ボックス法)
平成 16 年度 (2004 年)	平成 16 年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	本川下流	St.1	R1	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	任意採集法
		本川下流	St.2	R2	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	任意採集法
		本川下流	St.10	R3	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	任意採集法
		湛水域内	St.11	R4	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	任意採集法
		湛水域内 本川上流	St.3	R5	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	任意採集法
		本川下流	St.4	L1、B1	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	ライトトラップ法 ベイトトラップ法
		本川下流	St.5	L2、B2	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	ライトトラップ法 ベイトトラップ法
		本川下流	St.12	B3	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	ベイトトラップ法
		湛水域内	St.13	B4	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	ベイトトラップ法
		湛水域内	St.6	L5、B5	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	ライトトラップ法 ベイトトラップ法
		湛水域内	St.14	ビオトープ	H16.06.08~30 H16.08.10~12 H16.10.04~06	任意採集法
平成 20 年度 (2008 年)	平成 20 年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務(陸上昆虫類等調査)報告書	本川下流	St.8	九九福 3 福井大橋付近	H20.04.25~05.17 H20.07.14~08.20 H20.09.09~10.10	任意採集法 ライトトラップ法 ピットフォールトラップ法
		本川下流	St.9	九九福 4 五松橋付近	H20.04.25~05.17 H20.07.14~08.20 H20.09.09~10.10	目撃法 その他(ベイトトラップ法)
		湛水域	St.13	九九福 5 鳴鹿橋付近	H20.04.25~05.17 H20.07.14~08.20 H20.09.09~10.10	

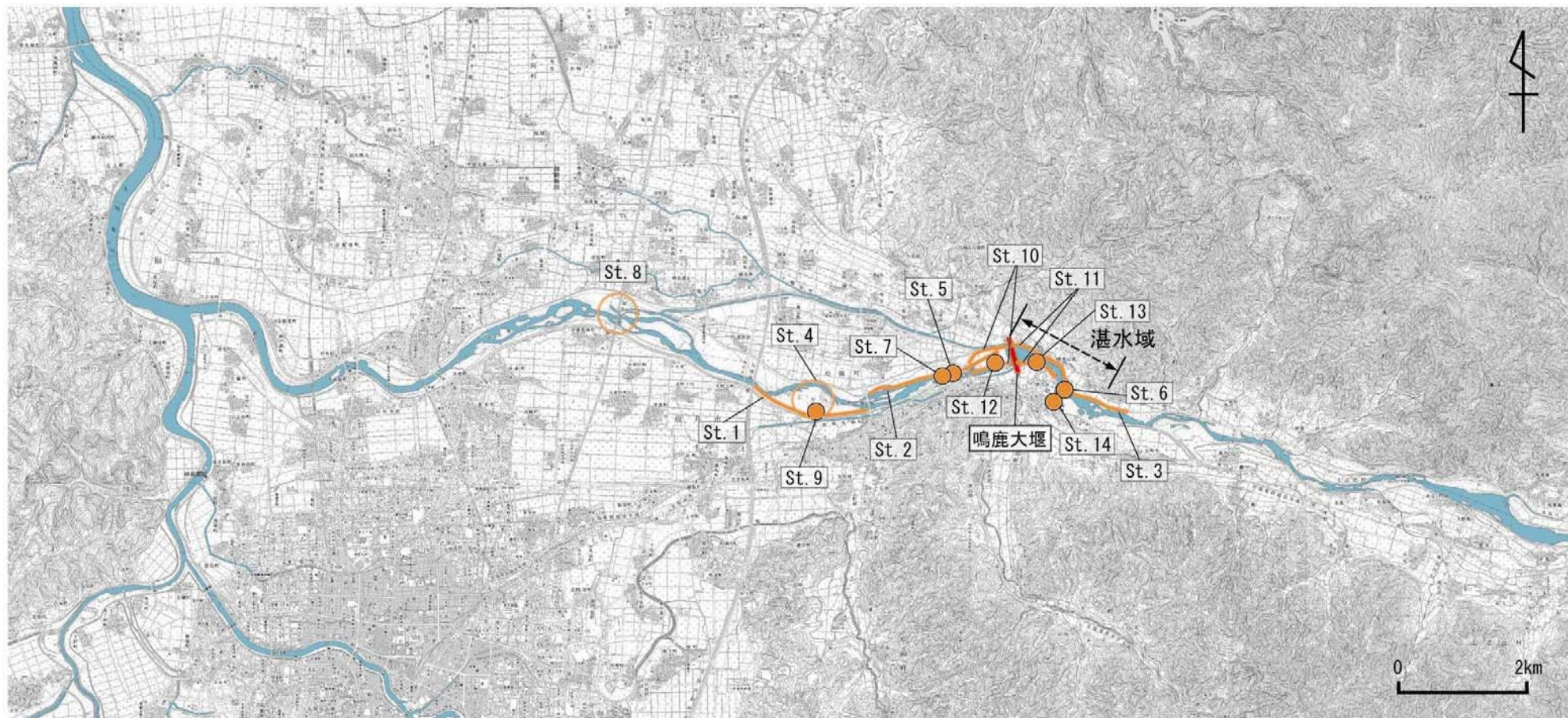


図 6.1-8 鳴鹿大堰周辺陸上昆虫類等調査位置

8)付着藻類

付着藻類調査の調査内容を表 6.1-10に、調査位置を図 6.1-9に示す。

表 6.1-10(1) 鳴鹿大堰周辺付着藻類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成元年度 (1989年)	平成元年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.1	No.1 坂東島	H01.11.11	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川上流	St.2	No.2 浄法寺	H01.11.11	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.3	No.3 志比塚	H01.11.11	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.4	No.4 福井大橋	H01.11.11	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.5	No.5 天池橋	H01.11.11	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		支川	St.6	No.6 永平寺川	H01.11.11	コドラート(25cm ²)3ヶ所
平成2年度 (1990年)	平成2年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.1	No.1 坂東島	H02.05.12 H02.09.14	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川上流	St.2	No.2 浄法寺	H02.05.12 H02.09.14	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.3	No.3 志比塚	H02.05.12 H02.09.14	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.4	No.4 福井大橋	H02.05.12 H02.09.14	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.5	No.5 天池橋	H02.05.12 H02.09.14	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		支川	St.6	No.6 永平寺川	H02.05.12 H02.09.14	コドラート(25cm ²)3ヶ所
平成3年度 (1991年)	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	湛水域内	St.7	No.1 下浄法寺	H03.05.13 H03.08.05 H03.09.04 H03.11.01 H04.02.01	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.3	No.2 鳴鹿堰堤下流	H03.05.13 H03.08.05 H03.09.04 H03.11.01 H04.02.01	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.8	No.3 五松橋下流	H03.05.13 H03.08.05 H03.09.04 H03.11.01 H04.02.01	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		支川	St.9	No.4 永平寺川	H03.05.13 H03.08.05 H03.09.04 H03.11.01 H04.02.01	コドラート(25cm ²)3ヶ所
	平成3年度 九頭竜川中流域水生生物調査(その2)作業報告書	湛水域内	St.10	鳴鹿大橋上流	H03.11.13	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		湛水域内	St.11	鳴鹿大橋下流	H03.11.13	コドラート(25cm ²)3ヶ所
平成4年度 (1992年)	平成4年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川上流	St.7	No.1 下浄法寺	H04.05.22 H04.08.04 H04.11.04	
		本川下流	St.3	No.2 鳴鹿堰下流	H04.05.22 H04.08.04 H04.11.04	
		本川下流	St.8	No.3 五松橋	H04.05.22 H04.08.04 H04.11.04	
		湛水域内	St.10	鳴鹿大橋上流	コドラート(25cm ²)3ヶ所	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		湛水域内	St.11	鳴鹿大橋下流	H04.05.29 H04.08.05	コドラート(25cm ²)3ヶ所

表 6.1-10(2) 鳴鹿大堰周辺付着藻類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成5年度 (1993年)	平成5年度 九頭竜川河川水辺生物調査業務報告書(付着藻類)	湛水域内	St.1	鳴鹿堰湛水上流端	H05.04.22 H05.08.22 H05.11.20	コドラート(20cm ²)
		湛水域内	St.2	鳴鹿堰湛水域	H05.04.22 H05.08.22 H05.11.04	コドラート(20cm ²)
		本川下流	St.3	鳴鹿堰直下流	H05.04.22 H05.08.22 H05.11.20	コドラート(20cm ²)
		本川下流	St.4	五松橋付近	H05.04.22 H05.08.22 H05.11.20	コドラート(20cm ²)
平成6年度 (1994年)	平成6年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.8	St.1 五松橋	H06.08.20 H06.08.23 H06.10.15 H06.10.17	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.3	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H06.08.20 H06.08.23 H06.10.15 H06.10.17	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		湛水域内	St.12	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H06.08.20 H06.08.23 H06.10.15 H06.10.17	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		湛水域内	St.13	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H06.08.20 H06.08.23 H06.10.15 H06.10.17	コドラート(25cm ²)3ヶ所
平成7年度 (1995年)	平成7年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.8	St.1 五松橋	H07.05.06 H07.08.20 H07.10.28	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.3	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H07.05.06 H07.08.20 H07.10.28	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		湛水域内	St.12	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H07.05.06 H07.08.20 H07.10.28	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		湛水域内	St.13	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H07.05.06 H07.08.20 H07.10.28	コドラート(25cm ²)3ヶ所
平成8年度 (1996年)	平成8年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.8	St.1 五松橋	H08.05.03 H08.08.24 H08.10.26	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		本川下流	St.3	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H08.05.03 H08.08.24 H08.10.26	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		湛水域内	St.12	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H08.05.03 H08.08.24 H08.10.26	コドラート(25cm ²)3ヶ所
		湛水域内	St.13	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H08.05.03 H08.08.24 H08.10.26	コドラート(25cm ²)3ヶ所
平成9年度 (1997年)	平成9年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	本川下流	St.8	St.1 五松橋	H09.08.20 H09.11.01	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		本川下流	St.3	St.2 鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H09.08.20 H09.11.01	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセットによる採集(定性)

表 6.1-10(3) 鳴鹿大堰周辺付着藻類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成9年度 (1997年)	平成9年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	湛水域内	St.12	St.3 鳴鹿堰堤湛水域	H09.08.20 H09.11.01	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		湛水域内	St.13	St.4 鳴鹿堰堤湛水部上流端	H09.08.20 H09.11.01	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
平成10年度 (1998年)	平成10年度 河川水辺生物調査業務報告書(付着藻類およびアラレガコ)	本川下流	St.1	五松橋付近	H10.5.9 H10.8.19 H10.10.31	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		本川下流	St.2	鳴鹿大堰建設工事区間直下流	H10.5.9 H10.8.19 H10.10.31	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		湛水域内	St.3	鳴鹿堰堤湛水域	H10.5.9 H10.8.19 H10.10.31	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		湛水域内	St.4	鳴鹿堰堤湛水域上流端	H10.5.9 H10.8.19 H10.10.31	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
平成11年度 (1999年)	平成11年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H11.06.04 H11.10.30	コドラート(25cm ²)による採集(定量)2ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H11.06.04 H11.10.30	コドラート(25cm ²)による採集(定量)2ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H11.06.04 H11.10.30	コドラート(25cm ²)による採集(定量)2ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H11.06.04 H11.10.30	コドラート(25cm ²)による採集(定量)2ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H11.06.04 H11.10.30	コドラート(25cm ²)による採集(定量)2ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
		本川上流	St.19	St.6 光明寺	H11.06.04 H11.10.30	コドラート(25cm ²)による採集(定量)2ヶ所 ピンセットによる採集(定性)
平成12年度 (2000年)	平成12年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H12.05.25 H12.10.26 ~ 27	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標21km付近	H12.05.25 H12.10.26 ~ 27	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標24m付近	H12.05.25 H12.10.26 ~ 27	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標26km付近	H12.05.25 H12.10.26 ~ 27	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H12.05.25 H12.10.26 ~ 27	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.20	St.5-1 鳴鹿堰堤直上流右岸	H12.05.25 H12.10.26 ~ 27	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H12.05.25 H12.10.26 ~ 27	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)

表 6.1-10(4) 鳴鹿大堰周辺付着藻類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成13年度 (2001年)	平成13年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H13.05.10 H13.10.29	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標 21km 付近	H13.05.10 H13.10.29	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標 24m 付近	H13.05.10 H13.10.29	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標 26km 付近	H13.05.10 H13.10.29	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H13.05.10 H13.10.29	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.21	St.5-1 鳴鹿大堰直上流	H13.05.10 H13.10.29	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H13.05.10 H13.10.29	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
平成14年度 (2002年)	平成14年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H14.05.17 H14.10.24	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標 21km 付近	H14.05.17 H14.10.24	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標 24m 付近	H14.05.17 H14.10.24	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標 26km 付近	H14.05.17 H14.10.24	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H14.05.17 H14.10.24	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.21	St.5-1 鳴鹿大堰直上流	H14.05.17 H14.10.24	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H14.05.17 H14.10.24	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
平成15年度 (2003年)	平成15年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H15.05.22 H15.10.22	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標 21km 付近	H15.05.22 H15.10.22	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標 24m 付近	H15.05.22 H15.10.22	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標 26km 付近	H15.05.22 H15.10.22	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H15.05.22 H15.10.22	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.21	St.5-1 鳴鹿大堰直上流	H15.05.22 H15.10.22	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H15.05.22 H15.10.22	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)

表 6.1-10(5) 鳴鹿大堰周辺付着藻類調査内容一覧

調査年度	調査件名	調査範囲	調査地点	報告書調査地点番号	調査時期	調査方法
平成16年度 (2004年)	平成16年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	本川下流	St.14	St.1 中角橋付近	H16.06.04 H16.10.20	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.15	St.2 九頭竜川距離標 21km 付近	H16.06.04 H16.10.20	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.16	St.3 九頭竜川距離標 24m 付近	H16.06.04 H16.10.20	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川下流	St.17	St.4 九頭竜川距離標 26km 付近	H16.06.04 H16.10.20	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.18	St.5 鳴鹿橋付近	H16.06.04 H16.10.20	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		湛水域内	St.21	St.5-1 鳴鹿大堰直上流	H16.06.04 H16.10.20	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
		本川上流	St.19	St.6 光明寺付近	H16.06.04 H16.10.20	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 3ヶ所程度で採集(定性)
平成17年度 (2005年)	平成17年度 鳴鹿大堰環境調査業務報告書	湛水域内	St.21	鳴鹿大堰直上流	H17.06.08 H17.10.17	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセット等による採集(定性)
		湛水域内	St.18	鳴鹿橋	H17.06.08 H17.10.17	コドラート(25cm ²)による採集(定量)3ヶ所 ピンセット等による採集(定性)
平成18年度 (2006年)	平成18年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	湛水域内		鳴鹿大堰直上流	H18.5.18 H18.11.21	コドラート(25cm ²)による採集(定量) ピンセット等による採集(定性)
		湛水域内		鳴鹿橋	H18.5.18 H18.11.21	コドラート(25cm ²)による採集(定量) ピンセット等による採集(定性)
平成19年度 (2007年)	平成19年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	湛水域内		鳴鹿大堰直上流	H19.5.24 H19.10.23	コドラート(25cm ²)による採集(定量) ピンセット等による採集(定性)
		湛水域内		鳴鹿橋	H19.5.24 H19.10.23	コドラート(25cm ²)による採集(定量) ピンセット等による採集(定性)
平成20年 (2008年)	平成20年度鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	湛水域内		鳴鹿大堰直上流	H20.5.27 H20.10.30	コドラート(25cm ²)による採集(定量) ピンセット等による採集(定性)
		湛水域内		鳴鹿橋	H20.5.27 H20.10.30	コドラート(25cm ²)による採集(定量) ピンセット等による採集(定性)



図 6.1-9 鳴鹿大堰周辺付着藻類調査位置

6.2 鳴鹿大堰周辺の環境の把握

6.2.1 九頭竜川水系の概要

九頭竜川は、その源を福井県と岐阜県の県境の油坂峠(標高 717m)に発し、石徹白川、打波川等の支川を合わせ、大野盆地に入り真名川等の支川を合わせ、福井平野(越前平野)に出て福井市街地を貫流し日野川と合流、その後は流れを北に変え日本海に注ぐ、幹川流路延長 116km、流域面積 2,930km²の一級河川である。

その流域は、福井県の面積の約 70%を占めており、福井県 7 市 4 町および岐阜県郡上市の一部を含む。流域の土地利用は山地等が約 81%、水田や畑地等の農地が約 13%、宅地等の市街地が約 6%となっている。

流域内には福井県の県庁所在地であり流域内人口の約 4 割が集中する福井市があり、沿川には、北陸自動車道、JR 北陸本線、国道 8 号、157 号、158 号等の基幹交通施設に加え、中部縦貫自動車道が整備中であり、京阪神や中部地方と北陸地方を結ぶ交通の要衝となるなど、この地域における社会・経済・文化の基盤を成すとともに、九頭竜川の豊かな自然環境に恵まれていることから、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。



図 6.2-1 九頭竜川水系の概要

6.2.2 鳴鹿大堰周辺の自然環境の特徴

(1) 植生の状況

九頭竜川と日野川の合流点から鳴鹿大堰までの大部分を水田が占めている。鳴鹿大堰より上流部は、九頭竜川沿いに水田が分布し、周囲の山地にコナラ群落、アカマツ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林等が混在しており、標高が高くなるとブナ-ミズナラ群落、クリ-ミズナラ群落が目立ってくる。また九頭竜川の河道内は、ヨシクラス及び自然裸地で占められている。平成17年度調査における鳴鹿大堰周辺環境ベースマップを図6.2-2に示す。

(2) 重要種の確認状況

鳴鹿大堰周辺における調査により、重要種として、魚類のスナヤツメ、カマキリ(アラレガコ)、底生動物のモノアラガイ、キイロサナエ、植物のノダイオウ、カワヂシャ、鳥類のオオタカ、ハヤブサ、陸上昆虫類等のシロヘリツチカメムシ、セアカオサムシ等を確認した。

(3) 外来種の確認状況

鳴鹿大堰周辺における調査により、外来種として、魚類のブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)、植物のハリエンジュ、アレチウリ、鳥類のドバト、爬虫類のミシシッピアカミミガメ、哺乳類のハクビシン等を確認した。

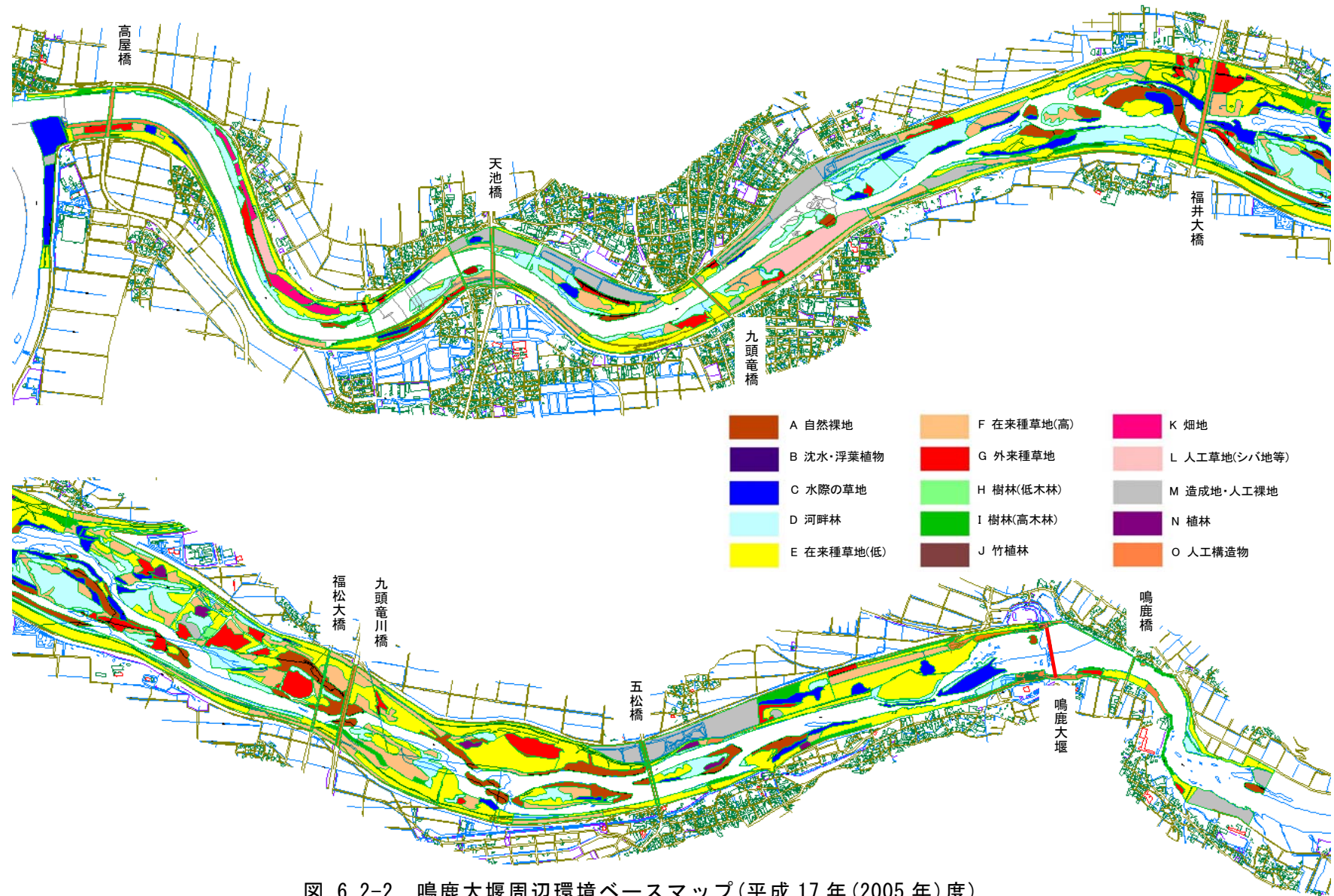


図 6.2-2 鳴鹿大堰周辺環境ベースマップ(平成 17 年(2005 年)度)

6.2.3 確認種の状況

(1) 魚類

1) 魚類相の概況

鳴鹿大堰周辺における魚類の確認状況を表 6.2-1に示す。

平成元～20年度の調査で、河川域、湛水域、魚道を合わせて62種の魚類を確認した。

このうち平成11～20年度の鳴鹿大堰暫定運用後に初めて確認した魚は、コウライモロコ、ズナガニゴイ、ゲンゴロウブナ、カネヒラ、メダカ、トウヨシノボリ、アシシロハゼの7種であり、鳴鹿大堰暫定運用開始後に確認できなかった種は、ウナギ、ニジマス、ゼゼラ、ナガブナ、スジシマドジョウ、シマウキゴリ、ヌマガレイの7種であった。平成元～10年度調査では鳴鹿大堰の下流域のみで確認し、平成11年度以降に鳴鹿大堰の上流で確認した種は、サクラマス、サケ、スミウキゴリ、ウツセミカジカ、カマキリ(アラレガコ)、トウヨシノボリの6種であり、いずれも回遊魚であった。

表 6.2-1(1) 鳴鹿大堰周辺の魚類の確認状況(下流河川)

No.	科和名	種和名	生活型	外来種 (移入種)	鳴鹿大堰(堰堤)下流																
					H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H19
1	ヤツメウナギ	スナヤツメ	純淡水魚															●		●	
2		カワヤツメ	回遊魚			○															
3	ウナギ	ウナギ	回遊魚		○																
4	コイ	コイ	純淡水魚		○						○		○	○	●			●	●	●	
5		ガンゴロウブナ	純淡水魚	国内														●		●	
6		ギンブナ	純淡水魚					○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	
7		ナガブナ	純淡水魚																		
		フナ類	純淡水魚				○														
8		ヤリタナゴ	純淡水魚					○	○		○				●					●	
9		カネヒラ	純淡水魚	国内																	
10		イチモンジタナゴ	純淡水魚	国内				○	○												
11		アカヒレタビラ	純淡水魚										○								
12		タイリクバラタナゴ	純淡水魚	国外			○										●			●	
13		ハス	純淡水魚	国内											●						
14		オイカワ	純淡水魚	国内			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
15		カワムツ	純淡水魚				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
16		アブラハヤ	純淡水魚				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
17		ウグイ	純淡水魚		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
18		モツゴ	純淡水魚					○			○	○								●	
19		ヒワヒガイ	純淡水魚	国内					○	○			○								
		ヒガイ類	純淡水魚	国内				○													
20		タモロコ	純淡水魚				○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	
21		ホンモロコ	純淡水魚	国内																●	
22		ゼゼラ	純淡水魚	国内																	
23		カマツカ	純淡水魚		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24		ズナガニゴイ	純淡水魚	国内											●	●	●	●	●	●	
25		ニゴイ	純淡水魚				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
26		スゴモロコ	純淡水魚	国内				○					○								
27		コウライモロコ	純淡水魚	国内																	
28	ドジョウ	ドジョウ	純淡水魚										○							●	
29		アジメドジョウ	純淡水魚								○									●	
30		シマドジョウ	純淡水魚									○								●	
31		スジシマドジョウ	純淡水魚												●					●	
32	ギギ	ギギ	純淡水魚	国内																	
33	ナマズ	ナマズ	純淡水魚					○												●	
34	アカザ	アカザ	純淡水魚				○					○		○	○	○	○	○	○	○	
35	アユ	アユ	回遊魚		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
36	サケ	イワナ	純淡水魚																		
37		ニジマス	純淡水魚	国外			○														
38		サケ	回遊魚		○			○	○	○	○	○									
39		サクラマス	回遊魚		○	○	○	○	○	○	○	○									
		ヤマメ	純淡水魚					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
40		サツキマス	回遊魚	国内																	
		アマゴ	純淡水魚	国内	○			○													
41	メダカ	メダカ	純淡水魚																	●	
42	カジカ	カマキリ(アアレガコ)	回遊魚			○	○			○	○		○							●	
43		カジカ(大卵型)	純淡水魚																		
		カジカ(ワケおカカの可能性も)																			
44		ウツセミカジカ	回遊魚		○															●	
45	スズキ	スズキ	汽水・海水魚			○			○	○										●	
46	サンフィッシュ	ブルーギル	純淡水魚	国外																	
47		オオクチバス	純淡水魚	国外																●	
48	ボラ	ボラ	汽水・海水魚			○	○		○	○											
49		メナダ	汽水・海水魚																	●	
50	ハゼ	ドンコ	純淡水魚		○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
51		シミウキゴリ	回遊魚						○	○	○	○	○	○						●	
52		シマウキゴリ	回遊魚						○												
53		ウキゴリ	回遊魚					○													
54		マハゼ	汽水・海水魚		○		○													●	
55		アシシロハゼ	汽水・海水魚																	●	
56		ゴクラクハゼ	回遊魚																		
57		シマヨシノボリ	回遊魚					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
58		オオヨシノボリ	回遊魚					○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
59		ルリヨシノボリ	回遊魚								○										
60		トウヨシノボリ	回遊魚	国内																	
		ヨシノボリ類	回遊魚		○	○	○	○													
61		スマチチブ	回遊魚						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		チチブ(スマチチブの可能性も)						○	○												
62	カレイ	ヌマガレイ	汽水・海水魚			○	○														
種数合計					12	17	22	27	31	28	30	29	29	36	19	16	28	36	39	38	36

3)外来種

鳴鹿大堰周辺における魚類の外来種の確認状況を表 6.2-3に示す。

国外外来種(日本国外から持ち込まれた種)として、3科4種を確認した。ブルーギル、オオクチバス(ブラックバス)の2種は「特定外来生物による生態系に関わる被害の防止に関する法律」により特定外来生物に指定されており、その他の2種も在来生物系に対する被害に関わる一定の知見があるとして要注意外来生物に指定されている。

ブルーギルは、平成10年度に下流河川の中角で、平成14年度に人工河川式魚道で、平成15年度に鳴鹿大堰上流及び階段式魚道で、平成19年度に湛水域内で確認した。オオクチバスは、平成9年度に志比堺(鳴鹿大堰直下流)、平成12年度に魚道内で確認し、平成15年度には上流域でも採捕確認した。また、平成19年度にも湛水域内で確認した。

表 6.2-3 鳴鹿大堰周辺における魚類の外来種の確認状況

No.	科和名	種和名	外来種区分	鳴鹿大堰(堰堤)下流																								
				H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H19								
1	コイ	タイリクバラタナゴ	要注意(検討)		○													●									●	
2	サケ	ニジマス	要注意(検討)		○		○																					
3	サンフィッシュ	ブルーギル	特定											○														
4		オオクチバス	特定											○													●	

No.	科和名	種和名	外来種区分	鳴鹿大堰(堰堤)魚道												鳴鹿大堰(堰堤)湛水域												
				H3	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H16	H19				
1	コイ	タイリクバラタナゴ	要注意(検討)		●		●	●	●	●		●																
2	サケ	ニジマス	要注意(検討)																									
3	サンフィッシュ	ブルーギル	特定				●	●																				●
4		オオクチバス	特定			●																						●

No.	科和名	種和名	外来種区分	浄法寺地点(上流)																								
				H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16									
1	コイ	タイリクバラタナゴ	要注意(検討)								○	○	○	○				●	●	●	●							
2	サケ	ニジマス	要注意(検討)					○																				
3	サンフィッシュ	ブルーギル	特定																								●	
4		オオクチバス	特定																							●		

※外来種区分

特定:特定外来生物

要注意(検討):被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物

要注意(不足):被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

(2)底生動物

1)底生動物相の概況

鳴鹿大堰周辺における底生動物の確認種数を表 6.2-4に示す。

鳴鹿橋では、平成3年度以降毎年調査を実施しており、17～46種の底生動物を確認した。五松橋では、平成3年度以降毎年調査を実施しており、20～58種の底生動物を確認した。中角橋では、平成元年度、2年度、5年度及び平成10年度以降毎年調査を実施しており、13～58種の底生動物を確認した。

各地点とも、カゲロウ目の種類数を最も多く確認しており、次いでトビケラ目、ハエ目などの種類数を多く確認した。

表 6.2-4 鳴鹿大堰周辺における底生動物の確認種数(目別：定量)

	門和名	目和名	確認種数																																												
			鳴鹿橋														五松橋										中角																				
			H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H1	H2	H5	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16							
1	扁形動物	ウスムシ			1									1					1	1			1	1	1	1	1	1			1				1	1					1						
2	軟体動物	ニナ																																													
3		モノアラカイ																																										3			
4		マルスダレカイ																																										1			
5	軟体動物	ハマグリ			1																																										
6	環形動物	ナカミミズ				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1					1	1					1	1	1	2	1		1				1	1			1	8			
7		不明	1	2	1	1	1	1																																							
8		ウオビ								2			1	1	1	2	1																											1			
9		イシビ	2	2	1	2			1	1	2			1	1	1	1																												1		
10	節足動物	タニ																																													
11		ワラシムシ			2	1	2	1	2	2	1	2	1	1	2	1																													2		
12		ヨコエビ																																											1		
13		エビ																																													
14		カゲロウ	13	12	12	6	11	10	8	10	9	10	8	9	7	22	19	17	16	7	20	13	10	18	17	23	21	18	17	24	6	11	12	18	16	15	19	13	17	19							
15		トンボ																																													
16		カワゲラ			1			4	1	1	4	1	2	1	1	1																															
17		カメムシ																																													
18		アミメカゲロウ																																													
19		トビケラ			4	9	3	5	5	4	5	1	7	4	2	2	7	12			11	6	13	10	9	13	10	10	11	9	10	10	4	9	8	9	4	10	6	4	5	3					
20		ハエ	2	3	2	1	3	4	4	2	3	4	5	4	3	8	5	6	2	2	5	5	4	4	5	4	4	5	4	9			6	2	4	3	5	5	4	5	10						
21		コウチュウ	3	3	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	6	3	2	2	2	1	2	1	2	1	3	3	2	3	6	1	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	3	7				
合計	5	21	21	29	31	17	29	26	24	28	21	33	25	27	20	46	45	42	34	20	47	42	33	47	37	51	47	43	40	58	13	31	28	39	27	37	37	26	33	58							

2) 重要種

鳴鹿大堰周辺における底生動物の重要種の確認状況を表 6.2-5に示す。
 鳴鹿大堰周辺では、底生動物の重要種として、モノアラガイ、ムカシトンボ等を確認している。

表 6.2-5 鳴鹿大堰周辺における底生動物の重要種の確認状況

No.	目和名	科和名	種和名	重要種の選定根拠		調査年度																															
				a	b	→ 鳴鹿大堰運用開始																															
				c	d	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19													
1	モノアラガイ	モノアラガイ	モノアラガイ			NT	準絶															●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
2	マイマイ	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ			NT	II類																														
3	トンボ	ムカシトンボ	ムカシトンボ				注目																														
4		サナエトンボ	キイロサナエ				準絶							●																							
5			ホソサナエ				II類																														
6	コウチュウ	ミズスマシ	コオナガミズスマシ				注目							●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
合計	4目	5科	6種	0	0	2	6	0	0	0	0	3	2	2	2	4	3	1	1	2	2	3	5	2	1	2											

- 重要種の選定根拠は以下のとおりである。
- a:「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種
 - b:「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種
 - 国際:国際希少野生動物種(国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動物種)
 - 国内:国内希少野生動物種(本邦に生息又は生育する、絶滅のおそれのある野生動物種)
 - c:「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(環境省 平成18年12月)」及び「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月)」に記載されている種
 - CR:絶滅危惧IA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)
 - EN:絶滅危惧IB類(IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)
 - VU:絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種)
 - NT:準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種)
 - DD:評価するだけの情報が不足している種
 - Lp:絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)
 - d:「福井県の絶滅のおそれのある野生動物―福井県レッドデータブック(動物編)―(福井県 平成14年)」掲載種
 - I類:県域絶滅危惧I類(絶滅の危機に瀕している種。)
 - II類:県域絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種。)
 - 準絶:県域準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。)
 - 注目:要注目(評価するだけの情報が不足している種。)

3) 外来種

鳴鹿大堰周辺における底生動物の外来種の確認状況を表 6.2-6に示す。
 鳴鹿大堰周辺では、底生動物の外来種として、サカマキガイ、フロリダマミズヨコエビ等を確認している。なお、外来生物法において指定された特定外来生物に該当する種については確認していない。

表 6.2-6 鳴鹿大堰周辺における底生動物の外来種の確認状況

No.	目和名	科和名	種和名	調査年度																																	
				H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19															
1	ニナ	ミズツボ	コモチカワツボ																					●													
2	モノアラガイ	モノアラガイ	ハブタエモノアラガイ																						●	●	●										
3		サカマキガイ	サカマキガイ			●		●			●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	ヨコエビ	マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ																							●											
5	エビ	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
合計	4目	5科	5種	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	2	2	1											

外来種選定文献

- ① 荒川好満 (1985) 食用カキ: 移植にもたがう付着生物の侵入。「日本の海洋生物: 侵略と攪乱の生態学」(沖山宗雄・鈴木克美編), pp.69-78. 東海大学出版会.
- ② 肥後俊一・後藤芳央 (1993) 日本及び周辺地域産軟体動物総目録. エル貝類出版局.
- ③ 木村妙子 (2000) 人間に翻弄される貝たち: 内湾の絶滅危惧種と稀化種. 月刊海洋号外 20: 66-72.
- ④ 木村妙子 (2001) コウロンカワフバリガイはどこから来たのか? / その正体と移入経路. 「黒装束の侵入者: 外来付着性二枚貝の最新学」(日本付着生物学会編), pp.47-69. 恒星社厚生閣.
- ⑤ 黒住耐二 (2000) 日本における貝類の保全生態学: 貝塚の時代から将来へ. 月刊海洋号外 20: 42-56.
- ⑥ 黒住耐二 (2002) 外来種と水界生態系: 講演資料. 第43回日本水環境学会セミナー (平成14年2月, 社団法人日本水環境学会).
- ⑦ 西邦雄 (1982) 宮崎県産貝類採集目録及び分布資料. 宮崎県立高原畜産高等学校校要 1982: 1-84.
- ⑧ 平田剛士. 1999. エイリアン・スピーシーズ. 緑風出版
- ⑨ 金田彰二・倉西良一・石綿進一・東城幸治・清水高男・平良裕之・佐竹潔 (2007) 日本における外来種フロリダマミズヨコエビ (Crangonyx floridanus Bousfield) の分布の現状. 陸水学雑誌 68(3): 449-460.
- ⑩ 川藤正治・西野麻知子・大高明史 (2007) プラナリア類の外来種. 陸水学雑誌 68(3): 461-469.
- ⑪ 増田修・内山りゆう (2004) 日本産淡水貝類図鑑2 汽水域を含む全国の淡水貝類ビーズ. 240pp
- ⑫ 上野益三 (編) (1980) 川村日本淡水生物学. 北隆館.
- ⑬ 環境省: 要注意外来生物リスト http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/caution/detail_mu.html
- ⑭ 鷺谷いつみ・村上興正 (2003) 外来種ハンドブック. 地人館書店.

(3) 植物

1) 植物相の概況

鳴鹿大堰周辺における植物調査の結果、884 種の維管束植物(シダ植物以上の高等植物)を確認した。各調査年における分類階級別の確認種数を表 6.2-7に示す。

九頭竜川橋～鳴鹿橋上流付近における平成 2～3(1990～1991)年度調査では 467 種、平成 5(1993)年度調査では 485 種、平成 16(2004)年度調査では 465 種を確認した。

表 6.2-7 鳴鹿大堰周辺における陸上植物確認種数

門・亜門・綱・亜綱		福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流				合計	
		H6 (1994)	H12 (2000)	H17 (2005)	H2・3 (1990・ 1991)	H3 (1991)	H5 (1993)	H16 (2004)		
シダ植物		11	15	13	28	5	19	26	47	
種子植物	裸子植物	0	1	0	5	1	2	2	8	
	被子植物	双子葉植物	185	153	151	223	84	230	200	366
		離弁花類 合弁花類	114	92	94	114	45	108	104	214
	単子葉植物	137	107	108	97	51	126	133	249	
合計		447	368	366	467	186	485	465	884	

2) 重要種

鳴鹿大堰周辺における植物の重要種の確認種を表 6.2-8に示す。

鳴鹿大堰周辺における確認種のうち、重要種に該当する植物は22種であり、そのうち環境省レッドリスト(平成19(2007)年)の「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」を2種、「準絶滅危惧(NT)」を2種確認した。なお、文化財保護法における国・県の天然記念物及び種の保存法における国内希少野生動植物該当種は確認していない。

表 6.2-8 鳴鹿大堰周辺における植物の重要種の確認種

No.	科和名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流				選定基準	
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16	環境省 RL	福井県 RDB
1	タデ科	ノダイオウ		●						VU	Ⅱ類
2	バラ科	リンボク				●					注目
3		コメウツギ		●							Ⅱ類
4	ミカン科	フユザンショウ						●			準絶
5	アリノトウグサ科	ホザキノフサモ	●	●					●		注目
6		フサモ					●	●			Ⅰ類
7	ゴマノハグサ科	カワヂシャ	●	●					●	NT	準絶
8	キク科	フジバカマ	●	●	●	●		●	●	VU	Ⅱ類
9		ノニガナ	●			●					Ⅱ類
10		コオニタピラコ	●			●					Ⅱ類
11	ヒルムシロ科	エビモ		●		●	●	●			注目
12		ササバモ		●							準絶
13	ユリ科	ノカンゾウ						●			Ⅱ類
14		オモト				●					準絶
15	イグサ科	ドロイ				●					準絶
16	イネ科	トキワススキ	●								準絶
17		セイタカヨシ		●							注目
18	サトイモ科	ショウブ				●		●	●		注目
19	ミクリ科	ミクリ		●		●			●	NT	準絶
20	ガマ科	コガマ						●			準絶
21	カヤツリグサ科	シオクグ		●							準絶
22		シロガヤツリ	●								注目
合計			7	10	1	9	2	7	5	4	22

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月)」に記載されている種

CR: 絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)

EN: 絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)

VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種)

DD: 評価するだけの情報が不足している種

Lp: 絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平成14年)」掲載種

Ⅰ類: 県域絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種。)

Ⅱ類: 県域絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種。)

準絶: 県域準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。)

注目: 要注目(評価するだけの情報が不足している種。)

3)外来種

鳴鹿大堰周辺における植物の外来種の確認状況を表 6.2-9に示す。

鳴鹿大堰周辺では 36 科 141 種の外来種を確認した。そのうち、特定外来生物としてアチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウの 4 種を確認した。

表 6.2-9(1) 鳴鹿大堰周辺における植物の外来種の確認状況

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流				外来種区分
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16	
1	マキ科	ラカンマキ		●						
2	タデ科	ヒメスイバ	●	●	●	●			●	
3		アレチギシギシ	●	●	●	●		●	●	
4		ナガバギシギシ	●	●	●			●	●	
5		エゾノギシギシ	●	●	●	●	●	●	●	要注意(不足)
6		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	●	●	●	●		●	●
7	ザクロソウ科	クマバザクロソウ	●		●					
8	スベリヒユ科	マツバボタン						●		
9		ヒメマツバボタン			●					
10		ハゼラン			●					
11	ナデシコ科	オランダミミナグサ	●	●	●	●		●	●	
12		ムシトリナデシコ	●	●	●	●	●	●	●	
13		シロバナムシトリナデシコ	●	●						
14		シロバナマンテマ			●					
15		マンテマ		●	●					●
16	ヒユ科	ホソアオゲイトウ			●			●	●	
17		アオゲイトウ		●		●				
18		アオビユ					●		●	
19	オトギリソウ科	キンシバイ		●		●		●		
20	フウチョウソウ科	セイヨウフウチョウソウ	●							
21	アブラナ科	シロイヌナズナ	●							
22		ハルザキヤマガラシ			●			●		要注意(不足)
23		セイヨウカラシナ	●	●	●	●	●		●	
24		セイヨウアブラナ	●	●	●					
25		ミチタネツケバナ	●							
26		コタネツケバナ	●							
27		マメゲンバイナズナ	●	●	●	●	●	●	●	
28		オランダガラシ		●	●			●		要注意(不足)
29		キレハイヌガラシ	●	●				●	●	
30		マメ科	イタチハギ							●
31	エビスグサ							●		
32	アレチヌスビトハギ							●		
33	セイヨウミヤコグサ							●	●	
34	ハリエンジュ		●	●	●	●		●	●	要注意(緑化)
35	コメツブツメクサ		●	●	●	●		●	●	
36	ムラサキツメクサ		●	●	●	●		●	●	
37	シロツメクサ		●	●	●	●	●	●	●	
38	カタバミ科	イモカタバミ			●					
39		ムラサキカタバミ	●	●					●	要注意(不足)
40		オッタチカタバミ		●	●			●	●	
41	フウロソウ科	アメリカフウロ			●					
42	トウダイグサ科	オオニシキソウ	●	●	●	●		●	●	
43		コニシキソウ	●	●	●	●		●	●	
44	ニガキ科	シンジュ	●	●	●			●	●	
45	ウリ科	アレチウリ	●	●	●	●		●	●	特定外来
46	アカバナ科	メマツヨイグサ	●	●	●	●	●	●	●	要注意(不足)
47		オオマツヨイグサ		●		●		●		
48	パンレイシ科	ポポー							●	
49	モクセイ科	トウネズミモチ							●	要注意(緑化)
50	キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ			●				●	
51	ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	●	●	●	●	●	●	●	要注意(不足)
52	ムラサキ科	ノハラムラサキ	●							

表 6.2-9(2) 鳴鹿大堰周辺における植物の外来種の確認状況

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流				外来種区分
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16	
53	クマツヅラ科	ヤナギハナガサ	●	●				●	●	
54	シソ科	ヒメオドリコソウ	●		●				●	
55		ハナトラノオ							●	
56	ナス科	ワルナスビ				●			●	要注意(不足)
57	ゴマノハグサ科	マツバウンラン		●	●	●				
58		タケトアゼナ							●	
59		アメリカアゼナ	●	●	●	●		●		
60		ピロードモウズイカ	●	●	●			●	●	
61		オオカワヂシャ		●						特定外来
62		タチヌノフグリ	●	●	●	●		●	●	
63		オオイヌノフグリ	●	●	●	●		●	●	
64	オオバコ科	ヘラオオバコ	●		●	●			●	要注意(不足)
65		タチオオバコ		●	●					
66	オミナエシ科	ノヂシャ	●	●	●	●				
67	キキョウ科	キキョウソウ		●	●				●	
68	キク科	フタクサ	●	●	●	●		●	●	要注意(不足)
69		オオブタクサ	●	●	●			●	●	要注意(検討)
70		オオホウキギク					●			
71		キダチコンギク	●	●	●					
72		ヒロハホウキギク	●	●	●				●	
73		ホウキギク	●	●	●	●	●	●	●	
74		ヒナギク		●						
75		アメリカセンダングサ	●	●	●	●	●	●	●	要注意(不足)
76		フランスギク	●	●	●					
77		アレチノギク							●	
78		オオアレチノギク	●	●	●	●	●	●	●	要注意(不足)
79		オオキンケイギク	●	●	●				●	特定外来
80		ハルシャギク	●	●	●			●	●	
81		コスモス	●	●	●		●	●	●	
82		キバナコスモス			●					
83		ベニバナポロギク	●	●	●	●	●	●	●	
84		アメリカタカサブロウ		●	●				●	
85		ダンドポロギク				●		●		
86		ヒメムカシヨモギ	●	●	●	●	●	●	●	要注意(不足)
87		ハルジオン	●	●	●	●		●		要注意(不足)
88		ハキダメギク	●					●	●	
89		タチチチコグサ							●	
90		チチコグサモドキ						●		
91		ウスベニチチコグサ	●		●					
92		キクイモ				●		●		要注意(不足)
93		フタナ	●	●	●			●	●	要注意(不足)
94		オオハンゴンソウ	●			●				特定外来
95		ノボロギク	●	●	●	●		●	●	
96		セイタカアワダチソウ	●	●	●	●	●	●	●	要注意(検討)
97		オオアワダチソウ	●	●	●	●		●	●	要注意(不足)
98		オニノゲシ	●	●	●	●		●		
99		ヒメジョオン	●	●	●	●		●	●	要注意(不足)
100		ヘラバヒメジョオン							●	
101		セイヨウタンポポ	●		●	●	●	●	●	要注意(不足)
102		イガオナモミ			●			●		
103		オオオナモミ	●	●	●		●	●	●	要注意(不足)
104	トチカガミ科	オオカナダモ						●		要注意(検討)
105		コカナダモ	●	●	●		●	●	●	要注意(検討)
106	ユリ科	ドイツスズラン	●							
107		シンテツポウユリ							●	
108	ヒガンバナ科	ナツズイセン						●		
109		ラッパスイセン	●							
110		タマスダレ			●					
111	アヤメ科	グラジオラス						●		
112		キショウブ	●	●	●	●	●	●	●	要注意(不足)
113		ニワゼキショウ	●	●	●			●	●	
114		ヒメヒオウギズイセン		●	●			●	●	

表 6.2-9(3) 鳴鹿大堰周辺における植物の外来種の確認状況

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流				外来種区分
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16	
115	イネ科	コヌカグサ	●	●	●			●		
116		クロコヌカグサ	●							
117		ハイコヌカグサ	●							
118		ヌカススキ			●					
119		ハナヌカススキ	●	●	●				●	
120		メリケンカルカヤ			●				●	要注意(不足)
121		ハルガヤ	●						●	
122		カラスムギ			●	●		●	●	
123		コバンソウ	●	●	●	●		●	●	
124		ヒメコバンソウ	●	●	●			●	●	
125		イヌムギ	●	●	●				●	
126		カモガヤ	●	●	●				●	要注意(緑化)
127		シナダレスズメガヤ	●	●	●	●		●	●	要注意(緑化)
128		コスズメガヤ	●	●	●		●	●	●	
129		オニウシノケグサ	●	●	●	●	●	●	●	要注意(緑化)
130		ヒロハノウシノケグサ	●	●	●	●		●	●	
131		ネズミムギ	●	●	●			●	●	要注意(緑化)
132		ホソムギ	●	●				●	●	要注意(緑化)
133		オオクサキビ	●	●	●	●		●	●	
134		シマスズメノヒエ			●			●		
135	オオアワガエリ				●				要注意(緑化)	
136	ツルスズメノカタビラ	●	●							
137	オオスズメノカタビラ	●	●	●				●		
138	タマオオスズメノカタビラ			●						
139	セイバンモロコシ							●		
140	ナギナタガヤ	●	●	●			●	●		
141	カヤツリグサ科	メリケンガヤツリ		●					要注意(不足)	
合計	36科	141種	86	83	92	51	22	75	86	

※外来種区分

特定外来: 特定外来生物

要注意(知見): 被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物

要注意(不足): 被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の集積に努める外来生物

要注意(緑化): 別途総合的な検討を進める緑化植物

上記以外の外来種の選定は、外来種ハンドブックによった。

(4) 鳥類

1) 鳥類相の概況

鳴鹿大堰周辺における鳥類の確認種を表 6.2-10に示す。

鳴鹿大堰周辺では平成2・3年度、平成5年度、平成11年度、平成16年度に調査を実施しており、合計14目37科118種の鳥類を確認した。調査年度別では、平成2・3年度で77種、平成5年度で91種、平成11年度で89種、平成16年で74種を確認した。

サギ科、カモ科等の水辺に生息する種が多く確認されたほか、砂洲の形成がみられる中流域の代表種としてコチドリ、イカルチドリ、イソシギといった砂礫地を繁殖場とする種が特徴的に出現した。

表 6.2-10(1) 鳴鹿大堰周辺における鳥類の確認状況

No.	目名	科名	種名	H2・3 (1990・ 1991)	H5 (1993)	H11 (1999)	H16 (2004)		
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	●	●	●	●		
2			カンムリカイツブリ	●	●	●	●		
3	ペリカン目	ウ科	カワウ	●	●	●	●		
4	コウノトリ目	サギ科	ゴイサギ	●	●	●	●		
5			ササゴイ	●	●	●	●		
6			アマサギ	●	●	●	●		
7			ダイサギ	●	●	●	●		
8			チュウサギ	●	●	●	●		
9			コサギ	●	●	●	●		
10			アオサギ	●	●	●	●		
11			カモ目	カモ科	オンドリ	●	●	●	●
12					マガモ	●	●	●	●
13					カルガモ	●	●	●	●
14	コガモ	●			●	●	●		
15	オカヨシガモ	●			●	●	●		
16	ヒドリガモ	●			●	●	●		
17	オナガガモ	●			●	●	●		
18	ホシハジロ	●			●	●	●		
19	ホオジロガモ	●			●	●	●		
20	ミコアイサ	●			●	●	●		
21	カワアイサ	●			●	●	●		
22	タカ目	タカ科	ミサゴ	●	●	●	●		
23			ハチクマ	●	●	●	●		
24			トビ	●	●	●	●		
25			オオタカ	●	●	●	●		
26			ハイタカ	●	●	●	●		
27			ノスリ	●	●	●	●		
28			サシバ	●	●	●	●		
29			ハヤブサ科	ハヤブサ	●	●	●	●	
30				チゴハヤブサ	●	●	●	●	
31				コチョウゲンボウ	●	●	●	●	
32	チョウゲンボウ	●		●	●	●			
33	キジ目	キジ科	ウズラ	●	●	●	●		
34			キジ	●	●	●	●		
35	チドリ目	チドリ科	コチドリ	●	●	●	●		
36			イカルチドリ	●	●	●	●		
37			シロチドリ	●	●	●	●		
38			ケリ	●	●	●	●		
39			タゲリ	●	●	●	●		
40			シギ科	ハマシギ	●	●	●	●	
41		アオアシシギ		●	●	●	●		
42		クサシギ		●	●	●	●		
43		タカブシギ		●	●	●	●		
44		キアシシギ		●	●	●	●		
45		イソシギ		●	●	●	●		
46		チュウシャクシギ		●	●	●	●		
47		タシギ		●	●	●	●		
48		カモメ科	ユリカモメ	●	●	●	●		
49			セグロカモメ	●	●	●	●		
50			カモメ	●	●	●	●		
51			ウミネコ	●	●	●	●		
52			コアジサシ	●	●	●	●		

表 6.2-10(2) 鳴鹿大堰周辺における鳥類の確認状況

No.	目名	科名	種名	H2・3 (1990・ 1991)	H5 (1993)	H11 (1999)	H16 (2004)
53	ハト目	ハト科	ドバト		●	●	
54			キジバト	●	●	●	●
55	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ	●	●	●	●
56			ツツドリ				●
57			ホトギス	●			
58	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	●			
59	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	●			
60			アマツバメ	●	●	●	●
61	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	●	●	●	
62			カワセミ	●	●	●	●
63	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	●	●	●	●
64			アカゲラ	●		●	●
65			コゲラ		●	●	●
66	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	●	●	●	●
67		ツバメ科	ショウドウツバメ			●	
68			ツバメ	●	●	●	●
69			コシアカツバメ	●	●	●	●
70			イワツバメ	●	●	●	●
71		セキレイ科	キセキレイ	●	●	●	●
72			ハクセキレイ	●	●	●	●
73			セグロセキレイ	●	●	●	●
74			ビンズイ	●			
75			タヒバリ	●	●		●
76		サンショウクイ科	サンショウクイ		●	●	
77		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	●	●	●	●
78		モズ科	モズ	●	●	●	●
79		レンジャク科	ヒレンジャク				●
80		カワガラス科	カワガラス	●	●	●	●
81		ミソサザイ科	ミソサザイ	●			
82		ツグミ科	ジョウビタキ	●	●	●	●
83			ノビタキ	●			●
84			イソヒヨドリ	●	●	●	●
85			ツグミ	●	●	●	●
86		ウグイス科	ウグイス	●	●	●	●
87			シマセンニュー	●			
88			コヨシキリ		●	●	
89			オオヨシキリ	●	●	●	●
90			メボソムシクイ				●
91			センダイムシクイ				●
92		ヒタキ科	オオルリ		●		
93			コサメビタキ			●	
94		エナガ科	エナガ	●	●	●	●
95		ツリスガラ科	ツリスガラ		●		
96		シジュウカラ科	ヒガラ		●		
97			ヤマガラ		●	●	
98			シジュウカラ	●	●	●	●
99		メジロ科	メジロ		●		
100		ホオジロ科	ホオジロ	●	●	●	●
101			ホオアカ			●	
102			カシラダカ	●	●	●	●
103			ミヤマホオジロ		●	●	
104			ノジョ			●	
105			アオジ	●	●	●	●
106			オオジュリン	●		●	
107		アトリ科	アトリ			●	
108			カワラヒワ	●	●	●	●
109			ベニマシコ	●	●	●	●
110			イカル	●	●	●	●
111			シメ	●		●	●
112		ハタオリドリ科	スズメ	●	●	●	●
113		ムクドリ科	コムクドリ	●	●	●	●
114			ムクドリ	●	●	●	●
115		カラス科	カケス		●		
116			オナガ	●	●	●	●
117			ハシボソガラス	●	●	●	●
118			ハシブトガラス	●	●	●	●
合計	14目	37科	118種	77	91	89	74

2) 重要種

鳴鹿大堰周辺における鳥類の重要種の確認状況を表 6.2-11に示す。重要種として、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているサシバ、ハヤブサ、コアジサシ、ヨタカ、サンショウクイなど、合計で22種を確認した。

表 6.2-11 鳴鹿大堰周辺における鳥類の重要種の確認状況

No.	目和名	科和名	種和名	H2・3 (1990・ 1991)	H5 (1993)	H11 (1999)	H16 (2004)	選定基準			
								文化財 保護法	種の保 存法	環境省 RL	福井県 RDB
1	コウノトリ目	サギ科	ササゴイ	●	●	●	●				準絶
2			チュウサギ	●	●	●	●			NT	準絶
3	カモ目	カモ科	オシドリ	●	●	●	●			DD	準絶
4			カワアイサ		●	●	●				注目
5	タカ目	タカ科	ミサゴ		●	●	●			NT	I類
6			ハチクマ			●	●			NT	II類
7			オオタカ		●	●		国内		NT	I類
8			ハイタカ		●	●				NT	II類
9			ノスリ	●	●	●	●				II類
10			サシバ	●		●				VU	
11		ハヤブサ科	ハヤブサ			●	●	国内		VU	II類
12			チョウゲンボウ	●	●	●	●				準絶
13	キジ目	キジ科	ウズラ		●					NT	注目
14	チドリ目	チドリ科	コチドリ		●	●	●				準絶
15			イカルチドリ	●	●	●	●				II類
16		シギ科	イソシギ	●	●	●	●				準絶
17		カモメ科	コアジサシ	●	●	●		国際		VU	I類
18	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	●						VU	
19	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	●	●	●					準絶
20	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ		●	●				VU	II類
21			ノジコ			●				NT	II類
22		ムクドリ科	コムクドリ	●	●	●	●				注目
合計	8目	12科	22種	12	17	20	13	0	3	13	20

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

国際: 国際希少野生動植物種(国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種)

国内: 国内希少野生動植物種(本邦に生息し又は生育する、絶滅のおそれのある野生動植物の種)

「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(環境省 平成18年12月)」に記載されている種

CR: 絶滅危惧IA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)

EN: 絶滅危惧IB類(IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)

VU: 絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種)

DD: 評価するだけの情報が不足している種

Lp: 絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平成14年)」掲載種

I類: 県域絶滅危惧I類(絶滅の危機に瀕している種。)

II類: 県域絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種。)

準絶: 県域準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。)

注目: 要注目(評価するだけの情報が不足している種。)

3) 外来種

鳴鹿大堰周辺における鳥類の外来種の確認状況を表 6.2-12に示す。外来種としてドバト1種を確認した。

表 6.2-12 鳴鹿大堰周辺における鳥類の外来種の確認状況

No.	目和名	科和名	種和名	H2・3 (1990・ 1991)	H5 (1993)	H11 (1999)	H16 (2004)
1	ハト目	ハト科	ドバト		●	●	
合計	1目	1科	1種	0	1	1	0

(5) 両生類、爬虫類、哺乳類

1) 両生類、爬虫類、哺乳類相の概況

鳴鹿大堰周辺における両生類、爬虫類、哺乳類の確認状況を表 6.2-13に示す。

鳴鹿大堰周辺では平成2・3年度、平成8年度、平成13年度、平成16年度に調査を実施しており、両生類2目5科8種、爬虫類2目5科8種、哺乳類5目8科15種の生息を確認した。

表 6.2-13(1) 鳴鹿大堰周辺における両生類の確認状況

No.	目和名	科和名	種和名	H2・H3 (1990・ 1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H16 (2004)
1	サンショウウオ目	イモリ科	イモリ	●		●	
2	カエル目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル	●	●		
3		アマガエル科	アマガエル	●	●	●	●
4		アカガエル科	トノサマガエル	●		●	●
5			ヌマガエル	●			
6			ツチガエル	●		●	●
7		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	●		●	
8			カジカガエル				●
合計	2目	5科	8種	7	2	5	4

表 6.2-13(2) 鳴鹿大堰周辺における爬虫類の確認状況

No.	目和名	科和名	種和名	H2・H3 (1990・ 1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H16 (2004)
1	カメ目	カメ科	ミシシッピアカミミガメ			●	
2			イシガメ	●	●	●	●
3	トカゲ目	トカゲ科	トカゲ	●	●	●	
4		カナヘビ科	カナヘビ	●	●	●	●
5		ヘビ科	シマヘビ	●	●	●	●
6			アオダイショウ	●	●	●	●
7			ヤマカガシ	●	●		●
8		クサリヘビ科	マムシ	●	●		
合計	2目	5科	8種	7	7	6	5

表 6.2-13(3) 鳴鹿大堰周辺における哺乳類の確認状況

No.	目と名	科と名	種と名	H2・H3 (1990・ 1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H16 (2004)
1	モグラ目	トガリネズミ科	ジネズミ		●	●	
			トガリネズミ科			○	
2		モグラ科	ヒミズ		●		
3			コウベモグラ	●	●	●	
	モグラ科				○	○	●
4	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科				●
5	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	●	●	●	●
6	ネズミ目	ネズミ科	アカネズミ	●	●	●	●
7			ヒメネズミ				●
8			カヤネズミ	●	●	●	●
9			ハツカネズミ				●
			ネズミ科		○	○	○
10	ネコ目	イヌ科	タヌキ	●	●	●	●
11			キツネ	●	●	●	●
12		イタチ科	テン				●
13			イタチ	●	●		
14			アナグマ				●
			イタチ科			○	○
15	ジャコウネコ科	ハクビシン				●	
合計	5目	8科	15種	7	9	9	10

注)○は当該年において種数としてカウントしていない。

2) 重要種

重要種として、両生類ではイモリ、爬虫類ではイシガメの合計 2 目 2 科 2 種を確認した。

表 6.2-14 鳴鹿大堰周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の重要種の確認状況

No.	目と名	科と名	種と名	H2・H3 (1990・ 1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H16 (2004)	選定基準				
								文化財 保護法	種の保 存法	環境省 RL	福井県 RDB	
1	サンショウウオ目	イモリ科	イモリ	●		●					NT	
2	カメ目	カメ科	イシガメ	●	●	●	●				DD	
合計	2目	2科	2	2	1	2	1	0	0	2	0	

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

国際: 国際希少野生動植物種(国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種)

国内: 国内希少野生動植物種(本邦に生息又は生育する、絶滅のおそれのある野生動植物の種)

「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(環境省 平成18年12月)」及び

「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月)」に記載されている

CR: 絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)

EN: 絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)

VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種)

DD: 評価するだけの情報が不足している種

Lp: 絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平成14年)」掲載種

Ⅰ類: 県域絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種。)

Ⅱ類: 県域絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種。)

準絶: 県域準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。)

注目: 要注目(評価するだけの情報が不足している種。)

3)外来種

鳴鹿大堰周辺における現地調査では、両生類、爬虫類、哺乳類の外来種として、爬虫類では要注意外来生物のミシシippアカミミガメ1種、哺乳類はハクビシン1種を確認した。両生類については外来種を確認していない。なお、外来生物法において指定された特定外来生物に該当する種については確認していない。

表 6.2-15 鳴鹿大堰周辺における両生類・爬虫類・哺乳類の外来種の確認状況

No.	目名	科名	種名	H2・H3 (1990・ 1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H16 (2004)	選定根拠
1	カメ目	カメ科	ミシシippアカミミガメ			●		要注意(知見)
2	ネコ目	ジャコウネコ科	ハクビシン				●	
合計	2目	2科	2種	0	0	1	1	

(6) 陸上昆虫類等

1) 陸上昆虫類等相の概況

鳴鹿大堰周辺における陸上昆虫類等の確認種数を表 6.2-16に示す。

平成2・3(1990・1991)年度調査では391種、平成4(1992)年度調査では541種であったが、平成9(1997)年度は1,005種、平成14(2002)年度は1,055種、平成16年度は1,161種、平成20年度は740種もの種類を確認した。6回の調査をあわせると、鳴鹿大堰周辺では、クモ目が149種、コウチュウ目が754種、チョウ目が541種などの合計2,234種の生息を確認した。

表 6.2-16 鳴鹿大堰周辺における陸上昆虫類等の確認種数

No.	目名	H2・H3 (1990・ 1991)	H4 (1992)	H9 (1997)	H14 (2002)	H16 (2004)	H20 (2008)	合計
1	クモ目		45	74	68	101	58	149
2	ワラジムシ目		1	3	3	4	2	4
3	オビヤスデ目		2					2
4	ゲジ目		1					1
5	イシムカデ目		3					3
6	オオムカデ目		2					2
7	カゲロウ目	9	2	4	8	6	3	15
8	トンボ目	9	6	14	20	16	23	32
9	ゴキブリ目			1	1	1		1
10	カマキリ目	3	4	5	4		7	7
11	ハサミムシ目	1	1	2	2	6	2	6
12	カワゲラ目	1	1	1	1			2
13	バッタ目	30	29	50	40	48	40	67
14	ナナフシ目						1	1
15	カメムシ目	56	45	91	112	159	92	239
16	アザミウマ目	1		1				2
17	ヘビトンボ目		1	1	0	1	1	3
18	アミメカゲロウ目	3		6	6	5	5	15
19	シリアゲムシ目	1	1	1	1	1	1	1
20	トビケラ目	8	4	6	7	5	1	17
21	チョウ目	58	150	258	227	256	137	541
22	ハエ目	40	23	51	57	50	32	133
23	コウチュウ目	127	167	322	364	427	244	754
24	ハチ目	44	53	114	134	75	91	237
合計	24目	391	541	1,005	1,055	1,161	740	2,234

2) 重要種

鳴鹿大堰周辺における陸上昆虫類等の重要種の確認状況を表 6.2-17に示す。

平成 20 年(2008 年)度までの調査で環境省レッドリストの準絶滅危惧に指定されているモートンイトトンボ、シロヘリツチカメムシ等 15 種の重要種を確認した。

表 6.2-17 鳴鹿大堰周辺における陸上昆虫類等の重要種の確認状況

No.	目と名	科と名	種と名	選定基準				H2・H3 (1990・1991)	H4 (1992)	H9 (1997)	H14 (2002)	H16 (2004)	H20 (2008)
				文化財 保護法	種の保 存法	環境省 RL	福井県 RDB						
1	トンボ目	イトトンボ科	モートンイトトンボ			NT		●			●		●
2		トンボ科	マイコアカネ				注目				●		
3	バッタ目	コオロギ科	カワラスズ				注目		●				
4	カメムシ目	ヤシガメ科	ハリヤシガメ			DD		●					
5		ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ			NT	準絶		●				●
6		イトアメンボ科	イトアメンボ			VU	Ⅱ類	●	●				
7	チョウ目	ボクトウガ科	ハイイロボクトウ				注目	●					
8		ヤガ科	アオモンギンセダカモクメ				準絶		●	●			
9	コウチュウ目	オサムシ科	スナハラゴミムシ			NT			●				
10			セアカオサムシ				準絶	●	●	●	●	●	
11		テントウムシ科	オシマヒメテントウ				準絶				●		
12		ゾウムシ科	ワモントゲトゲゾウムシ				注目	●					
13	ハチ目	ドロバチ科	フカイオオドロバチ				Ⅱ類			●			●
14		アナバチ科	フクイアナバチ			NT	準絶	●					
15		ムカシハナバチ科	コムカシハナバチ				Ⅱ類		●				●
合計	6目	14科	15種	0	0	6	12	3	5	7	5	2	4

重要種の選定根拠は以下のとおりである。

「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により天然記念物に指定されている種

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」で指定されている種

国際: 国際希少野生動植物種(国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種)

国内: 国内希少野生動植物種(本邦に生息し又は生育する、絶滅のおそれのある野生動植物の種)

「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(環境省 平成18年12月)」及び

「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月)」に記載されている種

CR: 絶滅危惧ⅠA類(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)

EN: 絶滅危惧ⅠB類(ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)

VU: 絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)

NT: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種)

DD: 評価するだけの情報が不足している種

Lp: 絶滅のおそれのある地域個体群(地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの)

「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平成14年)」掲載種

Ⅰ類: 県域絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種。)

Ⅱ類: 県域絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種。)

準絶: 県域準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種。)

注目: 要注目(評価するだけの情報が不足している種。)

3) 外来種

鳴鹿大堰周辺における陸上昆虫類等の外来種の確認状況を表 6.2-18に示す。平成 20 年(2008 年)度までの調査で、鳴鹿大堰周辺においては合計 24 種の陸上昆虫類等の外来種を確認した。

表 6.2-18 鳴鹿大堰周辺における陸上昆虫類等の外来種の確認状況

No.	目名	科名	種名	H2・H3 (1990・ 1991)	H4 (1992)	H9 (1997)	H14 (2002)	H16 (2004)	H20 (2008)	
1	バッタ目	マツムシ科	カンタン		●	●	●	●	●	
2			アオマツムシ		●	●	●	●	●	
3	カメムシ目	アブラムシ科	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ					●		
4		サシガメ科	ヨコヅナサシガメ				●			
5	チョウ目	ミノガ科	オオミノガ	●						
6		イラガ科	ヒロヘリアオイラガ		●					
7		シロチョウ科	モンシロチョウ	●	●	●	●	●	●	
8		ツトガ科	シバツトガ			●	●	●		
9		ヤガ科	オオタバコガ				●	●		
10	ハエ目	ミズアブ科	アメリカミズアブ			●	●	●	●	
11		ショウジョウバエ科	キイロショウジョウバエ	●				●		
12	コウチュウ目	オサムシ科	コルリアトキリゴミムシ					●	●	
13		コガネムシ科	シロテンハナムグリ	●	●	●	●	●	●	
14		ケシキスイ科	クリイロデオキスイ					●		
15		ゴミムシダマシ科	コクヌストモドキ			●		●	●	
16		カミキリムシ科	イチジクカミキリ			●				
17		ハムシ科	エンドウゾウムシ							●
18			アズキマメゾウムシ	●		●	●	●		
19			ブタクサハムシ				●	●	●	
20		ゾウムシ科	オオタコゾウムシ				●		●	
21			ケチビコフキゾウムシ				●			
22	イネゾウムシ科	イネミズゾウムシ			●	●	●	●		
23	ハチ目	アナバチ科	アメリカジガバチ			●	●	●		
24		ミツバチ科	セイヨウミツバチ	●			●		●	
合計	6目	20科	24種	6	5	11	15	16	12	

注)外来種の選定は、外来種ハンドブック(日本生態学会編、2002)による。

6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証

鳴鹿大堰の存在・供用に伴い影響を受けると考えられる場所別(湛水域内、本川上流、本川下流、湛水域周辺)及び連続性の視点から環境の状況と生物の生息・生育状況の変化を把握し、堰による影響の検証を行った。

鳴鹿大堰における生物の生息・生育状況の変化の検証の視点、対象範囲及び設定根拠を表 6.3-1及び図 6.3-1に示す。

表 6.3-1 鳴鹿大堰における検証の視点、対象範囲及び設定根拠

視点		検証の対象範囲	設定根拠
場所別	本川上流	湛水域上流端より上流の九頭竜川(浄法寺橋付近まで)	堰による湛水の影響を受けない範囲であり、水生生物調査の地点が設定されており、検証が可能である。
	湛水域	堰による湛水域及びその周辺の陸域(鳴鹿大堰堰堤から堰湛水域上流端(約 31.1km 地点付近)まで)	湛水域として直接冠水する範囲及びその周辺の河川区域内である。
	本川下流	堰より下流の九頭竜川(日野川合流点付近まで)	各生物調査の地点が設定されており、検証が可能である。
連続性		本川上流～湛水域～本川下流	堰による連続性への影響をみることができる、上流と下流の地点の範囲である。

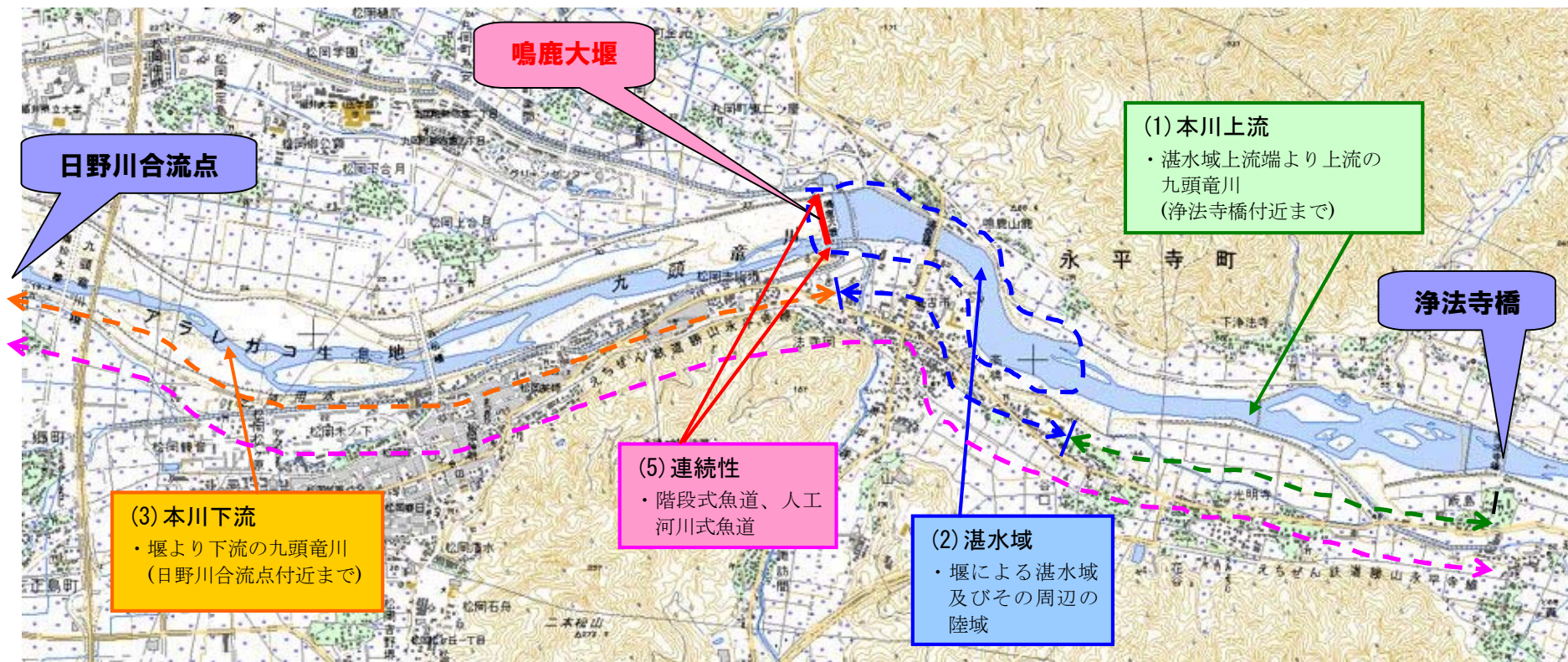


図 6.3-1 鳴鹿大堰における生物の生息・生育状況の変化の検証の対象範囲

6.3.1 本川上流における変化の検証

鳴鹿大堰の存在・供用により、本川上流において環境条件の変化が起こり、本川上流を利用する様々な生物の生息・生育状況の変化を引き起こすと想定されている。

そのためここでは、鳴鹿大堰本川上流における環境条件の変化及びそれにより引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.3-2のように想定し、鳴鹿大堰の存在・供用により本川上流の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1) 環境条件の変化の把握

- ・河川流量の変化
- ・水温・水質の変化
- ・本川上流の変遷

(2) 生物の生息・生育状況の変化の把握

- ・流水性魚類、外来魚の生息状況の変化
- ・底生動物の生息状況(主要構成種)の変化

(3) 堰による影響の検証

鳴鹿大堰本川上流における生物の生息・生育状況の変化について、環境条件の変化や堰以外の要因等と照らし合わせて検討し、堰による影響を検証した。

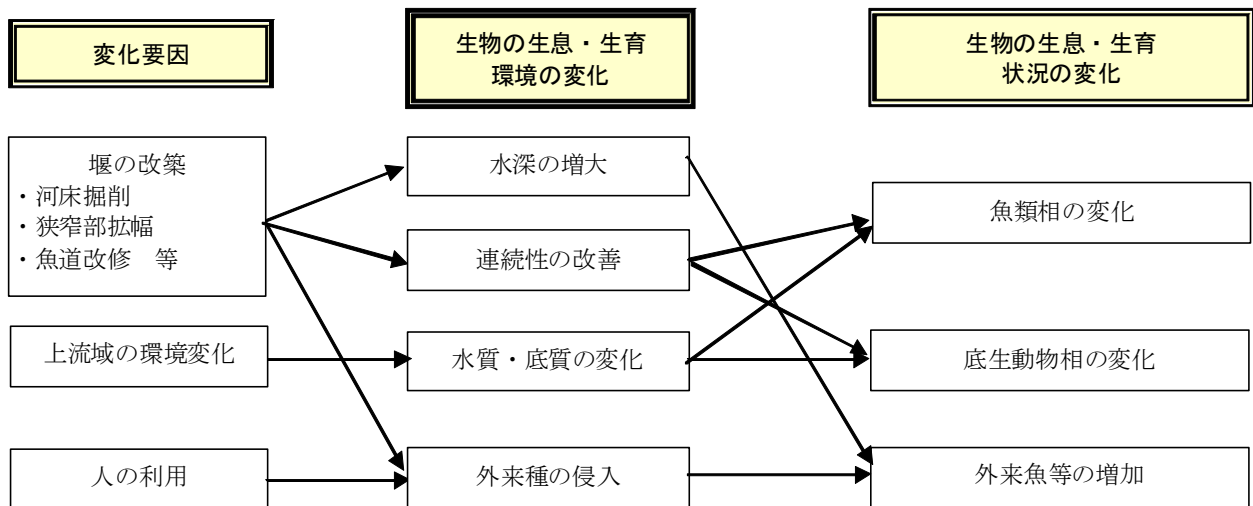


図 6.3-2 鳴鹿大堰本川上流で想定される変化要因とそれに伴う

生物の生息・生育状況の変化

(1) 環境条件の変化の把握

環境条件の変化については、「1. 事業の概要」、「5. 水質」に示す。

(2) 生物の生息・生育状況の変化の把握

1) 魚類

本川上流における調査により確認した魚類の確認状況を図 6.3-4、表 6.3-2に示す。

調査結果を、平成元年(1989年)度～平成10年(1998年)度までの堰暫定運用前の調査、平成11年(1999年)度以降の堰暫定運用後の調査に区分すると、本川上流における魚類の確認種数は、堰暫定運用前が33種、堰暫定運用後が35種であった。また、図 6.3-4に示す通り、堰暫定運用後に、サケ、サクラマスなどの通し回遊魚など、魚類の確認種数が増加した。

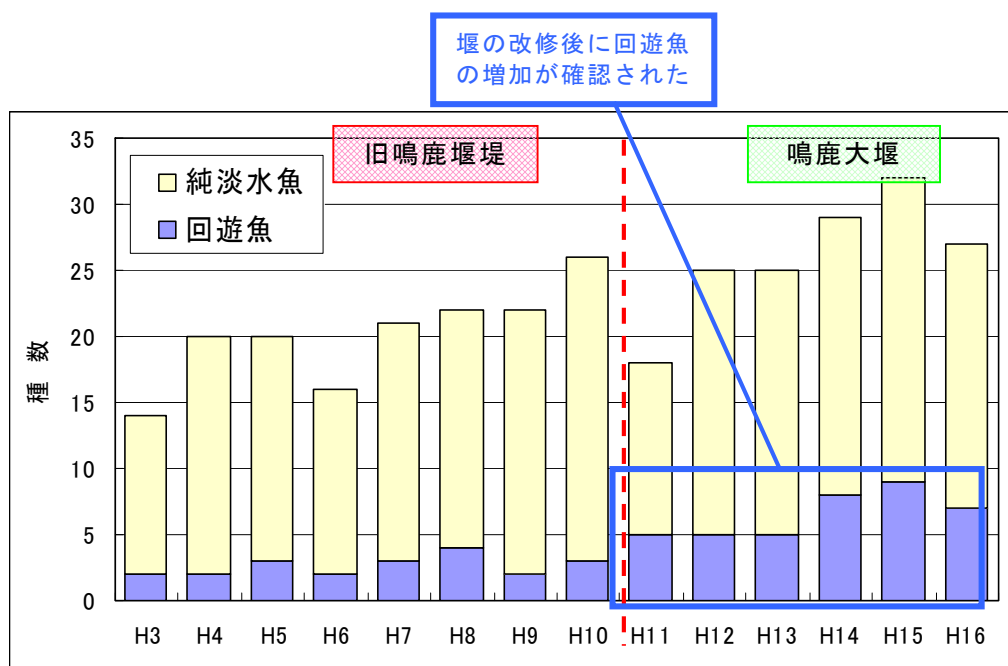


図 6.3-3 本川上流において確認した魚類の確認状況

表 6.3-2 本川上流において確認した魚類の確認状況

No.	科和名	種和名	生活型	外来種 (移入種)	浄法寺地点(上流)															
					H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
1	ヤツメウナギ	カワヤツメ	回遊魚																	
2		スナヤツメ	純淡水魚				○			○				○		●	●	●	●	
3	ウナギ	ウナギ	回遊魚																	
4	コイ	カワムツ	純淡水魚				○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	
5		オイカワ	純淡水魚	国内				○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	
6		ハス	純淡水魚	国内																
7		ウグイ	純淡水魚			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●
8		アブラハヤ	純淡水魚					○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●
9		ホンモロコ	純淡水魚	国内																
10		タモロコ	純淡水魚					○		○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●
11		モツゴ	純淡水魚					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●
12		ビロヒガイ	純淡水魚	国内						○		○		○	○					
13		ヒガイ類	純淡水魚	国内					○											
14		カマツカ	純淡水魚					○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●
15		ゼゼラ	純淡水魚	国内																
16		スゴモロコ	純淡水魚	国内				○				○	○							
17		コウライモロコ	純淡水魚	国内																
18		ズナガニゴイ	純淡水魚	国内																
19		ニゴイ	純淡水魚			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20		コイ	純淡水魚					○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21		ナガブナ	純淡水魚																	
22	ゲンゴロウブナ	純淡水魚	国内																	
23	ギンブナ	純淡水魚						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24	フナ類	純淡水魚			○		○	○												
25	ヤリタナゴ	純淡水魚					○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
26	タイリクバラタナゴ	純淡水魚	国外								○	○	○	○						
27	カネヒラ	純淡水魚	国内																	
28	イチモンジタナゴ	純淡水魚	国内					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
29	アカヒレタビラ	純淡水魚																		
30	ドジョウ	純淡水魚						○												
31	スジシマドジョウ	純淡水魚					○	○												
32	シマドジョウ	純淡水魚					○			○										
33	アジメドジョウ	純淡水魚								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
34	ギギ	純淡水魚	国内																	
35	ナマズ	純淡水魚						○												
36	アカザ	純淡水魚					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
37	アユ	回遊魚			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
38	サケ	純淡水魚																		
39	イワナ	純淡水魚	国外				○													
40	ニジマス	純淡水魚																		
41	サクラマス	回遊魚																		
42	ヤマメ	純淡水魚					○													
43	サツキマス	回遊魚	国内																	
44	アマゴ	純淡水魚	国内																	
45	サケ	回遊魚																		
46	メダカ	純淡水魚																		
47	メダカ	純淡水魚																		
48	カジカ	アラレガコ(カマキリ)	回遊魚																	
49		カジカ(大卵型)	純淡水魚					○												
50		カジカ(ワツセカジカの可能性も)																		
51		ウツセミカジカ	回遊魚																	
52	スズキ	スズキ	汽水・海水魚																	
53	サンフィッシュ	オオクチバス	純淡水魚	国外																
54		ブルーギル	純淡水魚	国外																
55	ボラ	ボラ	汽水・海水魚																	
56		メナダ	汽水・海水魚																	
57	ハゼ	ドンコ	純淡水魚					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
58		ゴクラクハゼ	回遊魚																	
59		シマヨシノボリ	回遊魚						○		○									
60		オオヨシノボリ	回遊魚						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
61		ルリヨシノボリ	回遊魚																	
62		トウヨシノボリ	回遊魚	国内																
63		ヨシノボリ類	回遊魚					○	○	○	○									
64		スマチチブ	回遊魚																	
65		チチブ(スマチチブの可能性も)																		
66		ウキゴリ	回遊魚																	
67		シマウキゴリ	回遊魚																	
68		スマウキゴリ	回遊魚																	
69		マハゼ	汽水・海水魚																	
70		アシシロハゼ	汽水・海水魚																	
71	カレイ	スマガレイ	汽水・海水魚																	
種数合計					5	8	14	20	20	16	21	22	22	26	18	25	25	29	31	27

a. 外来種の生息状況の変化

本川上流の調査では、特定外来生物として、ブルーギル、オオクチバスの2種を確認している。本川上流における特定外来生物の確認状況を表 6.3-3に示す。

オオクチバス、ブルーギルについては、堰暫定運用後に確認しており(H15)、堰の改修で水深が増大し、緩流域を好む外来種が生息するようになった可能性も考えられるが、本川下流においては堰の改修以前から確認しており、人による持ち込みの可能性も否定できないため、どちらの影響かは不明である。

表 6.3-3 本川上流において確認した魚類の特定外来生物の確認状況

種名	調査名	旧鳴鹿堰堤									鳴鹿大堰						
		H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
オオクチバス	魚類調査(捕獲)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×
ブルーギル	魚類調査(捕獲)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			

※1 空欄は、調査を実施していない年度を表す。



(オオクチバス)



(ブルーギル)

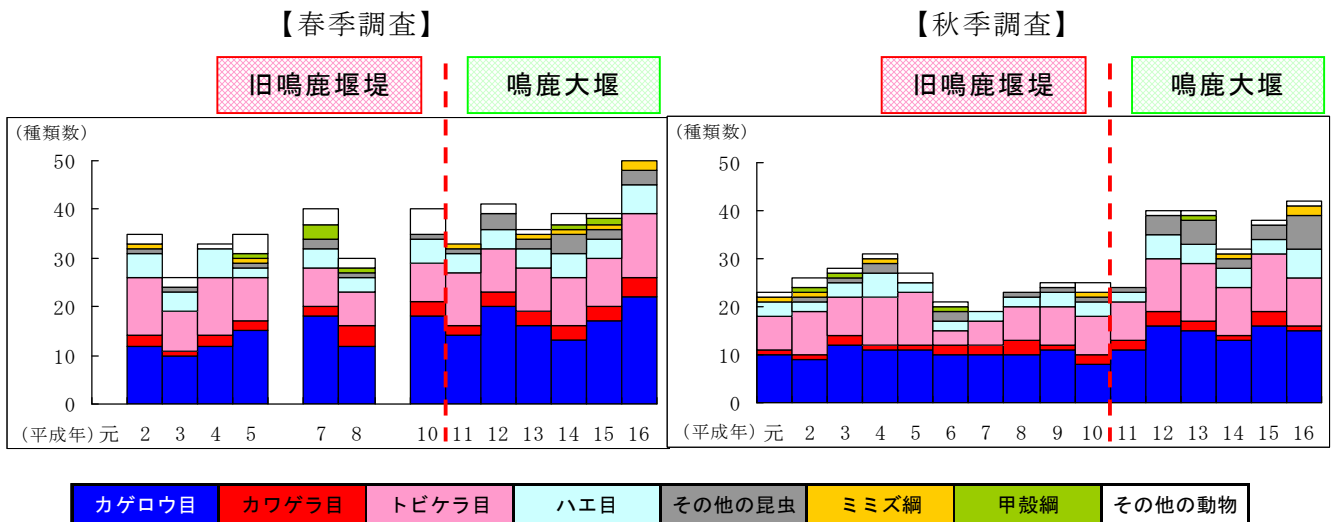
図 6.3-4 鳴鹿大堰本川上流で確認した魚類の外来種

2) 底生動物

a. 本川上流の主要構成種の変化

本川上流における調査により確認した底生動物の分類群別種類数の経年変化を図 6.3-5 に示す。

調査結果を、平成元年(1989年)度～平成10年(1998年)度までの堰暫定運用前の調査、平成11年(1999年)度以降の堰暫定運用後の調査に区分すると、底生動物の確認種数については、堰暫定運用前より運用後が大きな値を示した。なお、組成については、堰暫定運用前後の調査ともに、カゲロウ目、トビケラ目が中心となっており、大きな変化はみられない。

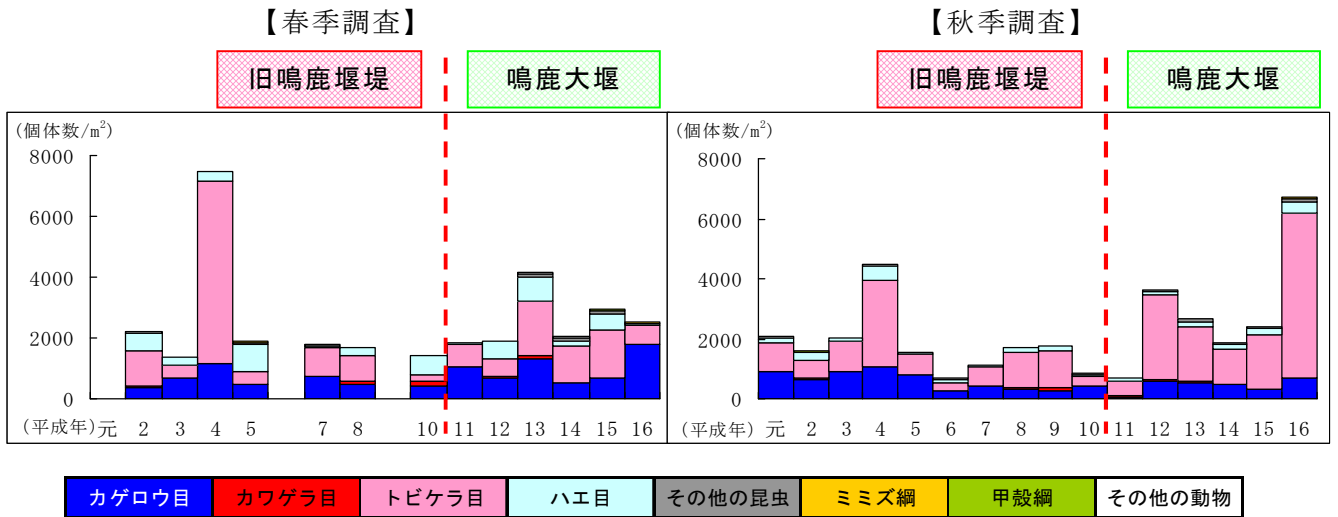


注) 1. 平成元～2年度、平成11～16年度は浄法寺、平成3～10年度は下浄法寺
2. 瀬における定量調査結果

図 6.3-5 本川上流において確認した底生動物の分類群別種類数の経年変化
(左：春季調査、右：秋季調査)

また、分類群別個体数の経年変化を図 6.3-6に示す。

平成4年度の春季調査、平成16年度の秋季調査において確認個体数が多かったが、概ね同程度で推移している。また、組成についても、トビケラ目、カゲロウ目が中心となっており、大きな変化はみられない。



注) 1. 平成元～2年度、平成11～16年度は浄法寺、平成3～10年度は下浄法寺
 2. 瀬における定量調査結果

図 6.3-6 本川上流において確認した底生動物の分類群別個体数の経年変化
 (左：春季調査、右：秋季調査)

以上より、鳴鹿大堰暫定運用後に、本川上流における底生動物の主要構成種には変化がみられていないと考えられる。今後は、変化が起きないかどうか定期的に確認していく必要がある。

b. 生活型・摂食機能群別の底生動物

本川上流における底生動物を既往知見に従って表 6.3-4に示す生活型、摂食機能群ごとに分類し、底生動物の形態や生活の仕方(生活型)及び餌の種類や採餌方法(摂食機能群)に着目した整理を行った。

表 6.3-4(1) 底生動物の生活型

生活型	概 要
造網型	分泌絹糸を用いて捕獲網を作るもの
固着型	強い吸着器官または鈎着器官をもって他物に固着するもの
匍匐型	匍匐するもの
携巢型	筒巢をもつ多くのトビケラ目の幼虫
遊泳型	移動の際は主として遊泳するもの
掘潜型	砂または泥の中に潜っていることが多いもの
水表型	水表上で生活するもの
寄生型	主に寄生生活をするもの

表 6.3-4(2) 底生動物の摂食機能群

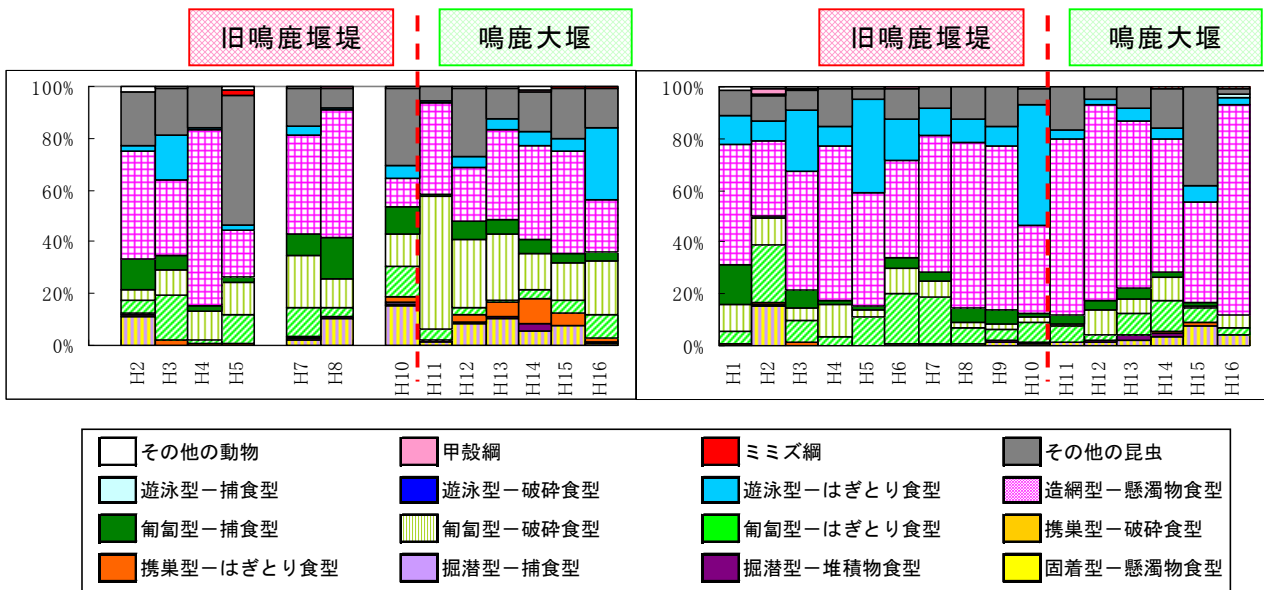
摂食機能群	概 要
破砕食者	落葉等を細かくかみ砕いて摂食するもの
濾過食者	網を張ったり、口器や前肢に生える長毛により有機物を集めて摂食するもの
堆積物収集者	堆積物を集めて摂食するもの
剥ぎ取り食者	基質上の藻類等を剥ぎ取る様に摂食するもの
捕食者	動物(死体も含む)を捕食するもの
寄生者	宿主に寄生、または自由生活しつつ宿主の血液や体液を吸うもの

春季では、経年的に造網型－懸濁物食者や匍匐型－破砕食者が多く見られ、平成16(2004)年には遊泳型－剥ぎ取り食者の割合も高くなる傾向があった。

また、秋季においても、造網型－懸濁物食者や匍匐型－破砕食者が多く見られる傾向があった。

【春季調査】

【秋季調査】



注) 1. 平成元～2年度、平成11～16年度は浄法寺、平成3～10年度は下浄法寺
 2. 瀬における定量調査結果

図 6.3-7 本川上流において確認した底生動物の生活型・摂食機能群別個体数組成比

(3) 堰による影響の検証

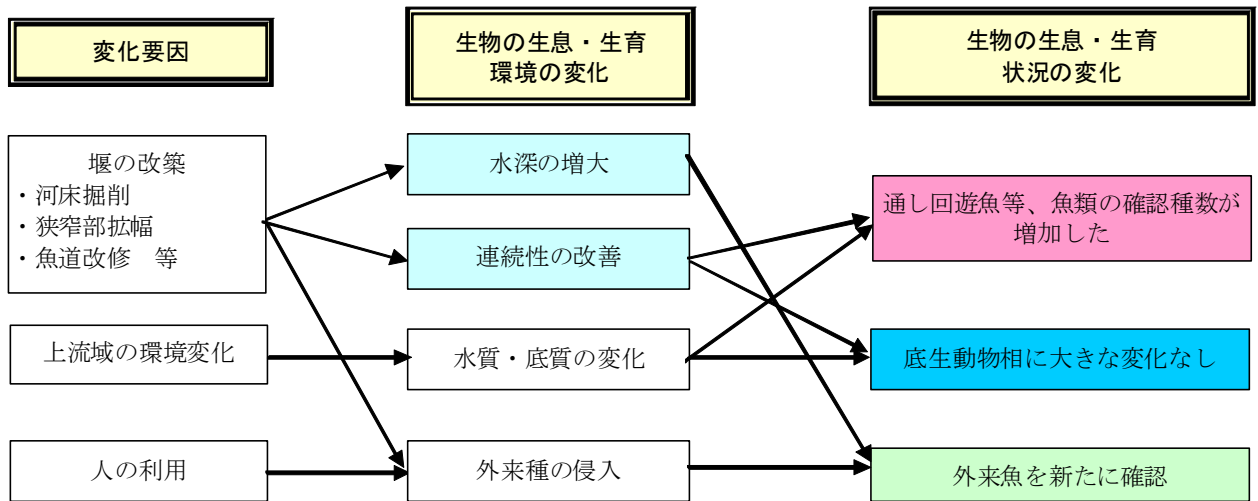
本川上流における生物の変化に対する堰による影響の検証結果を表 6.3-5、図 6.3-8に示す。

表 6.3-5 本川上流の生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		生物の変化の状況	堰の存在・供用に伴う影響	堰の存在・供用以外の影響	検証結果	
生息状況の変化	魚類相	湛水前と大きな変化はみられないが、サケなどの回遊魚が継続して確認されるようになった。	水深の増大 連続性の改善	—	サケなどの回遊魚が継続して確認されるようになっており、魚道改修の効果である可能性がある。	●
	外来種(魚類)	本川上流において、外来魚であるオオクチバス、ブルーギルを堰暫定運用後に確認している。	水深の増大 連続性の改善	釣り人による放流	大堰改築による湛水域の水深の増大の影響の可能性が考えられるが、移動や人による持ち込みの可能性もあり、どちらの影響か不明である。	?
	底生動物相	主要構成種に変化はみられない。	—	水質・底質の変化	水質の変化等もみられておらず、底生動物相についても影響は無いと考えられる。	—

注) 検証結果

- : 生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用によると考えられる場合
- : 生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用以外によると考えられる場合
- △ : 生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- : 生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ? : 生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合



凡例：環境の変化	生物の生息・生育状況の変化
堰の影響による変化	⇒ : 堰の改築による変化が見られるもの
堰以外の影響による変化	⇒ : 堰の改築による変化が見られないもの
不明・データ無し	⇒ : 堰以外の影響により変化が見られるもの
	⇒ : どちらか不明であるもの*

※ 堰の改築による変化、堰の改築以外による変化ともに可能性が高いものを“どちらか不明”とした。

図 6.3-8 本川上流の生物の変化に対する影響の検証結果

6.3.2 湛水域内における変化の検証

堰の存在・供用により、湛水域内において環境条件の変化が起こり、湛水域内を利用する様々な生物の生息・生育状況に変化を引き起こすと想定されている。

そのためここでは、湛水域内における環境条件の変化、及びそれにより引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.3-9のように想定し、鳴鹿大堰の存在・供用により湛水域内の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1) 環境条件の変化の把握

- ・鳴鹿大堰湛水域の水質・底質
- ・湛水域の人による利用状況

(2) 生物の生息・生育状況の変化の把握

- ・魚類の生息状況(止水域～緩流域を好む魚類、外来種)の変化
- ・底生動物の生息状況(主要構成種)の変化
- ・付着藻類の生育状況(主要構成種)の変化
- ・湛水域を利用する鳥類の生息状況の変化

(3) 堰による影響の検証

鳴鹿大堰湛水域内における生物の生息・生育状況の変化について、環境条件の変化や堰以外の要因等と照らし合わせて検討し、堰による影響を検証した。

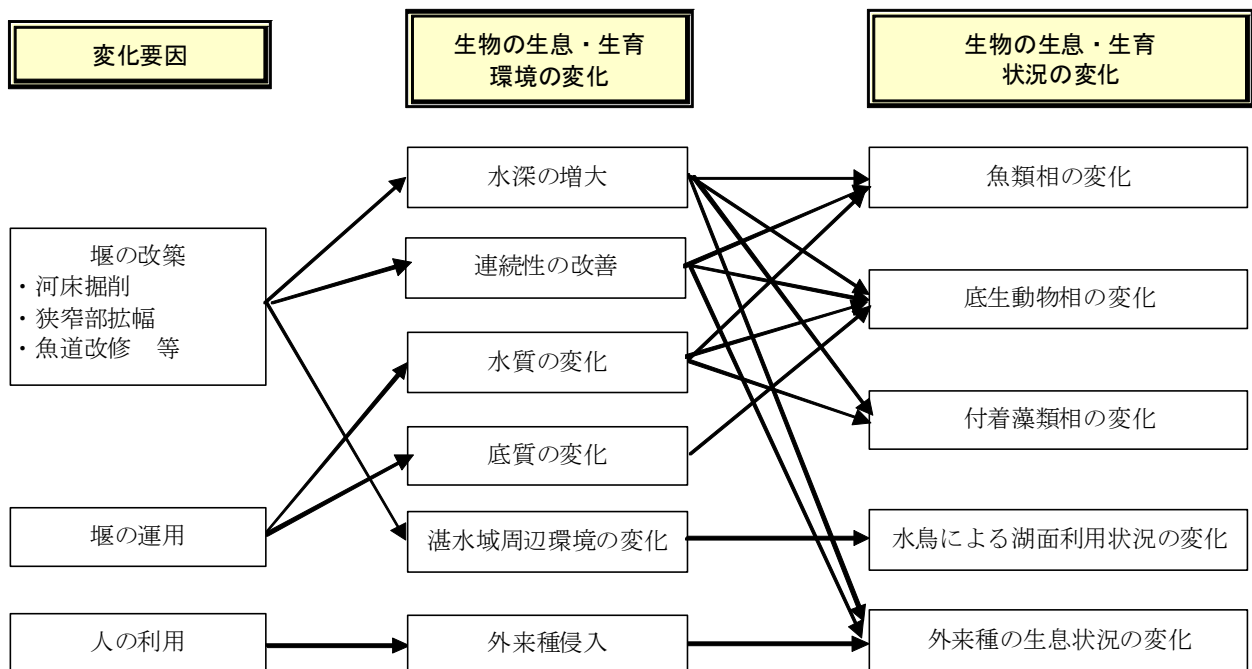


図 6.3-9 鳴鹿大堰湛水域内で想定される変化要因とそれに伴う生物の生息・生育状況の変化

(1)環境条件の変化の把握

環境条件の変化については、「1. 事業の概要」、「5. 水質」、「7. 堰と周辺地域との関わり」に示す。

(2) 生物の生息・生育状況の変化の把握

1) 魚類

湛水域内において確認した魚類の確認状況を表 6.3-2に示す。

調査結果を、平成元年(1989年)度～平成10年(1998年)度までの堰暫定運用前の調査、平成11年(1999年)度以降の堰暫定運用後の調査に区分すると、湛水域内における魚類の確認種数は、堰暫定運用前が24種、堰暫定運用後が31種であった。

表 6.3-6 湛水域内において確認した魚類の確認状況

No.	科	種	生活型	移入種	湛水域調査での確認種		
					H3-10	H13-19	
1	アユ	アユ	回遊魚		●	●	
2	サケ	サクラマス	回遊魚			●	
3		ヤマメ(サクラマス)	純淡水魚			●	
4		サケ	回遊魚			●	
5	コイ	カワムツ(かまづB型)	純淡水魚		●	●	
6		オイカワ	純淡水魚	移入種	●	●	
7		ハス	純淡水魚	移入種	●		
8		ウグイ	回遊魚・純淡水魚		●	●	
9		アブラハヤ	純淡水魚		●	●	
10		ホンモロコ	純淡水魚	移入種	●	●	
11		タモロコ	純淡水魚		●	●	
12		モツゴ	純淡水魚		●	●	
13		ビワヒガイ	純淡水魚	移入種	●	●	
		ヒガイ類	純淡水魚	移入種	▲		
14		カマツカ	純淡水魚		●	●	
15		スゴモロコ	純淡水魚	移入種	●		
16		ニゴイ	純淡水魚		●	●	
17		コイ	純淡水魚		●	●	
18		ナガブナ	純淡水魚		●		
19		ギンブナ	純淡水魚		●	●	
		フナ類	純淡水魚		▲		
20		ヤリタナゴ	純淡水魚		●	●	
21		タイリクバラタナゴ	純淡水魚	移入種		●	
22		イチモンジタナゴ	純淡水魚	移入種	●		
23		ドジョウ	ドジョウ	純淡水魚		●	
24			シマドジョウ	純淡水魚			●
25			アジメドジョウ	純淡水魚			●
26	アカザ	アカザ	純淡水魚		●		
27	ナマズ	ナマズ	純淡水魚		●	●	
28	サンフィッシュ	ブルーギル	純淡水魚	移入種		●	
29		オオクチバス	純淡水魚	移入種		●	
30	ハゼ	ドンコ	純淡水魚		●	●	
31		シマヨシノボリ	回遊魚			●	
32		オオヨシノボリ	回遊魚		●	●	
33		トウヨシノボリ	回遊魚	移入種		●	
34		ヌマチチブ	回遊魚		●	●	
35	ウキゴリ	回遊魚			●		
36	カジカ	アラレガコ(カマキリ)	回遊魚			●	
37		ウツセミカジカ	回遊魚			●	
種数合計					24	31	

注) サクラマスとヤマメは同じ種であるが、便宜的に確認されたときの大きさで区分している。

注) ●：確認種

▲：～～類など分類が曖昧な種。種数の合計には含まない。

a. 回遊魚の生息状況の変化

湛水域内における調査により確認した魚類の確認状況を図 6.3-10に示す。
堰暫定運用後、サケ、カマキリ(アラレガコ)などの回遊魚の確認種数が増加した。

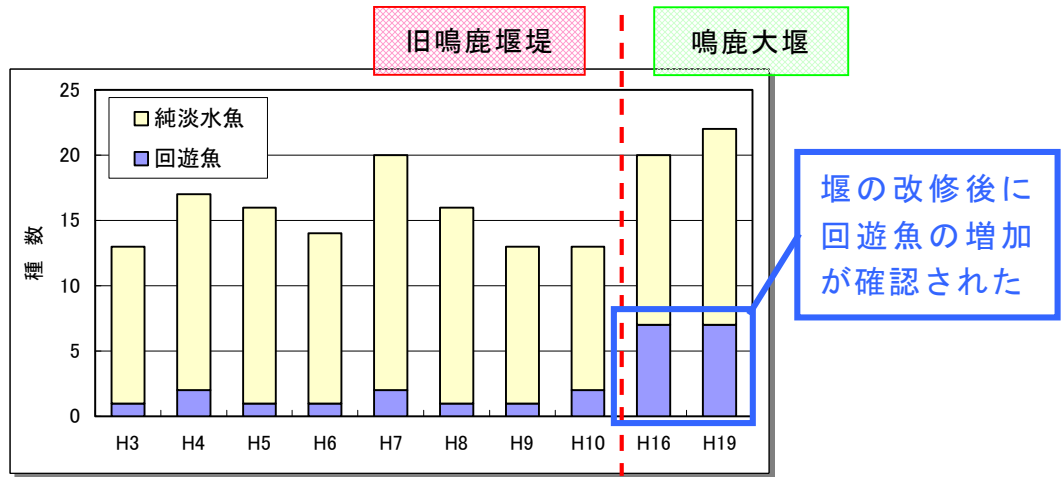


図 6.3-10 湛水域内における調査により確認した魚類の確認状況

b. 止水域～緩流域を好む魚類の生息状況の変化

湛水域内の調査では、タイリクバラタナゴ、ギンブナ等の止水域性の魚類を確認している。現地調査において確認した魚種のうち、止水性魚類の確認状況を表 6.3-7に示す。
堰暫定運用前後で比較すると、堰暫定運用前に確認していたスゴモロコは堰暫定運用後には確認していない。また、堰暫定運用後の調査において、止水性魚類のタイリクバラタナゴ、オオクチバスを新たに確認した。

表 6.3-7 湛水域内において確認した止水性魚類の確認状況

No.	科	種	湛水域調査での確認種	
			H3-10	H13-19
1	コイ	ホンモロコ	●	●
2		モツゴ	●	●
3		スゴモロコ	●	
4		ギンブナ	●	●
		フナ類	▲	
5		タイリクバラタナゴ		●
6	サンフィッシュ	ブルーギル		●
7		オオクチバス		●
種数合計			4	6
			7	

注) ● : 確認種

▲ : ～～類など分類が曖昧な種。種数の合計には含めない。

c. 外来種の生息状況の変化

湛水域内の調査では、特定外来生物として、オオクチバス、ブルーギルの2種を確認している。湛水域内における外来種の確認状況を表 6.3-3に示す。2種とも堰暫定運用後に初めて確認しており、堰の改修で湛水域の水深が増大し、緩流域を好む外来種が生息するようになった可能性も考えられるが、本川下流においては堰の改修以前から確認しており、人による持ち込みの可能性も否定できないため、どちらの影響かは不明である。

表 6.3-8 湛水域内において確認した魚類の外来種の確認状況

		旧鳴鹿堰堤								鳴鹿大堰								
種名	調査名	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
オオクチバス	魚類調査(捕獲)	×	×	×	×	×	×	×	×						×			○
	魚類調査(目視)											×	×	○	×			
ブルーギル	魚類調査(捕獲)	×	×	×	×	×	×	×	×						×			○
	魚類調査(目視)											×	×	×	×			

※1 空欄は、調査を実施していない年度を表す。

※2 目視調査は、湛水域内の潜水により確認した結果である。

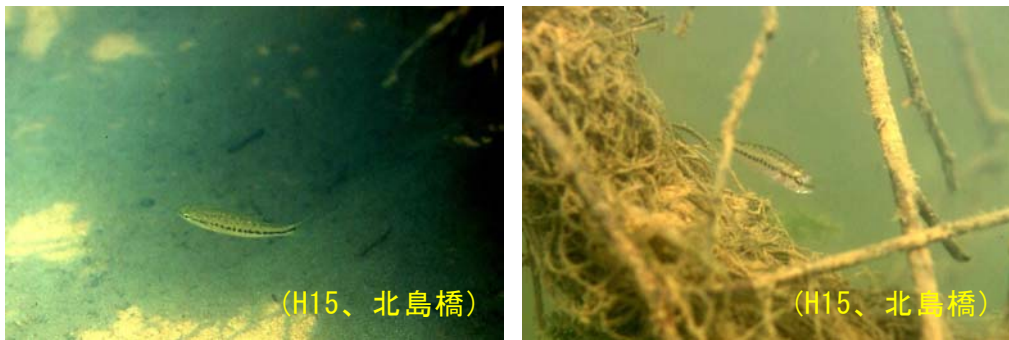


図 6.3-11 鳴鹿大堰湛水域で確認したオオクチバス

2) 底生動物

湛水域内における調査により確認した底生動物の分類群別種類数の経年変化を図6.3-12に示す。

分類群別の確認種類数をみると、カゲロウ目、ハエ目、トビケラ目を多く確認している。調査結果を、平成元年(1989年)度～平成10年(1998年)度までの堰暫定運用前の調査、平成11年(1999年)度以降の堰暫定運用後の調査に区分すると、堰暫定運用前後で種類数に大きな変化はないと考えられるが、その組成をみると、堰暫定運用前に多く確認していたカゲロウ目やトビケラ目の種類数が堰暫定運用後には少なくなり、ハエ目等の種類数を多く確認している。これは堰の改修により湛水域の水深が増大したことで、流水域を好む種が減少し、緩流域を好む種が増加したためと考えられる。

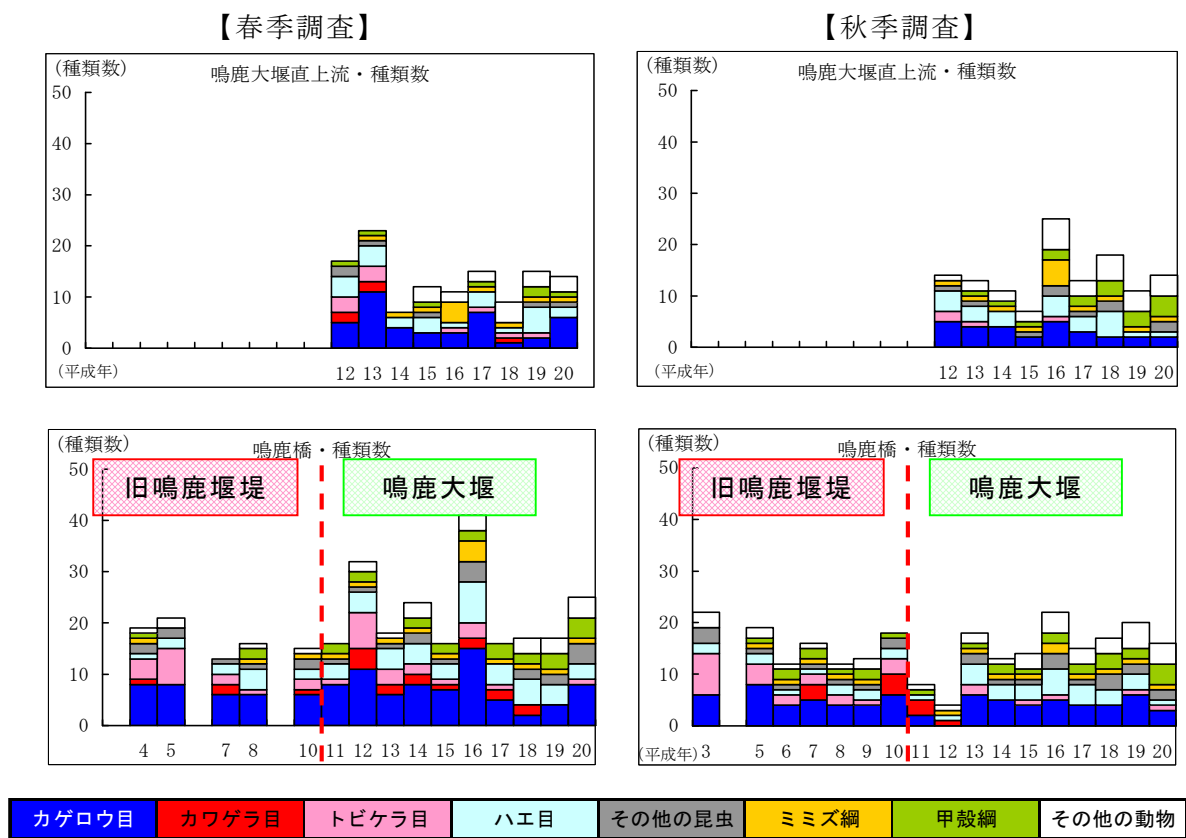


図 6.3-12 湛水域内において確認した底生動物の分類群別種類数の経年変化
(左：春季調査、右：秋季調査)

a. 湛水域内の主要構成種の変化

現地調査において確認した底生動物について、分類群別個体数の経年変化を図 6.3-13 に示す。

堰暫定運用前と堰暫定運用後を比較すると、平成16年(2004年)度の春季調査において、ミミズ綱の種を多く確認した他、その後の調査においてもミミズ綱の確認種数の割合が多くなっており、全体的にみると、堰暫定運用後は個体数の変動が大きく、また、個体数の組成が暫定運用前とは異なっている。こちらも、堰の改修により湛水域の水深が増大したことで、流水域を好む種が減少し、緩流域を好む種が増加したためと考えられる。

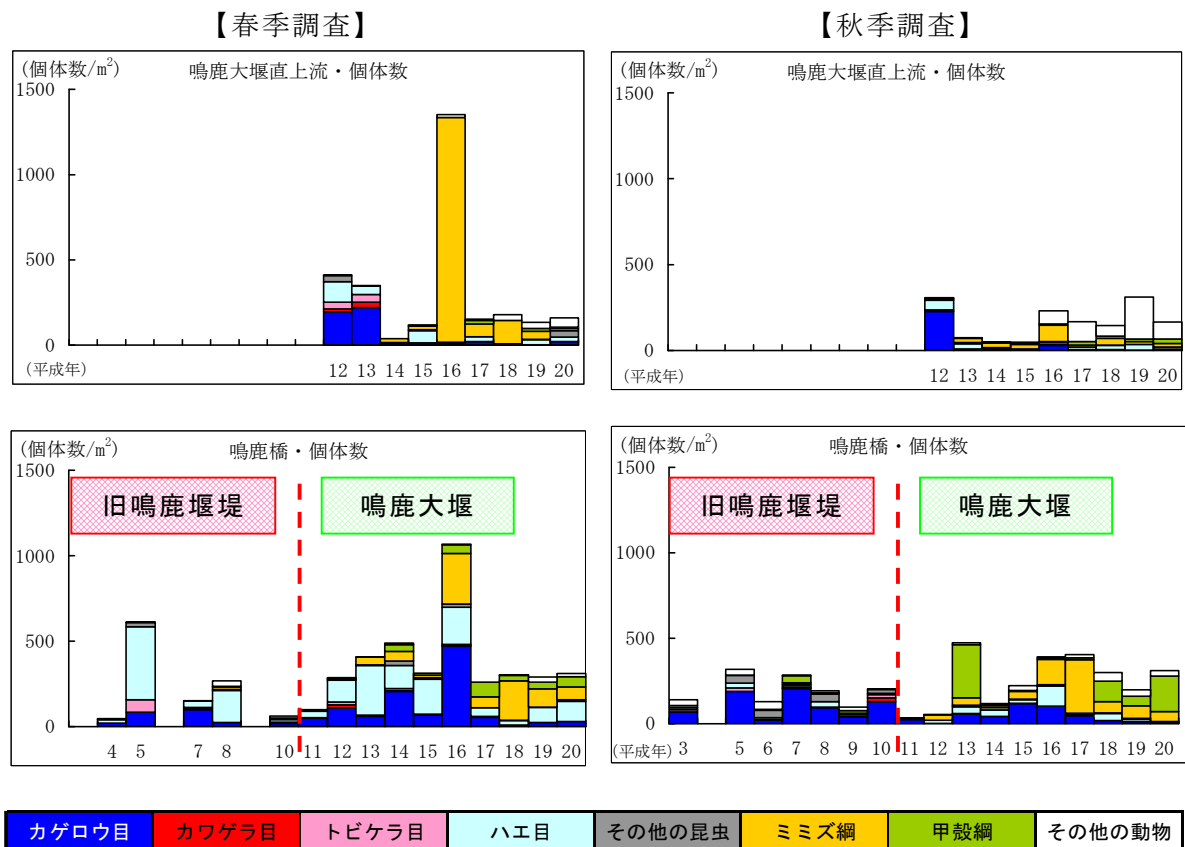


図 6.3-13 湛水域内において確認した底生動物の分類群別個体数の経年変化
(左：春季調査、右：秋季調査)

以上より、底生動物相は、堰の改築後に、流水域を好むカゲロウ科等が減少して緩流域を好むユスリカ科等が増加しており、改築による湛水域の水深の増大の影響と考えられる。

3)付着藻類

湛水域内における調査により確認した付着藻類の分類群別種類数の経年変化を図6.3-14に示す。

分類群別の確認種類数をみると珪藻綱を多く確認している。

調査結果を、平成元年(1989年)度～平成10年(1998年)度までの堰暫定運用前の調査、平成11年(1999年)度以降の堰暫定運用後の調査に区分すると、堰暫定運用後に緑藻類の種類数がやや増加する傾向を確認した。

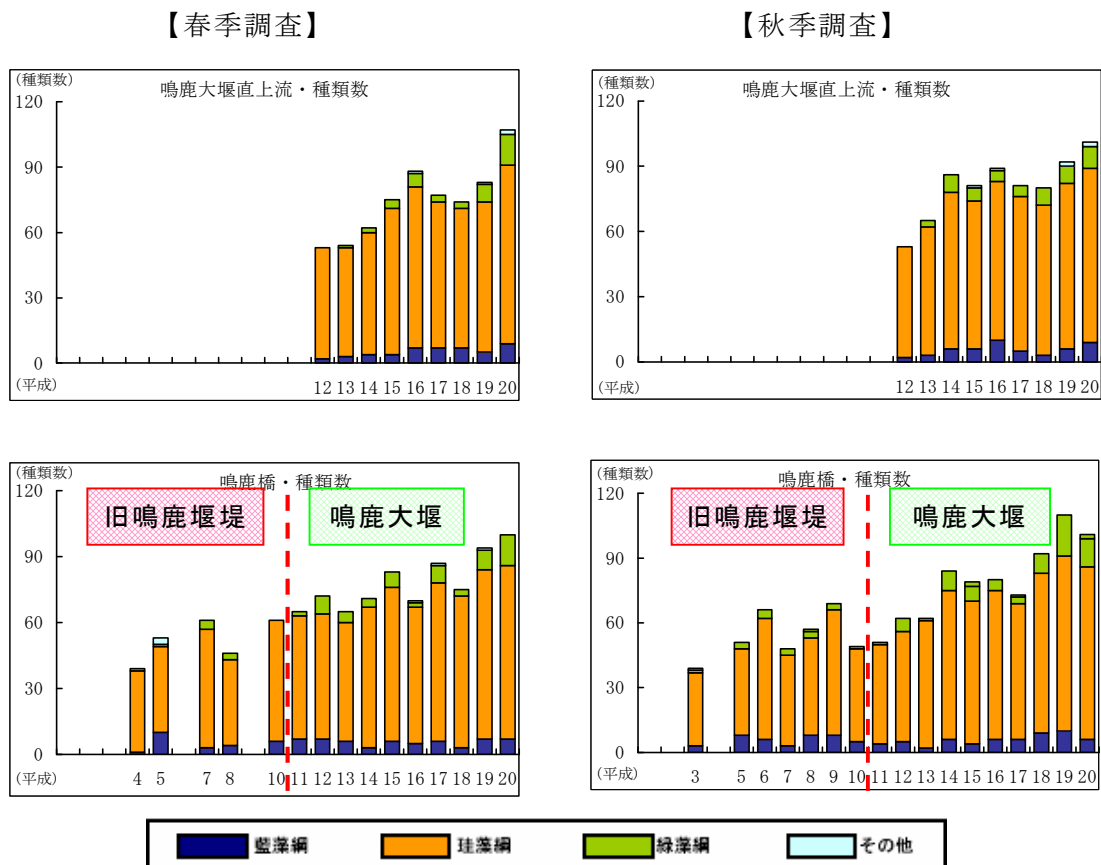


図 6.3-14 湛水域内において確認した付着藻類の分類群別種類数の経年変化
(左：春季調査、右：秋季調査)

次に、現地調査において確認した付着藻類について、分類群別細胞数の経年変化を図6.3-15に示す。

堰暫定運用前と堰暫定運用後を比較すると、調査年度により多少のばらつきはみられるものの、珪藻綱、藍藻綱、緑藻綱ともに、その細胞数は堰の暫定運用前後において変化はみられない。

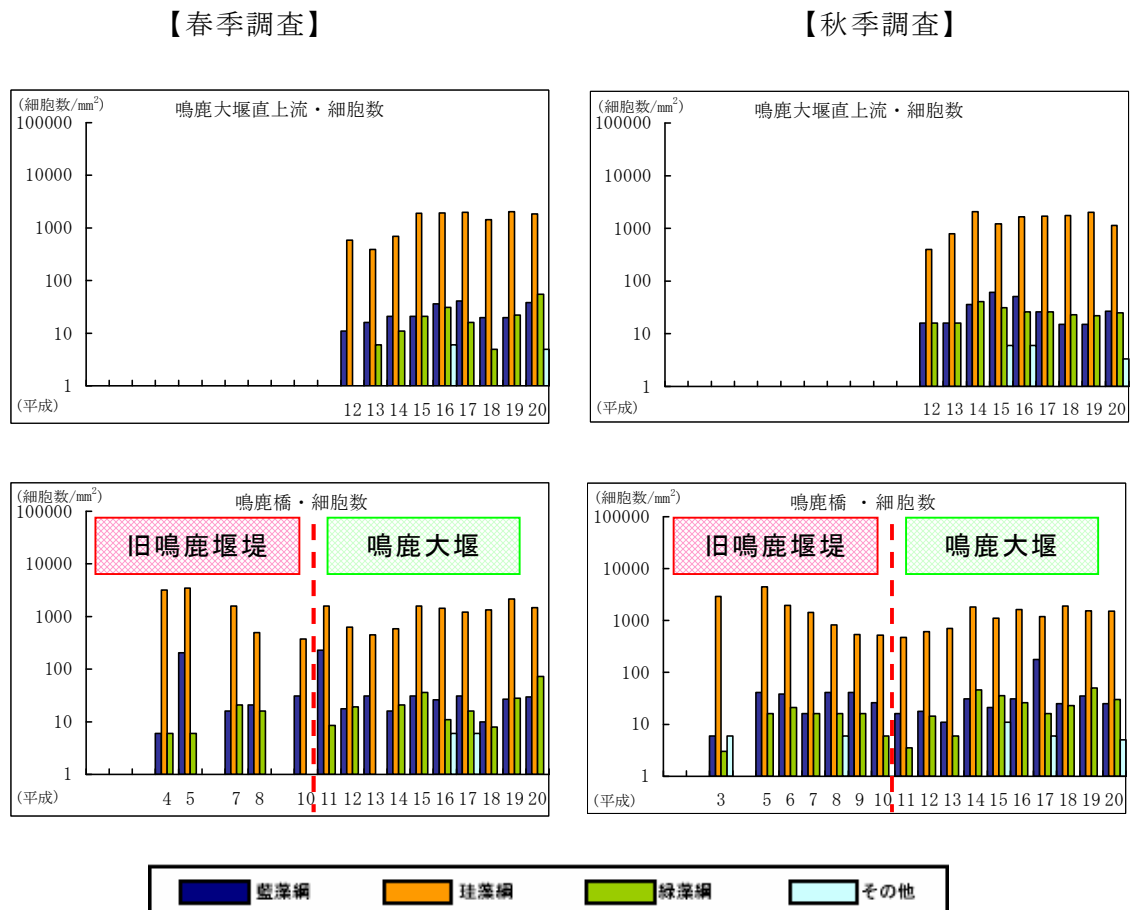


図 6.3-15 湛水域内において確認した付着藻類の分類群別細胞数の経年変化
(左：春季調査、右：秋季調査)

以上より、鳴鹿大堰暫定運用後に、緩流域を好む緑藻類が増加しており、改築による湛水域の水深の増大の影響と考えられる。

4) 鳥類

a. 湛水域を利用する水鳥

堰によって形成されている湛水域をどのような鳥類が利用しているかを把握するため、湛水域の水面を利用すると考えられるカイツブリ、カワウ、カモ類についての確認状況を整理した。

堰の上下流を対象に調査を実施した平成5年(1993年)度～平成16年(2004年)度の調査(九九福4)において越冬期に水面で確認されたカイツブリ類、カワウ、カモ類の個体数をとりまとめた。その結果、これらの水鳥は増加する傾向にあり、平成16年(2004年)度には、カワウや水面で採餌するマガモ、カルガモなどのカモ類を多数確認した(図6.3-16)。

平成5年(1993年)、平成11年(1999年)の調査時には堰の改築工事の影響により確認数が少なかったものが、管理開始の平成16年(2004年)に戻ってきた可能性が考えられる。

なお、平成16年(2004年)度に多数確認されたカワウは、全国の河川水辺の国勢調査の結果でも増加傾向にあり、戦後の狩猟禁止などによるカワウの個体数の増加が指摘されていることから、この全国的な確認数増加の影響の可能性も考えられる。

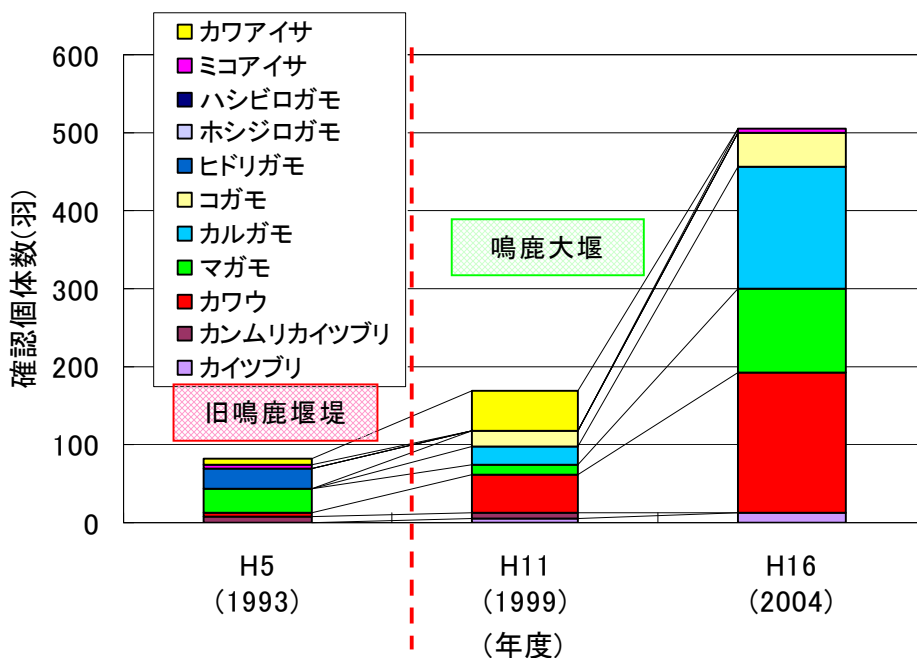
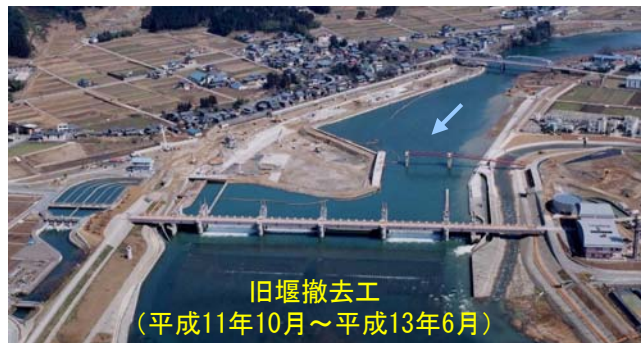


図 6.3-16 湛水域内で確認した水鳥

※平成5年は取水施設の改築、平成11年は旧堰の撤去が行われており、工事の影響で確認数が少ない可能性も考えられる。



(3)堰による影響の検証

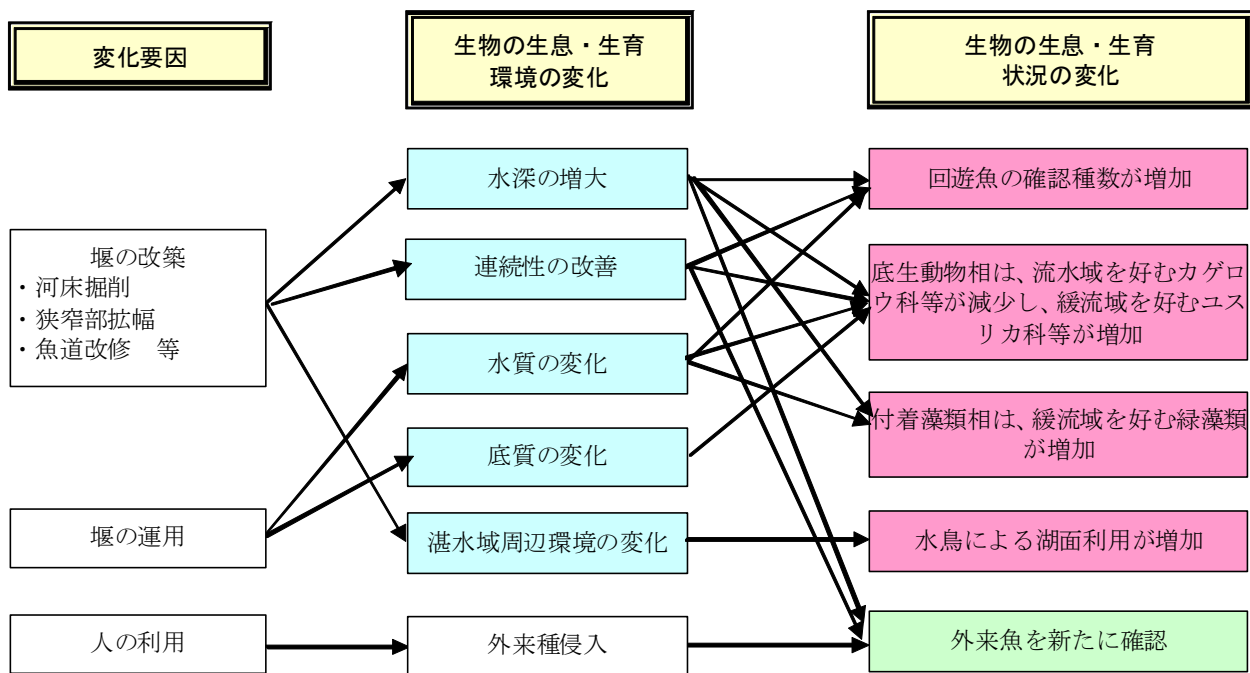
湛水域内の生物の変化に対する影響の検証結果を表 6.3-9、図 6.3-17に示す。

表 6.3-9 湛水域内の生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目	生物の変化の状況	堰の存在・供用に伴う影響	堰の存在・供用以外の影響	検証結果		
生息・生育状況の変化	魚類相	改築前後の魚種組成をみると、カマキリ(アラレガコ)などの回遊魚、オオクチバスなどの外来魚を新たに確認した。また、緩流域を好むギンブナ、モツゴ等の魚類は引き続き多く確認した。	水深の増大 水質の変化 連続性の改善	—	魚種組成からみると、魚道の改修により、新たに回遊魚を確認した。 止水域に生息する魚類については顕著な増加傾向は見られなかった。	●
	国外外来種(魚類)	鳴鹿大堰湛水域において、特定外来生物であるオオクチバスを確認した。	水深の増大 魚道の改修	釣り人の放流	大堰改築による湛水域の水深の増大の影響の可能性が考えられるが、移動や人による持ち込みの可能性もあり、どちらの影響か不明である。	?
	底生動物相	堰暫定運用前に多く確認していたカゲロウ目やトビケラ目の種類数が堰暫定運用後には少なくなり、ハエ目、その他の動物の種類数を多く確認している。	水深の増大 水質の変化 底質の変化	大規模な出水	堰の改修により湛水域の水深が増大したことで、流水域を好む種が減少し、緩流域を好む種が増加した。	●
	付着藻類相	付着藻類相については緩流域を好む緑藻類が増加している。	水深の増大 水質の変化	—	緩流域を好む緑藻類が増加しており、改築による湛水域の水深増大の影響と考えられる。	●
	湛水域を利用する鳥類	カワウや水面で採餌するマガモ、カルガモなどのカモ類を多数確認した。	湛水域周辺環境の変化(工事の影響)	—	平成5年(1993年)、平成11年(1999年)の調査時には堰の改築工事の影響により確認数が少なかったものが、管理開始の平成16年(2004年)に戻ってきた可能性が考えられる。	●

注) 検証結果

- : 生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用によると考えられる場合
- : 生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用以外によると考えられる場合
- △ : 生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- : 生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ? : 生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合



凡例：環境の変化	生物の生息・生育状況の変化
堰の影響による変化	→ 堰の改築による変化が見られるもの
堰以外の影響による変化	→ 堰の改築による変化が見られないもの
不明・データ無し	→ 堰以外の影響により変化が見られるもの
	→ どちらか不明であるもの*

※ 堰の改築による変化、堰の改築以外による変化ともに可能性が高いものを“どちらか不明”とした。

図 6.3-17 湛水域内の生物の変化に対する影響の検証結果

6.3.3 湛水域(陸域)における変化の検証

鳴鹿大堰の存在・供用により、湛水域周辺の陸域において環境条件の変化が起こり、湛水域周辺を利用する様々な生物の生息・生育状況の変化を引き起こすと想定されている。

そのためここでは、鳴鹿大堰湛水域周辺における環境条件の変化、及びそれにより引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.3-18のように想定し、鳴鹿大堰の存在・供用により湛水域周辺の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1) 環境条件の変化の把握

- ・堰、湛水域等の人工構造物の出現
- ・湛水域周辺における人の利用

(2) 生物の生息・生育状況の変化の把握

- ・植物の生育状況(植生)の変化
- ・鳥類の生息状況の変化
- ・両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況の変化
- ・陸上昆虫類の生息状況の変化

(3) 堰による影響の検証

鳴鹿大堰湛水域周辺における生物の生息・生育状況の変化について、環境条件の変化や堰以外の要因等と照らし合わせて検討し、堰による影響を検証した。

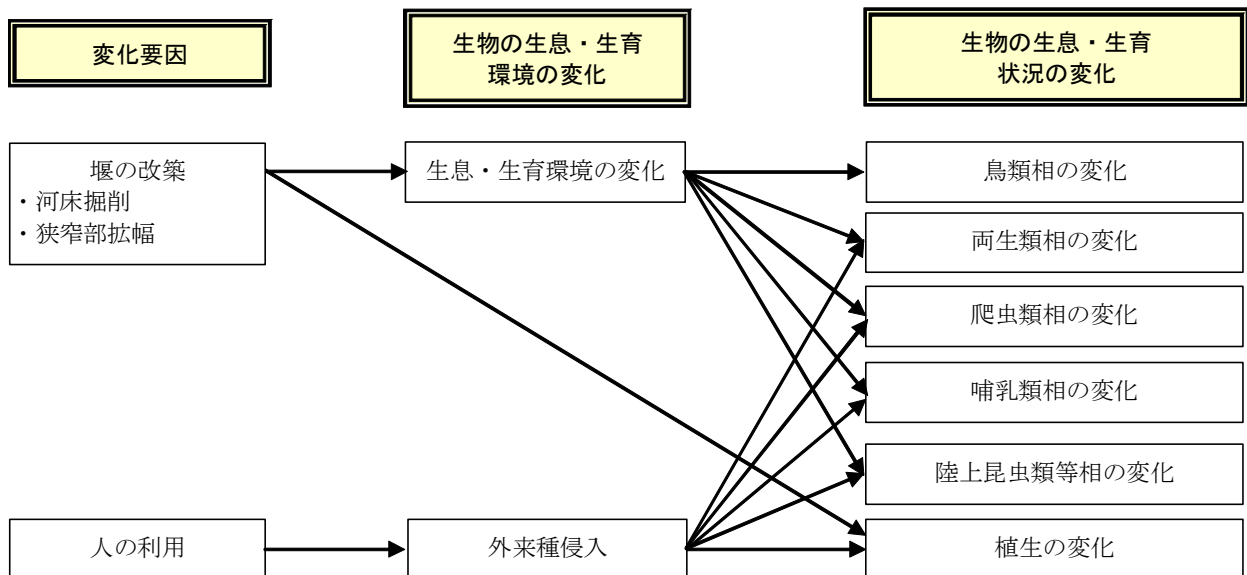


図 6.3-18 湛水域(陸域)で想定される変化要因とそれに伴う生物の生息・生育状況の変化

(1)生物の生息・生育状況の変化の把握

1)植物

a. 植生

堰の改築により、人の利用等も増加すると考えられることから、湛水域周辺の植生が変化する可能性がある。そこで、湛水域周辺における主な植生面積の調査結果を整理した。

平成6年(1994年)度、平成12年(2000年)度、平成17年(2005年)度の調査結果について、植生図の群落区分を基に抽水植物、一年生草本、多年生草本、ヤナギ林、その他木本、自然裸地、土地利用および開放水面の8区分に分け、1kmピッチごとに植生面積を集計し植生縦断分布図を作成した。

湛水域周辺においては、人工構造物や人工草地等が大半を占めており、経年的に大きな変化はみられていない。

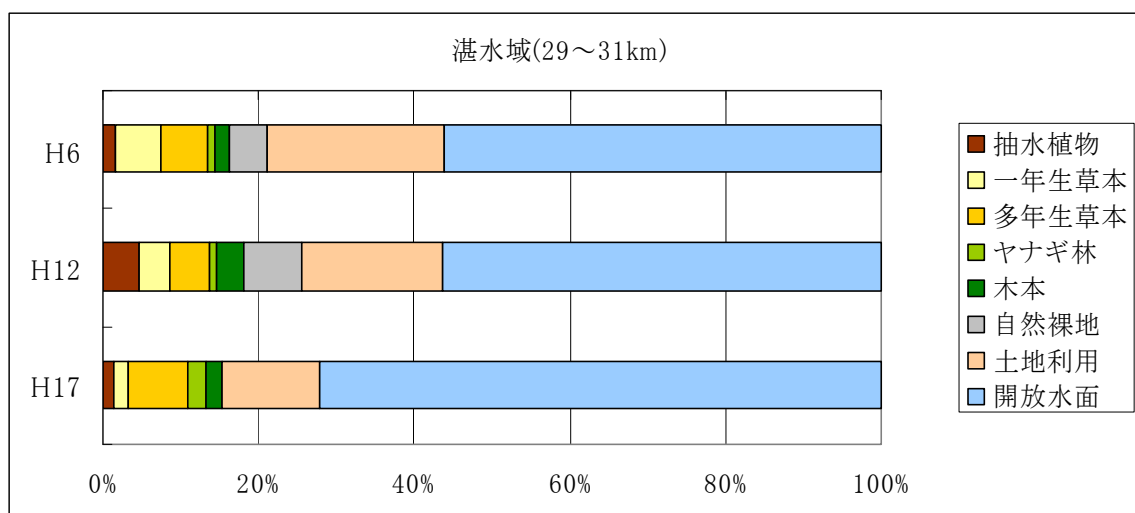


図 6.3-19 堰湛水域周辺における植生面積の調査結果

※湛水域周辺(29~31km)の植生について集計を行った。

※「土地利用」は人工構造物、人工草地、田、畑等を示す。

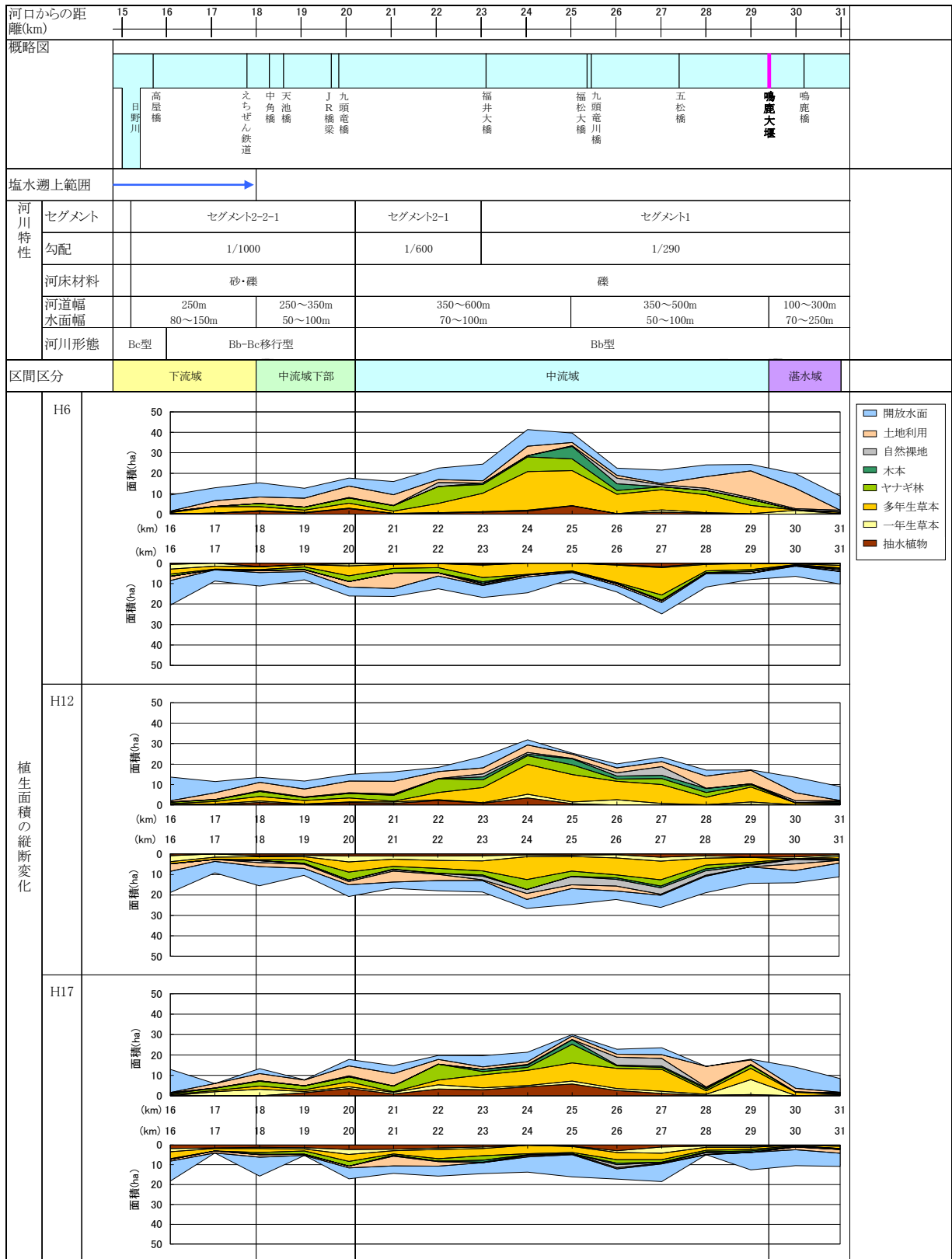


図 6.3-20 鳴鹿大堰周辺における植生面積の調査結果

2)鳥類

a. 湛水域周辺の鳥の確認数および割合の変化

湛水域周辺をどのような鳥類が利用しているかどうかを把握するため、湛水域沿いの河川敷において確認した鳥類の状況を整理した。

平成5年(1993年)度～平成16年(2004年)度の調査における、湛水域沿い(九九福4)のラインセンサス法による確認個体数を取りまとめた。その結果、水辺に生息するアオサギ、セグロセキレイ、人家周辺に生息するスズメ、開けた草地などを好むヒバリなどを多数確認した(図6.3-16)。

なお、平成16年(2004年)にカワウが増加している傾向がみられるが、その他についてはほぼ同様な傾向であると考えられる。

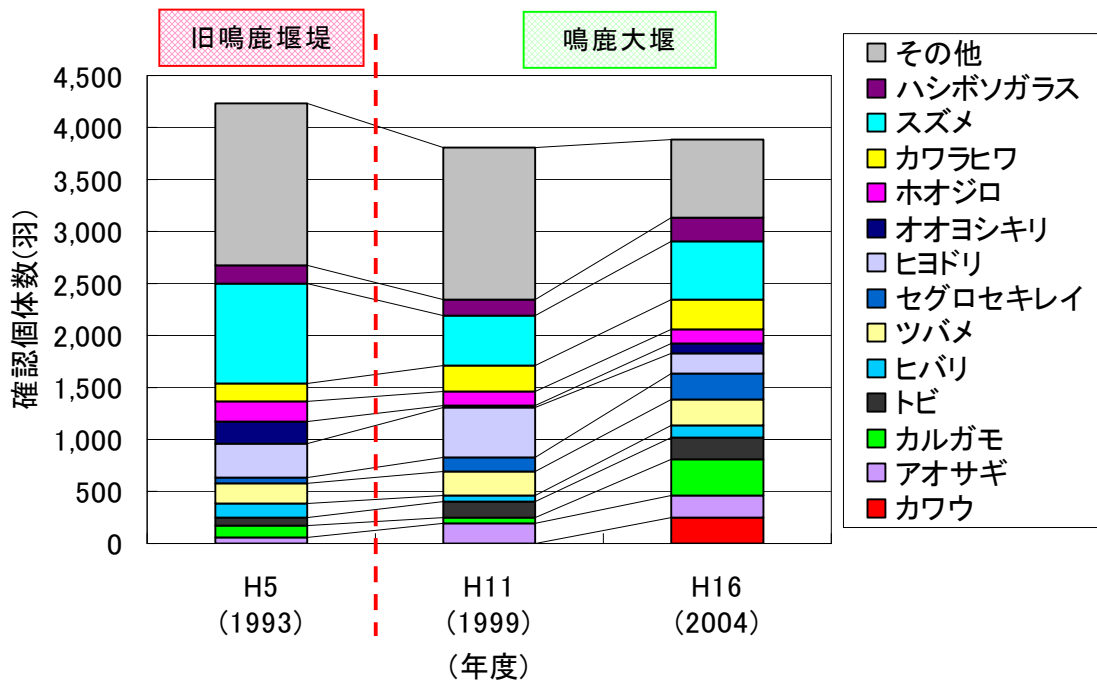


図 6.3-21 湛水域周辺で確認した鳥類

3)両生類・爬虫類・哺乳類

a. 湛水域周辺の両生類・爬虫類・哺乳類の確認状況の変化

湛水域周辺の両生類・爬虫類・哺乳類の確認状況について、堰の改築前後を比較すると、哺乳類でやや確認種数が増加したが、概ね、堰の改築の前後で同等の結果が得られていることから、両生類・爬虫類・哺乳類相の大きな変化はみられない(表 6.3-10)。

表 6.3-10(1) 湛水域周辺における確認状況の変化(両生類)

	科和名	種和名	九頭竜川橋～ 鳴鹿橋上流	
			H2・3	H16
1	イモリ科	イモリ	○	
2	アマガエル科	アマガエル	○	○
3	アカガエル科	トノサマガエル	○	○
4		ヌマガエル	○	
5		ツチガエル		○
6	アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	○	
7		カジカガエル		○
合計	5	7	5	4
			7	

表 6.3-10(2) 湛水域周辺における確認状況の変化(爬虫類)

	科和名	種和名	九頭竜川橋～ 鳴鹿橋上流	
			H2・3	H16
1	カメ科	イシガメ	○	○
2	トカゲ科	トカゲ	○	
3	カナヘビ科	カナヘビ	○	○
4	ヘビ科	シマヘビ	○	○
5		アオダイショウ	○	○
6		ヤマカガシ	○	○
7	クサリヘビ科	マムシ	○	
合計	5	7	7	5
			7	

表 6.3-10(3) 湛水域周辺における確認状況の変化(哺乳類)

	科和名	種和名	九頭竜川橋～ 鳴鹿橋上流	
			H2・3	H16
1	モグラ科	コウベモグラ	○	
2		モグラ科		○
3	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科		○
4	ウサギ科	ノウサギ	○	○
5	ネズミ科	アカネズミ	○	○
6		ヒメネズミ		○
7		カヤネズミ		○
8		ネズミ科	○	○
9	イヌ科	タヌキ		○
10		キツネ		○
11	イタチ科	テン		○
12		イタチ	○	
13		イタチ科		○
14	ジャコウネコ科	ハクビシン		○
合計	7	14	5	12
			14	

※両生類・爬虫類・哺乳類について、湛水域周辺のみで実施した調査結果が無かったため、湛水域周辺を含む“九頭竜川橋～鳴鹿橋上流”の調査結果について整理した。

4)陸上昆虫類等

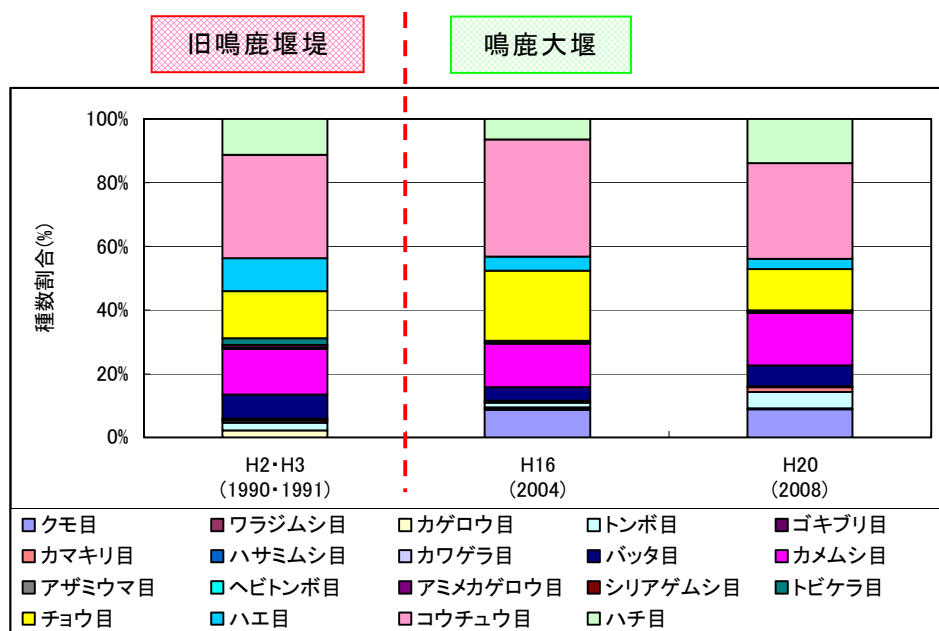
a. 湛水域周辺の陸上昆虫類等の確認状況の変化

湛水域周辺の陸上昆虫類等の確認状況について、堰改築の前後を比較すると、目別の確認種数の割合は同程度であることから、陸上昆虫類相の大きな変化はみられない(表 6.3-11、図 6.3-22)。

表 6.3-11 湛水域周辺における陸上昆虫類等の確認状況の変化

目名	H2・H3 (1990・ 1991)	H16 (2004)	H20 (2008)
クモ目	0	101	31
ワラジムシ目	0	4	0
カゲロウ目	9	6	1
トンボ目	9	16	18
ゴキブリ目	0	1	0
カマキリ目	3	0	5
ハサミムシ目	1	6	1
カワゲラ目	1	0	0
バッタ目	30	48	23
カメムシ目	56	159	57
アザミウマ目	1	0	0
ヘビトンボ目	0	1	1
アミメカゲロウ目	3	5	0
シリアゲムシ目	1	1	1
トビケラ目	8	5	1
チョウ目	58	256	45
ハエ目	40	50	11
コウチュウ目	127	427	105
ハチ目	44	75	48
19目	391	1,161	348

※H2・3年度及びH16年度は九頭竜川橋～鳴鹿橋上流の範囲で、H20年度は鳴鹿橋周辺で、それぞれ調査を実施している。



※H2・3年度及びH16年度は九頭竜川橋～鳴鹿橋上流の範囲で、H20年度は鳴鹿橋周辺で、それぞれ調査を実施している。

図 6.3-22 湛水域周辺における陸上昆虫類等の確認状況の変化

(2)堰による影響の検証

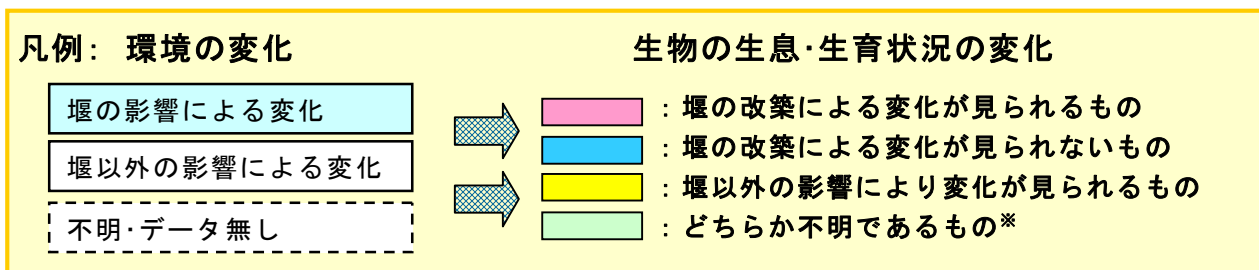
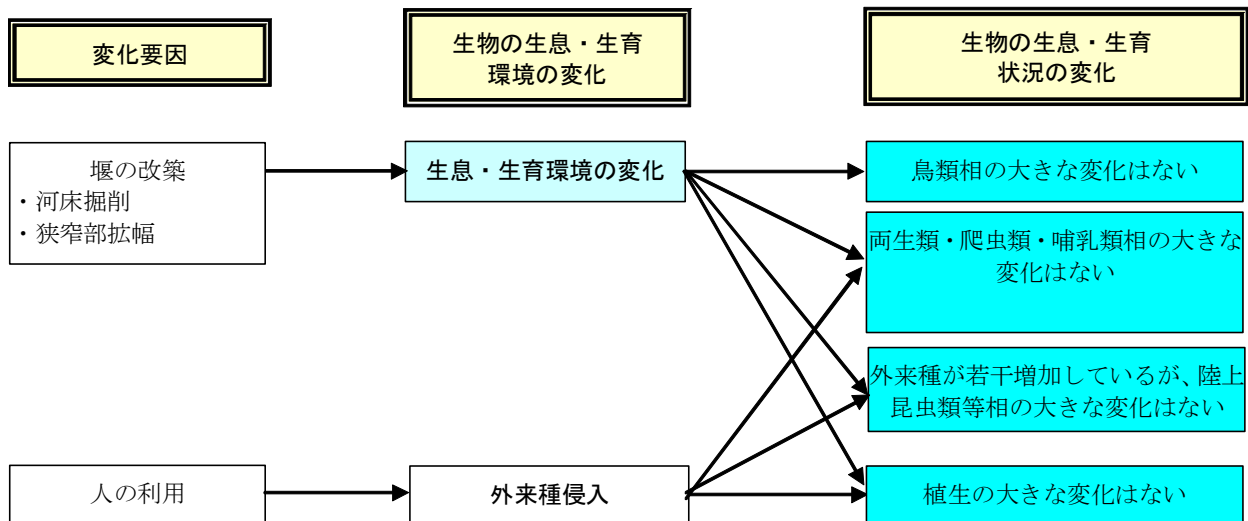
湛水域周辺の生物の変化に対する堰による影響の検証結果を表 6.3-12、図 6.3-23に示す。

表 6.3-12 湛水域周辺の生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目	生物の変化の状況	堰の存在・供用に伴う影響	堰の存在・供用以外の影響	検証結果		
生息状況の変化	植生	人工草地、構造物が多くの面積を占めており、経年的に大きな変化はみられていない。	堰・高水敷等の整備	人の利用	堰建設に伴い護岸等が整備されたことによるものと考えられる。	—
	鳥類相	水辺に生息するアオサギ、アオサギ、人家周辺に生息するスズメ、開けた草地などを好むヒバリなどを多数確認した。	堰・高水敷等の整備	人の利用	カワウが増加している傾向がみられるが、その他についてはほぼ同様な傾向であると考えられる。	—
	両生類・爬虫類・哺乳類相	経年的に大きな変化はみられていない。	堰・高水敷等の整備	人の利用	両生類・爬虫類・哺乳類相の大きな変化はみられない。	—
	陸上昆虫類相	経年的に大きな変化はみられていない。	堰・高水敷等の整備	人の利用	陸上昆虫類相の大きな変化はみられない。	—

注)検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用によると考えられる場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用以外によると考えられる場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- ：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合



※ 堰の改築による変化、堰の改築以外による変化ともに可能性が高いものを“どちらか不明”とした。

図 6.3-23 湛水域(陸域)の生物の変化に対する影響の検証結果

6.3.4本川下流における変化の検証

鳴鹿大堰の存在・供用により、下流河川において環境条件の変化が起こり、下流河川を利用する様々な生物の生息・生育状況の変化を引き起こすと想定されている。

そのためここでは、鳴鹿大堰下流における環境条件の変化、及びそれにより引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図 6.3-24のように想定し、鳴鹿大堰の存在・供用により本川下流の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1) 環境条件の変化の把握

- ・本川下流の平均流量(堰直下の放流量)の変化
- ・本川下流の水温、水質(放流直下の水温、水質)の変化
- ・本川下流への土砂供給量の変化(湛水域への堆砂状況)

(2) 生物の生息・生育状況の変化の把握

- ・魚類の生息状況(礫を産卵基質とする魚類、外来種)の変化
- ・底生動物の生息状況(主要構成種)の変化
- ・中州の発達・樹林化

(3) 堰による影響の検証

本川下流における生物の生息・生育状況の変化について、環境条件の変化や堰以外の要因等と照らし合わせて検討し、堰による影響を検証した。

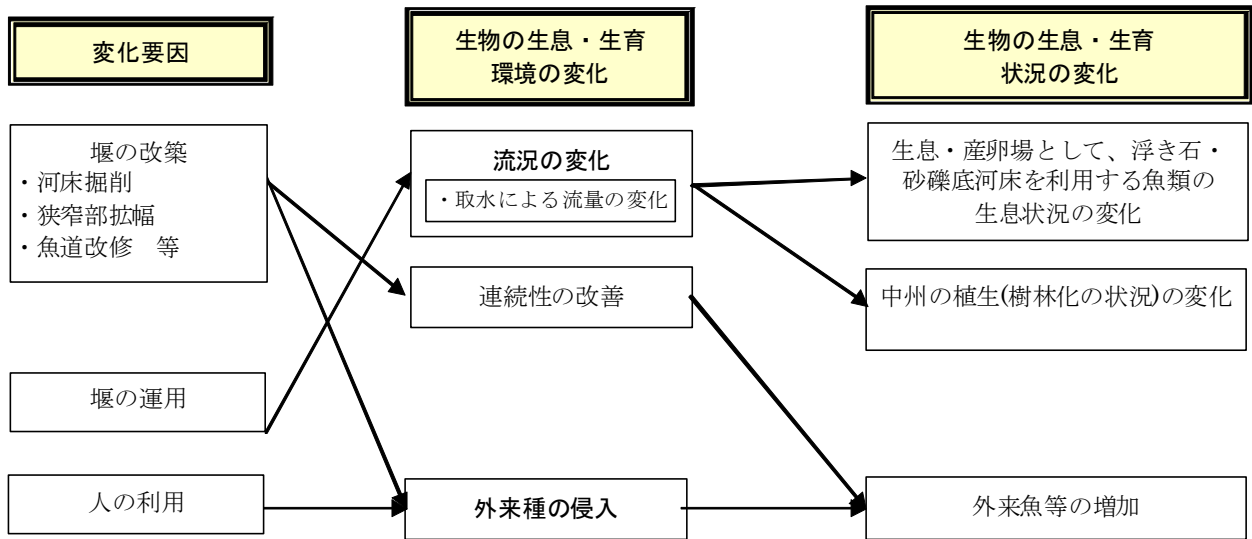


図 6.3-24 本川下流で想定される変化要因とそれに伴う生物の生息・生育状況の変化

(1)環境条件の変化の把握

環境条件の変化については、「1. 事業の概要」、「4. 堆砂」、「5. 水質」に示す。

(2)生物の生息・生育状況の変化の把握

1)魚類の生息状況の変化

本川下流における調査により確認した魚種一覧を表 6.3-2に示す。

調査結果を、平成元年(1989年)度～平成10年(1998年)度までの堰暫定運用前の調査、平成11年(1999年)度以降の堰暫定運用後の調査に区分すると、本川下流における魚類の確認種数は、堰暫定運用前が53種、堰暫定運用後が40種であった。

また、生息・産卵場として、浮き石・砂礫底河床を利用するオイカワ、ウグイ、モツゴ、カマツカなどの魚類の生息状況についてみると、堰暫定運用前後とも確認されており、堰改築後も生息・産卵場として、浮き石・砂礫底河床を利用する魚類の生息状況に大きな変化はないと考えられる。

a. 外来種の生息状況の変化

本川下流の調査では、外来種として、ニジマス、タイリクバラタナゴ、ブルーギル、オオクチバスの4種を確認している。本川下流における外来種の確認状況を表6.3-3に示す。

堰暫定運用前後とも確認されたのはタイリクバラタナゴ及びオオクチバスであった。なお、これらの外来種は湛水域内、流入河川でも確認していることから、今後も、引き続き外来種の存在状況について把握に努める。

表 6.3-14 本川下流において確認した魚類の外来種の確認状況

No.	科	種	鳴鹿大堰(堰堤)下流域	
			H1~H10	H11~19
1	サケ	ニジマス	●	
2	コイ	タイリクバラタナゴ	○	●
3	サンフィッシュ	オオクチバス	●	○
4		ブルーギル	○	

注) ●：鳴鹿大堰（堰堤）直下流で確認された種
 ○：鳴鹿堰堤直下流以外の地点（より下流の地点）のみで確認された種

2)植物の生育状況の変化

a. 中州の発達・樹林化の状況

本川下流における河道の状況を把握するため、工事前(平成2～3年度)、本体工事中(平成6年度)、暫定運用中(平成12年度)及び本格運用中(平成16年度)の陸域環境ベースマップを整理した(図6.3-25)。

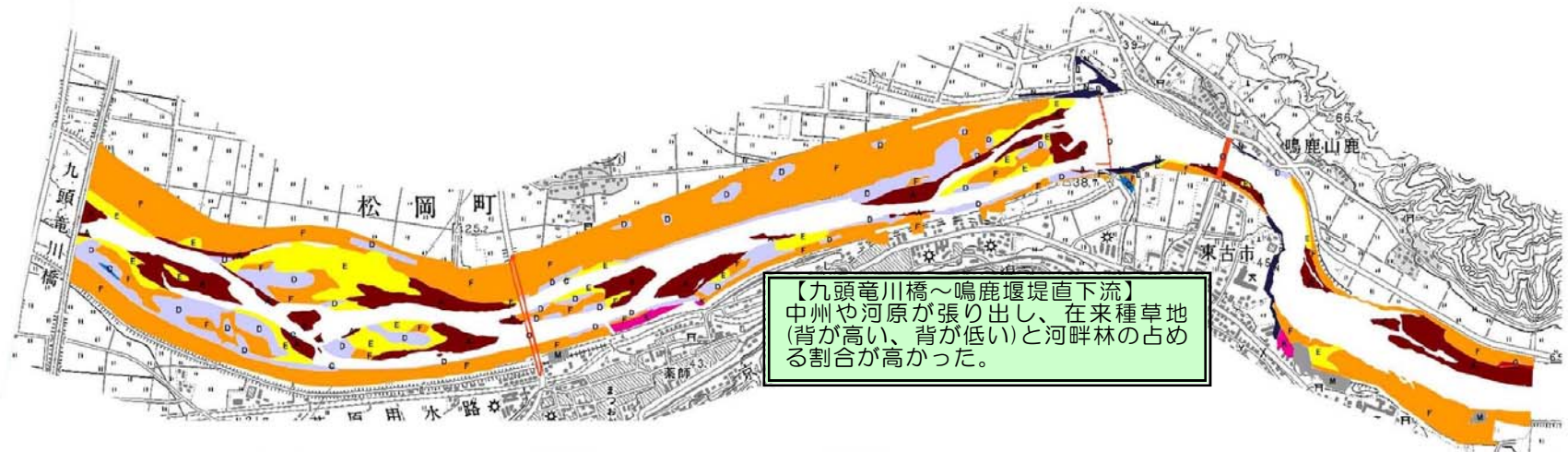
鳴鹿大堰(堰堤)直下流についてみると、工事前には中州や河原に自然裸地、在来種草地(背が高い、背が低い)、河畔林が確認されており、本体工事中には中州と融合した河原の一部に河畔林や在来種草地(背が低い)が残されたが、多くは造成地・人工裸地となった。

本体工事中には造成地、人工裸地が多くなっていたものの河畔林や在来種草地など鳥類や陸上昆虫類の生息場が一部残されており、また周辺には自然裸地、在来種草地(背が高い、背が低い)、河畔林など工事によって面積の減少していた植生が多くあったことから、工事中にもこれらの植生を生息場としていた生物にも大きな影響は及ぼさなかったものと考えられる。

暫定運用中には鳴鹿大堰の本体や水叩き工によって工事前に在来種草地(背が高い、背が低い)や河畔林であった植生が一部失われたが、工事中に造成地となっていた中州の多くの範囲に水際の草地が確認されたほか、河原に在来種草地(背が高い、背が低い)や河畔林が確認され、植生が復元していたことから、これらの植生を生息地としている動物にとって従前と同様の環境が保たれているものと考えられる。

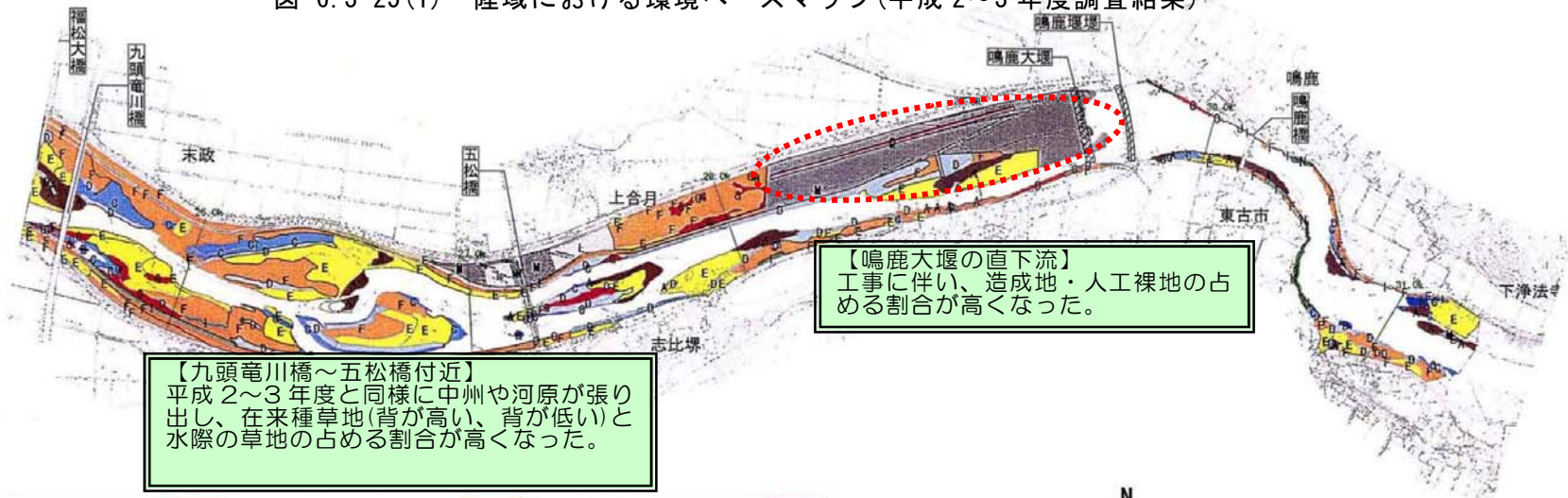
本格運用中には鳴鹿大堰直下流に暫定運用中とは大きさが異なる中州が確認され、植生は自然裸地、水際の草地、河畔林であった。今後これらの中州は出水のたびに位置や大きさを変え、攪乱を受けながら存在していくことが予想され、河原性の植物の基盤となる可能性がある。

以上より、堰の運用後において下流域に中州を確認しているが、堰建設前から下流には中州を確認していたことから、堰の影響の程度を判断することはできなかった。ただし、河畔林の繁茂がこのまま進んだ場合、中州が乾燥して樹林化、陸地化が進む可能性も考えられることから、その変化について定期的に確認する。



【九頭竜川橋～鳴鹿堰堤直下流】
 中洲や河原が張り出し、在来種草地
 (背が高い、背が低い)と河畔林の占める
 割合が高かった。

図 6.3-25(1) 陸域における環境ベースマップ(平成2～3年度調査結果)



【鳴鹿大堰の直下流】
 工事に伴い、造成地・人工裸地の占
 める割合が高くなった。

【九頭竜川橋～五松橋付近】
 平成2～3年度と同様に中洲や河原が張り
 出し、在来種草地(背が高い、背が低い)と
 水際の草地の占める割合が高くなった。

自然裸地	河原(植生なし)	A	河川敷	在来種草地 (背が高い群落)	F	人工管理地	畑地	K
水中	沈水・浮葉植物	B		外来種草地	G		人工草地(シバ等)	L
水際	水際の草地	C		樹林(低木林)	H		造成地・人工裸地	M
	河畔林	D		樹林(高木林)	I		植林	N
河川敷	在来種草地 (背が低い群落)	E	人工管理地	竹植林	J	人工構造物	人工構造物	O

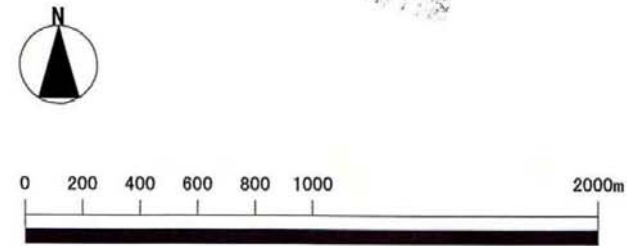


図 6.3-25(2) 陸域における環境ベースマップ(平成6年度調査結果)

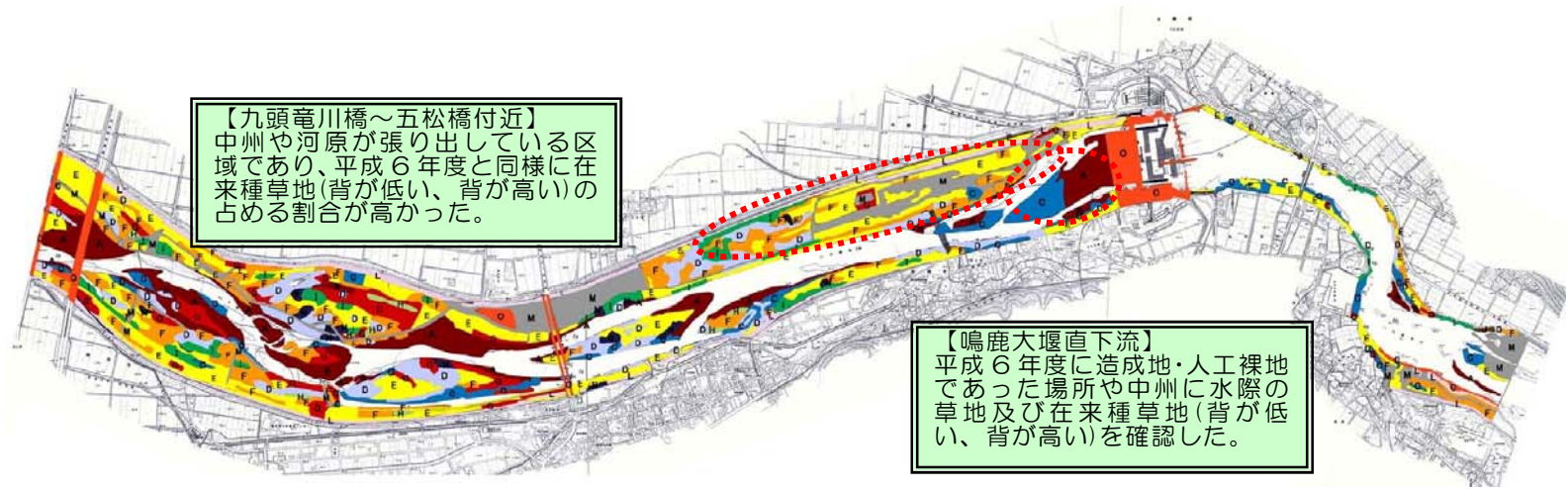


図 6.3-25(3) 陸域における環境ベースマップ(平成12年度調査結果)

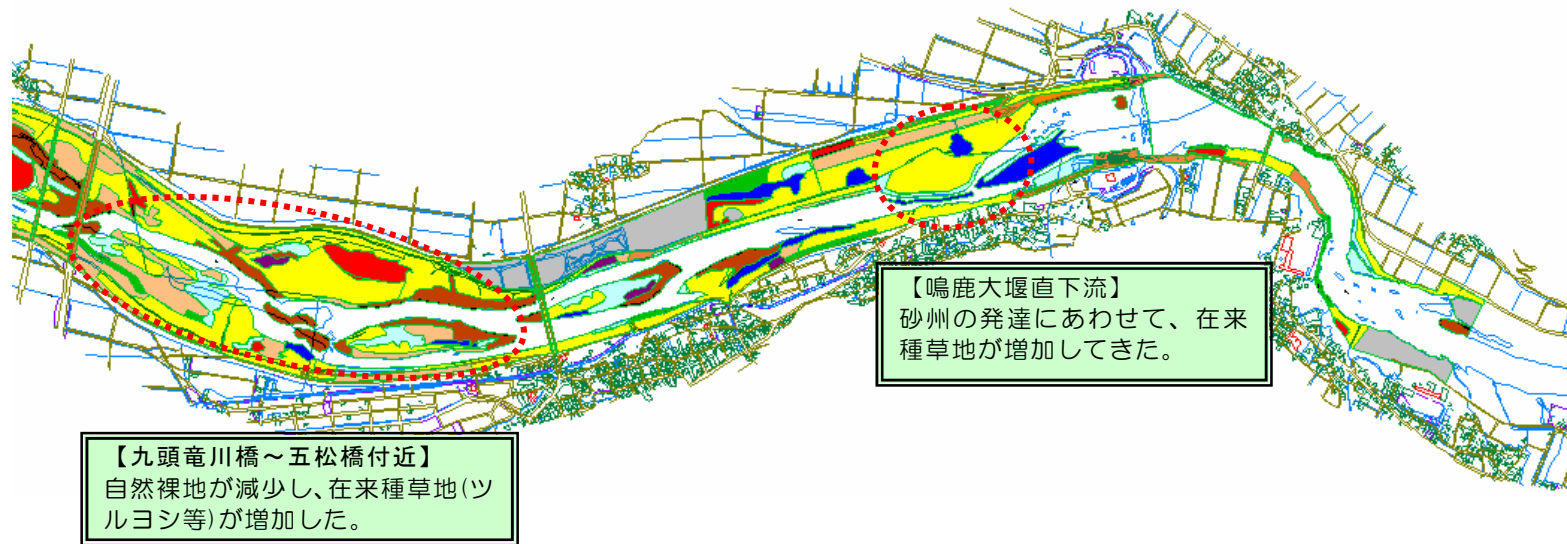


図 6.3-25(4) 陸域における環境ベースマップ(平成17年度調査結果)

(3)堰による影響の検証

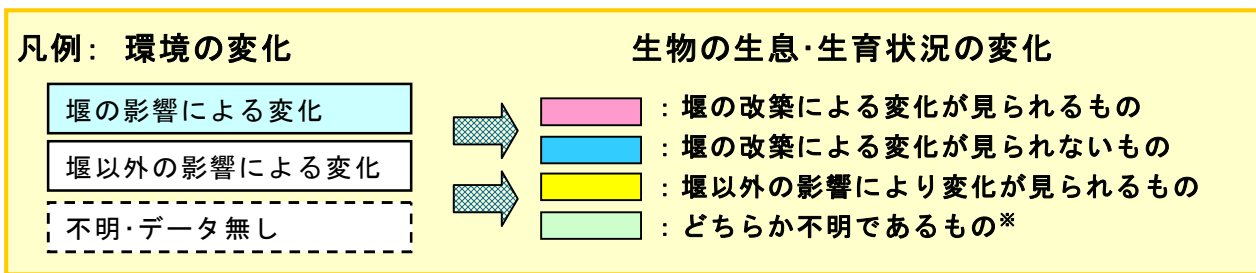
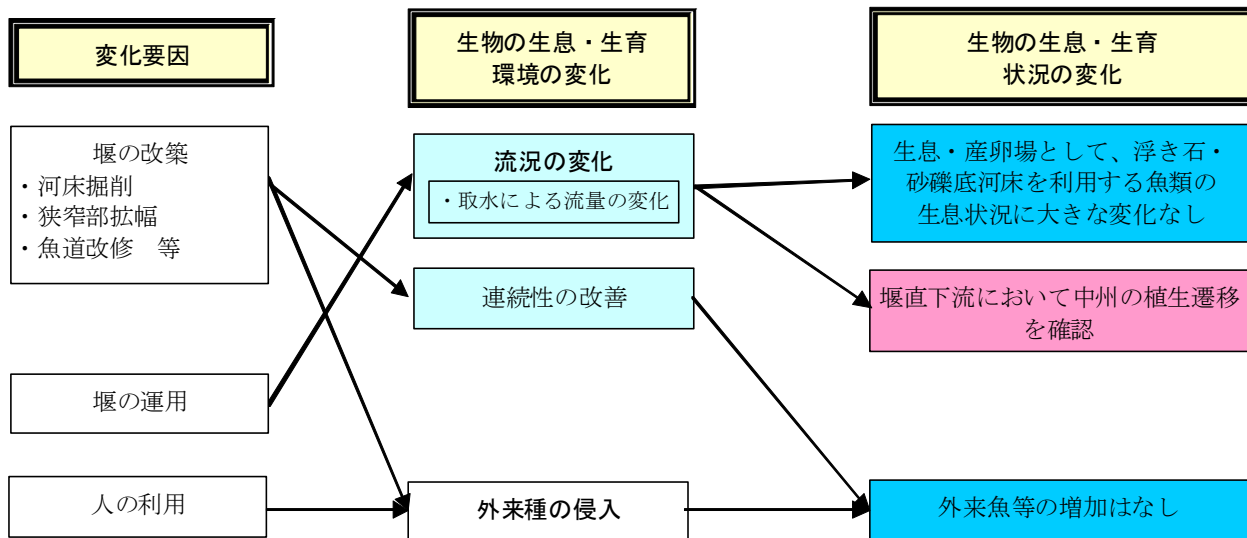
本川下流の生物の変化に対する堰による影響の検証結果を表 6.3-15、図 6.3-26に示す。

表 6.3-15 本川下流の生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		生物の変化の状況	堰の存在・供用に伴う影響	堰の存在・供用以外の影響	検証結果	
生息・生育状況の変化	砂礫底を好む魚類	砂礫や礫底に産卵する魚類として、オイカワ、カマツカ等を経年的に確認した。	流況の変化 土砂供給量の変化	—	堰下流では、これらの魚類の生息・産卵場として適した環境が維持されていることが推察された。	—
	外来種(魚類)	堰暫定運用前に確認していた外来種のブルーギル等について、堰暫定運用後には確認していない。	連続性の改善	釣り人による放流	魚類の外来種について影響は無いと考えられる。	—
	中州の植生(樹林化の状況)の変化	五松橋付近より下流では、自然裸地が減少し、在来種草地(ツルヨシ等)が増加した。鳴鹿大堰直下流では、堰改築に伴い、裸地化した中州等の水際に植生が見られるようになった。また、砂州が発達にあわせて、在来種草地が増加してきた。	堰改築に伴う掘削等 流況の変化 土砂供給量の変化	洪水による攪乱	堰改築に伴い、一度消失した植生が、徐々に回復しつつあると考えられる。また、自然裸地が植生に覆われるとともに、砂州が発達にあわせて、在来種草地が増加してきた。	●

注)検証結果

- : 生物の生息・生育状況の変化が堰の改築によると考えられる場合
- : 生物の生息・生育状況の変化が堰の改築以外によると考えられる場合
- △ : 生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- : 生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ? : 生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合



※ 堰の改築による変化、堰の改築以外による変化ともに可能性が高いものを“どちらか不明”とした。

図 6.3-26 本川下流の生物の変化に対する影響の検証結果

6.3.5 連続性の観点からみた変化の検証

鳴鹿大堰の改築に伴う魚道の改修により、堰及び湛水域の上下流において河川の連続性が改善し、九頭竜川を利用する様々な生物の生息・生育状況の変化を引き起こすと想定されている。

そのためここでは、鳴鹿大堰において引き起こされる生物の生息・生育状況の変化を図6.3-27のように想定し、鳴鹿大堰の存在により連続性の観点から堰上下流の生物の生息・生育状況が変化しているかどうかの検証を以下の手順で行った。

(1) 環境条件の変化の把握

- ・ 魚道の状況

(2) 生物の生息・生育状況の変化の把握

- ・ 回遊性魚類の確認状況
- ・ 稚魚等の流下の緩和による魚類生息状況の変化

(3) 堰による影響の検証

鳴鹿大堰上下流における生物の生息・生育状況の変化について、連続性の観点から検討し、堰による影響を検証した。

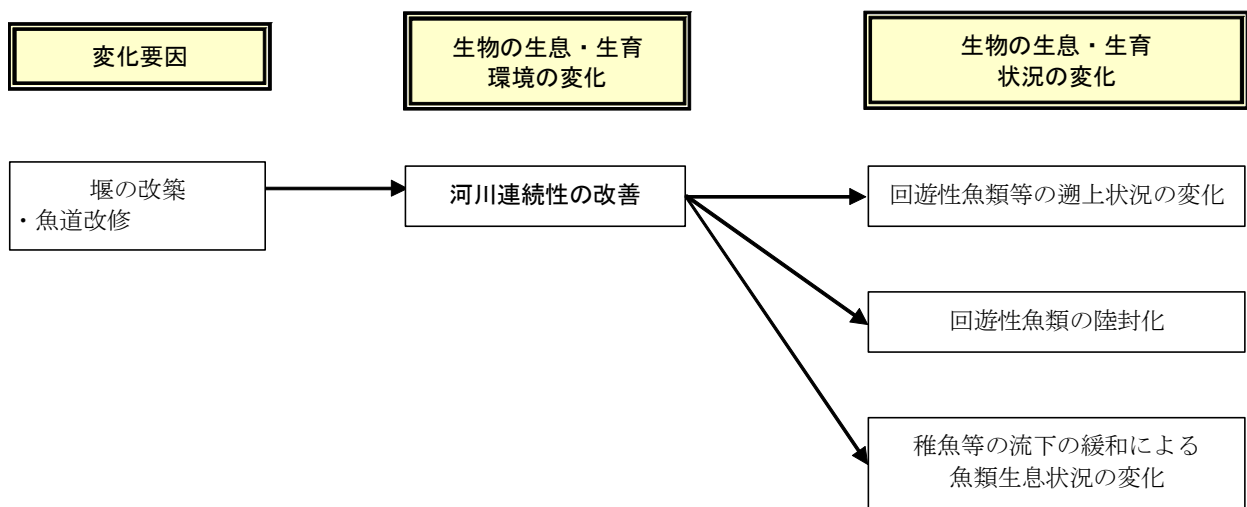


図 6.3-27 連続性の観点から想定される変化要因とそれに伴う生物の生息・生育状況の変化

(1)環境条件の変化の把握

1) 魚道の状況

旧鳴鹿堰堤の魚道(左岸のみ設置)は、勾配が大きく流速が速いため、遊泳力の弱い魚にとって遡上が困難となっていた。鳴鹿大堰では左右岸それぞれに、階段式、人工河川式魚道と呼び水水路を設け、様々な魚種が利用可能となるようにしているほか、渇水時に呼び水水路の水量が少なくなった時のために堰柱の中にデニール式魚道を設けている。また、落ちアユの時期に中央のゲートが開いていない場合、川の中央から両端にある土砂吐ゲートや呼び水水路に誘導できるよう落ちアユ用ゲートも設けている。新旧魚道の概要を図 6.3-28に、各魚道の構造および詳細を表 6.3-16に示す。

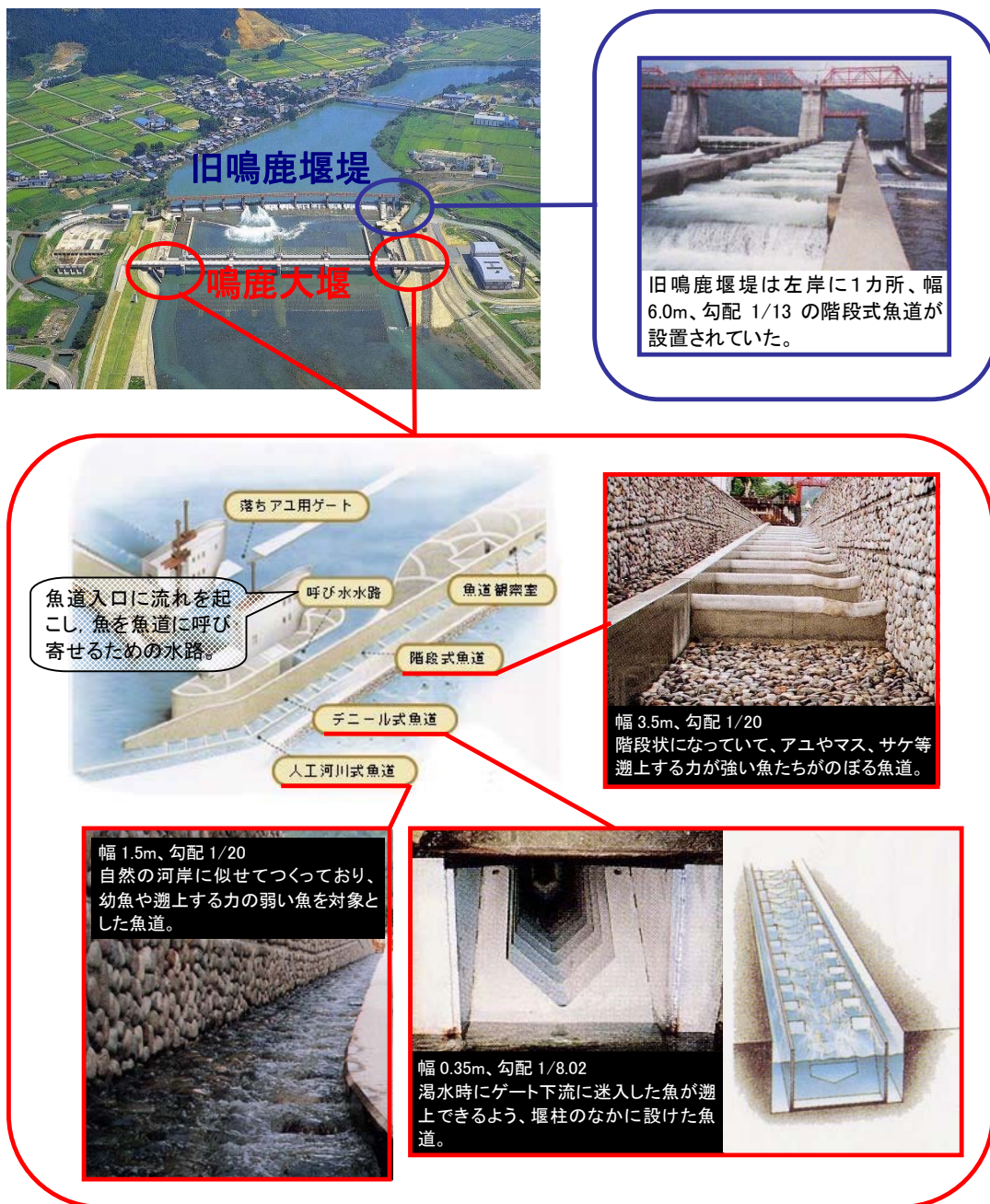


図 6.3-28 新旧魚道の概要

表 6.3-16(1) 各魚道の構造および詳細


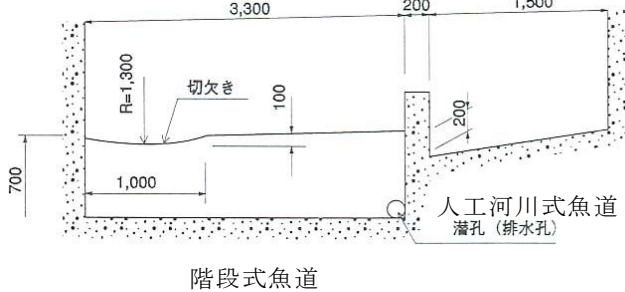
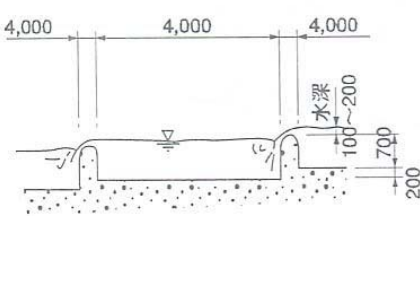


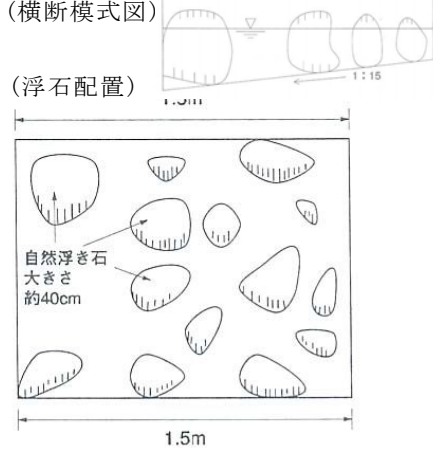

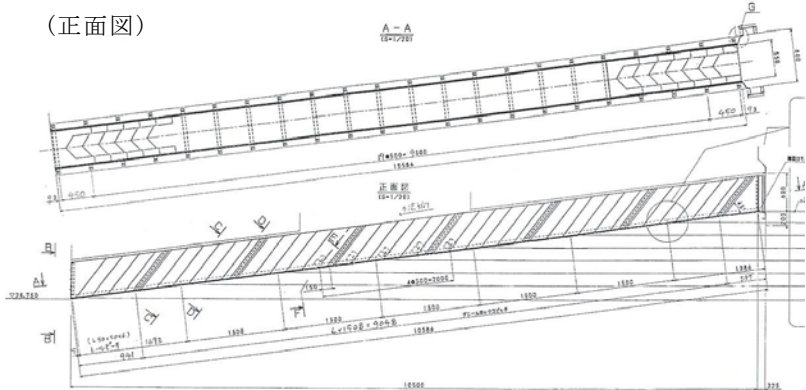
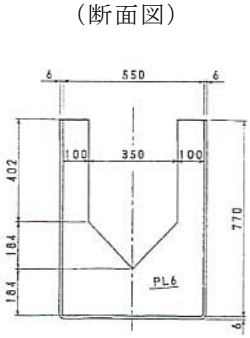

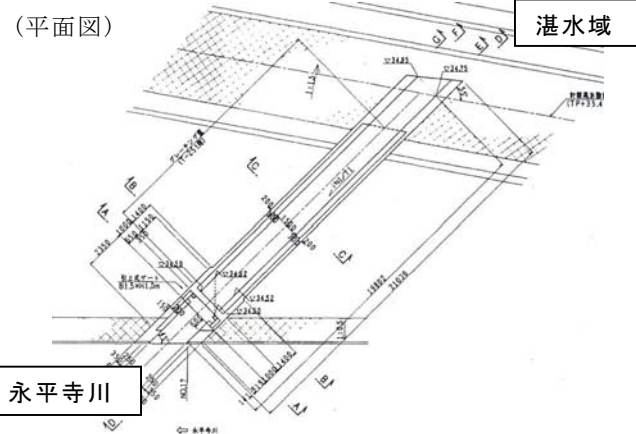
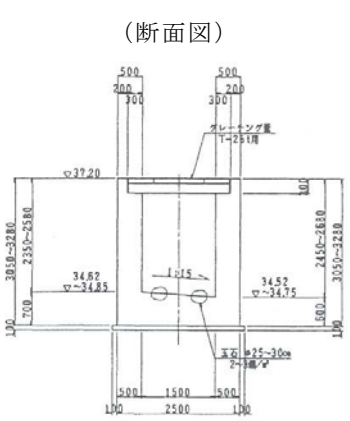
魚道型式	階段式魚道	
延長 (m)	左岸 : 187m, 右岸 : 210m	
幅 (m)	幅員 3.5m (切り欠幅 1.0m)	
勾配	1/20	
主な対象魚	アユ、サケ等の遊泳魚	
備考	隔壁間落差 : 20cm プール長 : 4.0m プール内水深 : 80cm (隔壁高 70cm + 越流水深 10cm)	
(標準断面図) 		(縦断面図) 
魚道型式	人工河川式魚道	
延長 (m)	左岸 : 187m, 右岸 : 210m	
幅 (m)	幅員 1.5m	
勾配	縦断 : 1/20, 横断 : 1/15	
主な対象魚	カマキリ(アラレガコ)等の底生魚や稚魚	
備考	水路内流速 : 0~40cm/s 水深 : 5~20cm	
(標準断面図) 		(横断模式図) (浮石配置) 

表 6.3-16(2) 各魚道の構造および詳細

魚道型式	デニール式魚道	
延長 (m)	10.5m	
幅 (cm)	0.35cm	
勾配	1/8.02	
主な対象魚	アユ、サケ等の遊泳魚	
備考	渇水時に端部堰柱間のゲート下流に迷入した魚類を階段式魚道に遡上させる目的で設置された施設。	
<p>(正面図)</p> 		<p>(断面図)</p> 
魚道型式	接続水路 (人工河川式魚道)	
延長 (m)	21m	
幅 (m)	5m	
勾配	縦断：1/60，横断：1/15	
主な対象魚	アユ、サケ、カマキリ(アラレガコ)等	
備考	水深：0～20cm 永平寺川を遡上してきた魚類を鳴鹿大堰湛水域に誘導するために設置された施設。	
<p>(平面図)</p> 		<p>(断面図)</p> 

(2)生物の生息・生育状況の変化の把握

1) 回遊性魚類の確認状況

a. 回遊性魚類等の遡上阻害

鳴鹿大堰が建設されたことにより、河川が分断される状況となり、回遊性魚類等の遡上
が阻害されることが考えられることから、魚道の下流側に回遊魚が遡上できずに集まるこ
とが想定される。そこで、魚道の下流側と魚道での採捕結果、大堰上流における魚類の確
認状況等を整理した。

なお、鳴鹿大堰の魚道は、右岸部が平成 11 年 3 月に稼働を開始し(平成 12 年 11 月～平
成 13 年 5 月は工事により稼働していない)、左岸部は平成 12 年 6 月から稼働を開始した。

鳴鹿大堰における魚類調査の実施状況を表 6.3-17に、調査範囲を図 6.3-29に示す。鳴
鹿大堰魚道での魚類調査は、暫定運用開始以降の平成 11 年度から行っていたモニタリング
調査は平成 16 年度で終了し、平成 17 年からはフォローアップ調査を行っている。

平成 17 年度のフォローアップ調査からは、魚道調査のみ継続して実施し、湛水域や下流
域での調査は行っていない。なお、平成 19 年度以降の調査では、デニール式魚道と接続水
路においても魚類調査を行った。

表 6.3-17 魚類調査実施状況

調査範囲	平成																		
	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
鳴鹿大堰建設	■																		
浄法寺	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
湛水域			○	○	○	○	○	○	○			△	△	△	○				○※
魚道		○	○								○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳴鹿大堰(堰堤)直下流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
五松橋より下流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○※

注) ○:採捕調査 △:目視調査 ※河川水辺の国勢調査で実施

魚道暫定運用開始

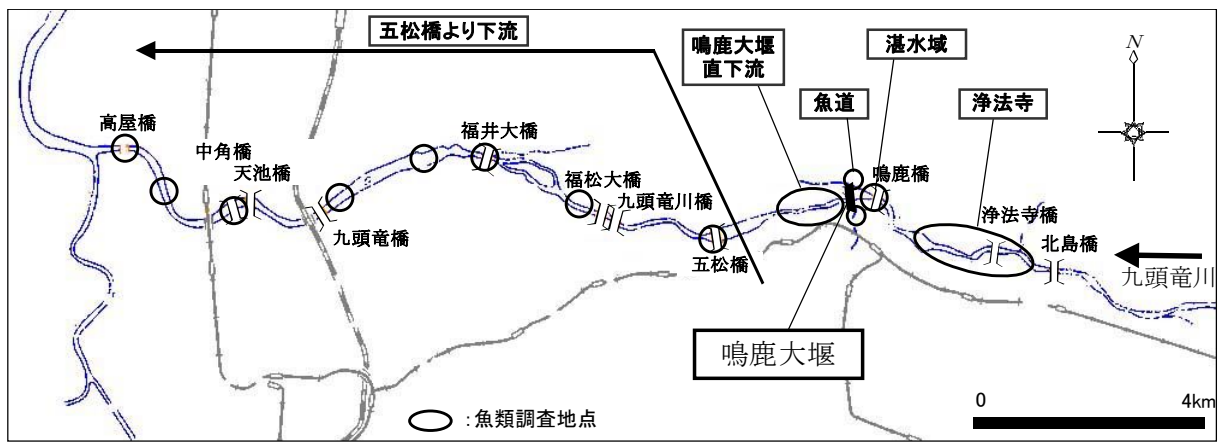


図 6.3-29 鳴鹿大堰関連の魚類調査範囲

(a) 利用状況

平成 11 年度から平成 20 年度までの調査における鳴鹿大堰の魚道を利用した魚種は、人工河川式魚道で 45 種、階段式魚道で 39 種、合計 49 種であった(表 6.3-18)。調査方法や調査期間の違いはあるものの、平成 3 年度に旧鳴鹿堰堤の魚道(左岸のみ)で調査を行った際に確認された魚類(8 種)と比較して、鳴鹿大堰の魚道はより多くの魚種に利用されている。鳴鹿大堰の暫定運用が開始された平成 11 年以降の魚類出現状況は表 6.3-19 に示すとおりである。

表 6.3-18 旧鳴鹿堰堤および鳴鹿大堰の魚道内での魚類確認状況

No.	生活型	科	種	遊泳区分	鳴鹿堰堤		鳴鹿大堰	
					H3魚道内調査での確認種 ^{※1}		H11~20魚道内調査での確認種 ^{※2}	
					○：遡上 △：降下		人工河川式魚道	階段式魚道
1	回遊魚	ヤツメウナギ	カワヤツメ	底生魚		●	●	
2		サケ	サケ	遊泳魚		●	●	
3			サクラマス	遊泳魚	○	●	●	
4			サツキマス	遊泳魚			●	
5		アユ	アユ	遊泳魚	○△	●	●	
6		コイ	ウグイ	遊泳魚	△	●	●	
7		ハゼ	ヌマチチブ	底生魚		●	●	
8			オオヨシノボリ	底生魚		●	●	
9			シマヨシノボリ	底生魚	△(ヨシノボリ)	●	●	
10			ルリヨシノボリ	底生魚		●	●	
11			トウヨシノボリ	底生魚		●	●	
12			ウキゴリ	底生魚		●	●	
13			スミウキゴリ	底生魚		●	●	
14		カジカ	ウツセミカジカ	底生魚		●	●	
15			カマキリ(アラレガコ)	底生魚		●	●	
16	純淡水魚	ヤツメウナギ	スナヤツメ	底生魚		●	●	
17		サケ	イワナ	遊泳魚		● ^{※3}		
18			ヤマメ	遊泳魚	△	●	●	
19			アマゴ	遊泳魚		●	●	
20		コイ	アブラハヤ	遊泳魚		●	●	
21			オイカワ	遊泳魚		●	●	
22			カワムツ	遊泳魚	△	●	●	
23			ハス	遊泳魚		●	● ^{※3}	
24			ビワヒガイ	遊泳魚		●	●	
25			カマツカ	底生魚		●	●	
26			タモロコ	遊泳魚		●	●	
27			ホンモロコ	遊泳魚		●	●	
28			スゴモロコ	遊泳魚		●	●	
29			モツゴ	遊泳魚		●	●	
30			ニゴイ	遊泳魚	△	●	●	
31			ズナガニゴイ	遊泳魚		●	● ^{※3}	
32			コイ	遊泳魚		● ^{※3}	●	
33			ギンブナ	遊泳魚	△(フナ)	●	●	
34			ゲンゴロウブナ	遊泳魚		●	●	
35			ヤリタナゴ	遊泳魚		●	●	
36			イチモンジタナゴ	遊泳魚		●	●	
37			カネヒラ	遊泳魚		●	●	
38			アカヒレタビラ	遊泳魚		●	●	
39			タイリクバラタナゴ	遊泳魚		●	●	
40		ドジョウ	シマドジョウ	底生魚		●	●	
41			アジメドジョウ	底生魚		●	●	
42		ナマズ	ナマズ	底生魚		● ^{※3}	●	
43		ギギ	ギギ	底生魚		●	●	
44		アカザ	アカザ	底生魚		●	●	
45		サンフィッシュ	オオクチバス	遊泳魚		●	●	
46			ブルーギル	遊泳魚		●	●	
47		ハゼ	ドンコ	底生魚		●	●	
48		カジカ	カジカ	底生魚		●	●	
49	回遊性	イワガニ	モクスガニ	種数	△	●	●	
魚類以外の生物は回遊性のモクスガニのみを対象とした。					9	45	39	
						49		

※1 魚道上流部の隔壁全面に遡上魚捕獲用トラップ、下流部の隔壁全面に降下魚捕獲用トラップを設置し、採捕状況を24時間ごとに確認した。

※2 24時間、魚道に採捕網を設置して遡上魚を採捕し、2時間または3時間ごとに種の同定、個体数計数等を行った。

※3 平成17年度に過去データの見直しを行った結果、削除または追加された種である。

階段式魚道：ズナガニゴイ(捕獲記録が確認できないため削除)、ハス(補足調査で確認されているので追加)
人工河川式魚道：コイ、ナマズ、イワナ(補足調査で確認されているので追加)

表 6.3-19 鳴鹿大堰遡上魚種経年出現状況

No.	種名	生活型	遊泳区分	移入種	階段式魚道													人工河川式魚道													デニール		接続	
					H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	計	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	計	H19	H20	H19	H20				
1	スナヤツメ	淡	底					○							●	○	○	○		○				○	○	○	○	●						
2	カワヤツメ	回	底		○										●	○	○	○	○		○					○		●						
3	コイ	淡	泳		○	○		○	○	○					●						○							●						
4	ゲンゴロウブナ	淡	泳	○			○	○	○	○					●																			
5	ギンブナ	淡	泳		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
6	ヤリタナゴ	淡	泳			○			○						●	○	○		○	○	○		○					●						
7	カネヒラ	淡	泳	○				○							●																			
8	アカヒレタビラ	淡	泳													○												●						
9	イチモンジタナゴ	淡	泳	○	○										●	○												●						
10	タイリクバラタナゴ	淡	泳	○									○		●	○		○	○	○	○	○						●						
11	ハス	淡	泳	○							○				●						○							●						
12	オイカワ	淡	泳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
13	カワムツ	淡	泳		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
14	アブラハヤ	淡	泳		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
15	ウグイ	淡	泳		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
16	モツゴ	淡	泳					○							●	○	○	○		○								●						
17	ビワヒガイ	淡	泳	○	○		○	○	○		○				●	○					○							●						
18	タモロコ	淡	泳		○	○		○	○	○					●	○	○	○	○	○								●			○			
19	ホンモロコ	淡	泳	○												○												●						
20	カマツカ	淡	底		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
21	ズナガニゴイ	淡	底	○												○												●			○	○		
22	ニゴイ	淡	泳		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○					○	○		●						
23	スゴモロコ	淡	泳	○												○	○											●						
24	アジメドジョウ	淡	底			○									●	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
25	シマドジョウ	淡	底													○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
26	ギギ	淡	底	○																	○							●						
27	ナマズ	淡	底		○	○			○				○		●							○						○	○					
28	アカザ	淡	底			○									●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
29	アユ	回	泳		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
30	サケ	回	泳		○	○	○	○	○			○			●	○	○											●						
31	サクラマス ^{注1)}	回	泳		○	○	○	○	○	○			○		●	○			○									●						
32	ヤマメ	淡	泳		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
33	サツキマス	回	泳	○	○			○							●																			
34	アマゴ	淡	泳	○				○	○	○					●	○												●						
35	イワナ	淡	泳													○												●						
36	カマキリ(アラレガコ)	回	底		○					○					●	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
37	カジカ(大卵型)	淡	底													○	○	○	○	○								●						
38	ウツセミカジカ ^{注2)}	回	底		○	○	○			○					●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
39	ブルーギル	淡	泳	○					○						●					○								●						
40	オオクチバス	淡	泳	○		○									●																			
41	ドンコ	淡	底					○							●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
42	スミウキゴリ	回	底													○												●						
43	ウキゴリ	回	底							○	○				●	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
44	シマヨシノボリ	回	底			○		○	○	○	○				●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
45	オオヨシノボリ	回	底		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
46	ルリヨシノボリ	回	底																		○							●						
47	トウヨシノボリ	回	底	○			○			○					●						○	○						○	○					
48	ズマチチブ	回	底		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
49	モクズガニ ^{注3)}	回遊	底生		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
種数(モクズガニを含む)					16	23	23	18	24	21	23	17	13	11	15	39	37	27	24	28	26	30	19	20	22	24	45	4	1	14	8			

・生活型区分 淡：純淡水魚 回：回遊魚 ・遊泳区分 泳：遊泳魚 底：底生魚
 注1) サクラマスとヤマメ、サツキマスとアマゴは分類上は同種であるが、鳴鹿大堰魚道においては利用時期や利用目的が異なるため、それぞれを1種として計数した。
 注2) 近年、九頭竜川に生息するものはカジカ(中卵型)である可能性が示唆されているが、ここでは既存調査と整合をとるためウツセミカジカとする。
 注3) モクズガニは甲殻類であるが、鳴鹿大堰魚道の対象種であるため表に含めた

魚道の効果を評価するために、鳴鹿大堰の上下流、湛水域及び魚道内での回遊性魚類の確認状況を整理した(表 6.3-20)。魚道における調査については、平成2～3年は旧鳴鹿堰堤の魚道での調査であり、平成11年以降が鳴鹿大堰の魚道での調査である。なお、平成4～10年については魚道内調査を実施していない。

その結果、ウグイ、アユ、オオヨシノボリについては、堰の下流～堰湛水域の上流までの広い範囲で確認しており、旧鳴鹿堰堤の魚道を利用して遡上していた可能性が示唆された。一方で、サケ、サクラマス、ウツセミカジカ、トウヨシノボリについては、鳴鹿大堰の暫定運用以前には下流までの確認であったものが、運用開始後は上流でも確認しており、鳴鹿大堰の魚道により遡上可能となった可能性が示唆された。しかし、カワヤツメ、サクラマス、カマキリ(アラレガコ)等の遡上の確認数が少ないことが課題である。

なお、カマキリ(アラレガコ)については、鳴鹿大堰の暫定運用開始後に湛水域では確認しており、遡上の可能性は示唆されるものの、湛水域の上流では確認されていないことから、今後、その生息状況の確認に努める必要がある。

表 6.3-20 鳴鹿大堰上下流及び魚道における確認状況からの評価

No.	目	科	種	旧鳴鹿堰堤										鳴鹿大堰								
				H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H19 ⁴⁾			
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	カワヤツメ											C	C	C	C			C	C	
2	コイ	コイ	ウグイ ¹⁾	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
3	サケ	アユ	アユ	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
4		サケ	サケ			D	D	D	D	D	D	D	D	C	C	A	A	A	A	A	B	
5			サクラマス ²⁾		D		D						D	C	C	C	C	C	A	C		
6			サツキマス ²⁾											C		D	C	D				
7	カサゴ	カジカ	カマキリ(アラレガコ)					D	D					C			C	C	B	C		
8			ウツセミカジカ				D	D	D	D	D	D	D	A	C	C	C	C	C	C		
9	スズキ	ハゼ	スミウキゴリ				D	D	D				D		C			A	A	C	C	
10			ウキゴリ			D		D	D				A	D	A	A	A	A	A	A	A	B
11			ゴクラクハゼ																D			
12			シマヨシノボリ ³⁾		C		A	D	A	D	D	D	D	C	A	A	A	A	A	A	A	B
13			オオヨシノボリ ³⁾		C		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
14			ルリヨシノボリ ³⁾		C					D											C	
15			トウヨシノボリ ³⁾		C											C		A	A	A	A	A
一			ヨシノボリ類 ³⁾	A	A	A																
16			ヌマチチブ				D	D		B	A	D	D	A	A	C	A	A	A	A	A	B

【凡例】

A: 上流(浄法寺地点)まで確認している
C: 魚道まで確認している

B: 湛水域内まで確認している
D: 下流(魚道直下流地点)まで確認している

※ H4～10は魚道調査を、H11～15は湛水域調査を実施していない。

- 1) ウグイは回遊性と純淡水性の判別ができないため、便宜的に全て回遊魚として取り扱った。
- 2) サクラマス、サツキマスは、便宜的に確認されたときの大きさとヤマメ、アマゴと区分した。
- 3) 平成3年度魚道調査では、ヨシノボリとなっており、種名が確定できないため、該当種全てに印を付けた。
- 4) 平成19年度は上流の浄法寺地点における調査を実施していないため、参考として北島橋における調査結果を用いて整理した。
- 5) 平成20年度は上下流の地点における調査を実施していないため、評価の対象外とした。

(b) 遡上個体数

ア. 全個体数

図 6.3-30に鳴鹿大堰左右岸魚道（階段式魚道・人工河川式魚道）で行った調査で確認した遡上個体数の推移を示した。左右岸魚道での調査は、アユの遡上期にあわせて行う目視調査、採捕調査及び両者を補足する補足調査の3種類を行っており、それぞれ調査頻度や調査時間が異なることから、ここでは、調査結果を調査時間で除し、年間の全調査で平均した、調査1時間あたりの遡上個体数を算出して比較を行った。なお、平成2年度、3年度については、旧鳴鹿堰堤左岸の階段式魚道の遡上個体数である。

平成2年度、3年度は、魚道を遡上する個体がほとんど確認されなかった。また、平成14年6月の大出水、平成16年度5月以降の過去に例をみない出水による濁水の影響によって、平成13年度をピークに減少していたが、平成17年度には若干の回復をみせ、平成18年度以降は大幅な遡上個体の増加を確認している。なお、目視調査では一日で数万匹以上確認されることもあり、図に示した遡上個体は多くが目視調査で確認したものとなっている。

また、鳴鹿大堰及び旧堰堤における遡上個体数の経時変化(採捕調査)について図 6.3-31に示す。なお、調査による差をできるだけ小さくするため、1時間あたりの採捕数について、季節毎に整理を行った。

階段式魚道を遡上する魚はアユ科の魚が最も多く、春季(4~6月)又は夏季(7~9月)に多く遡上が確認された。また、人工河川式魚道では、夏季(7~9月)にハゼ科の魚類が多く遡上している。

旧鳴鹿堰堤の左岸階段式魚道と比較すると、鳴鹿大堰の魚道が、魚種、個体数ともに、より多く利用されていることが分かる。特に、人工河川式の魚道を整備したことにより、旧堰堤の魚道では殆ど遡上を確認していなかったハゼ科、カジカ科等の魚類についても多く遡上がみられている。

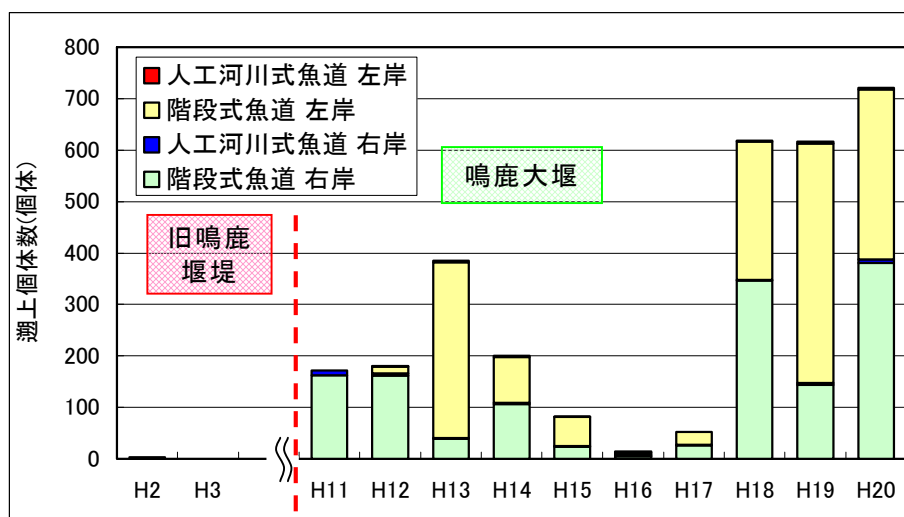
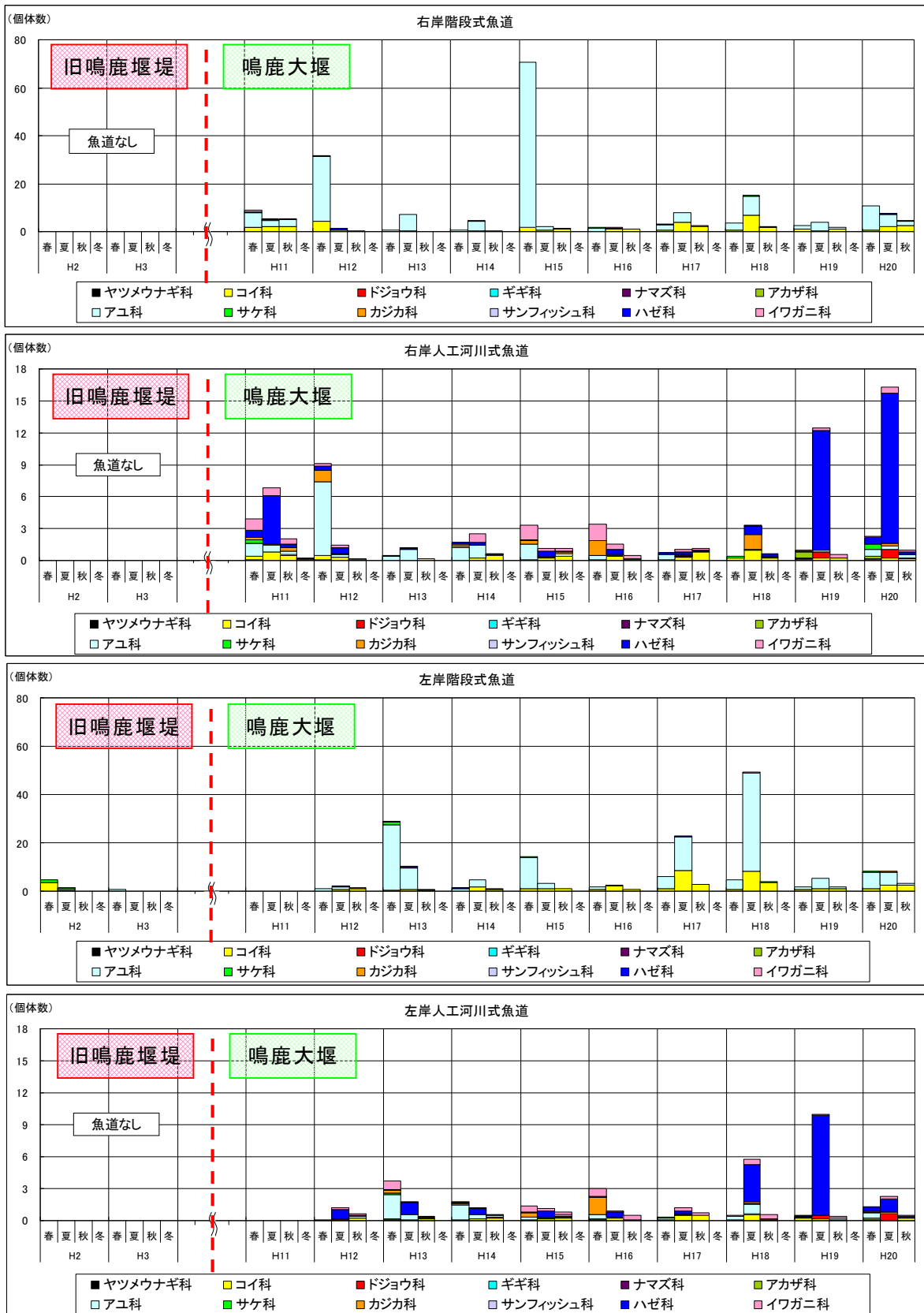


図 6.3-30 平成11年度~20年度までの遡上個体数の変化

- ※ 目視調査、採捕調査及び補足調査の調査結果をとりまとめた結果である。
- ※ なるべく同じ条件で比較できるように、調査結果を調査時間で除し、単位時間あたりの遡上個体数として整理した。
- ※ 平成2年度、3年度については、旧鳴鹿堰堤左岸の階段式魚道の遡上個体数である。



※春（4～6月）、夏（7～9月）、秋（10～12月）、冬（1～3月）
 平成 2 年度：魚道の下流端を刺網で仕切った後、魚道内への通水を停止し、残った魚類を水中観察と投網による捕獲で確認した。季節ごとに調査回数で割った値。
 平成 3 年度：魚道上流部の隔壁全面に遡上魚捕獲トラップを設置し、採捕状況を 24 時間ごとに確認した。季節ごとに調査回数で割った値を時間当たりに換算した。
 平成 11 年度以降は、季節ごとに調査回数で割った値を時間当たりに換算した。

図 6.3-31 鳴鹿大堰魚道調査による科別遡上個体数の経時変化（採捕調査）

イ. 生活型別遡上種数

鳴鹿大堰魚道調査での確認種数は、平成 11 年度に最も多い 40 種を確認し、以後減少し、平成 16 年度までは 29～36 種、平成 17 年以降は 22～25 種の範囲で確認している。平成 11 年度とそれ以降の確認種数について、生活型別の種数をみると、回遊魚の確認種数は大きな増減はないが、純淡水魚の確認種数が減少している（表 6.3-21）。産卵や成長のために川と海とを移動する回遊魚の多くは鳴鹿大堰魚道を利用するため、調査時に確認されやすいが、純淡水魚は出水等で本来の生息域から流されてきた個体や移入種など、偶発的に確認される種類が含まれる。そのため、純淡水魚の確認種数は調査回数に影響されると考えられ、特にフォローアップ調査となった平成 17 年以降は調査回数が減少したことにより、純淡水魚の確認種数が減少したと考えられる。

表 6.3-21 生活型別の確認種数

調査年度	調査回数	回遊魚	純淡水魚	合計
H11	68	12	28	40
H12	61	11	20	31
H13	34	11	18	29
H14	36	13	23	36
H15	39	10	22	32
H16	31	13	22	35
H17	11	8	14	22
H18	9	11	13	24
H19	9	9	15	24
H20	9	10	15	25

ウ. アユの遡上状況

魚道別のアユの遡上個体数を図 6.3-32に、アユの放流量を図 6.3-33に示す。

旧鳴鹿堰堤の魚道では、アユの遡上はわずかしか確認していなかったが、鳴鹿大堰運用開始後は春季～夏季にかけて多くの遡上を確認した。また、魚道別にみると、階段式の魚道においてより多くの遡上を確認した。なお、九頭竜川中流域を管理する九頭竜川中部漁業協同組合への聞き取りによれば、アユの放流量は、平成 14 年頃は 15 t 前後で行われており、平成 16 年 30t 以上が放流されていたが、その後は 12 t 前後に減少している。

以上より、アユの放流量と遡上個体数に明確な関係が確認されないことから、放流量が遡上個体数の増減に直接影響している可能性は低いと考えられる。

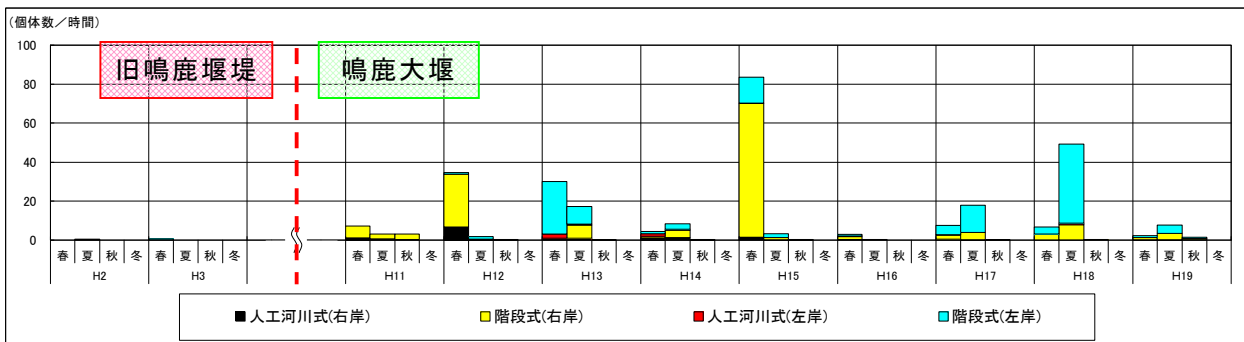


図 6.3-32 魚道別アユの遡上個体数

- 注) 平成 2 年度：魚道の下流端を刺網で仕切った後、魚道内への通水を停止し、残った魚類を水中観察と投網による捕獲で確認した。季節ごとに調査回数で割った値を時間あたりに換算した。
- 平成 3 年度：魚道上流部の隔壁全面に遡上魚捕獲トラップを設置し、採捕状況を 24 時間ごとに確認した。季節ごとに調査回数で割った値を時間あたりに換算した。
- 平成 11 年度以降：24 時間魚道に採捕網を設置して遡上魚の採捕状況を 2~3 時間ごとに確認した。季節ごとに調査回数で割った値を時間あたりに換算した。

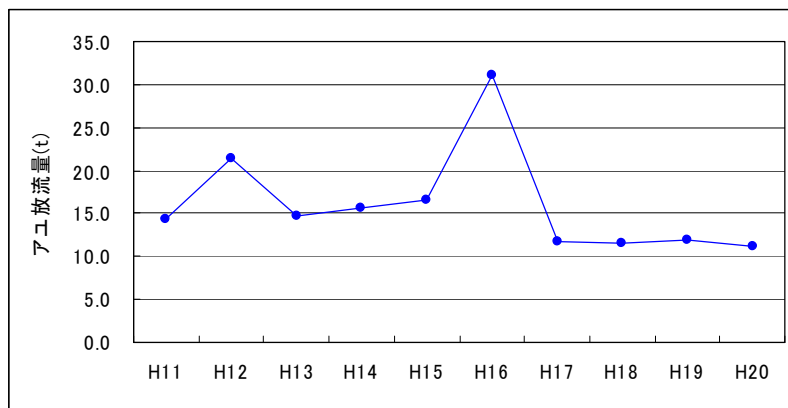
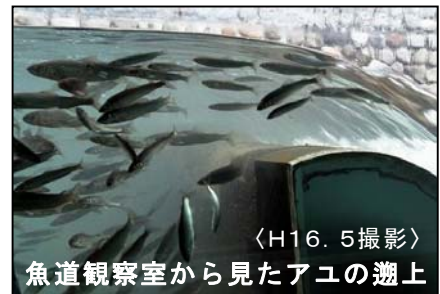


図 6.3-33 アユの放流量

エ. サクラマス等の遡上状況

大型の回遊魚であるサケ科のサクラマスについては、鳴鹿大堰の暫定運用以前には下流までの確認であったものが、運用開始後は主に階段式魚道を利用して遡上していることが確認されている(図 6.3-34、図 6.3-35)。しかし、魚道での遡上確認は数個体であり、魚道の効果が明確になっていない。また、漁協等のヒアリングにより、「平成 20 年度は魚道流量が多かったため、サクラマスの遡上量が多かった」との情報もあったことから、魚道流量を増加することで遡上環境の改善が可能であると考えられる。漁協聞き取りにより、得られた情報を図 6.3-36に示す。

なお、サクラマスの降下状況は不明である。

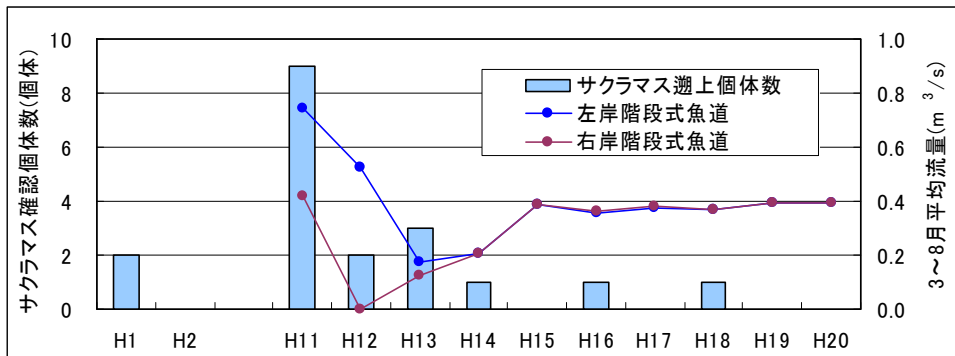


図 6.3-34 サクラマス遡上個体数と魚道流量との関係

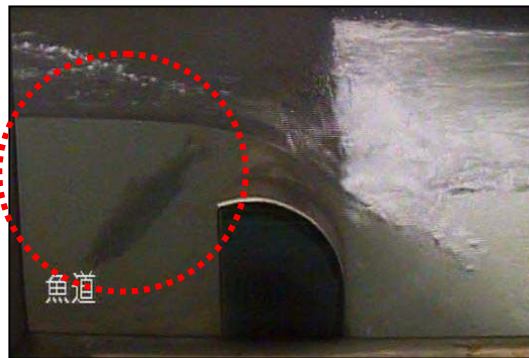


図 6.3-35 階段式魚道を遡上するサクラマス

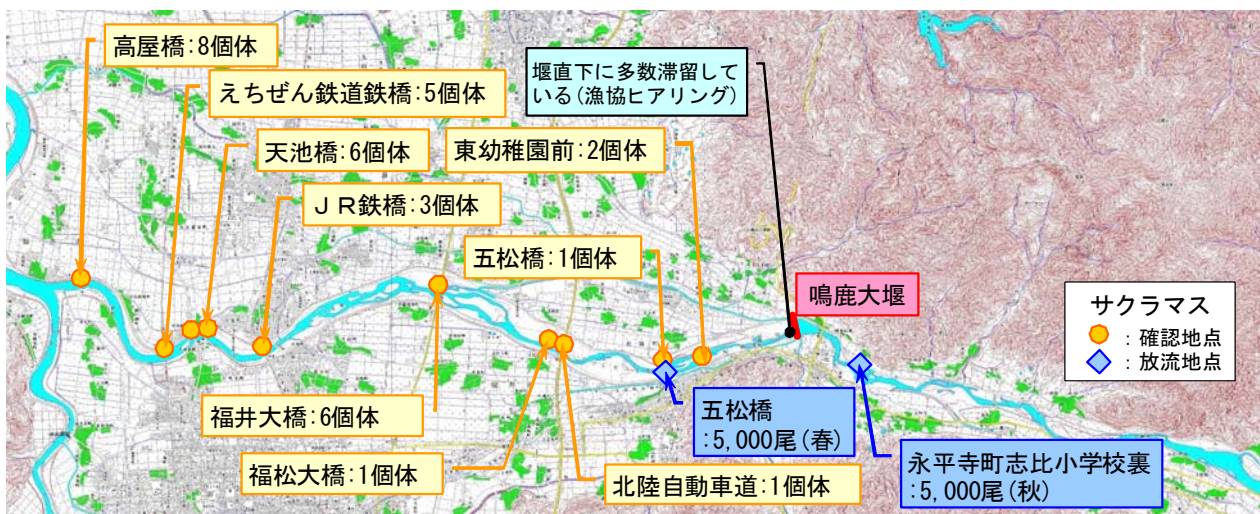


図 6.3-36 H20 サクラマス確認地点(釣果:2/1~5/31)・放流地点(ヒアリング等結果)

b. カマキリ(アラレガコ)の遡上阻害

事業がカマキリ(アラレガコ)の移動性に影響を与える要因としては、鳴鹿大堰の運用や鳴鹿橋の継足工事による水質や流況の変化によって、鳴鹿大堰の下流域や湛水域において、カマキリ(アラレガコ)の生息環境に変化が起こることが考えられる。

鳴鹿大堰は平成11年3月から平成16年3月まで暫定運用が行われ、平成16年4月に本格運用を開始した。鳴鹿橋の継足工事は平成14年10月31日より開始された。なお、事業による影響ではないが、鳴鹿堰堤時代から存在していた湛水域は流速がやや遅く、水深が深いといったように環境が上下流の瀬の部分と異なっている。

一方、鳴鹿大堰には鳴鹿堰堤にも設置されていた階段式魚道の他に主に底生魚を対象とした人工河川式魚道を設けたため、カマキリ(アラレガコ)の移動阻害が解消されると考えた。また、湛水域に捨て石、覆土、根固ブロックによる浅場も整備しており、カマキリ(アラレガコ)の移動に利用されると想定した。

平成11年度～20年度におけるカマキリ(アラレガコ)の確認状況を表6.3-22、図6.3-37に示す。なお、平成元年度から平成10年度までについては、鳴鹿大堰の下流では平成元～3、5～7年度及び10年度に確認しているが、上流では確認していない。

カマキリ(アラレガコ)は平成11年3月の魚道稼働以来、平成16年度まで、人工河川式魚道及び階段式魚道(魚道上流部を含む)で確認しており、経年的に変動はあるものの継続して遡上している。また、平成16年度の魚類上下流調査で湛水域(鳴鹿橋上流)においてカマキリ(アラレガコ)を採捕しており、遊泳力の弱いカマキリ(アラレガコ)が新設魚道を通して湛水域まで通過することが明らかになった。

表 6.3-22 調査によるカマキリ(アラレガコ)の確認個体数(平成11～20年度)

調査区間		H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
中流域	18.0～29.4km	×	4	10	20	47	30			5	
鳴鹿大堰 29.4km	階段式魚道	2	×	×	×	×	×	1	×	×	1
	人工河川式魚道	5	×	×	1	26	1	10	39	3	2
	湛水域			×	×	2※	1			×	
鳴鹿大堰上流	31.2km～					×				×	
合計		7	4	10	21	75	32	11	39	8	3

× 調査は行われたが未確認 ※目視確認

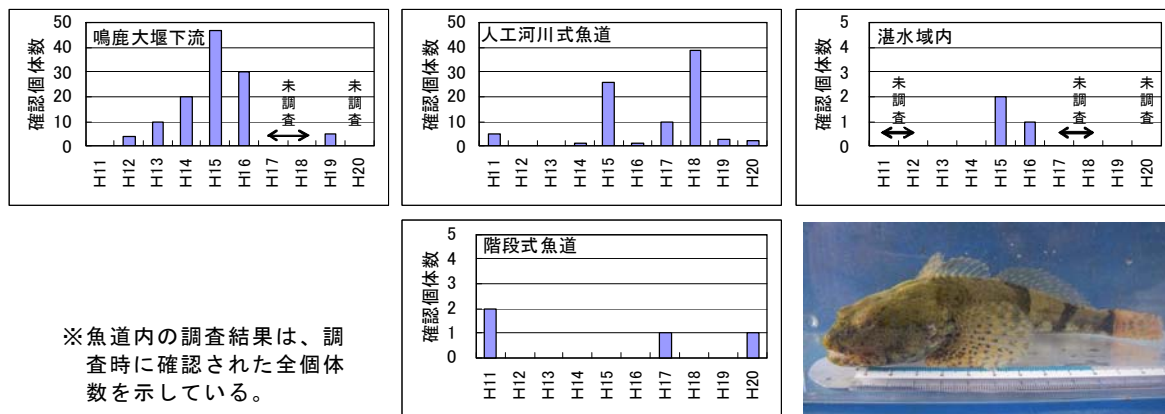
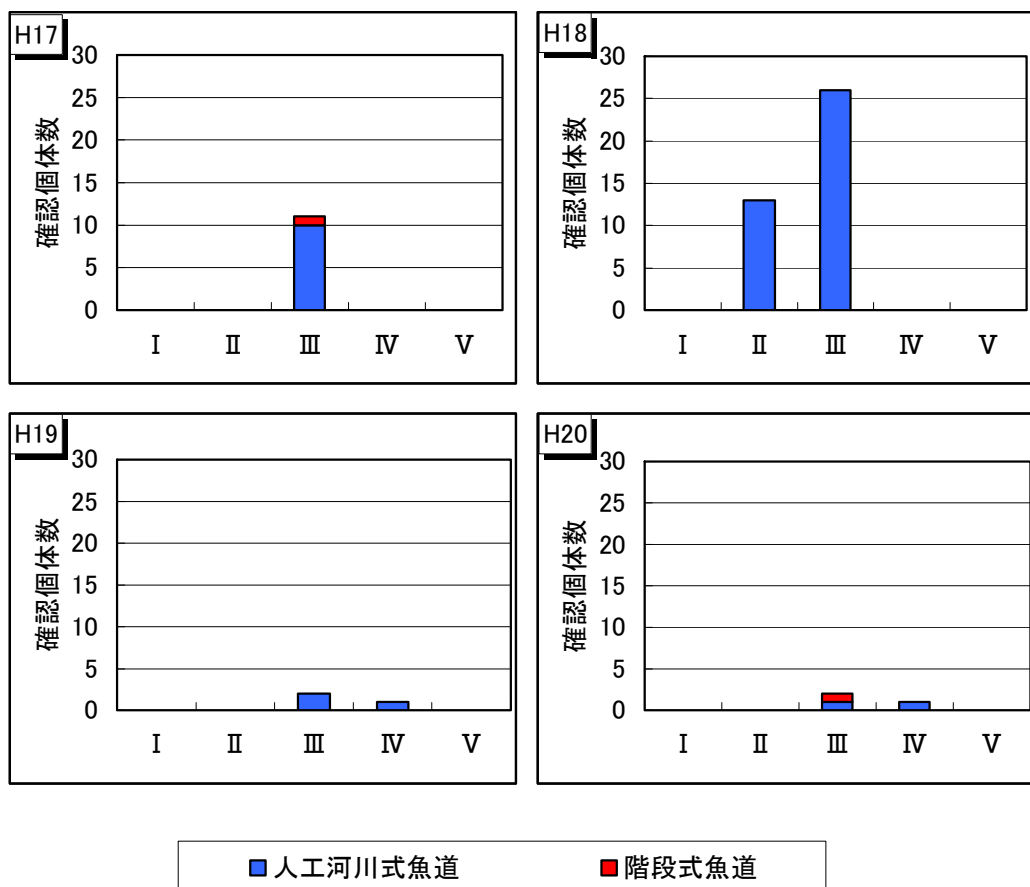


図 6.3-37 調査によるカマキリ(アラレガコ)の確認個体数(平成11～20年度)

また、平成 17～20 年度の魚道におけるカマキリ(アラレガコ)の調査結果について、体長区分別に整理を行った。整理結果を図 6.3-38に示す。

調査年ごとに変動はあるものの、体長が 5～10cm の個体を多く確認している。カマキリ(アラレガコ)は、仔魚期を沿岸で過ごした後、稚魚に成長して川を遡上する。成魚は体長 20cm 程度となるが、海域から河口へ入ってきた個体は 1.5～2cm、中流の生息場まで遡上した個体は 4～5cm となることから、魚道で確認した個体が海からの遡上個体である可能性が示唆される。



体長区分	I	II	III	IV	V
体長	～3cm	3～5cm	5～10cm	10～20cm	20cm～

図 6.3-38 調査によるカマキリ(アラレガコ)の確認個体数(体長区分別)

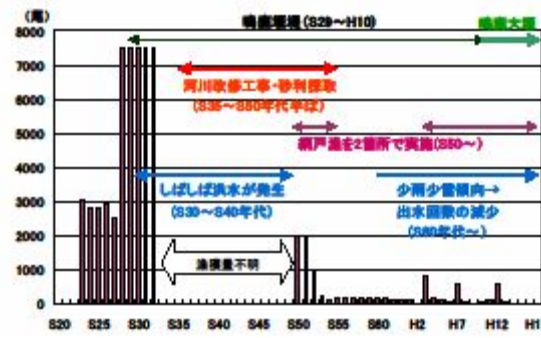
鳴鹿大堰上流の瀬の地点である浄法寺での確認はなかったが、水中カメラを用いた湛水域の観察で、カマキリ(アラレガコ)の可能性もあるカジカ類が湛水域内の各地点で確認されたこと(図 6.3-39参照)、漁業者からの聞き取りにより鳴鹿大堰の上流で確認したとの情報があることから(図 6.3-40参照)、個体数まだ少ないものの、カマキリ(アラレガコ)が魚道を遡上して堰上流の河川域に生息するようになり、分布を拡げていることが確認できている。今後、これらの生息状況の確認に努める必要がある。

なお、カマキリ(アラレガコ)の堰上流での確認が少ないことについては、湛水域の上流端個所には水際の浅場がなく、遊泳力の弱いカマキリ(アラレガコ)の遡上が可能な環境の連続性について問題が残っている可能性が考えられる。平成11年度から平成14年度まで堰直下流地点での確認がなかったが、この原因として平成11年度以降、カマキリ(アラレガコ)の主な生息場所である、瀬の大きな浮き石のある地点での調査を行っていないためと考えられる。



図 6.3-39 アイボールカメラにより確認されたカジカ類

■ 漁獲量の変遷



出典 「アラレガコの生息について」 国土交通省福井河川国道事務所

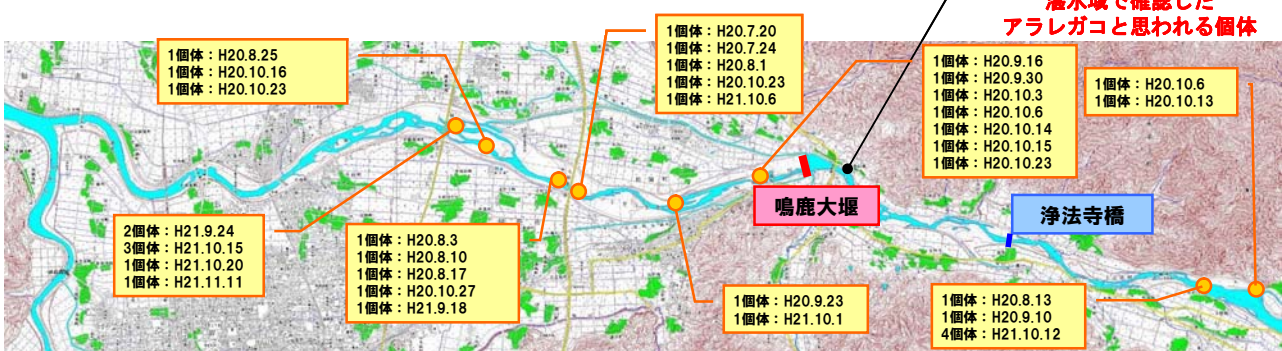


図 6.3-40 漁協等ヒアリングによるカマキリ(アラレガコ)確認状況

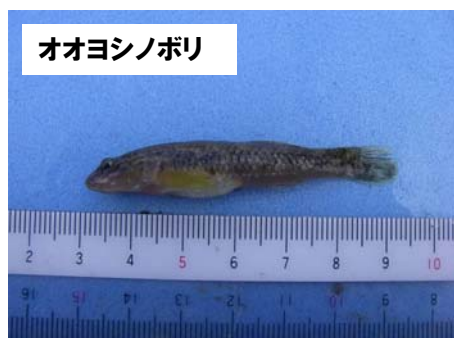
c. 回遊性魚類の陸封化

鳴鹿大堰周辺では、アユ、サケ、ウキゴリ、オオヨシノボリ等の回遊性魚類を確認した。これらの魚類のうち、ダム湖等において陸封されやすいハゼ科の魚類について、鳴鹿大堰の湛水域内での確認状況を表 6.3-23に示す。

これらの種については、鳴鹿大堰の下流、湛水域内、湛水域の上流の全てで確認していることから、堰による分断の影響は小さいと考えられる(表 6.3-20)。また、通常、成魚の体長は7~10cm、夏季の遡上期の体長は1.5~2cmであるのに対して、湛水域内で確認した個体の体長をみると、オオヨシノボリで3cm以下の個体を確認したものの、その他の種では概ね5~10cm程度の個体を確認しており、小型の個体を確認していないことから、鳴鹿大堰において陸封化している可能性は小さいと考えられる。

表 6.3-23 鳴鹿大堰湛水域におけるハゼ科魚類確認状況(平成19年度調査)

No.	目名	科名	和名	調査地区	湛水域								
					季節								
					春	最大長 (cm)	最小長 (cm)	夏	最大長 (cm)	最小長 (cm)	秋	最大長 (cm)	最小長 (cm)
1	スズキ目	ハゼ科	ドンコ	16	3	8.6	7.5	12	8.9	5.2	1	7.9	7.9
2			ウキゴリ	9	4	11.4	9.3	4	10.0	5.2	1	11.1	11.1
3			シマヨシノボリ	5	1	6.6	6.6	4	5.9	4.7			
4			オオヨシノボリ	2				2	5.3	2.7			
5			トウヨシノボリ	5	1	7.9	7.9	4	5.7	4.2			
6			ヌマチチブ	2				2	7.7	6.6			



2)稚魚等の流下状況の変化

鳴鹿大堰における回遊魚の代表種としてアユが挙げられる。アユが鳴鹿大堰の上流で産卵した場合には、仔アユが堰を通過する際に損耗する可能性が考えられるが、アユは河川中流域下部を主な産卵場としていることから、九頭竜川では鳴鹿大堰の上流で産卵するアユは下流で産卵するアユと比較して少ないと考えられる。そこで、鳴鹿大堰を通過する仔アユの状況を把握するために、仔アユ降下量調査を行った。

表 6.3-24 仔アユ降下量調査の概要

項目	概要
調査時期	アユ産卵期と考えられる 10 月上旬～12 月初旬
調査地点	鳴鹿橋(湛水域)、取水口、中角橋(下流河川) 他
調査方法	濾水計を装着した MTD ネット(口径 0.6m、側長 1.5m、網目 0.32mm)を水面下表層に定位させ、濾水量を測定するとともに 10 分間仔アユを採取。なお、調査時間は 2 時間毎とした。
仔アユ流下量の推定方法	中・伏木(1979、滋賀県水産試験場)に従い、10 分間で採集された仔アユの流下量から、調査期間中の全流下量を推定。

仔アユの降下量について、2 時間毎の調査結果を比較すると、20:00 から 22:00 の調査結果にピークがみられたため、各調査回の 20:00 時点の結果について比較を行った。

平成 13 年度から平成 16 年度の仔アユ降下量調査における、20:00 時点の結果を図 6.3-41 に示す。平成 13 年度から平成 15 年度の調査年度において、仔アユの密度は 10 月中旬に最も高くなった。なお、平成 16 年度は春季から秋季まで出水が多く、他の年に比べ著しく仔アユの密度が低かったため、同様の傾向は確認できなかった。

調査期間中の最高密度は鳴鹿大堰より約 10.5km 下流の中角橋で 60.8～232.0 尾/m³、約 9km 下流の九頭竜橋で 40.0 尾/m³、鳴鹿大堰上流の鳴鹿橋で 0.6～2.1 尾/m³、鳴鹿大堰の右岸魚道で 0.3～2.7 尾/m³、左岸魚道で 0.7～1.9 尾/m³であった。鳴鹿大堰下流の中角橋で多く、上流では少ないという傾向は平成 13 年度から平成 15 年度まで共通しており、各年の最大密度を比較すると、堰上流の鳴鹿橋の仔アユの密度は堰下流の中角橋の 0.7% (平成 13 年度)～1.3% (平成 15 年度)であった。

なお、鳴鹿大堰の上流にあるアユの産卵場は主に落ちアユを捕獲するために漁業者が作った人工産卵場『ツケ場』であり、ツケ場に集まったアユは産卵することなく漁獲されるものがほとんどである。

以上のことから堰上流から降下する仔アユの密度は堰下流の中角橋の 1%程度であることから、アユの主要な産卵場は堰下流であると考えられる。したがって、堰上流に生息するアユが産卵のため速やかに堰を降下することが重要であるが、アユの降下状況は明らかでないことから、今後の調査が必要であると考えられる。

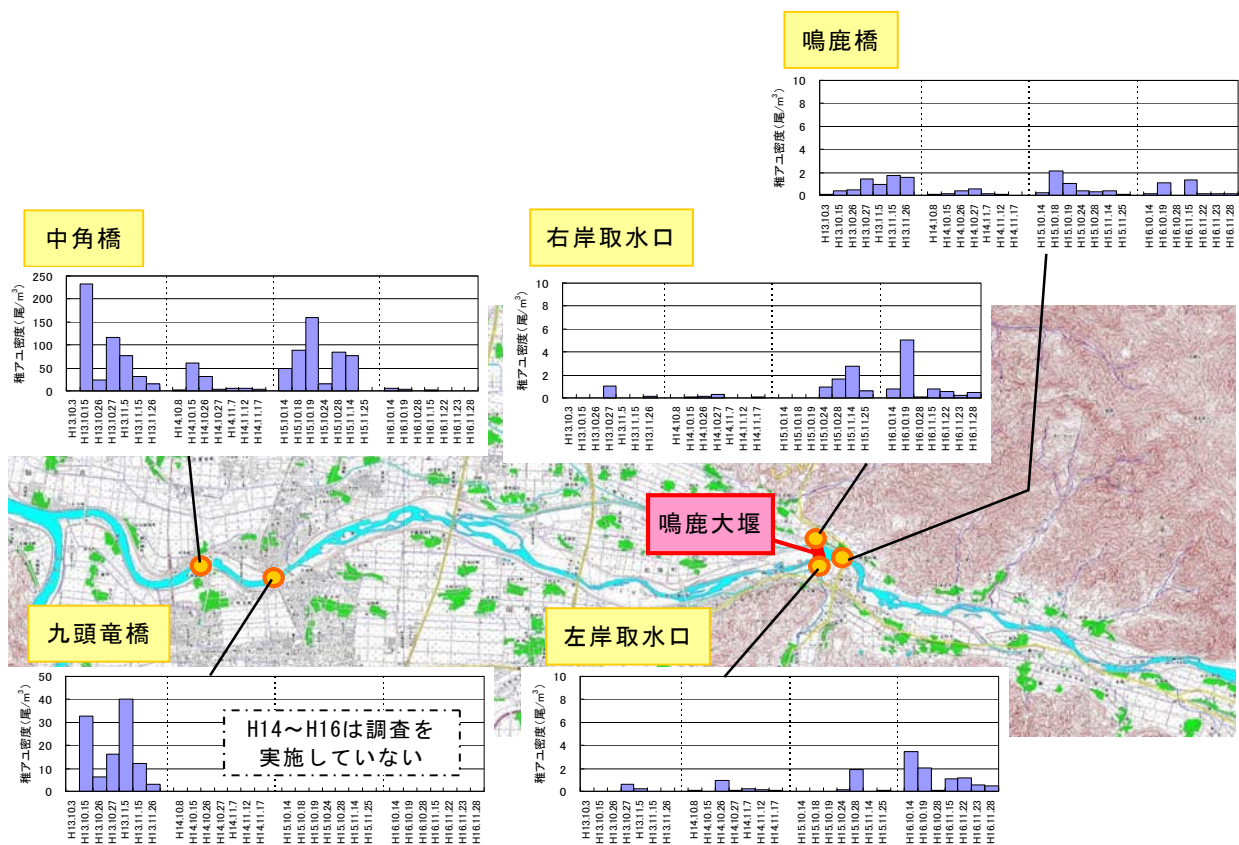


図 6.3-41 アユの流下仔魚調査結果（平成 13 年度～平成 16 年度）

※各調査 20 : 00 時点における調査結果

※濾水計を装着した MTD ネット(口径 0.6m、側長 1.5m、網目 0.32mm)を水面下表層に定位させ、濾水量を測定するとともに 10 分間仔アユを採取し、その 10 分間で採集された仔アユの流下量から、調査期間中の全流下量を推定した。なお、調査時間は 2 時間毎とした。

(3) 堰による影響の検証

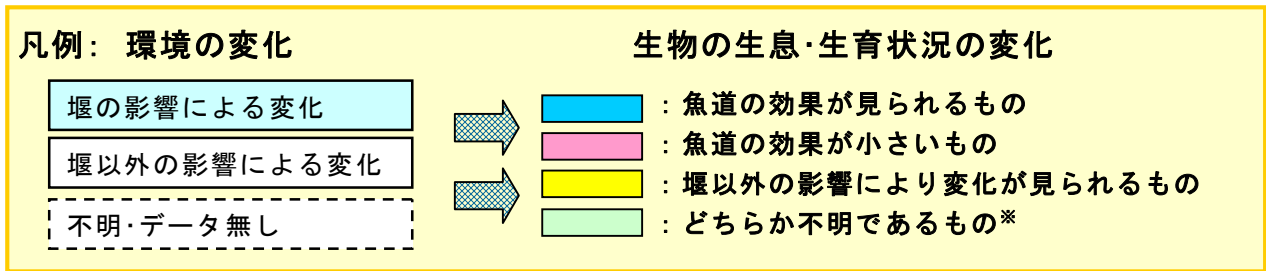
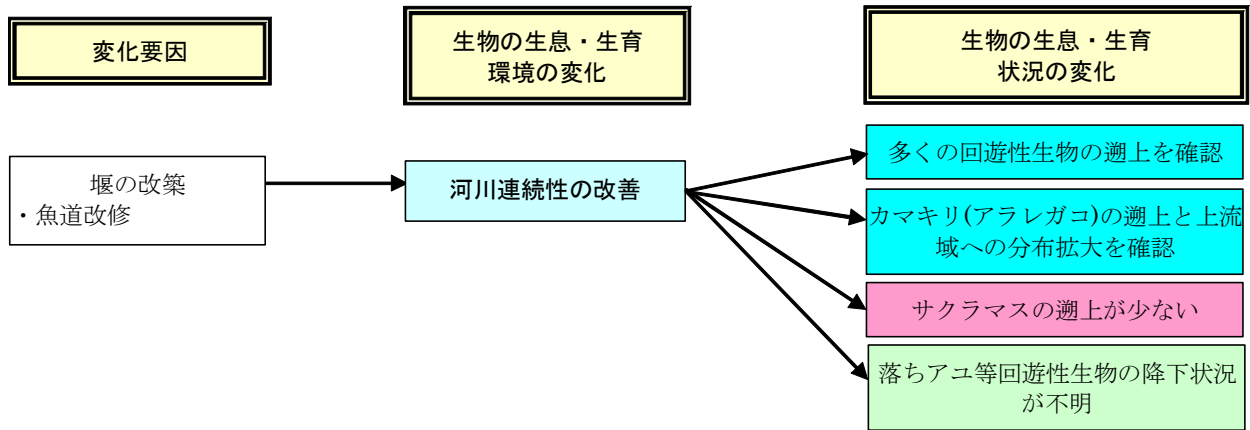
連続性の観点からみた生物の変化に対する堰による影響の検証結果を表 6.3-25、図 6.3-42に示す。

表 6.3-25 連続性の観点からみた生物の変化に対する影響の検証結果

検討項目		生物の変化の状況	堰の存在・供用に伴う影響	堰の存在・供用以外の影響	検証結果	
生息状況の変化	回遊性魚類等の遡上阻害	旧鳴鹿堰堤の魚道で調査を行った際に確認された魚類(8種)と比較して、鳴鹿大堰の魚道ではより多くの魚種に利用されている(人工河川式魚道で45種、階段式魚道で39種、合計49種)。	堰・湛水域の存在(魚道の改修)	—	旧鳴鹿堰堤と比較して鳴鹿大堰の魚道はより多くの魚種・個体に利用されている。	●
		サクラマス、サケ等の大型回遊魚の遡上を確認したが、数個体であった。	堰・湛水域の存在(魚道の改修)	—	サクラマス、サケ等の大型回遊魚の遡上において、魚道の効果がみられていない。	—
		カマキリ(アラレガコ)は平成11年3月の魚道稼働以降、魚道内で確認するとともに、漁業者からの聞き取りにより大堰上流での確認情報があつた。	堰・湛水域の存在(魚道の改修)	—	遊泳力の弱いカマキリ(アラレガコ)が魚道を遡上して堰上流の河川域に生息するようになり、分布を拡げていることが確認できている。	●
稚魚等の流下の緩和による魚類生息状況の変化	アユの主な産卵場は鳴鹿大堰よりも下流の範囲であり、鳴鹿大堰上流の鳴鹿橋地点における調査時の仔アユの最高密度は、下流の中角橋地点の1%程度であった。	堰・湛水域の存在(魚道の改修)	—	鳴鹿大堰の上流域で産卵するアユは下流で産卵するアユの量より少なく、アユの主要な産卵場は堰下流であると考えられる。	?	

注)検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が魚道の効果によると考えられる場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が魚道以外の影響によると考えられる場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する要因が不明であった場合
- ：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合



※ 魚道の改修による変化、堰以外の影響による変化ともに可能性が高いものを“どちらか不明”とした。

図 6.3-42 連続性の観点からみた生物の変化に対する影響の検証結果

6.3.6 重要種の生息・生育状況の変化の検証

(1)変化状況の把握

重要種の生息・生育状況の変化を表 6.3.26～表 6.3-31に示す。

表 6.3.26(1) 重要種（鳥類）の生息状況の変化

種和名	指定区分	生態的特徴	確認年度				変化の状況
			H2・3 (1990・ 1991)	H5 (1993)	H11 (1999)	H16 (2004)	
ササゴイ	準絶	河川や湖沼など、低地や平地の水辺に生息する。水辺近くのヤナギ、雑木林、マツ、スギ、街路樹などに営巣する。魚、カエル、ザリガニ、水生昆虫などを食べる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。
チュウサギ	NT 準絶	平地の水田、浅い水辺、水辺近くの草地に多く、海岸や山地の水辺には少ない。昆虫類、魚類、カエル類、クモ類、ザリガニ類などを食べる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。
オシドリ	DD 準絶	大木の多い広葉樹林内の河川や湖沼に生息し、好んでングリ類の実を食べる。植物質が中心だが、水生昆虫なども食べる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。
カワアイサ	注目	水かきと翼を使って水中を泳ぎ魚をとらえる。		●	●	●	H5、H11、H16に確認している。
ミサゴ	NT I類	海、河川や湖などで中・小型魚を捕食し、崖や高木で営巣する。		●	●	●	H5、H11、H16に確認している。
ハチクマ	NT II類	5月中旬頃に、低山のマツなどに枝で浅い椀型の巣を作り、2～3卵を産む。巢内のハチを好むほか、昆虫や小型脊椎動物を捕食する。			●	●	H11に確認し、H16も引き続き確認している。
オオタカ	国内 NT I類	森林内や森林に隣接した草地や農地で、主にハト類など鳥類を採餌する。繁殖期には山地の林にすみ、秋冬期には平地から山地の林にいて、農耕地や市街地にもときどき出現する。		●	●		H5、H11に確認している。
ハイタカ	NT II類	平地から亜高山帯の林に生息するが、冬期は河川敷、ヨシ原、林近くの農耕地にも現れる。林内や林縁部で、小鳥類を捕らえるが、ネズミやリスなどの哺乳類を捕食することもある。		●	●		H5、H11に確認している。
ノスリ	II類	河川敷、農耕地、干拓地、ヨシ原などでもよく見られる。ネズミなどの小型哺乳類、カエル、ヘビ、昆虫、鳥類などを捕食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。
サシバ	VU	丘陵地や低山帯の落葉広葉樹林、アカマツ林、スギ林などで繁殖する。主に林縁部で、カエル、ヘビ、トカゲ、ネズミ、モグラ、バッタなどの昆虫類を捕らえる。	●		●		H2・H3に確認し、H11にも確認している。
ハヤブサ	国内 VU II類	周囲に海、河川、農耕地などの開けた環境がある断崖に生息し繁殖する。餌のほとんどは小型から中型の鳥類。			●	●	H11に確認し、H16も引き続き確認している。
チョウゲンボウ	準絶	低地から高山帯の草原、農耕地、河川敷、埋立地など開けた環境に生息し、断崖、ビルや鉄橋などの人工建築物で繁殖する。ネズミ類、小鳥類、トカゲ類、カエル類、昆虫類などを捕食する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。

表 6.3.26(2) 重要種（鳥類）の生息状況の変化

種和名	指定区分	生態的特徴	確認年度				変化の状況
			H2・3 (1990・1991)	H5 (1993)	H11 (1999)	H16 (2004)	
ウズラ	NT 注目	全長20cm。全身褐色、黄土色、茶色のまだら模様で、オスでは頬から喉にかけて赤茶色。		●			H5のみ確認している。
コチドリ	準絶	裸地に近い砂地や砂礫の多い場所で繁殖する。主に、水生昆虫やミミズなどの小動物を食べる。		●	●	●	H5、H11、H16に確認している。
イカルチドリ	II類	大きな河川の中流部に生息し、礫の多い河原で繁殖する。餌は、主に昆虫などの動物質をとる。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。
イソシギ	準絶	河原の発達した中流域の河川で多く見られる。ユスリカ類やトビケラ類などの水棲昆虫の幼虫をついばむ。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。
コアジサシ	国際 VU I類	海岸や河川、湖沼などの水辺に生息し、水中にダイビングして主に小型魚類を採餌する。近年では造成地を利用することも多い。	●	●	●		H2・H3、H5、H11と確認されたが、H16は確認されていない。
ヨタカ	VU	平地から山地の明るい林や草原に生息する。夜行性で日没前後から活動を開始し、口を開けて羽音を立てずに飛び回り、口の中に入る飛翔性の昆虫類を捕食する。	●				H2・H3のみ確認している。
ヤマセミ	準絶	里山から山地にある清流の谷川に沿って生息する。林道ののり面や川沿い等の崖に横穴を掘って巣にする。	●	●	●		H2・H3、H5、H11と確認されたが、H16は確認されていない。
サンショウクイ	VU II類	樹冠で昆虫を採餌する小型の鳥である。平地や山地の、大きな落葉樹のある所にすむ。		●	●		H5、H11に確認している。
ノジコ	NT II類	本州中北部でのみ繁殖が確認されている日本の固有種である。低山帯の落葉広葉樹林の低木の枝上や地上に、枯草、細い茎、細い根などで皿型の巣を作り、昆虫類を採餌する。			●		H11のみ確認している。
コムクドリ	注目	落葉広葉樹林や村落付近などに生息し、クモ類、昆虫、植物の果実などを食べる。樹洞、建築物の隙間、キツツキ類の古巣、巣箱などに営巣する。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。

注) 指定区分

国際：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号）」

国際希少野生動植物種

国内：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年法律第75号）」

国内希少野生動植物種

VU：「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて（環境省 平成18年12月）絶滅危惧II類

NT：「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて（環境省 平成18年12月）準絶滅危惧

DD：「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて（環境省 平成18年12月）評価するだけの情報が不足している種

I類：「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック（動物編）—（福井県 平成14年）」県域絶滅危惧I類

II類：「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック（動物編）—（福井県 平成14年）」県域絶滅危惧II類

準絶：「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック（動物編）—（福井県 平成14年）」県域準絶滅危惧

注目：「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック（動物編）—（福井県 平成14年）」要注目

表 6.3.27 重要種（両生類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生態的特徴	確認年度				変化の状況
			H2・H3 (1990・1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H16 (2004)	
イモリ	NT	池・水田・湿地などの水中に多い。春から初夏に水中の草、枯葉などに産卵。雑食性。	●		●		H2・3に確認し、H13にも確認している。

注) 指定区分

NT: 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月)」 準絶滅危惧

表 6.3.28 重要種（爬虫類）の生息状況の変化

種名	指定区分	生態的特徴	確認年度				変化の状況
			H2・H3 (1990・1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H16 (2004)	
イシガメ	DD	山麓の池沼や水田、河川では上流から中流にかけて見られる。6～7月に土手などに産卵。雑食性。	●	●	●	●	4回のいずれの調査においても確認している。

注) 指定区分

DD: 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて(環境省 平成19年8月)」 評価するだけの情報が不足している種

表 6.3.30 重要種（陸上昆虫類等）の生息状況の変化

種名	指定区分	生態的特徴	確認年度						変化の状況	
			H2・H3 (1990・1991)	H4 (1992)	H9 (1997)	H14 (2002)	H16 (2004)	H20 (2008)		
モートンイトトンボ	NT	平地、丘陵地の湿地、湿地化した農田に生息。6～8月に出現。	●			●			●	H2・H3、H14、H20に確認している。
マイコアカネ	注目	平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する池沼に生息し、海岸沿いの汽水域の沼等にも生息する。				●				H14のみ確認している。
カワラスズ	注目	川原の石の間に生息するが、適当な広さの砂礫地と餌となる有機物があれば生息していくことが可能である。			●					H9のみ確認している。
ハリサシガメ	DD	幼虫は活発に地上を歩行し、主としてアリを捕食する。	●							H2・H3のみ確認している。
シロヘリツチカメムシ	NT 準絶	体長6.0～8.0mm。ススキに半寄生するカナビキソウに依存する。			●					H9のみ確認している。
イトアメンボ	VU II類	池沼、水田など静水域の水辺の湿地上にすみ、ときに小さな群れを作る。捕食性で、小昆虫をはじめミジンコやボウフウを捕食する。		●	●					H4、H9に確認したが、その後確認していない。
ハイイロボクトウ	注目	幼虫はヨシを食するが、ヨシ原のあるところ全てには分布しておらず、かなり限定された環境のヨシ原にのみ生息する。		●						H4のみ確認している。
アオモンギンセダカモクメ	準絶	幼虫はカワラヨモギを食する。カワラヨモギの群落のある草地に生息する。			●	●				H9、H14に確認したが、その後確認していない。
スナハラゴミムシ	NT	灯火によく飛来する。			●					H9のみ確認している。
セアカオサムシ	準絶	河原、雑木林、高原と幅広く分布する。	●	●	●	●	●			H2・3以降H16まで確認したが、H20には確認していない。
オシマヒメ TENTOU	準絶	日当たりのよいササの群落に生息する。					●			H16に初めて確認している。
ワモントゲトゲゾウムシ	注目	アキグミの衰弱木や枯死木に寄生している。		●						H4のみ確認している。
フカイオオドロバチ	II類	海岸沿いから河川地、低山帯の泥や粘土層の多い環境に分布を広げている。				●			●	H14、H20に確認している。
フクイアナバチ	NT 準絶	日本固有亜種。幼虫の餌としてバツタ目のハネナシコロギスのみを狩り、人家の周辺に営巣する。		●						H4のみ確認している。
コムカシハナバチ	II類	9月中旬～10月に河川域に姿を現し、砂混じりの地中に穴を掘って巣を作り、花粉や蜜を集めて幼虫を育てる。			●				●	H9、H20に確認している。

注) 指定区分

VU: 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて (環境省 平成 19 年 8 月)」 絶滅危惧 II 類

NT: 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて (環境省 平成 19 年 8 月)」 準絶滅危惧

DD: 「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて (環境省 平成 19 年 8 月)」 評価するだけの情報が不足している種

II類: 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平成 14 年)」 県域絶滅危惧 II 類

準絶: 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平成 14 年)」 県域準絶滅危惧

注目: 「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平成 14 年)」 要注目

表 6.3-31 重要種（植物）の生育状況の変化

種名	指定区分	生態的特徴	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流				変化の状況
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16	
ノダイオウ	VU II類	湿った原野に生育。		●						H12のみ確認している。
リンボク	注目	山地の谷間に生育。				●				H2・3のみ確認している。
コゴメウツギ	II類	伐採跡地や二次林の 林内から林縁に生育。		●						H12のみ確認している。
フユザンショウ	準絶	低地の林内に生育。						●		H5のみ確認している。
ホザキノフサモ	注目	池沼、河川、水路に生 育。	●	●					●	H3、H5、H16に確認した が、その後確認してい ない。
フサモ	I類	池沼、水路に生育。					●	●		H3、H5に確認したが、そ の後確認していない。
カワヂシャ	NT 準絶	湿地に生育。	●	●					●	H6、H12、H16に確認した が、その後確認してい ない。
フジバカマ	VU II類	川岸の湿った草地や土 手に生育。	●	●	●	●		●	●	ほぼ毎回確認している。
ノニガナ	II類	草地に生育。	●			●				H2・3、H6に確認したが、 その後確認していない。
コオニタビラコ	II類	畦畔に生育。	●			●				H2・3、H6に確認したが、 その後確認していない。
エビモ	注目	川の流水域や湖沼に 生育。		●		●	●	●		H2・3、H5、H12に確認した が、その後確認してい ない。
ササバモ	準絶	池沼、溜池、用水路な どの流水中に生育。		●						H12のみ確認している。
ノカンゾウ	II類	平地から低山の草地に 生育。						●		H5のみ確認している。
オモト	準絶	照葉樹林下に生育。				●				H2・3のみ確認している。
ドロイ	準絶	塩湿地に生育。				●				H2・3のみ確認している。
トキワススキ	準絶	暖地の海岸近くや堤 防、丘陵地に生育。	●							H6のみ確認している。
セイタカヨシ	注目	水湿地に生育。		●						H12のみ確認している。
ショウブ	注目	池沼、溜池、水路に生 育。				●		●	●	九頭竜川橋～鳴鹿橋上 流では、H2・3、H5、H16と 確認している。
ミクリ	NT 準絶	湖沼、河川、水路など の水辺に生育。		●		●			●	H2・3、H12、H16に確認し たが、その後確認してい ない。
コガマ	準絶	池や沼、川の縁に生 育。						●		H5のみ確認している。
シオクグ	準絶	海水の出入りする河口 付近の湿地に生育。		●						H12のみ確認している。
シロガヤツリ	注目	平地の湿地に生育。	●							H6のみ確認している。

注) 指定区分

VU:「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて
(環境省 平成19年8月)」 絶滅危惧Ⅱ類

NT:「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて
(環境省 平成19年8月)」 準絶滅危惧

I類:「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平
成14年)」 県域絶滅危惧Ⅰ類

II類:「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平
成14年)」 県域絶滅危惧Ⅱ類

準絶:「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平
成14年)」 県域準絶滅危惧

注目:「福井県の絶滅のおそれのある野生動物—福井県レッドデータブック(動物編)—(福井県 平
成14年)」 要注目

(2)堰による影響の検証

重要種のうち、過去に複数回連続して確認しているにもかかわらず、最新の現地調査において確認しておらず、生息・生育状況に変化があった可能性がある種を抽出し、堰による影響について検証する。

表 6.3.32 重要種（鳥類）に関する堰による影響の検証

種名	H2・H3	H5	H11	H16	堰による影響の検証
コアジサシ	●	●	●		△：堰改築による影響なのか、大規模出水による影響なのか不明である。
ヤマセミ	●	●	●		△：堰改築による影響なのか、大規模出水による影響なのか不明である。

(凡例) 堰による影響の検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用による場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用以外による場合
- ×：生物の生息・生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

表 6.3.33 重要種（魚類）に関する堰による影響の検証

種名	～H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	堰による影響の検証
スジシマドジョウ	H4・H5										？：H4・H5以外の調査では確認されおらず、生息状況が不明である。

(凡例) 堰による影響の検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用による場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用以外による場合
- ×：生物の生息・生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

表 6.3.34 重要種（陸上昆虫類等）に関する堰による影響の検証

種名	H2・H3	H4	H9	H14	H16	H20	堰による影響の検証
イトアメンボ		●	●				？：2回しか確認していないため、生息状況に変化があったかどうか不明である。
アオモンギンセダカモクメ			●	●			？：2回しか確認していないため、生息状況に変化があったかどうか不明である。
セアカオサムシ	●	●	●	●	●		△：堰改築による影響なのか、大規模出水による影響なのか不明である。

(凡例) 堰による影響の検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用による場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用以外による場合
- ×：生物の生息・生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

表 6.3.35 重要種（植物）に関する堰による影響の検証

種名	H2・ H3	H5	H6	H12	H16	H17	堰による影響の検証
ホザキノフサモ			●	●	●		△：堰改築による影響なのか、大規模出水による影響なのか不明である。
フサモ	●	●					？：2回しか確認していないため、生息状況に変化があったかどうか不明である。
カワヂシャ			●	●	●		△：堰改築による影響なのか、大規模出水による影響なのか不明である。
ノニガナ	●		●				？：2回しか確認していないため、生息状況に変化があったかどうか不明である。
コオニタビラコ	●		●				？：2回しか確認していないため、生息状況に変化があったかどうか不明である。
エビモ	●	●		●			△：堰改築による影響なのか、大規模出水による影響なのか不明である。
ミクリ	●			●	●		△：堰改築による影響なのか、大規模出水による影響なのか不明である。

(凡例) 堰による影響の検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用による場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用以外による場合
- ×：生物の生息・生育状況に、環境の変化による影響がみられなかった場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

6.4 生物の生息・生育状況の変化の評価

「生物の生息・生育状況の変化の検証」における検証結果について、評価の視点を定めて場所ごとに評価を行い、今後の方針を整理した。

評価の視点は「第三次生物多様性国家戦略※」等を参考に、生物の生息・生育環境の保全の視点から設定することとした。

視点の例として以下のものがあげられる。

- ・種の絶滅、地域個体群の消滅を回避する
- ・その川(地域)がもともと有していた多様な環境の保全・復元を図る
- ・連続した環境を確保する
- ・その川(地域)らしい生物の生育・生息環境の保全・復元を図る
- ・外来種対策によりその川(地域)の生物多様性を確保する

※平成 4 年(1992 年)のリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)で調印された「生物の多様性に関する条約」を受け、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する基本方針と国のとるべき施策の方向を定めたものであり、平成 7 年(1995 年)に策定された後、全面的な見直しを行い平成 14 年に「新・生物多様性国家戦略」が、平成 19 年 11 月に「第三次生物多様性国家戦略」が策定された。

6.4.1 本川上流

本川上流における生物の生息・生育状況に関する評価を表 6.4-1に示す。

表 6.4-1 生物の生息・生育状況に関する評価(本川上流)

検討項目			生物の生息・生育状況 の変化	堰との関連の 検証結果	評価		今後の方針
					視点	評価結果	
魚類	生息 状況の 変化	魚類相	湛水前と大きな変化はみられないが、サケなどの回遊魚が継続して確認されるようになった。	●：サケなどの回遊魚が継続して確認されるようになっており、魚道改修の効果である可能性がある。	地域に特有の環境を保全する。	魚道の改修により魚類の生息環境の分断について改善されている可能性がある。	・今後とも魚道及び本川上流におけるモニタリングを実施し、魚道の効果の把握に努める。
		外来種	本川上流において、外来魚であるオオクチバス、ブルーギルを堰暫定運用後に確認している。	?：オオクチバス、ブルーギルについて、湛水域から分布拡大した可能性が考えられるが、移動や人による持ち込みの可能性もあり、どちらの影響か不明である。	地域に特有の環境を保全する。	外来種による影響が懸念されるため、在来種保全の視点から現状は好ましくない。	・外来生物法等に関する啓発・広報に努めるとともに、地域の方々と連携し、外来魚の駆除対策を実施する。 ・特定外来魚の生息状況について調査を行う。
底生動物	生息 状況の 変化	底生動物相	主要構成種に変化はみられない。	－：水質の変化等もみられておらず、底生動物相についても影響は無いと考えられる。	－	－	－
本川上流の まとめ			(1)本川上流の特徴 本川上流にはオイカワ、ウグイなどの流水環境を好む魚類が多く生息している。 (2)堰の影響 サケ等の回遊魚が継続的に確認されており、魚道の改修の効果である可能性がある。 (3)堰以外の影響 湛水域周辺の人の利用により、外来種が意図的・非意図的に持ち込まれている可能性がある。				

凡例) 堰との関連の検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰によると考えられる場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰以外によると考えられる場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- －：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ?：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

6.4.2 湛水域内

湛水域内の生物の生息・生育状況に関する評価を表 6.4-2に示す。

表 6.4-2 生物の生息・生育状況の変化に関する評価(湛水域内)

検討項目			生物の生息・生育状況の変化	堰との関連の 検証結果	評価		今後の方針
					視点	評価結果	
魚類	生息状況の変化	魚類相	改築前後の魚種組成をみると、カマキリ(アラレガコ)などの回遊魚、オオクチバスなどの外来魚を新たに確認した。また、緩流域を好むギンブナ、モツゴ等の魚類は引き続き多く確認した。	●:魚種組成からみると、魚道の改修により、新たに回遊魚を確認した。緩流域に生息する魚類については顕著な増加傾向は見られなかった。	地域に特有の環境を保全する。	魚道の改修の効果が現れており、緩流域を好む魚類についても大きな変化がないことから、現状で問題はないと考えられる。	特になし。
		国外外来種	鳴鹿大堰湛水域において、外来魚であるオオクチバスを確認した。	? :堰による湛水域の水深増大により定着した可能性も考えられるが、移動や人による持ち込みの可能性もあり、どちらの影響か不明である。	地域に特有の環境を保全する。	外来種による影響が懸念されるため、在来種保全の視点から現状は好ましくない。	・外来生物法等に関する啓発・広報に努めるとともに、地域の方々と連携し、外来魚の駆除対策を実施する。 ・特定外来魚の生息状況について調査を行う。
底生動物	生息状況の変化	底生動物相	堰暫定運用前に多く確認していたカゲロウ目やトビケラ目の種類数が堰暫定運用後には少なくなり、ハエ目、その他の動物の種類数を多く確認している。	●:堰の改修により湛水域の水深が増大したことで、流水域を好む種が減少し、緩流域を好む種が増加した。	地域に特有の環境を保全する。	止水域に特徴的な種であるため、現状で問題はないと考えられる。	特になし。
附着藻類相	生育状況の変化	附着藻類相	附着藻類相については緩流域を好む緑藻類が増加している。	●:緩流域を好む緑藻類が増加しており、改築による湛水域の水深の増大の影響と考えられる。	地域に特有の環境を保全する。	止水域に特徴的な種であるため、現状で問題はないと考えられる。	特になし。
鳥類	生息状況の変化	湛水域を利用する鳥類	カワウや水面で採餌するマガモ、カルガモなどのカモ類を多数確認した。	●:堰の改修によって湛水面積が増加し、カモ類など水鳥が多く利用するようになったものと考えられる。	地域に特有の環境を保全する。	現状で問題はないものと考えられる。	特になし。
湛水域内のまとめ			<p>(1) 湛水域内の特徴 止水域～緩流域を好む魚類、底生動物等が引き続き生息するとともに、特定外来生物のオオクチバスが経年的に生息している。</p> <p>(2) 堰による影響 回遊魚が継続的に確認されており、魚道の改修の効果である可能性がある。また、止水的な環境に適応した生物が、堰改築前から引き続き生息している。また、湛水面積が増加し、カモ類など水鳥が多く利用するようになったと考えられる。</p> <p>(3) 堰以外による影響 湛水域周辺の人の利用により、外来種が意図的・非意図的に持ち込まれている可能性がある。</p>				

凡例) 堰との関連の検証結果

- : 生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用によると考えられる場合
- : 生物の生息・生育状況の変化が堰の存在・供用以外によると考えられる場合
- △ : 生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- : 生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ? : 生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

6.4.3 湛水域 (陸域)

湛水域周辺における生物の生息・生育状況に関する評価を表 6.4-3に示す。

表 6.4-3 生物の生息・生育状況に関する評価(湛水域周辺)

検討項目		生物の状況	堰との関連の 検証結果	評価		今後の方針
				視点	評価結果	
植物	生息状況の変化 植生	人工草地、構造物が多く の面積を占めており、経 年的に大きな変化はみら れていない。	－：堰建設に伴い 護岸等が整備され たことによるもの と考えられる。	－	－	－
鳥類	生息状況の変 鳥類相	人家周辺に生息するスズ メ、水辺に生息するアオ サギ、セグロセキレイや 開けた草地などを好むヒ バリなどを多数確認し た。	－：カワウが増加 している傾向がみ られるが、その他 についてはほぼ同 様な傾向であると 考えられる。	－	－	－
両生類・爬虫類	生息状況の変 両生類・爬虫類	経年的に大きな変化はみ られていない。	－：両生類・爬虫 類・哺乳類相の大 きな変化はみられ ない。	－	－	－
陸上昆虫類等	生息状況の変 陸上昆虫類等相	経年的に大きな変化はみ られていない。	－：陸上昆虫類相 の大きな変化はみ られない。	－	－	－
湛水域周辺のまとめ		<p>(1) 湛水域周辺の特徴 人工草地、構造物が多く の面積を占めており、人家 周辺に生息するスズメ、水 辺に生息するアオサギ、セ グロセキレイや開けた草地 などを好むヒバリなどを多 数確認した。</p> <p>(2) 堰の影響 堰改築に伴い護岸等が整 備されたことにより、人工 草地等が多く面積を占め ている。</p> <p>(3) 堰以外の影響 特になし。</p>				

凡例) 堰との関連の検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰によると考えられる場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰以外によると考えられる場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- －：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

6.4.4本川下流

本川下流における生物の生息・生育状況に関する評価を表 6.4-4に示す。

表 6.4-4 生物の生息・生育状況に関する評価(本川下流)

検討項目			生物の生息・生育状況の変化	堰との関連の検証結果	評価		今後の方針
					視点	評価結果	
魚類	生息状況の変化	類 砂礫底を好む魚	砂礫や礫底に産卵する魚類として、オイカワ、カマツカ等を経年的に確認した。	－：これらの魚類の生息・産卵場として適した環境が維持されていることが推察された。	－	－	－
		外来種	堰暫定運用前に確認していた外来種のブルーギル、オオクチバス等について、堰暫定運用後には確認していない。	－：堰暫定運用後には確認しておらず、魚類の外来種について影響は無いと考えられる。	－	－	－
植物	生育状況の変化	中州の発達・樹林化	五松橋付近より下流では、自然裸地が減少し、在来種草地(ツルヨシ等)が増加した。鳴鹿大堰直下流では、堰改築に伴い、裸地化した中州等の水際に植生が見られるようになった。また、自然裸地が植生に覆われるとともに、砂州が発達にあわせて、在来種草地が増加してきた。	●：堰改築に伴い、一度消失した植生が、徐々に回復しつつあると考えられる。また、自然裸地が植生に覆われるとともに、砂州が発達にあわせて、在来種草地が増加してきた。	地域に特有の環境を保全する。	従来の砂礫河原環境が失われつつある。	・今後も引き続き堰下流において植生調査、河床材料調査等を実施し今後の変化の把握に努める。
本川下流のまとめ			<p>(1)本川下流の特徴 砂礫や礫底に産卵する魚類として、オイカワ、カマツカ等を経年的に確認した。</p> <p>(2)堰の影響 五松橋付近より下流では、自然裸地が減少し、在来種草地(ツルヨシ等)が増加した。鳴鹿大堰直下流では、堰改築に伴い、裸地化した中州等の水際に植生が見られるようになった。また、砂州が発達にあわせて、在来種草地が増加してきた。</p> <p>(3)堰以外の影響 特に影響は想定されない。</p>				

凡例)堰との関連の検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰によると考えられる場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰以外によると考えられる場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- －：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ？：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

6.4.5 連続性

連続性の観点からみた生物の生息状況に関する評価を表 6.4-5に示す。

表 6.4-5 生物の生息状況に関する評価(連続性)

検討項目		生物の状況	堰との関連の 検証結果	評価		今後の方針
				視点	評価結果	
魚類	生息状況の変化	回遊魚の遡上障害 旧鳴鹿堰堤の魚道で調査を行った際に確認された魚類(8種)と比較して、鳴鹿大堰の魚道ではより多くの魚種に利用されている(人工河川式魚道で45種、階段式魚道で39種、合計49種)。	●:旧鳴鹿堰堤と比較して鳴鹿大堰の魚道はより多くの魚種・個体に利用されている。	地域に特有の環境を保全する。	魚道の改修により魚類の生息環境の分断について改善がみられる。	・特になし。
		サクラマス、サケ等の大型回遊魚の遡上を確認したが、数個体であった。	－:サクラマス、サケ等の大型回遊魚の遡上において、魚道の効果がみられていない。	地域に特有の環境を保全する。	大型回遊魚の遡上環境を改善する必要がある。	・今後、必遡上環境改善のための魚道流量の増加等の改善が必要であると考えられる。
		カマキリ(アラレガコ)は平成11年3月の魚道稼働以来、平成16年度まで、魚道内で確認した。また、平成16年度の魚類上下流調査で湛水域(鳴鹿橋上流)において採捕した。	●:遊泳力の弱いカマキリ(アラレガコ)が魚道を遡上して堰上流の河川域に生息するようになり、分布を拡げていることが確認できている。	地域に特有の環境を保全する。	魚道の改修によりカマキリ(アラレガコ)の生息環境の分断について改善がみられる。	・さらにカマキリ(アラレガコ)を湛水域の上流で確認すべく、モニタリングの実施を検討する。
	稚魚等の流下の緩和による魚類生息状況の変化	鳴鹿大堰上流の鳴鹿橋地点における調査時の仔アユの最高密度は、下流の中角橋地点の1%程度であった。	?:鳴鹿大堰の上流域で産卵するアユは下流で産卵するアユの量より少なく、アユの主要な産卵場は堰下流であると考えられる。ただし、アユの降下状況は明らかでない。	地域に特有の環境を保全する。	堰上流に生息するアユが産卵のために速やかに堰を降下できることが重要であるが、アユの降下状況は明らかでない。	・アユの降下実態を把握するための調査が必要と考えられる。
連続性のまとめ		(1)堰(魚道)の効果 湛水域により、回遊性魚類の遡上が阻害されている可能性があるが、魚道改修により魚類の生息環境の分断について改善がみられ、明らかな陸封化についても確認していない。また、サクラマス、サケ等の大型回遊魚やカマキリ(アラレガコ)についても魚道を利用し湛水域まで通過することを確認したが、個体数は多くないため、今後の調査が必要である。 また、アユの降下に対する影響についても、その実態を十分に把握することが必要と考えられる。				

凡例)堰との関連の検証結果

- :生物の生息・生育状況の変化が魚道の効果によると考えられる場合
- :生物の生息・生育状況の変化が魚道以外の影響によると考えられる場合
- △:生物の生息・生育状況の変化に対する要因が不明であった場合
- －:生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ?:生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

6.4.6重要種

重要種の生息・生育状況に関する評価を表 6.4-6に示す。

表 6.4-6 重要種の生息・生育状況に関する評価

検討項目	生物の状況	堰との関連の 検証結果	評価		今後の方針
			視点	評価結果	
鳥類	化生息状況の変 コアジサシ、ヤマセミ：H11 までは確認したが、H16 は 確認できなかった。	△：堰改築による影 響なのか、大規 模出水による影 響なのか不明で ある。	生物の重 要な種を 保 全 す る。	影響要因が不 明であるた め、評価で きない。	河川水辺の国勢調査を行う 際に生息状況に留意をして 調査を行う。
魚類	生息状況の 変化 スジシマドジョウ：H4・H5 以外の調査では確認され ていない。	?： H4・H5 以外 の調査では確認さ れておらず、生 息状況が不明で ある。	生物の重 要な種を 保 全 す る。	生息状況の変 化または影 響要因が不明 であるため、 評価できない。	河川水辺の国勢調査を行う 際に生息状況に留意をして 調査を行う。
陸上昆虫類等	生息状況の 変化 イトアメンボ、アオモンギ ンセダカモクメ：H4 と H9、 H9 と H14 以外の調査では確 認していない。 セアカオサムシ： H16 以 前に確認したが、H20 は確 認できなかった。	?：2回しか確認し ていないため、 生息状況に変 化があったか どうか不明で ある。 △：堰改築による影 響なのか、大規 模出水による影 響なのか不明で ある	生物の重 要な種を 保 全 す る。	生息状況の変 化または影 響要因が不明 であるため、 評価できない。	河川水辺の国勢調査を行う 際に生息状況に留意をして 調査を行う。
植物	生育状況の 変化 フサモ、ノニガナ、コオニ タビラコ：H2～H6 以外の調 査では確認していない。 ホザキノフサモ、カワヂシ ヤ、エビモ、ミクリ：H16 以前に確認したが、H17 は 確認できなかった。	?：2回しか確認し ていないため、 生息状況に変 化があったか どうか不明で ある。 △：堰改築による影 響なのか、大規 模出水による影 響なのか不明で ある。	生物の重 要な種を 保 全 す る。	生育状況の変 化または影 響要因が不明 であるため、 評価できない。	河川水辺の国勢調査を行う 際に生息状況に留意をして 調査を行う。

凡例) 堰との関連の検証結果

- ：生物の生息・生育状況の変化が堰によると考えられる場合
- ：生物の生息・生育状況の変化が堰以外によると考えられる場合
- △：生物の生息・生育状況の変化に対する影響要因が不明であった場合
- ：生物の生息・生育状況に、大きな変化が見られなかった場合
- ?：生物の生息・生育状況の変化が不明であった場合

6.5まとめ

各場所における堰及び堰以外の影響と生物の生息・生育状況の変化を検証し、影響要因が検証された場合に、評価の視点を定めて、評価を行った。評価結果及び今後の方針を整理した結果を表 6.5-1に示す。

今後は、それらの結果を踏まえ、特にモニタリング部会からの意見である以下の点については、重点的に堰管理上の課題を解決するため、地域と堰管理者とが連携した取り組みを推進する。

鳴鹿大堰モニタリング部会意見		今回の評価と今後の方針
魚類	アラレガコについて、湛水域で確認され、新設魚道の効果が認められた。しかし、堰上流での確認が少なかったことについては、環境の連続性に課題が残っている可能性が考えられる。	<p>【評価】 湛水域により、回遊性魚類の遡上が阻害されている可能性があるが、魚道改修により魚類の生息環境の分断について改善がみられ、明らかな陸封化についても確認していない。また、サクラマス、サケ等の大型回遊魚やカマキリ(アラレガコ)についても魚道を利用し湛水域まで通過することを確認したが、個体数は多くないため、モニタリング調査が必要である。</p> <p>また、アユの降下に対する影響についても、その実態を十分に把握することが必要と考えられる。</p> <p>【今後の方針】 引き続きモニタリングを実施するとともに(特に湛水域の上流地点や堰直下流、アユ等の降下状況の実態)、サケ・サクラマスについては、遡上環境改善のための魚道流量の増加等の改善が必要である。</p>
	湛水域での外来種のおオクチバス、ブルーギルが確認されており、今後とも動向を見守ることが必要である。	<p>【評価】 湛水域に定着するとともに、本川上流においても湛水域から分布を拡げている可能性がある。したがって、外来種による影響が懸念されるため、在来種保全の視点から現状は好ましくない。</p> <p>【今後の方針】 九頭竜川本来の在来生態系を保全するため、外来種の放逐や密放流等を注意する立て看板を設置するなど外来生物法等に関する啓発・広報に努めるとともに、福井県や漁協、地域住民の方々と連携し、外来魚や外来植物等の駆除対策を実施する。</p> <p>また、特定外来魚の生息状況について調査が十分行われていないことから、湛水域内等における特定外来魚の生息状況について調査を行う。</p>
底生動物・付着藻類	<p>○底生動物 湛水域において個体数・種組成に若干の変化がみられることから、今後の傾向把握のため、H17から5年間を目処に湛水域内で毎年調査を行う。</p> <p>○付着藻類 河川における食物連鎖の最下位に属し、環境変化の影響を直接的に受けることから、底生動物と同様な調査を行う。</p>	<p>【評価】 湛水域内の底生動物、付着藻類については、堰の暫定運用後には、その組成にやや変化がみられたが、平成18年度以降は大きな変化がみられていない。</p> <p>【今後の方針】 底生動物、付着藻類については近年大きな変化はみられないことから、今後は河川水辺の国勢調査等により継続的な調査を行い、実態を把握していく。</p>

表 6.5-1 生物の生息・生育状況の変化の検証・評価と今後の方針

場所等	堰との関連の検証及び評価	今後の方針
本川上流	<p>(1)本川上流の特徴 本川上流にはオイカワ、ウグイなどの流水環境を好む魚類が多く生息している。</p> <p>(2)堰の影響 サケ等の回遊魚が継続的に確認されており、魚道の改修の効果である可能性がある。</p> <p>(3)堰以外の影響 湛水域周辺の人の利用により、外来種が意図的・非意図的に持ち込まれている可能性がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも魚道及び本川上流におけるモニタリングを実施し、魚道の効果の把握に努める。 ・九頭竜川本来の在来生態系を保全するため、外来種の放逐や密放流等を注意する立て看板を設置するなど外来生物法等に関する啓発・広報に努める。 ・河川水辺の国勢調査を行い実態把握を行う。
湛水域内	<p>(1)湛水域内の特徴 止水域～緩流域を好む魚類、底生動物等が生息するとともに、特定外来生物のオオクチバスが経年的に生息している。</p> <p>(2)堰による影響 回遊魚が継続的に確認されており、魚道の改修の効果である可能性がある。また、止水的な環境に適した生物が、堰改築前から引き続き生息している。また、湛水面積が増加し、カモ類など水鳥が多く利用するようになったと考えられる。</p> <p>(3)堰以外による影響 湛水域周辺の人の利用により、外来種が意図的・非意図的に持ち込まれている可能性がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・九頭竜川本来の在来生態系を保全するため、外来種の放逐や密放流等を注意する立て看板を設置するなど外来生物法等に関する啓発・広報に努める。 ・河川水辺の国勢調査を行い実態把握を行う。
湛水域(陸域)	<p>(1)湛水域(陸域)の特徴 人工草地、構造物が多く面積を占めており、人家周辺に生息するスズメ、水辺に生息するアオサギ、セグロセキレイや開けた草地などを好むヒバリなどを多数確認した。</p> <p>(2)堰の影響 堰改築に伴い護岸等が整備されたことにより、人工草地等が多く面積を占めている。</p> <p>(3)堰以外の影響 特に影響は想定されない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・九頭竜川本来の在来生態系を保全するため、外来種の放逐や密放流等を注意する立て看板を設置するなど外来生物法等に関する啓発・広報に努める。 ・河川水辺の国勢調査を行い実態把握を行う。
本川下流	<p>(1)本川下流の特徴 砂礫や礫底に産卵する魚類として、オイカワ、カマツカ等を経年的に確認している。</p> <p>(2)堰の影響 五松橋付近より下流では、自然裸地が減少し、在来種草地(ツルヨシ等)が増加した。鳴鹿大堰直下流では、堰改築に伴い、裸地化した中州等の水際に植生が見られるようになった。また、砂州が発達にあわせて、在来種草地が増加してきた。</p> <p>(3)堰以外の影響 特に影響は想定されない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・河川水辺の国勢調査を行い実態把握を行う。
連続性	<p>(1)堰(魚道)の効果 湛水域により、回遊性魚類の遡上が阻害されている可能性があるが、魚道改修により魚類の生息環境の分断について改善がみられ、明らかな陸封化についても確認していない。また、サクラマス、サケ等の大型回遊魚やカマキリ(アラレガコ)についても魚道を利用し湛水域まで通過することを確認したが、個体数は多くないため、今後の調査が必要である。</p> <p>また、アユの降下に対する影響についても、その実態を十分に把握することが必要と考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き河川水辺の国勢調査で魚類の生息状況については、調査を実施し把握する。魚道については、毎年調査を行い、必要に応じて魚類等の遡上・降下をさらに促進する方策の検討を行う。 ・落ちアユ用ゲートの調査を実施し、効果の把握を行う。
重要種	<p>(1)堰の影響 鳴鹿大堰による、重要種に対する影響については特に明確なもののみならず、変化の状況または影響要因は不明である。</p> <p>(2)堰以外の影響 堰以外の影響については不明である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、河川水辺の国勢調査を行う際に生息・生育状況に留意して調査を行う。

6.6 文献リストの作成

使用した文献等のリストを表 6.6-1に示す。

表 6.6-1(1) 使用資料リスト

区分	No.	報告書またはデータ名	発行者または著者名	発行年月
河川水辺の国勢調査(河川版)	6-1	平成 13 年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査)報告	応用地質株式会社	平成 14 年 3 月
	6-2	平成 14 年度 河川水辺生物調査業務(九頭竜川水系陸上昆虫類等調査)報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成 15 年 3 月
	6-3	平成 15 年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務魚介類調査報告書	エヌエス環境株式会社	平成 16 年 3 月
	6-4	平成 15 年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務底生動物調査報告書	エヌエス環境株式会社	平成 16 年 3 月
	6-5	平成 16 年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務報告書 鳥類	三洋テクノマリン株式会社	平成 17 年 3 月
	6-6	平成 17 年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務報告書	(株)長大	平成 18 年 3 月
	6-7	平成 18 年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務底生動物調査報告書	(株)建設企画コンサルタント	平成 19 年 3 月
	6-8	平成 19 年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査(魚類調査)報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成 20 年 3 月
	6-9	平成 20 年度 九頭竜川水系河川水辺国勢調査業務(陸上昆虫類等調査) 報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成 21 年 3 月
その他の調査	6-10	平成元年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成 2 年 3 月
	6-11	平成 2 年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成 3 年 3 月
	6-12	平成 2 年度アラレガコ生息実態調査業務報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成 3 年 3 月
	6-13	九頭竜川中流域動植物等調査業務報告書	アジア航測株式会社	平成 3 年 10 月
	6-14	九頭竜川中流域環境調査業務報告書	アジア航測株式会社	平成 3 年 3 月
	6-15	平成 3 年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成 4 年 3 月
	6-16	平成 3 年度 九頭竜川中流域水生生物調査(その 2)作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成 4 年 3 月
	6-17	アラレガコ生息環境検討資料作成業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成 4 年 3 月
	6-18	平成 4 年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成 5 年 3 月
	6-19	平成 5 年度 九頭竜川中流域植物調査業務報告書	アジア航測株式会社	平成 6 年 2 月
	6-20	平成 6 年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成 7 年 2 月

表 6.6-1(2) 使用資料リスト

区分	No.	報告書またはデータ名	発行者または著者名	発行年月
その他の調査	6-21	平成7年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成7年10月
	6-22	平成7年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成8年2月
	6-23	平成8年度 鳴鹿大堰左岸魚道モニタリング業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成8年9月
	6-24	平成8年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成9年2月
	6-25	平成8年度 九頭竜川回遊魚環境調査作業報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成9年9月
	6-26	平成9年度 九頭竜川中流域水生生物調査作業報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成10年2月
	6-27	平成10年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成12年2月
	6-28	平成10年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書(概要版)	三洋テクノマリン株式会社	平成12年2月
	6-29	平成11年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	(財)北陸公衆衛生研究所	平成12年3月
	6-30	平成11年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成13年3月
	6-31	平成12年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成13年3月
	6-32	平成13年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成14年2月
	6-33	平成13年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成14年3月
	6-34	平成14年度 九頭竜川中流域水生生物調査業務報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成15年2月
	6-35	平成14年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成15年3月
	6-36	平成15年度 九頭竜川中流部水生生物調査業務報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成16年2月
	6-37	平成15年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成16年3月
	6-38	平成16年度 鳴鹿大堰魚道モニタリング調査業務報告書	三洋テクノマリン株式会社	平成17年3月
	6-39	平成16年度 九頭竜川鳴鹿大堰環境調査業務報告書	(株)ユニスコ	平成17年3月
	6-40	平成17年度 鳴鹿大堰環境調査業務報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成18年3月
6-41	平成18年度 鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成19年3月	
6-42	平成19年度 鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成20年3月	
6-43	平成20年度 鳴鹿大堰フォローアップ調査業務報告書	(株)北陸環境科学研究所	平成21年3月	

表 6.6-1(3) 使用資料リスト

区分	No.	報告書またはデータ名	発行者または著者名	発行年月
出版物等	6-44	報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」	環境省	平成18年12月
	6-45	報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物Ⅱのレッドリストの見直しについて」	環境省	平成19年8月
	6-46	福井県の絶滅のおそれのある野生動物－福井県レッドデータブック(動物編)	福井県	平成14年3月
	6-47	福井県の絶滅のおそれのある野生植物－福井県レッドデータブック(植物編)	福井県	平成16年3月
	6-48	外来種ハンドブック(日本生態学会編)	地人書館	平成14年9月
	6-49	Aquatic insects of North America	R. W. MERRITT, K. W. CUMMINS	平成11年
	6-50	溪流生態砂防学	太田猛彦・高橋剛一郎	平成11年
	6-51	Ecology and classification of North American freshwater	H. T. James, P. C. Alan	平成3年
	6-52	琉球列島の陸水生物	西島信	平成15年
	6-53	原色川虫図鑑	谷田一三監修	平成12年
	6-54	日本産水生昆虫一科・属・種への検索	川合禎次他 編	平成17年
	6-55	山溪カラー名鑑 日本の淡水魚 改訂版	川那部浩哉他編・監修	平成元年
	6-56	原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>	保育社	平成7年2月
	6-57	原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>	保育社	平成7年3月
	6-58	日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類	佐竹義輔他 編	昭和57年
	6-59	日本の野生植物 シダ	岩槻邦男 編	平成4年
	6-60	日本の野生植物 木本Ⅱ	佐竹義輔他 編	平成元年
	6-61	日本の哺乳類〔改訂版〕	阿部永 監修	平成17年
	6-62	川の生物図典	(財)リバーフロント整備センター編	平成8年
	6-63	決定版日本の両生爬虫類	内山りゅう・前田憲男他	平成14年
	6-64	日本カエル図鑑	前田憲男・松井正文	平成元年
	6-65	改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－5 昆虫類	環境省	平成18年
	6-66	新訂原色昆虫大図鑑	平嶋義宏、森本桂 監修	平成20年
	6-67	学研生物図鑑 昆虫Ⅱ	中根猛彦 監修	昭和58年
	6-68	学研生物図鑑 昆虫Ⅲ	石原保 監修	平成2年
	6-69	日本産蛾類大図鑑 第1巻解説編	井上寛他 著	昭和57年
	6-70	水辺の環境調査	(財)ダム水源地環境整備センター	平成6年

6.7 確認種リスト

次ページ以降に底生動物、植物、陸上昆虫類等の確認種リストを示す。

表6.7-2(1) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
1	イワヒバ科	イワヒバ						○	
2	トクサ科	スギナ	○	○	○	○	○	○	○
3	トクサ科	トクサ		○	○				○
4	トクサ科	イヌドクサ	○	○	○	○	○	○	○
5	ハナヤスリ科	オオハナワラビ							○
6	ゼンマイ科	ゼンマイ				○			
7	ウラジロ科	ウラジロ				○			
8	フサシダ科	カニクサ				○			○
9	コバノイシカグマ科	イワヒメワラビ				○			
10	コバノイシカグマ科	ワラビ		○		○		○	○
11	ホングウシダ科	ホラシノブ				○			
12	ミズワラビ科	イワガネソウ		○					
13	ミズワラビ科	タチシノブ						○	○
14	イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ							○
15	イノモトソウ科	イノモトソウ				○		○	○
16	チャセンシダ科	トラノオシダ		○	○	○		○	○
17	シシガシラ科	シシガシラ				○			
18	オシダ科	リョウメンシダ				○		○	○
19	オシダ科	ヤブソテツ		○	○	○		○	○
20	オシダ科	ヤマヤブソテツ	○			○			
21	オシダ科	イワヘゴ	○						
22	オシダ科	ベニシダ		○		○		○	○
23	オシダ科	オオベニシダ						○	
24	オシダ科	クマワラビ		○	○		○		○
25	オシダ科	オクマワラビ		○		○		○	○
26	オシダ科	オオイタチシダ							○
27	オシダ科	ヤマイタチシダ				○			○
28	オシダ科	アイアスカイノデ							○
29	オシダ科	イノデ	○	○		○	○	○	○
30	オシダ科	サカゲイノデ	○		○			○	
31	オシダ科	ジュウモンジシダ				○			○
32	ヒメシダ科	ミゾシダ	○			○			○
33	ヒメシダ科	ホシダ				○			○
34	ヒメシダ科	ゲジゲジシダ	○	○					
35	ヒメシダ科	イブキシダ			○				
36	ヒメシダ科	ハリガネワラビ				○			
37	ヒメシダ科	ヤワラシダ				○			
38	ヒメシダ科	ヒメワラビ			○				
39	メンダ科	イヌワラビ		○	○			○	○
40	メンダ科	ヤマイヌワラビ				○			
41	メンダ科	ホソバシケシダ				○			
42	メンダ科	シケシダ	○	○	○	○			○
43	メンダ科	オオヒメワラビ						○	
44	メンダ科	クサソテツ	○	○	○	○	○	○	○
45	メンダ科	コウヤワラビ	○						
46	ウラボシ科	マメツタ						○	
47	ウラボシ科	ノキシノブ			○	○		○	○
48	マツ科	モミ				○			
49	マツ科	アカマツ				○		○	○
50	マツ科	クロマツ					○		
51	スギ科	スギ				○			○
52	ヒノキ科	ヒノキ				○			
53	ヒノキ科	ネズ						○	
54	マキ科	ラカンマキ		○					
55	イヌガヤ科	イヌガヤ				○			
56	クルミ科	オニグルミ	○	○	○	○	○	○	○
57	クルミ科	ノグルミ						○	
58	ヤナギ科	ヤマナラシ							○
59	ヤナギ科	サイコクキツネヤナギ				○			
60	ヤナギ科	シダレヤナギ						○	
61	ヤナギ科	アカメヤナギ	○	○	○			○	○
62	ヤナギ科	ジャヤナギ	○	○	○			○	○
63	ヤナギ科	カワヤナギ	○	○	○	○	○	○	○
64	ヤナギ科	ネコヤナギ	○	○	○	○	○	○	○
65	ヤナギ科	イヌコリヤナギ	○			○	○	○	
66	ヤナギ科	ウンリュウヤナギ	○	○		○		○	○
67	ヤナギ科	オオタチヤナギ			○				
68	ヤナギ科	コゴメヤナギ	○	○		○		○	○
69	ヤナギ科	タチヤナギ	○	○	○	○	○	○	○
70	ヤナギ科	マルバヤナギ				○	○		
71	カバノキ科	ミヤマカワラハンノキ					○	○	
72	カバノキ科	ヤマハンノキ						○	

表6.7-2(2) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
73	カバノキ科	ハンノキ	○	○	○	○	○	○	○
74	カバノキ科	カワラハンノキ						○	
75	カバノキ科	アカシデ				○			
76	カバノキ科	ツノハシバミ				○			
77	ブナ科	クリ				○		○	○
78	ブナ科	クヌギ	○			○		○	○
79	ブナ科	アラカシ				○			
80	ブナ科	シラカシ				○		○	○
81	ブナ科	ウラジロガシ						○	
82	ブナ科	コナラ				○		○	○
83	ニレ科	エノキ	○	○	○	○	○	○	○
84	ニレ科	アキノレ				○			○
85	ニレ科	ケヤキ	○	○	○	○		○	○
86	クワ科	ヒメコウゾ						○	○
87	クワ科	カヅノキ	○						
88	クワ科	クワクサ				○		○	○
89	クワ科	イヌビワ				○			
90	クワ科	イタビカズラ				○		○	○
91	クワ科	オオイタビ						○	
92	クワ科	カナムグラ	○	○	○	○	○	○	○
93	クワ科	トウグワ				○			
94	クワ科	ヤマグワ	○	○	○	○	○	○	○
95	イラクサ科	ヤブマオ	○	○	○	○	○	○	○
96	イラクサ科	カラムシ	○	○	○	○	○	○	○
97	イラクサ科	ナンバンカラムシ				○		○	
98	イラクサ科	メヤブマオ				○		○	○
99	イラクサ科	コアカソ			○	○		○	○
100	イラクサ科	アカソ	○	○	○	○		○	○
101	イラクサ科	ムカゴイラクサ							○
102	イラクサ科	カデンソウ				○			
103	イラクサ科	ミズ	○			○	○		○
104	イラクサ科	アオミズ	○	○				○	○
105	ビャクダン科	カナビキソウ	○	○	○	○		○	○
106	タデ科	ミズヒキ		○	○	○			○
107	タデ科	ソバ							○
108	タデ科	サクラタデ	○	○	○	○	○	○	○
109	タデ科	ヤナギタデ	○	○	○	○	○	○	○
110	タデ科	シロバナサクラタデ	○	○	○			○	○
111	タデ科	オオイヌタデ	○	○	○	○	○	○	○
112	タデ科	イヌタデ	○	○	○	○	○	○	○
113	タデ科	タニソバ				○			
114	タデ科	イシミカワ	○	○	○	○		○	○
115	タデ科	ハナタデ	○			○		○	○
116	タデ科	ボントクタデ				○		○	○
117	タデ科	サナエタデ	○	○				○	
118	タデ科	ママコノシリヌグイ	○	○	○	○		○	○
119	タデ科	アキノウナギツガミ	○	○	○		○	○	○
120	タデ科	ミゾソバ	○	○	○	○	○	○	○
121	タデ科	ミチヤナギ	○	○	○	○		○	○
122	タデ科	イタドリ	○	○	○	○		○	○
123	タデ科	スイバ	○	○	○	○		○	○
124	タデ科	ヒメスイバ	○	○	○	○		○	○
125	タデ科	アレチギシギシ	○	○	○	○		○	○
126	タデ科	ナガバギシギシ	○	○	○			○	○
127	タデ科	ギシギシ	○	○	○	○	○	○	○
128	タデ科	ノダイオウ		○					
129	タデ科	マダイオウ	○						
130	タデ科	エソノギシギシ	○	○	○	○	○	○	○
131	ヤマコボウ科	ヨウシュヤマコボウ	○	○	○	○		○	○
132	オシロイバナ科	オシロイバナ						○	
133	ザクロソウ科	ザクロソウ		○	○		○	○	
134	ザクロソウ科	クルマバザクロソウ	○		○				
135	スベリヒユ科	マツバボタン						○	
136	スベリヒユ科	スベリヒユ	○	○	○	○	○	○	○
137	スベリヒユ科	ヒメマツバボタン			○				
138	スベリヒユ科	ハゼラン			○				
139	ナデシコ科	ノミノツツリ	○	○	○	○		○	
140	ナデシコ科	オランダミミナグサ	○	○	○			○	○
141	ナデシコ科	ミミナグサ	○			○	○		
142	ナデシコ科	カワラナデシコ	○	○	○	○		○	○
143	ナデシコ科	ツメクサ	○	○	○	○		○	○
144	ナデシコ科	ムシトリナデシコ	○	○	○	○	○	○	○

表6.7-2(3) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
145	ナデシコ科	シロバナムシトリナデシコ	○	○					
146	ナデシコ科	フシグロ	○				○	○	
147	ナデシコ科	シロバナマンテマ			○				
148	ナデシコ科	マンテマ		○	○				○
149	ナデシコ科	ノミノフスマ	○	○	○	○	○	○	
150	ナデシコ科	ウシハコベ	○	○	○	○	○	○	○
151	ナデシコ科	サワハコベ							○
152	ナデシコ科	コハコベ	○	○	○	○		○	○
153	ナデシコ科	ミドリハコベ	○		○				
154	アカザ科	シロザ	○	○	○	○	○	○	○
155	アカザ科	アカザ		○		○	○	○	○
156	アカザ科	アリタソウ						○	
157	アカザ科	ケアリタソウ					○		
158	アカザ科	アメリカアリタソウ	○	○	○	○	○	○	○
159	ヒユ科	ヒカゲイノコスチ	○	○	○	○		○	○
160	ヒユ科	ヒナタイノコスチ	○	○	○	○		○	○
161	ヒユ科	ヤナギイノコスチ						○	○
162	ヒユ科	イヌビユ	○	○			○	○	
163	ヒユ科	ホソアオゲイトウ			○			○	○
164	ヒユ科	アオゲイトウ		○		○			
165	ヒユ科	アオビユ					○		○
166	ヒユ科	ケイトウ			○		○	○	○
167	モクレン科	ホオノキ						○	
168	マツブサ科	サネカズラ				○		○	○
169	クスノキ科	クスノキ				○		○	○
170	クスノキ科	ヤブニツケイ			○			○	
171	クスノキ科	ヤマコウバシ				○			
172	クスノキ科	クロモジ				○			
173	クスノキ科	タブノキ						○	
174	クスノキ科	シロダモ		○	○	○		○	○
175	キンボウゲ科	ヒメウス				○			○
176	キンボウゲ科	ボタンヅル	○	○	○			○	○
177	キンボウゲ科	センニンソウ	○	○	○	○		○	○
178	キンボウゲ科	ケキツネノボタン	○	○		○			○
179	キンボウゲ科	ウマノアシガタ	○			○			
180	キンボウゲ科	ヤマキツネノボタン						○	
181	キンボウゲ科	タガラシ		○					
182	キンボウゲ科	キツネノボタン		○	○	○		○	○
183	キンボウゲ科	アキカラマツ	○	○	○	○		○	○
184	キンボウゲ科	モミジカラマツ				○			
185	メギ科	トキワイカリソウ				○			
186	メギ科	ナンテン				○		○	○
187	アケビ科	アケビ	○	○	○	○	○	○	○
188	アケビ科	ミツバアケビ		○		○		○	○
189	アケビ科	ゴヨウアケビ	○		○			○	○
190	アケビ科	ムベ						○	
191	ツツラフジ科	アオツツラフジ	○	○	○	○	○	○	○
192	ツツラフジ科	コウモリカズラ	○						
193	ドクダミ科	ドクダミ	○	○	○	○	○	○	○
194	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	○	○		○		○	○
195	マタタビ科	サルナシ					○		
196	ツバキ科	ヤブツバキ				○		○	○
197	ツバキ科	ヒサカキ				○		○	○
198	ツバキ科	チャノキ				○			○
199	オトギリソウ科	オトギリソウ	○	○		○		○	○
200	オトギリソウ科	コケオトギリ	○				○		
201	オトギリソウ科	キンシバイ		○		○		○	
202	オトギリソウ科	サワオトギリ						○	
203	ケシ科	キケマン				○			
204	ケシ科	ムラサキケマン	○			○		○	
205	ケシ科	フウロケマン	○						
206	ケシ科	タケニグサ	○			○		○	
207	ケシ科	ケナシチャンバギク	○						
208	フウチョウソウ科	セイヨウフウチョウソウ	○						
209	アブラナ科	シロイヌナズナ	○						
210	アブラナ科	ハルザキヤマガラシ			○			○	
211	アブラナ科	セイヨウカラシナ	○	○	○	○	○		○
212	アブラナ科	セイヨウアブラナ	○	○	○				
213	アブラナ科	ナズナ	○			○			
214	アブラナ科	タネツケバナ	○	○	○	○	○	○	○
215	アブラナ科	タチタネツケバナ	○						
216	アブラナ科	ミチタネツケバナ	○						

表6.7-2(4) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
217	アブラナ科	コタネツケバナ	○						
218	アブラナ科	オオバタネツケバナ	○						
219	アブラナ科	マメグンバイナズナ	○	○	○	○	○	○	○
220	アブラナ科	オランダガラシ		○	○			○	
221	アブラナ科	ダイコン	○					○	
222	アブラナ科	イヌガラシ	○	○	○	○	○	○	○
223	アブラナ科	スカシタゴボウ	○	○	○	○	○	○	○
224	アブラナ科	キレハイヌガラシ	○	○				○	○
225	アブラナ科	ヒメイヌガラシ	○						
226	ベンケイソウ科	キリンソウ		○		○		○	
227	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	○	○	○	○		○	○
228	ベンケイソウ科	メノマンネングサ	○	○		○		○	○
229	ベンケイソウ科	オノマンネングサ						○	
230	ベンケイソウ科	ツルマンネングサ	○	○	○			○	○
231	ユキノシタ科	ネコノメソウ	○						
232	ユキノシタ科	ヤマネコノメソウ	○						
233	ユキノシタ科	ウツギ	○	○	○	○	○	○	○
234	ユキノシタ科	ヤマアジサイ				○			
235	バラ科	キンミズヒキ	○		○	○		○	○
236	バラ科	ヒメキンミズヒキ			○				
237	バラ科	ヘビイチゴ	○	○	○	○		○	○
238	バラ科	ヤブヘビイチゴ	○						○
239	バラ科	ビワ							○
240	バラ科	ノウゴウイチゴ				○			
241	バラ科	ダイコンソウ				○			○
242	バラ科	ヤマブキ				○		○	○
243	バラ科	ミツバツチグリ				○			
244	バラ科	オヘビイチゴ	○	○	○	○	○	○	○
245	バラ科	カマツカ				○		○	
246	バラ科	ウワミズザクラ				○			○
247	バラ科	キンキマメザクラ				○		○	
248	バラ科	ヤマザクラ				○			○
249	バラ科	ニワウメ	○						
250	バラ科	リンボク				○			
251	バラ科	カスミザクラ				○		○	
252	バラ科	ソメイヨシノ				○		○	○
253	バラ科	ノイバラ	○	○	○	○	○	○	○
254	バラ科	ニオイバラ				○			
255	バラ科	ミヤコイバラ					○	○	
256	バラ科	イザヨイバラ	○						
257	バラ科	テリハノイバラ			○				
258	バラ科	フユイチゴ				○			
259	バラ科	クマイチゴ	○						○
260	バラ科	クサイチゴ	○						○
261	バラ科	ナガバモミジイチゴ				○			○
262	バラ科	モミジイチゴ				○			
263	バラ科	ナワシロイチゴ	○	○	○	○	○	○	○
264	バラ科	シモツケ	○	○				○	
265	バラ科	ユキヤナギ						○	
266	バラ科	コゴメウツギ		○					
267	マメ科	クサネム	○	○	○	○	○	○	○
268	マメ科	ネムノキ	○	○	○	○	○	○	○
269	マメ科	イタチハギ						○	○
270	マメ科	ヤブマメ				○		○	○
271	マメ科	ゲンゲ	○			○		○	
272	マメ科	カワラケツメイ	○		○	○	○	○	○
273	マメ科	エビスグサ						○	
274	マメ科	アレチヌスビトハギ						○	
275	マメ科	ヌスビトハギ				○		○	
276	マメ科	ノササゲ				○			
277	マメ科	ノアズキ						○	○
278	マメ科	ダイズ						○	
279	マメ科	ツルマメ	○	○	○	○	○	○	○
280	マメ科	コマツナギ	○	○	○	○	○	○	○
281	マメ科	マルバヤハズソウ	○	○	○	○	○	○	○
282	マメ科	ヤハズソウ	○	○	○	○	○	○	○
283	マメ科	ヤマハギ				○		○	○
284	マメ科	メドハギ	○	○	○	○	○	○	○
285	マメ科	ハイメドハギ			○			○	
286	マメ科	マルバハギ						○	
287	マメ科	ツクシハギ	○						
288	マメ科	ネコハギ			○				

表6.7-2(5) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
289	マメ科	ビッチュウヤマハギ							○
290	マメ科	セイウミヤコグサ						○	○
291	マメ科	ミヤコグサ	○	○	○	○	○	○	○
292	マメ科	ナツフジ				○			
293	マメ科	クズ	○	○	○	○	○	○	○
294	マメ科	オオバタンキリマメ						○	
295	マメ科	ハリエンジュ	○	○	○	○		○	○
296	マメ科	クララ	○	○	○	○		○	○
297	マメ科	コメツブツメクサ	○	○	○	○		○	○
298	マメ科	ムラサキツメクサ	○	○	○	○		○	○
299	マメ科	シロツメクサ	○	○	○		○	○	○
300	マメ科	ツルフジバカマ		○					
301	マメ科	ヤハズエンドウ	○	○	○				○
302	マメ科	ホソバヤハズエンドウ	○		○				
303	マメ科	スズメノエンドウ	○		○	○		○	○
304	マメ科	イブキノエンドウ				○		○	
305	マメ科	カスマグサ	○	○	○			○	
306	マメ科	ナンテンハギ	○	○				○	
307	マメ科	ヤブツルアズキ			○			○	○
308	マメ科	フジ	○	○	○	○		○	○
309	カタバミ科	イモカタバミ			○				
310	カタバミ科	カタバミ	○	○	○	○	○	○	○
311	カタバミ科	アカカタバミ		○				○	
312	カタバミ科	ウスアカカタバミ		○	○	○			○
313	カタバミ科	ケカタバミ		○					
314	カタバミ科	ムラサキカタバミ	○	○					○
315	カタバミ科	オッタチカタバミ		○	○			○	○
316	フウロソウ科	アメリカフウロ			○				
317	フウロソウ科	ゲンノショウコ	○	○	○	○	○	○	○
318	トウダイグサ科	エノキグサ	○	○	○	○	○	○	○
319	トウダイグサ科	オオニシキソウ	○	○	○	○	○	○	○
320	トウダイグサ科	コニシキソウ	○	○	○	○	○	○	○
321	トウダイグサ科	アカメガシワ	○	○	○	○	○	○	○
322	トウダイグサ科	ヒメミカンソウ	○					○	
323	トウダイグサ科	コミカンソウ							○
324	ミカン科	カラスザンショウ				○	○	○	○
325	ミカン科	フユザンショウ						○	
326	ミカン科	サンショウ	○		○	○		○	○
327	ニガキ科	シンジュ	○	○	○			○	○
328	ニガキ科	ニガキ				○		○	○
329	センダン科	センダン			○				
330	ドクウツギ科	ドクウツギ	○			○	○	○	○
331	ウルシ科	ツタウルシ				○		○	
332	ウルシ科	ヌルデ	○	○	○	○		○	○
333	ウルシ科	ヤマハゼ				○		○	
334	ウルシ科	ヤマウルシ				○			
335	カエデ科	イロハモミジ				○			
336	ツリフネソウ科	キツリフネ				○			
337	ツリフネソウ科	ツリフネソウ	○			○		○	
338	モチノキ科	イヌツゲ				○			
339	モチノキ科	アオハダ				○			
340	モチノキ科	ソヨゴ				○		○	
341	ニシキギ科	ツルウメモドキ	○	○	○	○	○	○	○
342	ニシキギ科	オニツルウメモドキ		○					
343	ニシキギ科	コマユミ				○		○	○
344	ニシキギ科	ツルマサキ				○		○	
345	ニシキギ科	マサキ		○					○
346	ニシキギ科	ツリバナ						○	
347	ニシキギ科	オオツリバナ						○	
348	ニシキギ科	マユミ				○			○
349	ミツバウツギ科	ゴンズイ				○			
350	クロウメモドキ科	ケケンボナシ				○	○		
351	ブドウ科	ノブドウ	○	○	○	○	○	○	○
352	ブドウ科	キレバノブドウ	○	○				○	
353	ブドウ科	ヤブガラシ	○	○	○	○	○	○	○
354	ブドウ科	ツタ				○		○	○
355	ブドウ科	ヤマブドウ				○			
356	ブドウ科	エビヅル	○	○	○	○		○	○
357	ブドウ科	サンカクヅル	○						
358	ブドウ科	ケサンカクヅル				○			
359	シナノキ科	シナノキ							○
360	アオイ科	ムクゲ	○					○	

表6.7-2(6) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
361	アオギリ科	アオギリ				○			○
362	グミ科	ツルグミ							○
363	グミ科	トウグミ	○	○					
364	グミ科	ナワシログミ						○	
365	グミ科	アキグミ	○	○	○	○	○	○	○
366	スミレ科	タチツボスミレ				○			○
367	スミレ科	アオイスミレ							○
368	スミレ科	コスミレ			○				
369	スミレ科	マキノスミレ	○						
370	スミレ科	スミレ	○	○		○		○	
371	スミレ科	ヒメスミレ	○						
372	スミレ科	ツボスミレ	○	○	○	○	○	○	○
373	スミレ科	シハイスミレ						○	
374	スミレ科	ノジスミレ	○						○
375	ミゾハコベ科	イヌミゾハコベ	○						
376	ウリ科	ゴキツル	○	○		○	○	○	○
377	ウリ科	ニホンカボチャ						○	
378	ウリ科	アマチャヅル				○		○	○
379	ウリ科	スズメウリ			○	○			○
380	ウリ科	アレチウリ	○	○	○	○		○	○
381	ウリ科	カラスウリ			○				○
382	ウリ科	キカラスウリ	○						○
383	ミソハギ科	ヒメミソハギ	○	○				○	
384	ミソハギ科	ミソハギ	○	○	○	○		○	○
385	ミソハギ科	キカシクサ	○			○		○	
386	アカバナ科	ミズタマソウ				○		○	○
387	アカバナ科	アカバナ	○	○					
388	アカバナ科	チョウジタデ	○	○	○		○	○	○
389	アカバナ科	メマツヨイグサ	○	○	○	○	○	○	○
390	アカバナ科	オオマツヨイグサ		○		○		○	
391	アカバナ科	マツヨイグサ				○		○	
392	アリノトウグサ科	アリノトウグサ			○				
393	アリノトウグサ科	ホザキノフサモ	○	○					○
394	アリノトウグサ科	フサモ					○	○	
395	ミズキ科	アオキ				○		○	
396	ミズキ科	ヒメアオキ				○		○	○
397	ミズキ科	ミズキ		○				○	
398	ミズキ科	クマノミズキ	○	○	○	○		○	○
399	ミズキ科	ハナイカダ				○			
400	ウコギ科	コシアブラ				○			
401	ウコギ科	ウコギ				○			
402	ウコギ科	ヤマウコギ			○	○		○	○
403	ウコギ科	ウド				○			
404	ウコギ科	タラノキ	○	○	○	○		○	○
405	ウコギ科	メダラ			○			○	
406	ウコギ科	タカノツメ				○			
407	ウコギ科	ヤツデ						○	○
408	ウコギ科	キツタ	○	○		○		○	○
409	セリ科	シラネセンキュウ				○			
410	セリ科	シャク	○						○
411	セリ科	ツボクサ		○	○	○		○	
412	セリ科	セントウソウ	○				○		○
413	セリ科	ミツバ	○	○	○	○	○	○	○
414	セリ科	ノチドメ	○	○	○	○	○	○	○
415	セリ科	チドメグサ	○			○	○	○	○
416	セリ科	セリ	○	○	○	○		○	○
417	セリ科	ヤブニンジン				○		○	○
418	セリ科	ウマノミツバ			○				
419	セリ科	ヤブジラミ	○	○	○	○		○	○
420	セリ科	オヤブジラミ	○	○	○			○	○
421	パンレイシ科	ホボー							○
422	リョウブ科	リョウブ				○			
423	ツツジ科	ウラジロハナヒリノキ				○			
424	ツツジ科	ネジキ				○			
425	ツツジ科	ヤマツツジ				○			
426	ツツジ科	ホツツジ				○			
427	ツツジ科	アクシバ				○			
428	ツツジ科	ナツハゼ				○			
429	ヤブコウジ科	ヤブコウジ				○			
430	サクラソウ科	オカトラノオ				○		○	○
431	サクラソウ科	ナガエコナスビ	○						
432	サクラソウ科	コナスビ	○		○	○			○

表6.7-2(7) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流				
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16	
433	カキノキ科	カキノキ		○	○	○			○	○
434	カキノキ科	ヤマガキ	○						○	
435	エゴノキ科	エゴノキ				○			○	
436	ハインキ科	サワフタギ				○				
437	モクセイ科	ヤマトアオダモ					○			
438	モクセイ科	マルバアオダモ				○				
439	モクセイ科	ネズミモチ				○			○	○
440	モクセイ科	トウネズミモチ								○
441	モクセイ科	イボタノキ				○			○	○
442	キョウチクトウ科	テイカカズラ				○			○	○
443	キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ			○					○
444	ガカイモ科	ガカイモ	○	○	○	○	○	○	○	○
445	アカネ科	ヒメヨツバムグラ	○							
446	アカネ科	キクムグラ	○				○	○		○
447	アカネ科	ヤエムグラ	○	○	○	○				○
448	アカネ科	ヨツバムグラ	○							
449	アカネ科	ホソバノヨツバムグラ								○
450	アカネ科	オククルマムグラ	○							
451	アカネ科	キバナカワラマツバ					○			
452	アカネ科	カワラマツバ	○			○	○	○	○	○
453	アカネ科	エゾノカワラマツバ		○						
454	アカネ科	チョウセンカワラマツバ	○						○	
455	アカネ科	フタバムグラ		○						
456	アカネ科	ハシカグサ	○				○			○
457	アカネ科	ツルアリドオシ				○				
458	アカネ科	ヘクソカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○
459	アカネ科	アカネ	○	○	○					
460	ヒルガオ科	コヒルガオ			○	○				
461	ヒルガオ科	ヒルガオ	○	○	○	○	○	○	○	○
462	ヒルガオ科	ハマヒルガオ								○
463	ヒルガオ科	マメダオシ								
464	ヒルガオ科	ネナシカズラ		○	○	○				○
465	ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	○	○	○	○	○	○	○	○
466	ヒルガオ科	マルバアサガオ					○			
467	ムラサキ科	ハナイバナ	○	○			○	○		
468	ムラサキ科	ノハラムラサキ	○							
469	ムラサキ科	ミズタビラコ	○							
470	ムラサキ科	キュウリグサ	○	○	○	○			○	○
471	ムラサキ科	ウスレナグサ属								○
472	クマツヅラ科	ムラサキシキブ				○				
473	クマツヅラ科	クサギ		○	○	○			○	○
474	クマツヅラ科	ヤナギハナガサ	○	○						○
475	アワゴケ科	アワゴケ							○	
476	シソ科	キラソソウ	○			○				
477	シソ科	クルマバナ	○	○	○	○			○	○
478	シソ科	ヤマクルマバナ			○				○	
479	シソ科	トウバナ	○	○	○	○	○	○	○	○
480	シソ科	イヌトウバナ			○	○			○	○
481	シソ科	ナギナタコウジュ	○				○	○		
482	シソ科	カキドオシ	○	○	○	○			○	○
483	シソ科	ホトケノザ			○	○			○	
484	シソ科	オドリコソウ				○				
485	シソ科	ヒメオドリコソウ	○		○					○
486	シソ科	メハジキ		○	○				○	
487	シソ科	シロネ	○	○	○	○			○	○
488	シソ科	ヒメシロネ							○	
489	シソ科	ヒメサルダヒコ				○				○
490	シソ科	コシロネ	○	○			○			○
491	シソ科	ハッカ	○	○	○	○	○	○	○	○
492	シソ科	オランダハッカ	○		○		○			
493	シソ科	ヒメジソ	○	○	○	○	○	○	○	○
494	シソ科	イヌコウジュ	○	○	○	○	○	○	○	○
495	シソ科	エゴマ		○						○
496	シソ科	シソ		○						○
497	シソ科	レモンエゴマ			○	○			○	○
498	シソ科	チリメンジソ(アオチリメン)			○				○	
499	シソ科	トラノオジソ	○							
500	シソ科	アオジソ							○	
501	シソ科	ハナトラノオ								○
502	シソ科	ウツボグサ		○		○				
503	シソ科	ヒキオコシ				○				
504	シソ科	アキノタムラソウ							○	

表6.7-2(8) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2+3	H3	H5	H16
505	シソ科	イヌゴマ	○	○	○	○	○	○	○
506	シソ科	ニガクサ	○		○			○	○
507	シソ科	ツルニガクサ	○						
508	ナス科	クコ	○				○	○	
509	ナス科	ホオズキ	○						
510	ナス科	ワルナスビ				○			○
511	ナス科	ヒヨドリジョウゴ				○		○	○
512	ナス科	イヌホオズキ	○	○					○
513	ナス科	ジャガイモ						○	
514	ゴマノハグサ科	キクモ						○	
515	ゴマノハグサ科	マツバウンラン		○	○	○			
516	ゴマノハグサ科	スズメトウガラシ	○					○	
517	ゴマノハグサ科	タケトアゼナ							○
518	ゴマノハグサ科	アメリカアゼナ	○	○	○	○		○	
519	ゴマノハグサ科	アゼトウガラシ	○					○	
520	ゴマノハグサ科	アゼナ	○	○	○		○	○	○
521	ゴマノハグサ科	ムラサキサギゴケ	○						
522	ゴマノハグサ科	サギゴケ				○		○	
523	ゴマノハグサ科	ヤマサギゴケ	○						
524	ゴマノハグサ科	トキワハゼ	○	○	○		○	○	○
525	ゴマノハグサ科	シロバナトキワハゼ	○						
526	ゴマノハグサ科	ミゾホオズキ		○					
527	ゴマノハグサ科	コシオガマ			○				
528	ゴマノハグサ科	ピロードモウズイカ	○	○	○			○	○
529	ゴマノハグサ科	オオカワヂシャ		○					
530	ゴマノハグサ科	タチイヌノフグリ	○	○	○	○		○	○
531	ゴマノハグサ科	ムシクサ	○	○	○	○			
532	ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	○	○	○	○		○	○
533	ゴマノハグサ科	カワヂシャ	○	○					○
534	ノウゼンカズラ科	キリ	○		○	○		○	○
535	キツネノマゴ科	キツネノマゴ		○			○		○
536	ハエドクソウ科	ハエドクソウ				○			
537	オオバコ科	オオバコ	○	○	○	○	○	○	○
538	オオバコ科	ヘラオオバコ	○		○	○			○
539	オオバコ科	タチオオバコ		○	○				
540	スイカズラ科	ツクバネウツギ				○			
541	スイカズラ科	スイカズラ	○	○	○	○		○	○
542	スイカズラ科	ソクス	○						
543	スイカズラ科	ニワトコ	○	○		○			
544	スイカズラ科	ガマズミ				○			○
545	スイカズラ科	コバノガマズミ				○			
546	スイカズラ科	ケナシヤブデマリ	○	○					
547	スイカズラ科	タニウツギ	○	○	○	○	○	○	○
548	オミナエシ科	オトコエシ	○			○			○
549	オミナエシ科	ノヂシャ	○	○	○	○			
550	キキョウ科	ツリガネニンジン						○	
551	キキョウ科	ホタルブクロ						○	
552	キキョウ科	ミゾカクシ		○		○		○	○
553	キキョウ科	キキョウソウ		○	○				○
554	キク科	キッコウハグマ				○			
555	キク科	フタクサ	○	○	○	○		○	○
556	キク科	オオブタクサ	○	○	○			○	○
557	キク科	カワラハハコ	○	○	○	○	○	○	○
558	キク科	カワラヨモギ	○	○	○	○	○	○	○
559	キク科	ヒメヨモギ	○				○	○	
560	キク科	ヨモギ	○	○	○	○	○	○	○
561	キク科	オトコヨモギ	○	○	○	○	○	○	○
562	キク科	キレハオトコヨモギ					○		
563	キク科	イヌヨモギ				○	○	○	
564	キク科	ホソバコンギク	○						
565	キク科	シロヨメナ							○
566	キク科	ノコンギク	○	○	○	○	○	○	○
567	キク科	オオホウキギク					○		
568	キク科	キダチコンギク	○	○	○				
569	キク科	シラヤマギク				○			
570	キク科	ヒロハホウキギク	○	○	○				○
571	キク科	ホウキギク	○	○	○	○	○	○	○
572	キク科	ヒナギク		○					
573	キク科	アメリカセンダングサ	○	○	○	○	○	○	○
574	キク科	ヤブタバコ				○			
575	キク科	トキンソウ	○	○	○	○	○	○	○
576	キク科	フランスギク	○	○	○				

表6.7-2(9) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
577	キク科	ノアザミ	○	○					
578	キク科	アレチノギク							○
579	キク科	オオアレチノギク	○	○	○	○	○	○	○
580	キク科	オオキンケイギク	○	○	○				○
581	キク科	ハルシャギク	○		○			○	○
582	キク科	コスモス	○	○	○		○	○	○
583	キク科	キバナコスモス			○				
584	キク科	ベニバナボロギク	○	○	○	○	○	○	○
585	キク科	アメリカタカサブロウ		○	○				○
586	キク科	タカサブロウ	○	○	○	○	○	○	○
587	キク科	ダンドボロギク				○		○	○
588	キク科	ヒメムカシヨモギ	○	○	○	○	○	○	○
589	キク科	ハルジオン	○	○	○	○		○	
590	キク科	ヒヨドリバナ				○		○	○
591	キク科	フジバカマ	○	○	○	○		○	○
592	キク科	サワヒヨドリ				○			
593	キク科	ツワブキ				○			
594	キク科	ハキダメギク	○					○	○
595	キク科	ハハコグサ	○	○	○	○		○	○
596	キク科	チヂチコグサ							○
597	キク科	チチコグサ	○	○		○			○
598	キク科	チチコグサモドキ						○	
599	キク科	ウスベニチチコグサ	○		○				
600	キク科	キクイモ				○		○	
601	キク科	フタナ	○	○	○			○	○
602	キク科	オグルマ			○				
603	キク科	オオデシバリ	○						○
604	キク科	ニガナ	○	○				○	○
605	キク科	ハナニガナ	○						
606	キク科	ノニガナ	○			○			
607	キク科	イワニガナ		○	○			○	○
608	キク科	オオユウガギク			○				
609	キク科	ユウガギク	○	○				○	
610	キク科	ヨメナ		○	○	○		○	○
611	キク科	アキノノゲシ	○	○	○	○	○	○	○
612	キク科	ホソバアキノノゲシ		○	○	○		○	○
613	キク科	コオニタビラコ	○			○			
614	キク科	ヤブタビラコ	○		○				
615	キク科	フキ	○		○	○			○
616	キク科	コウゾリナ	○	○	○	○		○	○
617	キク科	オオハンゴンソウ	○			○			
618	キク科	サウギク						○	
619	キク科	ノボロギク	○	○	○	○		○	○
620	キク科	コメナモミ		○	○			○	
621	キク科	メナモミ				○		○	
622	キク科	セイタカアワダチソウ	○	○	○	○	○	○	○
623	キク科	オオアワダチソウ	○	○	○	○		○	○
624	キク科	アキノキリンソウ				○		○	
625	キク科	オキノゲシ	○	○	○	○		○	
626	キク科	ノゲシ	○	○	○	○	○	○	○
627	キク科	ヒメジョオン	○	○	○	○		○	○
628	キク科	ヘラバヒメジョオン							○
629	キク科	シロバナタンポポ	○						
630	キク科	セイヨウタンポポ	○		○	○	○	○	○
631	キク科	イガオナモミ			○			○	
632	キク科	オオオナモミ	○	○	○		○	○	○
633	キク科	オナモミ				○		○	
634	キク科	ヤクシソウ				○		○	
635	キク科	オニタビラコ	○	○	○			○	○
636	オモダカ科	ヘラオモダカ				○			
637	オモダカ科	オモダカ				○			
638	トチカガミ科	オオカナダモ						○	
639	トチカガミ科	コカナダモ	○	○	○		○	○	○
640	ヒルムシロ科	エビモ		○		○	○	○	
641	ヒルムシロ科	ササバモ		○					
642	ヒルムシロ科	アイノコイトモ		○					
643	ユリ科	ラッキョウ						○	
644	ユリ科	ノビル	○	○	○				○
645	ユリ科	アサツキ	○						
646	ユリ科	ニラ						○	
647	ユリ科	ハラン				○			
648	ユリ科	ドイツスズラン	○						

表6.7-2(10) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
649	ユリ科	ヤブカンゾウ	○	○	○	○		○	○
650	ユリ科	ノカンゾウ						○	
651	ユリ科	ササユリ				○			
652	ユリ科	オニユリ		○	○			○	
653	ユリ科	テッポウユリ				○			
654	ユリ科	シンテッポウユリ							○
655	ユリ科	ヤブラン				○		○	○
656	ユリ科	ジャノヒゲ			○	○			○
657	ユリ科	ナガバジャノヒゲ							○
658	ユリ科	ナルコユリ				○			
659	ユリ科	アマドコロ				○			
660	ユリ科	オモト				○			
661	ユリ科	サルトリイバラ				○		○	○
662	ユリ科	タチシオデ				○			
663	ユリ科	シオデ				○		○	
664	ユリ科	ヤマカシユウ						○	○
665	ヒガンバナ科	ヒガンバナ	○	○	○			○	○
666	ヒガンバナ科	ナツズイセン						○	
667	ヒガンバナ科	ラッパスイセン	○						
668	ヒガンバナ科	スイセン				○			
669	ヒガンバナ科	タマスタレ			○				
670	ヤマノイモ科	ナガイモ			○				○
671	ヤマノイモ科	タチドコロ				○			○
672	ヤマノイモ科	ヤマノイモ	○	○	○	○		○	○
673	ヤマノイモ科	ヒメドコロ						○	
674	ヤマノイモ科	オニドコロ		○	○	○		○	○
675	ミズアオイ科	コナギ	○	○		○		○	○
676	アヤメ科	グラジオラス						○	
677	アヤメ科	シャガ				○		○	○
678	アヤメ科	キショウブ	○	○	○	○	○	○	○
679	アヤメ科	アヤメ			○				
680	アヤメ科	ニワゼキショウ	○	○	○				○
681	アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン		○	○			○	○
682	イグサ科	ハナビゼキショウ		○					
683	イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ		○	○				○
684	イグサ科	ヒロハノコウガイゼキショウ	○					○	
685	イグサ科	イ	○	○	○	○		○	○
686	イグサ科	ドロイ				○			
687	イグサ科	コウガイゼキショウ	○	○	○	○	○	○	○
688	イグサ科	ホソイ			○				
689	イグサ科	クサイ	○	○	○	○		○	○
690	イグサ科	スズメノヤリ		○	○	○		○	○
691	ツユクサ科	ツユクサ	○	○	○	○		○	○
692	ツユクサ科	イボクサ	○		○		○	○	○
693	ツユクサ科	ムラサキツユクサ							○
694	ホシクサ科	ホシクサ						○	
695	イネ科	アオカモジグサ		○	○	○		○	○
696	イネ科	タチカモジグサ	○			○			
697	イネ科	カモジグサ	○	○	○			○	○
698	イネ科	コヌカグサ	○	○	○			○	
699	イネ科	ヤマヌカボ			○				
700	イネ科	ヌカボ	○	○				○	○
701	イネ科	クロコヌカグサ	○						
702	イネ科	ハイコヌカグサ	○						
703	イネ科	ヌカススキ			○				
704	イネ科	ハナヌカススキ	○	○	○				○
705	イネ科	スズメノテッポウ	○	○	○	○	○		○
706	イネ科	メリケンカルカヤ			○				○
707	イネ科	ハルガヤ	○						○
708	イネ科	コブナグサ	○	○	○	○	○	○	○
709	イネ科	トダシバ	○	○	○	○		○	○
710	イネ科	カラスムギ			○	○		○	○
711	イネ科	ミノゴメ	○	○		○			
712	イネ科	ヤマカモジグサ	○	○					
713	イネ科	コバンソウ	○	○	○	○		○	○
714	イネ科	ヒメコバンソウ	○	○	○			○	○
715	イネ科	イヌムギ	○	○	○				○
716	イネ科	スズメノチャヒキ	○	○	○				○
717	イネ科	キツネガヤ	○	○	○	○		○	○
718	イネ科	ノガリヤス						○	○
719	イネ科	ヤマアワ	○	○	○	○		○	○
720	イネ科	ホッスガヤ				○			

表6.7-2(11) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
721	イネ科	チヨウセンガリヤス						○	
722	イネ科	ギョウギシバ	○	○	○	○		○	○
723	イネ科	カモガヤ	○	○	○				○
724	イネ科	メヒシバ	○	○	○	○	○	○	○
725	イネ科	キタメヒシバ	○						
726	イネ科	コメヒシバ	○				○	○	
727	イネ科	アキメヒシバ	○	○	○		○	○	○
728	イネ科	アブラススキ						○	
729	イネ科	イヌビエ	○	○	○	○	○	○	○
730	イネ科	ケイヌビエ	○	○	○	○	○	○	○
731	イネ科	タイヌビエ					○		
732	イネ科	ヒメイヌビエ					○		○
733	イネ科	オヒシバ	○	○	○	○	○	○	○
734	イネ科	スズメガヤ				○			
735	イネ科	シナダレスズメガヤ	○	○	○	○		○	○
736	イネ科	カゼクサ	○	○	○	○	○	○	○
737	イネ科	ニワホコリ	○	○	○	○	○	○	○
738	イネ科	オオニワホコリ						○	○
739	イネ科	コスズメガヤ	○	○	○		○	○	○
740	イネ科	ナルコビエ	○	○	○	○	○	○	○
741	イネ科	オニウシノケグサ	○	○	○	○	○	○	○
742	イネ科	トボシガラ	○		○				○
743	イネ科	ヒロハノウシノケグサ	○	○	○	○		○	○
744	イネ科	オオウシノケグサ	○						
745	イネ科	ウキガヤ					○		
746	イネ科	ドジョウツナギ	○	○	○				○
747	イネ科	ウシノシッペイ			○	○		○	
748	イネ科	コウボウ	○						
749	イネ科	チガヤ	○	○	○	○	○	○	○
750	イネ科	チゴザサ	○	○				○	○
751	イネ科	エゾノサヤヌカグサ	○	○	○				○
752	イネ科	サヤヌカグサ	○				○	○	○
753	イネ科	ネズミムギ	○	○	○			○	○
754	イネ科	ホソムギ	○	○				○	○
755	イネ科	コメガヤ							○
756	イネ科	ササガヤ						○	○
757	イネ科	ヒメアシボソ	○	○	○	○		○	○
758	イネ科	アシボソ	○	○	○	○	○	○	○
759	イネ科	ハチジョウススキ				○			
760	イネ科	トキワススキ	○						
761	イネ科	オギ	○	○	○	○	○	○	○
762	イネ科	ススキ	○	○		○	○	○	○
763	イネ科	ケチチミザサ				○			○
764	イネ科	コチチミザサ	○					○	○
765	イネ科	ヌカキビ	○	○	○	○	○	○	○
766	イネ科	オオクサキビ	○	○	○	○		○	○
767	イネ科	シマスズメノヒエ			○			○	
768	イネ科	スズメノヒエ	○	○	○	○		○	○
769	イネ科	チカラシバ	○	○	○	○		○	○
770	イネ科	アオチカラシバ		○					
771	イネ科	クサヨシ	○	○	○	○	○	○	○
772	イネ科	オオアワガエリ				○			
773	イネ科	ヨシ	○	○	○	○		○	○
774	イネ科	ツルヨシ	○	○	○	○	○	○	○
775	イネ科	セイタカヨシ		○					
776	イネ科	マダケ				○			○
777	イネ科	ハチク					○	○	
778	イネ科	モウソウチク				○			
779	イネ科	ネザサ	○	○	○			○	○
780	イネ科	ケネザサ				○			
781	イネ科	メダケ			○	○		○	○
782	イネ科	ミゾイチゴツナギ	○						
783	イネ科	スズメノカタビラ			○	○	○	○	○
784	イネ科	ツルスズメノカタビラ	○	○					
785	イネ科	オオイチゴツナギ	○						
786	イネ科	イチゴツナギ	○	○	○	○			○
787	イネ科	オオスズメノカタビラ	○	○	○				○
788	イネ科	タマオオスズメノカタビラ			○				
789	イネ科	ヒエガエリ	○	○	○			○	○
790	イネ科	ヤダケ							○
791	イネ科	ヌメリグサ							○
792	イネ科	フゲシザサ		○					

表6.7-2(12) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
793	イネ科	チマキザサ	○	○		○		○	○
794	イネ科	イヌアワ	○	○	○			○	○
795	イネ科	アキノエノコログサ	○	○	○	○	○	○	○
796	イネ科	コツブキンエノコロ	○	○	○			○	○
797	イネ科	キンエノコロ	○	○	○	○	○	○	○
798	イネ科	エノコログサ	○			○	○	○	○
799	イネ科	ムラサキエノコロ	○	○	○	○		○	○
800	イネ科	オオエノコロ						○	
801	イネ科	セイバンモロコシ							○
802	イネ科	ミヤマアブラスキ						○	○
803	イネ科	ネズミノオ		○			○		○
804	イネ科	カニツリグサ	○	○	○				○
805	イネ科	ナギナタガヤ	○	○	○			○	○
806	イネ科	マコモ	○	○		○	○	○	○
807	イネ科	シバ	○	○	○	○		○	○
808	イネ科	コウライシバ						○	
809	ヤシ科	シュロ		○		○		○	○
810	サトイモ科	ショウブ				○		○	○
811	サトイモ科	セキショウ	○					○	○
812	サトイモ科	サトイモ						○	
813	サトイモ科	カラスビシャク			○			○	
814	ウキクサ科	アオウキクサ							○
815	ウキクサ科	コウキクサ						○	
816	ウキクサ科	ウキクサ		○					○
817	ミクリ科	ミクリ		○		○			○
818	ガマ科	ヒメガマ	○		○	○	○	○	○
819	ガマ科	ガマ					○	○	○
820	ガマ科	コガマ						○	
821	カヤツリグサ科	エナシヒゴクサ	○						
822	カヤツリグサ科	クロカワズスゲ	○		○				
823	カヤツリグサ科	アゼナルコ			○				
824	カヤツリグサ科	カサスゲ			○				
825	カヤツリグサ科	シラスゲ	○						
826	カヤツリグサ科	ビロードスゲ	○	○	○			○	
827	カヤツリグサ科	ハマアオスゲ	○						
828	カヤツリグサ科	タニガワズスゲ	○						
829	カヤツリグサ科	マスクサ			○	○			○
830	カヤツリグサ科	ヤマアゼスゲ	○		○				
831	カヤツリグサ科	アイズスゲ	○						
832	カヤツリグサ科	ジュズスゲ	○					○	
833	カヤツリグサ科	ヒゴクサ	○						
834	カヤツリグサ科	ナキリスゲ		○		○		○	○
835	カヤツリグサ科	アオスゲ	○	○	○				○
836	カヤツリグサ科	シバズスゲ	○		○				
837	カヤツリグサ科	コジュズスゲ	○						
838	カヤツリグサ科	キンキカサスゲ	○	○					
839	カヤツリグサ科	アオゴウソ		○					
840	カヤツリグサ科	イトアオスゲ	○						
841	カヤツリグサ科	コウボウシバ		○					
842	カヤツリグサ科	シオクグ		○					
843	カヤツリグサ科	アズマナルコ	○						
844	カヤツリグサ科	ニシノホンモンヅスゲ	○				○		○
845	カヤツリグサ科	アゼスゲ	○						
846	カヤツリグサ科	ヤワラスゲ	○		○				
847	カヤツリグサ科	チャガヤツリ	○	○	○				○
848	カヤツリグサ科	アイダクグ			○				
849	カヤツリグサ科	ヒメクグ	○	○	○	○		○	○
850	カヤツリグサ科	クグガヤツリ					○		
851	カヤツリグサ科	イヌクグ						○	
852	カヤツリグサ科	タマガヤツリ	○	○	○	○	○	○	○
853	カヤツリグサ科	メリケンガヤツリ		○					
854	カヤツリグサ科	ヒナガヤツリ	○		○			○	○
855	カヤツリグサ科	アゼガヤツリ	○				○	○	○
856	カヤツリグサ科	コアゼガヤツリ	○						
857	カヤツリグサ科	コゴメガヤツリ	○	○	○	○	○	○	○
858	カヤツリグサ科	カヤツリグサ	○	○	○	○	○	○	○
859	カヤツリグサ科	アオガヤツリ	○						
860	カヤツリグサ科	ウシクグ		○			○	○	○
861	カヤツリグサ科	シロガヤツリ	○						
862	カヤツリグサ科	カワラスガナ	○				○	○	○
863	カヤツリグサ科	ミスガヤツリ					○		
864	カヤツリグサ科	ヒメガヤツリ		○					

表6.7-2(13) 植物確認種リスト

No.	科名	種和名	福井大橋周辺			九頭竜川橋～鳴鹿橋上流			
			H6	H12	H17	H2・3	H3	H5	H16
865	カヤツリグサ科	マツバイ	○			○	○	○	
866	カヤツリグサ科	ハリイ	○			○			
867	カヤツリグサ科	ヒメヒラテンツキ	○					○	○
868	カヤツリグサ科	テンツキ				○		○	
869	カヤツリグサ科	クロテンツキ	○						
870	カヤツリグサ科	ヒデリコ	○		○		○	○	○
871	カヤツリグサ科	アゼテンツキ					○		
872	カヤツリグサ科	ヒンジガヤツリ						○	
873	カヤツリグサ科	ホタルイ						○	
874	カヤツリグサ科	イヌホタルイ	○		○				○
875	カヤツリグサ科	カンガレイ	○					○	
876	カヤツリグサ科	サンカクイ	○	○	○	○	○	○	○
877	カヤツリグサ科	タイワンヤマイ	○						
878	カヤツリグサ科	アブラガヤ						○	○
879	カヤツリグサ科	スゲ属							○
880	ショウガ科	ハナミョウガ				○			
881	ショウガ科	ショウガ				○			
882	ラン科	サイハイラン		○					
883	ラン科	シュンラン				○			
884	ラン科	ネジバナ			○				○
合計			447	368	366	467	186	485	465

表6.7-3(1) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近		
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20		
1	クモ目	ジグモ科	ジグモ												
2	クモ目	ハグモ科	ネコハグモ		○			○	○				○		
3	クモ目	ガケジグモ科	セスジガケジグモ												
4	クモ目	ガケジグモ科	ヤチグモ				○								○
5	クモ目	ガケジグモ科	メガネヤチグモ	○											
6	クモ目	ヤマトガケジグモ科	ヤマトガケジグモ		○					○			○		
7	クモ目	ウスグモ科	ウスグモ										○		
8	クモ目	マシラグモ科	ヨコフマシラグモ	○											
9	クモ目	ユウレイグモ科	イエユウレイグモ										○		
10	クモ目	タナグモ科	クサグモ	○	○			○	○						
11	クモ目	タナグモ科	コクサグモ							○			○	○	
12	クモ目	コガネグモ科	ハツリグモ										○	○	
13	クモ目	コガネグモ科	キザハシオニグモ	○	○	○	○	○		○		○	○	○	
14	クモ目	コガネグモ科	ナカムラオニグモ	○	○	○	○	○		○		○	○	○	
15	クモ目	コガネグモ科	ヤミイロオニグモ		○	○									
16	クモ目	コガネグモ科	ヤマオニグモ	○				○							
17	クモ目	コガネグモ科	オニグモ			○	○	○							
18	クモ目	コガネグモ科	ムツボシオニグモ	○	○			○	○				○		
19	クモ目	コガネグモ科	コガネグモ	○	○	○	○	○	○						○
20	クモ目	コガネグモ科	ナガコガネグモ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
21	クモ目	コガネグモ科	コガタコガネグモ							○					
22	クモ目	コガネグモ科	カラスコミグモ					○							
23	クモ目	コガネグモ科	ゴミグモ												
24	クモ目	コガネグモ科	ヨツボシショウジョウグモ	○	○		○	○	○				○		
25	クモ目	コガネグモ科	コガネグモダマシ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
26	クモ目	コガネグモ科	ドヨウオニグモ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
27	クモ目	コガネグモ科	コゲチャオニグモ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
28	クモ目	コガネグモ科	ヤマシロオニグモ		○	○	○						○		
29	クモ目	コガネグモ科	ホシスジオニグモ	○											
30	クモ目	コガネグモ科	ズグロオニグモ	○		○			○						
31	クモ目	サラグモ科	ハラジロムナキグモ					○					○		
32	クモ目	サラグモ科	ニセアカムネグモ	○									○		
33	クモ目	サラグモ科	クロナンキングモ			○	○						○		
34	クモ目	サラグモ科	Mysmenella属										○		
35	クモ目	サラグモ科	ヘリジロサラグモ										○		
36	クモ目	サラグモ科	セシヤカムネグモ										○		
37	クモ目	コモリグモ科	ハタチコモリグモ												○
38	クモ目	コモリグモ科	エビチャコモリグモ				○								
39	クモ目	コモリグモ科	ヒノマルコモリグモ			○		○	○				○		
40	クモ目	コモリグモ科	クロココモリグモ										○		
41	クモ目	コモリグモ科	ハラクロコモリグモ	○	○	○							○		
42	クモ目	コモリグモ科	スズキコモリグモ	○	○										
43	クモ目	コモリグモ科	イナダハリゲコモリグモ			○	○								
44	クモ目	コモリグモ科	ウツキコモリグモ	○	○	○	○	○	○	○			○		
45	クモ目	コモリグモ科	ヤマハリゲコモリグモ					○							
46	クモ目	コモリグモ科	イサゴコモリグモ										○		
47	クモ目	コモリグモ科	ハリゲコモリグモ		○			○	○						
48	クモ目	コモリグモ科	キクヅコモリグモ		○	○			○				○		
49	クモ目	コモリグモ科	クラーコモリグモ												
50	クモ目	コモリグモ科	イモコモリグモ												
51	クモ目	コモリグモ科	チビコモリグモ												
52	クモ目	コモリグモ科	アライトコモリグモ	○	○	○	○		○	○			○		
53	クモ目	ササグモ科	ササグモ												
54	クモ目	キシダグモ科	スジプトハシリグモ	○	○	○							○		
55	クモ目	キシダグモ科	スジアカハシリグモ				○								
56	クモ目	キシダグモ科	イオウイロハシリグモ	○	○	○				○			○		
57	クモ目	キシダグモ科	アズマキシダグモ	○			○	○	○	○			○	○	
58	クモ目	アシナガグモ科	ヨツボシヒメアシナガグモ												
59	クモ目	アシナガグモ科	ヒメアシナガグモ												
60	クモ目	アシナガグモ科	コシロカネグモ							○					
61	クモ目	アシナガグモ科	キララシロカネグモ												
62	クモ目	アシナガグモ科	メガネドヨウグモ												
63	クモ目	アシナガグモ科	ジロウグモ	○		○	○								
64	クモ目	アシナガグモ科	トガリアシナガグモ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
65	クモ目	アシナガグモ科	ヤサカタアシナガグモ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
66	クモ目	アシナガグモ科	アシナガグモ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
67	クモ目	アシナガグモ科	ウロコアシナガグモ	○				○	○	○			○	○	
68	クモ目	アシナガグモ科	シヨクアシナガグモ		○				○						○
69	クモ目	ヒメグモ科	オオツリガネヒメグモ												○
70	クモ目	ヒメグモ科	オオヒメグモ												○
71	クモ目	ヒメグモ科	ボカシミジグモ		○										
72	クモ目	ヒメグモ科	ヤマトコノハグモ		○										
73	クモ目	ヒメグモ科	Enoplognatha属												○
74	クモ目	ヒメグモ科	ハンゲツオスナキグモ	○		○									
75	クモ目	ヒメグモ科	スネグロオチハヒメグモ												○
76	クモ目	ヒメグモ科	ムネグロヒメグモ					○							○
77	クモ目	ヒメグモ科	ハイロヒメグモ												○
78	クモ目	ウエムラグモ科	ミヤマタンボクモ			○	○								
79	クモ目	ウエムラグモ科	イタチグモ												○
80	クモ目	ウエムラグモ科	オトヒメグモ												○
81	クモ目	フクログモ科	アラスジコマチグモ												
82	クモ目	フクログモ科	カバキコマチグモ	○	○	○		○	○				○	○	
83	クモ目	フクログモ科	ヤマトコマチグモ		○	○									○
84	クモ目	フクログモ科	ミチノクフクログモ												
85	クモ目	フクログモ科	ヤマトフクログモ			○				○					
86	クモ目	フクログモ科	ハマキフクログモ		○			○	○						
87	クモ目	フクログモ科	ヒメフクログモ		○	○		○	○						
88	クモ目	フクログモ科	ムナアカフクログモ		○	○	○	○	○						
89	クモ目	シボグモ科	シボグモ		○	○	○	○	○						
90	クモ目	ワシグモ科	チャクワシグモ					○							
91	クモ目	ワシグモ科	トラフワシグモ						○						
92	クモ目	ワシグモ科	カワラメキリグモ				○								
93	クモ目	ワシグモ科	メリグモ			○									
94	クモ目	ワシグモ科	ヨツボシワシグモ					○							
95	クモ目	ワシグモ科	クロチャケムリグモ						○						
96	クモ目	ワシグモ科	ワケムリグモ				○								○
97	クモ目	エビグモ科	コガネエビグモ	○		○			○	○			○		
98	クモ目	エビグモ科	キンイロエビグモ	○	○	○			○	○			○		
99	クモ目	エビグモ科	シロエビグモ	○				○					○		

表6.7-3(2) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ~鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	
100	クモ目	エビグモ科	アサヒエビグモ		○			○	○			○	
101	クモ目	エビグモ科	ヤマトヤドカリグモ		○			○	○				○
102	クモ目	エビグモ科	ジャコグモ									○	
103	クモ目	ハエトリグモ科	マツモトハエトリ									○	
104	クモ目	ハエトリグモ科	ネコハエトリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
105	クモ目	ハエトリグモ科	カタオカハエトリ									○	
106	クモ目	ハエトリグモ科	マミジロハエトリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
107	クモ目	ハエトリグモ科	アシトハエトリ							○			
108	クモ目	ハエトリグモ科	マミクロハエトリ			○	○					○	○
109	クモ目	ハエトリグモ科	ホオジロハエトリ	○									
110	クモ目	ハエトリグモ科	アダンソンハエトリ					○					
111	クモ目	ハエトリグモ科	チビクロハエトリ		○	○		○	○			○	
112	クモ目	ハエトリグモ科	タカノハエトリ				○			○		○	○
113	クモ目	ハエトリグモ科	ウスリーハエトリ				○					○	
114	クモ目	ハエトリグモ科	オスクロハエトリ	○	○			○	○	○		○	○
115	クモ目	ハエトリグモ科	ヤハズハエトリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
116	クモ目	ハエトリグモ科	シラビゲハエトリ									○	
117	クモ目	ハエトリグモ科	タイリクアリグモ									○	○
118	クモ目	ハエトリグモ科	ヤサアリグモ	○									
119	クモ目	ハエトリグモ科	アリグモ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
120	クモ目	ハエトリグモ科	クワガタアリグモ									○	○
121	クモ目	ハエトリグモ科	チャイロアサヒハエトリ		○			○				○	
122	クモ目	ハエトリグモ科	マガネアサヒハエトリ	○	○	○			○			○	
123	クモ目	ハエトリグモ科	キアシハエトリ	○									
124	クモ目	ハエトリグモ科	マガネアサヒハエトリ	○	○	○	○	○	○			○	○
125	クモ目	ハエトリグモ科	メスジロハエトリ					○	○			○	
126	クモ目	ハエトリグモ科	デーニツツハエトリ									○	
127	クモ目	ハエトリグモ科	ミスジハエトリ				○			○			
128	クモ目	ハエトリグモ科	イナズマハエトリ		○	○							
129	クモ目	ハエトリグモ科	ヒメカラスハエトリ									○	
130	クモ目	ハエトリグモ科	カラスハエトリ			○	○		○	○			
131	クモ目	ハエトリグモ科	クロツヤハエトリ									○	
132	クモ目	ハエトリグモ科	キレウハエトリ			○			○			○	
133	クモ目	ハエトリグモ科	アオビハエトリ		○	○		○	○			○	
134	クモ目	ハエトリグモ科	Sitticus属									○	
135	クモ目	ハエトリグモ科	ウススジハエトリ		○							○	
136	クモ目	カニグモ科	キハダカニグモ							○			
137	クモ目	カニグモ科	コハナグモ					○				○	
138	クモ目	カニグモ科	アマギエビスグモ									○	
139	クモ目	カニグモ科	ハナグモ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
140	クモ目	カニグモ科	マツモトオチバカニグモ									○	
141	クモ目	カニグモ科	ワカバグモ				○	○	○			○	○
142	クモ目	カニグモ科	フノジグモ						○	○		○	
143	クモ目	カニグモ科	セマルトラフカニグモ									○	
144	クモ目	カニグモ科	ホンクロボシカニグモ	○	○								
145	クモ目	カニグモ科	カラカニグモ							○			
146	クモ目	カニグモ科	クロボシカニグモ		○							○	
147	クモ目	カニグモ科	ヤミイロカニグモ	○	○							○	
148	クモ目	カニグモ科	オオヤミイロカニグモ	○	○	○		○	○			○	
149	クモ目	カニグモ科	ヨコフカニグモ									○	
150	ワラジムシ目	ミズムシ科	コチビミズムシ					○	○			○	
151	ワラジムシ目	ミズムシ科	ハラグロミズムシ		○			○	○	○		○	
152	ワラジムシ目	ミズムシ科	エサキコミズムシ									○	
153	ワラジムシ目	ミズムシ科	コミズムシ	○	○	○	○	○	○			○	
154	オビヤステ目	オビヤステ科	ムシロオビヤステ	○								○	
155	オビヤステ目	オビヤステ科	オビヤステ科	○								○	
156	ゲジ目	ゲジ科	ゲジ	○								○	
157	イシムカデ目	イシムカデ科	イッスンムカデ	○								○	
158	イシムカデ目	イシムカデ科	モモフトイシムカデ	○								○	
159	イシムカデ目	イシムカデ科	イシムカデ科	○								○	
160	オオムカデ目	メナシムカデ科	セズシアカムカデ	○								○	
161	オオムカデ目	オオムカデ科	トビズムカデ	○								○	
162	カゲロウ目	コカゲロウ科	フタバコカゲロウ									○	
163	カゲロウ目	コカゲロウ科	フタバカゲロウ									○	
164	カゲロウ目	フタオカゲロウ科	フタオカゲロウ科									○	
165	カゲロウ目	ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ		○	○			○	○		○	
166	カゲロウ目	ヒラタカゲロウ科	ウエノヒラタカゲロウ									○	
167	カゲロウ目	ヒラタカゲロウ科	エルモンヒラタカゲロウ						○	○		○	
168	カゲロウ目	ヒラタカゲロウ科	ユモシヒラタカゲロウ	○	○		○	○	○	○		○	○
169	カゲロウ目	ヒラタカゲロウ科	タテヤマヒラタカゲロウ									○	
170	カゲロウ目	チラカゲロウ科	チラカゲロウ	○					○	○		○	
171	カゲロウ目	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ			○						○	
172	カゲロウ目	モンカゲロウ科	トウヨウモンカゲロウ						○	○		○	
173	カゲロウ目	モンカゲロウ科	モンカゲロウ		○	○		○		○		○	
174	カゲロウ目	カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ			○			○	○		○	
175	カゲロウ目	マダラカゲロウ科	Ephemera属									○	
176	カゲロウ目	マダラカゲロウ科	マダラカゲロウ科									○	
177	トンボ目	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ						○				○
178	トンボ目	アオイトトンボ科	アオイトトンボ						○				
179	トンボ目	アオイトトンボ科	オオアオイトトンボ		○								○
180	トンボ目	イトトンボ科	クロイトトンボ	○								○	
181	トンボ目	イトトンボ科	セズイトトンボ			○			○	○		○	
182	トンボ目	イトトンボ科	アジアイトトンボ				○	○	○	○		○	○
183	トンボ目	イトトンボ科	アオモンイトトンボ			○	○	○	○	○		○	○
184	トンボ目	イトトンボ科	モートンイトトンボ						○	○		○	○
185	トンボ目	カワトンボ科	ハグロトンボ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
186	トンボ目	カワトンボ科	アサヒナカワトンボ									○	
187	トンボ目	ヤンマ科	マルタンヤンマ									○	
188	トンボ目	ヤンマ科	ギンヤンマ			○	○		○				
189	トンボ目	ヤンマ科	コンソリヤンマ					○					
190	トンボ目	サナエトンボ科	ダビドサナエ			○	○						○
191	トンボ目	サナエトンボ科	コオニヤンマ						○				
192	トンボ目	オニヤンマ科	オニヤンマ						○				
193	トンボ目	エゾトンボ科	コヤマトンボ			○	○		○			○	○
194	トンボ目	トンボ科	シヨウシヨウトンボ									○	○
195	トンボ目	トンボ科	ハラビロトンボ						○	○		○	○
196	トンボ目	トンボ科	シオカラトンボ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
197	トンボ目	トンボ科	シオヤマトンボ									○	○
198	トンボ目	トンボ科	オオシオカラトンボ							○	○	○	○

表6.7-3(3) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20
199	トンボ目	トンボ科	ウスバキトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
200	トンボ目	トンボ科	コシアキトンボ		○				○				
201	トンボ目	トンボ科	チョウトンボ				○						
202	トンボ目	トンボ科	コシトトンボ							○			
203	トンボ目	トンボ科	ナツアカネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
204	トンボ目	トンボ科	マユタテアカネ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
205	トンボ目	トンボ科	アキアカネ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
206	トンボ目	トンボ科	ノシトトンボ	○	○	○	○	○	○		○	○	
207	トンボ目	トンボ科	マイコアカネ		○	○					○	○	
208	トンボ目	トンボ科	ミヤマアカネ		○	○					○	○	
209	ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	モリチャバネゴキブリ		○	○						○	
210	カマキリ目	ヒメカマキリ科	ヒメカマキリ										○
211	カマキリ目	カマキリ科	ヒナカマキリ										○
212	カマキリ目	カマキリ科	ハラビロカマキリ	○	○				○	○	○		
213	カマキリ目	カマキリ科	ウスバカマキリ	○	○	○	○	○	○	○			
214	カマキリ目	カマキリ科	コカマキリ	○	○		○	○	○	○			
215	カマキリ目	カマキリ科	チョウセンカマキリ	○	○	○			○	○			○
216	カマキリ目	カマキリ科	オオカマキリ		○	○	○	○	○	○			○
217	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	ハマベハサミムシ									○	
218	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	コヒゲジロハサミムシ									○	
219	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	キアシハサミムシ									○	
220	ハサミムシ目	マルムネハサミムシ科	ヒゲジロハサミムシ				○	○				○	○
221	ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	クギヌキハサミムシ		○	○		○				○	
222	ハサミムシ目	オオハサミムシ科	オオハサミムシ	○	○	○			○	○		○	
223	カワゲラ目	カワゲラ科	カミムラカワゲラ		○	○							
224	カワゲラ目	カワゲラ科	カワゲラ科	○							○		
225	バッタ目	コロギス科	ハネナシコロギス					○					
226	バッタ目	ツユムシ科	セスジツユムシ	○	○		○				○	○	○
227	バッタ目	ツユムシ科	サトクダマキモドキ				○						
228	バッタ目	ツユムシ科	エゾツユムシ					○					
229	バッタ目	ツユムシ科	ツユムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
230	バッタ目	ツユムシ科	アングロツユムシ	○	○	○		○	○				
231	バッタ目	ツユムシ科	ヘリグロツユムシ										
232	バッタ目	ツユムシ科	クダマキモドキ	○	○						○		
233	バッタ目	キリギリス科	コバネヒメギス	○	○			○					
234	バッタ目	キリギリス科	ウスイロササキリ	○	○	○	○	○				○	○
235	バッタ目	キリギリス科	オナガササキリ	○	○	○	○	○		○		○	
236	バッタ目	キリギリス科	ホシササキリ	○	○	○	○	○		○		○	
237	バッタ目	キリギリス科	ササキリ	○	○	○				○		○	
238	バッタ目	キリギリス科	Conocephalus属										
239	バッタ目	キリギリス科	ヒメギス		○	○	○	○		○	○		
240	バッタ目	キリギリス科	クビキリギリス				○						
241	バッタ目	キリギリス科	ヒガシキリギリス				○						○
242	バッタ目	キリギリス科	キリギリス									○	
243	バッタ目	キリギリス科	ウマオイ			○		○				○	
244	バッタ目	キリギリス科	ハタケノウマオイ				○				○		
245	バッタ目	キリギリス科	カヤキリ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
246	バッタ目	キリギリス科	クサキリ	○	○						○		
247	バッタ目	キリギリス科	ヤブキリ							○	○	○	
248	バッタ目	キリギリス科	キリギリス科								○		
249	バッタ目	ケラ科	ケラ	○	○	○		○			○	○	
250	バッタ目	マツムシ科	スズムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
251	バッタ目	マツムシ科	カンタン	○	○	○	○	○	○	○			
252	バッタ目	マツムシ科	アオマツムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
253	バッタ目	マツムシ科	マツムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
254	バッタ目	コオロギ科	ハラオカメコオロギ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
255	バッタ目	コオロギ科	ミツカドコオロギ	○	○	○					○	○	
256	バッタ目	コオロギ科	クマコオロギ		○		○	○					
257	バッタ目	コオロギ科	タンボコオロギ								○	○	
258	バッタ目	コオロギ科	クマズムシ			○	○	○	○	○	○	○	○
259	バッタ目	コオロギ科	エンマコオロギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
260	バッタ目	コオロギ科	ツツレサセコオロギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
261	バッタ目	カネタタキ科	カネタタキ								○	○	
262	バッタ目	アリツカコオロギ科	アリツカコオロギ				○	○					
263	バッタ目	ヒバリモドキ科	カワラスズ					○					
264	バッタ目	ヒバリモドキ科	マダラスズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
265	バッタ目	ヒバリモドキ科	ヒゲシロズ				○	○	○	○	○	○	○
266	バッタ目	ヒバリモドキ科	シバズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
267	バッタ目	ヒバリモドキ科	ヤチズ		○	○	○	○				○	○
268	バッタ目	ヒバリモドキ科	エソズ										
269	バッタ目	ヒバリモドキ科	クサヒバリ						○				
270	バッタ目	ヒバリモドキ科	キアシヒバリモドキ		○							○	
271	バッタ目	バッタ科	ショウリョウバッタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
272	バッタ目	バッタ科	マダラバッタ		○							○	○
273	バッタ目	バッタ科	ヒナバッタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
274	バッタ目	バッタ科	クルマバッタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
275	バッタ目	バッタ科	トノサマバッタ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
276	バッタ目	バッタ科	イナゴモドキ			○							
277	バッタ目	バッタ科	ヒロバネヒナバッタ		○		○	○					
278	バッタ目	バッタ科	ナキイナゴ								○	○	
279	バッタ目	バッタ科	クルマバッタモドキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
280	バッタ目	バッタ科	ツマグロバッタ			○	○	○	○	○	○	○	○
281	バッタ目	バッタ科	イボバッタ				○	○	○	○	○	○	○
282	バッタ目	イナゴ科	コバネイナゴ		○							○	○
283	バッタ目	イナゴ科	セグロイナゴ		○							○	○
284	バッタ目	オンブバッタ科	オンブバッタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
285	バッタ目	ヒシバッタ科	トゲヒシバッタ				○						
286	バッタ目	ヒシバッタ科	ハネナガヒシバッタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
287	バッタ目	ヒシバッタ科	コバネヒシバッタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
288	バッタ目	ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
289	バッタ目	ヒシバッタ科	ヤセヒシバッタ										
290	バッタ目	ヒシバッタ科	ヒメヒシバッタ										
291	バッタ目	ノミバッタ科	ノミバッタ	○	○						○	○	
292	ナナフシ目	ナナフシ科	ナナフシ							○			
293	カメムシ目	ヒシウンカ科	キガシラヒシウンカ						○				
294	カメムシ目	ヒシウンカ科	オオヒシウンカ									○	
295	カメムシ目	ヒシウンカ科	ヒシウンカ	○					○				○
296	カメムシ目	ヒシウンカ科	ヨスジヒシウンカ									○	
297	カメムシ目	ウンカ科	ゴマフウンカ			○							

表6.7-3(4) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16		H20
298	カメムシ目	ウンカ科	タテゴトウンカ			○				○				
299	カメムシ目	ウンカ科	ヒメトビウンカ										○	
300	カメムシ目	ウンカ科	トビイロウンカ										○	
301	カメムシ目	ウンカ科	ホソミドリウンカ						○					
302	カメムシ目	ウンカ科	セジロウンカ		○							○		
303	カメムシ目	ウンカ科	エゾナガウンカ										○	
304	カメムシ目	ウンカ科	タマガウナガウンカ			○								
305	カメムシ目	ウンカ科	テラウチウンカ		○									
306	カメムシ目	ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ							○			○	
307	カメムシ目	テングスケバ科	テングスケバ	○										
308	カメムシ目	テングスケバ科	ツマグロスケバ			○	○	○	○	○	○		○	○
309	カメムシ目	テングスケバ科	ミツハシテングスケバ									○		
310	カメムシ目	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ			○	○	○	○	○			○	○
311	カメムシ目	アオバハゴロモ科	トビイロハゴロモ			○	○	○	○	○			○	○
312	カメムシ目	ハゴロモ科	スケハハゴロモ										○	○
313	カメムシ目	ハゴロモ科	ベッコウハゴロモ		○	○	○	○	○	○			○	○
314	カメムシ目	ハゴロモ科	ヒメベッコウハゴロモ		○	○	○	○	○	○		○	○	○
315	カメムシ目	ゲンバイウンカ科	ヒラタゲンバイウンカ		○	○	○	○	○	○		○		
316	カメムシ目	セミ科	クマゼミ										○	○
317	カメムシ目	セミ科	アブラゼミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
318	カメムシ目	セミ科	ツクツクボウシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
319	カメムシ目	セミ科	ミンミンゼミ							○		○	○	○
320	カメムシ目	セミ科	ニイニゼミ						○				○	
321	カメムシ目	ツノゼミ科	トビイロツノゼミ		○	○				○				
322	カメムシ目	アワフキムシ科	シロオビアワフキ		○									○
323	カメムシ目	アワフキムシ科	モンキアワフキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
324	カメムシ目	アワフキムシ科	ハマベアワフキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
325	カメムシ目	アワフキムシ科	ヒメシロオビアワフキ										○	○
326	カメムシ目	アワフキムシ科	コガタアワフキ										○	○
327	カメムシ目	アワフキムシ科	マエキアワフキ	○								○		
328	カメムシ目	アワフキムシ科	ヒメモンキアワフキ		○			○	○				○	○
329	カメムシ目	アワフキムシ科	アワフキムシ科									○		
330	カメムシ目	コガシラアワフキムシ科	コガシラアワフキ	○	○	○			○				○	○
331	カメムシ目	ヨコバイ科	フタテンヒメヨコバイ										○	○
332	カメムシ目	ヨコバイ科	クサビヨコバイ										○	○
333	カメムシ目	ヨコバイ科	タケナガヨコバイ										○	○
334	カメムシ目	ヨコバイ科	アオズキンヨコバイ										○	○
335	カメムシ目	ヨコバイ科	ホシアオズキンヨコバイ									○		
336	カメムシ目	ヨコバイ科	ツマグロオオヨコバイ					○		○			○	○
337	カメムシ目	ヨコバイ科	オオヨコバイ						○				○	○
338	カメムシ目	ヨコバイ科	オトガリヨコバイ										○	○
339	カメムシ目	ヨコバイ科	トガリヨコバイ										○	○
340	カメムシ目	ヨコバイ科	ミドリヒメヨコバイ										○	○
341	カメムシ目	ヨコバイ科	ヨツモンヒメヨコバイ	○									○	○
342	カメムシ目	ヨコバイ科	サジヨコバイ										○	○
343	カメムシ目	ヨコバイ科	ヒシモンヨコバイ		○								○	○
344	カメムシ目	ヨコバイ科	シロズキンヨコバイ		○			○						
345	カメムシ目	ヨコバイ科	ヤノズキンヨコバイ	○										
346	カメムシ目	ヨコバイ科	マエジロオオヨコバイ										○	○
347	カメムシ目	ヨコバイ科	ミドリヒヨコバイ	○	○	○			○	○		○		
348	カメムシ目	ヨコバイ科	ミミスク		○				○	○				
349	カメムシ目	ヨコバイ科	ヤナキハトムネヨコバイ										○	○
350	カメムシ目	ヨコバイ科	ヨツテンヨコバイ										○	○
351	カメムシ目	ヨコバイ科	コチャイロヨコバイ										○	○
352	カメムシ目	ヨコバイ科	セスジヒメヨコバイ										○	○
353	カメムシ目	ヨコバイ科	ツマグロヨコバイ	○	○	○			○	○			○	○
354	カメムシ目	ヨコバイ科	キマダラヒヨコバイ										○	○
355	カメムシ目	ヨコバイ科	シロミヤクイチモンジヨコバイ	○										
356	カメムシ目	ヨコバイ科	クロヒラタヨコバイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
357	カメムシ目	ヨコバイ科	ヒトツメヨコバイ			○							○	○
358	カメムシ目	ヨコバイ科	クロサジヨコバイ		○	○			○	○			○	○
359	カメムシ目	ヨコバイ科	ズキンヨコバイ						○				○	○
360	カメムシ目	ヨコバイ科	イナズマヨコバイ		○								○	○
361	カメムシ目	ヨコバイ科	イネマダラヨコバイ			○								
362	カメムシ目	ヨコバイ科	シラホシスカシヨコバイ		○		○	○		○			○	○
363	カメムシ目	ヨコバイ科	イグチホシヨコバイ											○
364	カメムシ目	ヨコバイ科	シマサジヨコバイ										○	○
365	カメムシ目	ヨコバイ科	フタテンヨコバイ				○						○	○
366	カメムシ目	ヨコバイ科	フトヨコバイ										○	○
367	カメムシ目	ヨコバイ科	ヨコバイ科					○				○		
368	カメムシ目	キジラミ科	ベニキジラミ										○	○
369	カメムシ目	アブラムシ科	セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ										○	○
370	カメムシ目	アブラムシ科	アブラムシ科										○	○
371	カメムシ目	マルカイガラムシ科	クワシロカイガラムシ										○	○
372	カメムシ目	クビナガカメムシ科	ヒメクビナガカメムシ										○	○
373	カメムシ目	サシガメ科	ハリサシガメ										○	○
374	カメムシ目	サシガメ科	ヨコツナサシガメ			○								
375	カメムシ目	サシガメ科	ハネナシサシガメ			○								
376	カメムシ目	サシガメ科	ピロウドサシガメ										○	○
377	カメムシ目	サシガメ科	セスジアシナガサシガメ										○	○
378	カメムシ目	サシガメ科	オオアシナガサシガメ		○									
379	カメムシ目	サシガメ科	クビグロアカサシガメ											
380	カメムシ目	サシガメ科	アカシマサシガメ					○						
381	カメムシ目	サシガメ科	トビイロサシガメ	○					○	○			○	○
382	カメムシ目	サシガメ科	クロモンサシガメ	○	○		○	○	○	○			○	○
383	カメムシ目	サシガメ科	トゲサシガメ										○	○
384	カメムシ目	サシガメ科	ヒメトビサシガメ	○	○								○	○
385	カメムシ目	ゲンバヤムシ科	オオウチワゲンバイ								○			
386	カメムシ目	ゲンバヤムシ科	ウチワゲンバイ										○	○
387	カメムシ目	ゲンバヤムシ科	ヒゲトゲンバイ										○	○
388	カメムシ目	ゲンバヤムシ科	コアカソゲンバイ						○	○			○	○
389	カメムシ目	ゲンバヤムシ科	キクゲンバイ		○	○			○	○			○	○
390	カメムシ目	ゲンバヤムシ科	ヤナキゲンバイ										○	○
391	カメムシ目	ゲンバヤムシ科	トサカゲンバイ										○	○
392	カメムシ目	ヒラタカメムシ科	ヒメヒラタカメムシ		○								○	○
393	カメムシ目	ハナカメムシ科	ヤサハナカメムシ									○		
394	カメムシ目	ハナカメムシ科	コヒメハナカメムシ										○	○
395	カメムシ目	ハナカメムシ科	ナミメハナカメムシ						○				○	○
396	カメムシ目	カスミカメムシ科	ヨツモンカスミカメ			○								

表6.7-3(5) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近			
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16		H20		
397	カメムシ目	カスミカメムシ科	ウスモンカスミカメ													
398	カメムシ目	カスミカメムシ科	ナカグロカスミカメ	○	○	○		○	○	○	○	○	○			
399	カメムシ目	カスミカメムシ科	フチヒゲクロカスミカメ		○		○			○			○			
400	カメムシ目	カスミカメムシ科	フタモンアカカスミカメ										○			
401	カメムシ目	カスミカメムシ科	コアオカスミカメ		○	○		○	○	○	○	○	○			
402	カメムシ目	カスミカメムシ科	モモアカハギカスミカメ													○
403	カメムシ目	カスミカメムシ科	ツマグロアオカスミカメ													○
404	カメムシ目	カスミカメムシ科	ヒメセダカカスミカメ				○									○
405	カメムシ目	カスミカメムシ科	カワヤナギツヤカスミカメ				○			○						○
406	カメムシ目	カスミカメムシ科	ヤナギウスバツヤカスミカメ							○						
407	カメムシ目	カスミカメムシ科	ケヤキツヤカスミカメ													○
408	カメムシ目	カスミカメムシ科	メンガタカスミカメ								○					○
409	カメムシ目	カスミカメムシ科	ムモンミドリカスミカメ									○				○
410	カメムシ目	カスミカメムシ科	ナガミドリカスミカメ				○	○								
411	カメムシ目	カスミカメムシ科	Lygus属										○			
412	カメムシ目	カスミカメムシ科	ズアカシダカスミカメ													○
413	カメムシ目	カスミカメムシ科	クロマルカスミカメ				○			○	○					
414	カメムシ目	カスミカメムシ科	マツヒョウタンカスミカメ				○									
415	カメムシ目	カスミカメムシ科	ヒョウタンカスミカメ				○	○								○
416	カメムシ目	カスミカメムシ科	クロヒョウタンカスミカメ				○	○								○
417	カメムシ目	カスミカメムシ科	オオクロセダカカスミカメ				○	○					○			○
418	カメムシ目	カスミカメムシ科	ニセクロツヤチビカスミカメ													○
419	カメムシ目	カスミカメムシ科	クロツヤチビカスミカメ													○
420	カメムシ目	カスミカメムシ科	フタゲムギカスミカメ					○								○
421	カメムシ目	カスミカメムシ科	アカスジカスミカメ									○				○
422	カメムシ目	カスミカメムシ科	ゲンバカスミカメ													○
423	カメムシ目	カスミカメムシ科	ウスモンミドリカスミカメ				○			○			○			○
424	カメムシ目	カスミカメムシ科	ケブカカスミカメ									○				
425	カメムシ目	カスミカメムシ科	イネホソミドリカスミカメ													○
426	カメムシ目	カスミカメムシ科	モンキチビカスミカメ											○		
427	カメムシ目	カスミカメムシ科	ムギカスミカメ				○			○						○
428	カメムシ目	カスミカメムシ科	アカヒゲホソミドリカスミカメ				○			○			○			
429	カメムシ目	カスミカメムシ科	カスミカメムシ科											○		
430	カメムシ目	マキバサシガメ科	ハネナガマキバサシガメ	○	○	○		○	○	○	○					○
431	カメムシ目	マキバサシガメ科	アシフトマキバサシガメ													○
432	カメムシ目	マキバサシガメ科	キバナアシフトマキバサシガメ													○
433	カメムシ目	オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ	○			○			○						○
434	カメムシ目	オオホシカメムシ科	オオホシカメムシ													○
435	カメムシ目	ホソカメムシ科	フタモンホソカメムシ	○	○	○		○	○	○	○					○
436	カメムシ目	ホソカメムシ科	クモヘリカメムシ													○
437	カメムシ目	ホソカメムシ科	キベリヘリカメムシ				○		○	○						○
438	カメムシ目	ホソカメムシ科	ヒメクモヘリカメムシ				○			○						○
439	カメムシ目	ホソカメムシ科	ホソヘリカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
440	カメムシ目	ヘリカメムシ科	ホオズキカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
441	カメムシ目	ヘリカメムシ科	オオクモヘリカメムシ				○									○
442	カメムシ目	ヘリカメムシ科	ホソハリカメムシ				○	○	○	○	○					○
443	カメムシ目	ヘリカメムシ科	ヒメトゲヘリカメムシ													○
444	カメムシ目	ヘリカメムシ科	ハラビロヘリカメムシ													○
445	カメムシ目	ヘリカメムシ科	ホシハラビロヘリカメムシ				○	○	○	○	○					○
446	カメムシ目	ヘリカメムシ科	オオツマキヘリカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
447	カメムシ目	ヘリカメムシ科	ツマキヘリカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
448	カメムシ目	ヘリカメムシ科	キバラヘリカメムシ				○									○
449	カメムシ目	ヘリカメムシ科	ヘリカメムシ科													○
450	カメムシ目	ヒメヘリカメムシ科	スカシヒメヘリカメムシ													○
451	カメムシ目	ヒメヘリカメムシ科	アカヒメヘリカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
452	カメムシ目	ヒメヘリカメムシ科	ケブカヒメヘリカメムシ				○	○	○	○	○					○
453	カメムシ目	ヒメヘリカメムシ科	フチヒゲヒメヘリカメムシ				○	○	○	○	○					○
454	カメムシ目	ヒメヘリカメムシ科	フチヒゲヘリカメムシ													○
455	カメムシ目	ヒメヘリカメムシ科	ヒメヘリカメムシ科	○										○		
456	カメムシ目	イトカメムシ科	ヒメイトカメムシ													○
457	カメムシ目	ナガカメムシ科	ウスイロナガカメムシ													○
458	カメムシ目	ナガカメムシ科	ヒメヒラタナガカメムシ													○
459	カメムシ目	ナガカメムシ科	コバナナガカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
460	カメムシ目	ナガカメムシ科	クロナガカメムシ													○
461	カメムシ目	ナガカメムシ科	ヒメオオメナガカメムシ													○
462	カメムシ目	ナガカメムシ科	ホソコバナナガカメムシ													○
463	カメムシ目	ナガカメムシ科	オオチャイロナガカメムシ													○
464	カメムシ目	ナガカメムシ科	チャイロナガカメムシ													○
465	カメムシ目	ナガカメムシ科	ヒメナガカメムシ				○	○	○	○	○					○
466	カメムシ目	ナガカメムシ科	ヒラタヒョウタンナガカメムシ				○	○	○	○	○					○
467	カメムシ目	ナガカメムシ科	モンシロナガカメムシ	○												○
468	カメムシ目	ナガカメムシ科	アムールシロヘリナガカメムシ													○
469	カメムシ目	ナガカメムシ科	チャモンナガカメムシ													○
470	カメムシ目	ナガカメムシ科	キベリヒョウタンナガカメムシ	○			○		○							○
471	カメムシ目	ナガカメムシ科	クロアシホソナガカメムシ				○									○
472	カメムシ目	ナガカメムシ科	Paromius属													○
473	カメムシ目	ナガカメムシ科	オオメナガカメムシ	○			○	○	○	○	○					○
474	カメムシ目	ナガカメムシ科	ムラサキナガカメムシ				○									○
475	カメムシ目	ナガカメムシ科	イチゴチビナガカメムシ				○	○	○	○	○					○
476	カメムシ目	ナガカメムシ科	コバナヒョウタンナガカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
477	カメムシ目	ナガカメムシ科	ジュウジナガカメムシ				○									○
478	カメムシ目	ナガカメムシ科	ヒメジュウジナガカメムシ				○	○								○
479	カメムシ目	ナガカメムシ科	ヒメオオメカメムシ													○
480	カメムシ目	ナガカメムシ科	オオメカメムシ													○
481	カメムシ目	ナガカメムシ科	ナガカメムシ科													○
482	カメムシ目	メダカナガカメムシ科	メダカナガカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
483	カメムシ目	ツノカメムシ科	アオモンツノカメムシ													○
484	カメムシ目	ツノカメムシ科	ベニモンツノカメムシ				○									○
485	カメムシ目	ツノカメムシ科	エサキモンキツノカメムシ				○			○	○					○
486	カメムシ目	ツチカメムシ科	ミツボシツチカメムシ													○
487	カメムシ目	ツチカメムシ科	シロヘリツチカメムシ													○
488	カメムシ目	ツチカメムシ科	ヒメツチカメムシ													○
489	カメムシ目	ツチカメムシ科	ツチカメムシ													○
490	カメムシ目	ツチカメムシ科	マルツチカメムシ				○									○
491	カメムシ目	カメムシ科	ウスラカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○					○
492	カメムシ目	カメムシ科	フチヒゲカメムシ				○	○	○	○	○					○
493	カメムシ目	カメムシ科	ハナダカメムシ				○	○	○	○	○					○
494	カメムシ目	カメムシ科	ナガメ				○	○	○	○	○					○
495	カメムシ目	カメムシ科	トゲシラホシカメムシ				○	○	○	○	○					○

表6.7-3(6) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ~鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	
496	カメムシ目	カメムシ科	マルシラホシカメムシ		○	○	○		○	○	○	○	
497	カメムシ目	カメムシ科	オオトゲシラホシカメムシ										
498	カメムシ目	カメムシ科	ニセオオトゲシラホシカメムシ					○					
499	カメムシ目	カメムシ科	シラホシカメムシ	○	○	○	○	○	○	○		○	
500	カメムシ目	カメムシ科	ツヤアオカメムシ			○	○		○			○	
501	カメムシ目	カメムシ科	エビイロカメムシ									○	
502	カメムシ目	カメムシ科	アサシカメムシ		○	○		○	○	○		○	
503	カメムシ目	カメムシ科	クサギカメムシ	○	○	○		○	○	○	○	○	○
504	カメムシ目	カメムシ科	アオクサカメムシ	○	○	○		○	○	○	○	○	○
505	カメムシ目	カメムシ科	エゾアオカメムシ										○
506	カメムシ目	カメムシ科	アシアカカメムシ								○		
507	カメムシ目	カメムシ科	クチブトカメムシ		○			○	○				
508	カメムシ目	カメムシ科	イチモンジカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
509	カメムシ目	カメムシ科	チャバネアオカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
510	カメムシ目	カメムシ科	オオクロカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
511	カメムシ目	カメムシ科	クロカメムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
512	カメムシ目	カメムシ科	ルリクチブトカメムシ		○	○		○	○			○	
513	カメムシ目	マルカメムシ科	ヒメマルカメムシ			○	○	○				○	○
514	カメムシ目	マルカメムシ科	タデマルカメムシ								○		
515	カメムシ目	マルカメムシ科	マルカメムシ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
516	カメムシ目	マルカメムシ科	マルカメムシ科								○		
517	カメムシ目	キンカメムシ科	オオキンカメムシ							○			
518	カメムシ目	キンカメムシ科	チャイロカメムシ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
519	カメムシ目	クヌギカメムシ科	サジクヌギカメムシ			○							
520	カメムシ目	アメンボ科	アメンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
521	カメムシ目	アメンボ科	コセアカアメンボ			○							
522	カメムシ目	アメンボ科	ヒメアメンボ	○	○	○	○	○	○			○	○
523	カメムシ目	アメンボ科	シマアメンボ										○
524	カメムシ目	イトアメンボ科	イトアメンボ	○	○								
525	カメムシ目	イトアメンボ科	ヒメイトアメンボ		○								○
526	カメムシ目	ミスギワカメムシ科	ミスギワカメムシ			○	○						○
527	カメムシ目	ミスギワカメムシ科	ミスギワカメムシ										○
528	カメムシ目	タイコウチ科	タイコウチ										○
529	カメムシ目	タイコウチ科	ミスカマキリ	○									
530	カメムシ目	マツモムシ科	コマツモムシ										○
531	カメムシ目	マツモムシ科	マツモムシ										○
532	アザミウマ目	クダアザミウマ科	クチキクダアザミウマ		○								
533	アザミウマ目	クダアザミウマ科	クダアザミウマ科								○		
534	ヘビトンボ目	ヘビトンボ科	ヘビトンボ					○				○	
535	ヘビトンボ目	センブリ科	ネグロセンブリ	○									
536	ヘビトンボ目	センブリ科	クロセンブリ			○							○
537	アミメカゲロウ目	ラクダムシ科	ラクダムシ								○		
538	アミメカゲロウ目	ヒロバカゲロウ科	ヒロバカゲロウ		○	○	○		○		○	○	
539	アミメカゲロウ目	ヒロバカゲロウ科	ツマモンヒロバカゲロウ				○						
540	アミメカゲロウ目	ヒロバカゲロウ科	スカシヒロバカゲロウ							○			
541	アミメカゲロウ目	ヒロバカゲロウ科	ウンモンヒロバカゲロウ										○
542	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	クモンクサカゲロウ			○							○
543	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	ヨソボンクサカゲロウ			○		○					○
544	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	ニッボンクサカゲロウ		○	○	○	○					
545	アミメカゲロウ目	クサカゲロウ科	タイワンクサカゲロウ			○	○	○					
546	アミメカゲロウ目	ヒメカゲロウ科	ヤマトヒメカゲロウ		○			○	○				
547	アミメカゲロウ目	ヒメカゲロウ科	チャバネヒメカゲロウ					○					
548	アミメカゲロウ目	ヒメカゲロウ科	ヒメカゲロウ科								○		
549	アミメカゲロウ目	ツノトンボ科	ツノトンボ				○						
550	アミメカゲロウ目	ウスバカゲロウ科	ホシウスバカゲロウ		○		○			○			
551	アミメカゲロウ目	ウスバカゲロウ科	ニセコウスバカゲロウ						○				
552	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
553	トビケラ目	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	○	○								
554	トビケラ目	シマトビケラ科	ウルマーシマトビケラ	○	○	○			○				
555	トビケラ目	シマトビケラ科	シマトビケラ科										
556	トビケラ目	ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
557	トビケラ目	ヒゲナガカワトビケラ科	チャバネヒゲナガカワトビケラ	○							○	○	
558	トビケラ目	ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ科		○			○					
559	トビケラ目	ナガレトビケラ科	クレメンズナガレトビケラ								○		
560	トビケラ目	ナガレトビケラ科	ムナグロナガレトビケラ			○							
561	トビケラ目	ナガレトビケラ科	トワダナガレトビケラ										
562	トビケラ目	ナガレトビケラ科	ヤマナカナガレトビケラ		○				○				
563	トビケラ目	ナガレトビケラ科	ナガレトビケラ科								○		
564	トビケラ目	ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ			○			○			○	
565	トビケラ目	カクツツトビケラ科	ツダカクツツトビケラ		○								
566	トビケラ目	ヒゲナガトビケラ科	アオヒゲナガトビケラ						○				○
567	トビケラ目	ヒゲナガトビケラ科	ヤマモトセンカイトビケラ										○
568	トビケラ目	エグリトビケラ科	ウスバキトビケラ						○				○
569	トビケラ目	エグリトビケラ科	トウヨウウスバキトビケラ		○								
570	チョウ目	コウモリガ科	コウモリガ						○				
571	チョウ目	コウモリガ科	キマダラコウモリ										○
572	チョウ目	ヒゲナガガ科	クロハネシロヒゲナガ			○							
573	チョウ目	ミノガ科	ネグロミノガ								○		
574	チョウ目	ミノガ科	チャミノガ						○			○	
575	チョウ目	ミノガ科	オオミノガ								○		
576	チョウ目	ミノガ科	ニトベミノガ								○		
577	チョウ目	ミノガ科	シバミノガ								○		
578	チョウ目	キバガ科	シロモンクロキバガ						○				
579	チョウ目	キバガ科	ウスボシフサキバガ		○				○				
580	チョウ目	キバガ科	キバガ科								○		
581	チョウ目	ヒゲナガキバガ科	カクハネヒゲナガキバガ									○	
582	チョウ目	マルハキバガ科	ホソオビキマルハキバガ						○				
583	チョウ目	ニジュウシドリバガ科	ニジュウシドリバ										○
584	チョウ目	スガ科	コナガ						○			○	
585	チョウ目	スガ科	マルギンバネスガ									○	
586	チョウ目	ネムスガ科	ネムスガ			○						○	
587	チョウ目	スカシバガ科	ヒメアトスカシバ										○
588	チョウ目	スカシバガ科	ブドウスカシバ						○				
589	チョウ目	スカシバガ科	クビアカスカシバ							○			
590	チョウ目	スカシバガ科	ムナブトヒメスカシバ										○
591	チョウ目	ボクトウガ科	ハイイロボクトウ	○									
592	チョウ目	ボクトウガ科	ゴマフボクトウ		○								
593	チョウ目	ハマキガ科	セモンカギバヒメハマキ			○							○
594	チョウ目	ハマキガ科	ミダレカクモンハマキ			○							

表6.7-3(7) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ~鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20	
595	チョウ目	ハマキガ科	オオアトキハマキ			○								
596	チョウ目	ハマキガ科	ヨモギネムシガ			○		○	○				○	
597	チョウ目	ハマキガ科	ヒロオビヒメハマキ					○					○	
598	チョウ目	ハマキガ科	ソトシロトガリヒメハマキ						○					
599	チョウ目	ハマキガ科	トビモンシロヒメハマキ			○								
600	チョウ目	ハマキガ科	フタスジヒメハマキ			○								
601	チョウ目	ハマキガ科	ヨツスジヒメシンクイ										○	
602	チョウ目	ハマキガ科	ネグロヒメハマキ			○			○					
603	チョウ目	ハマキガ科	コンシロアシヒメハマキ										○	
604	チョウ目	ハマキガ科	ホソバヒメハマキ						○					
605	チョウ目	ハマキガ科	フタモンコハマキ					○					○	
606	チョウ目	ハマキガ科	クローバヒメハマキ			○		○	○					
607	チョウ目	ハマキガ科	アカトビハマキ		○								○	
608	チョウ目	ハマキガ科	ヤナギサザナミヒメハマキ						○				○	
609	チョウ目	ハマキガ科	オオヤナギサザナミヒメハマキ			○								
610	チョウ目	ハマキガ科	ハマキガ科								○			
611	チョウ目	イラガ科	ムラサキイラガ	○				○	○					
612	チョウ目	イラガ科	テングイラガ	○	○	○	○	○	○				○	
613	チョウ目	イラガ科	イラガ	○				○					○	○
614	チョウ目	イラガ科	ナシイラガ										○	
615	チョウ目	イラガ科	アオイイラガ	○									○	
616	チョウ目	イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	○									○	
617	チョウ目	イラガ科	クロナタアオイラガ	○									○	
618	チョウ目	イラガ科	アカイラガ										○	
619	チョウ目	マダラガ科	キスジホソマダラ						○					
620	チョウ目	マダラガ科	ヤホシホソマダラ				○							
621	チョウ目	マダラガ科	ブドウスカシクロバ		○		○		○					
622	チョウ目	マダラガ科	シロシタホタルガ					○						
623	チョウ目	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
624	チョウ目	セセリチョウ科	チャバネセセリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
625	チョウ目	セセリチョウ科	キマダラセセリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
626	チョウ目	マダラチョウ科	アサキマダラ										○	
627	チョウ目	テングチョウ科	テングチョウ本土亜種			○								
628	チョウ目	シジミチョウ科	ルリシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
629	チョウ目	シジミチョウ科	ウラギンシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
630	チョウ目	シジミチョウ科	ツバメシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
631	チョウ目	シジミチョウ科	ウラナシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
632	チョウ目	シジミチョウ科	ベニシジミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
633	チョウ目	シジミチョウ科	ヤマトシジミ本土亜種	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
634	チョウ目	タテハチョウ科	コムラサキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
635	チョウ目	タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	○										
636	チョウ目	タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン			○	○		○				○	○
637	チョウ目	タテハチョウ科	オオウラギンシジミヒョウモン		○									
638	チョウ目	タテハチョウ科	ヒメアカタテハ		○	○			○				○	
639	チョウ目	タテハチョウ科	メスグロヒョウモン							○				
640	チョウ目	タテハチョウ科	ウラギンヒョウモン	○										
641	チョウ目	タテハチョウ科	ゴマダラチョウ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
642	チョウ目	タテハチョウ科	イチモンジチョウ					○		○				
643	チョウ目	タテハチョウ科	コミスジ	○				○		○			○	
644	チョウ目	タテハチョウ科	ヒオドシチョウ		○									
645	チョウ目	タテハチョウ科	キタテハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
646	チョウ目	タテハチョウ科	アカタテハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
647	チョウ目	アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ本土亜種	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
648	チョウ目	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
649	チョウ目	アゲハチョウ科	カラスアゲハ本土亜種			○							○	○
650	チョウ目	アゲハチョウ科	モンキアゲハ			○							○	○
651	チョウ目	アゲハチョウ科	キアゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
652	チョウ目	アゲハチョウ科	クオアゲハ本土亜種	○									○	
653	チョウ目	アゲハチョウ科	ナミアゲハ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
654	チョウ目	シロチョウ科	ツマキチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
655	チョウ目	シロチョウ科	モンキチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
656	チョウ目	シロチョウ科	キチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
657	チョウ目	シロチョウ科	スジグロシロチョウ	○										
658	チョウ目	シロチョウ科	モンシロチョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
659	チョウ目	シロチョウ科	シロチョウ科										○	
660	チョウ目	ジャノメチョウ科	クロヒカゲ本土亜種											○
661	チョウ目	ジャノメチョウ科	ジャノメチョウ											○
662	チョウ目	ジャノメチョウ科	コジャノメ										○	
663	チョウ目	ジャノメチョウ科	ヒメジャノメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
664	チョウ目	ジャノメチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	○		○				○				○
665	チョウ目	トリバガ科	ヨモギトリバ			○				○				
666	チョウ目	トリバガ科	ブドウトリバ			○								
667	チョウ目	ツトガ科	ホソバトククロキノメイガ											○
668	チョウ目	ツトガ科	ヒメガリノメイガ	○				○	○					
669	チョウ目	ツトガ科	ツトガ			○		○	○				○	
670	チョウ目	ツトガ科	シロモンノメイガ		○						○		○	○
671	チョウ目	ツトガ科	タイウンウスキノメイガ		○			○					○	○
672	チョウ目	ツトガ科	アカウスグロノメイガ						○					○
673	チョウ目	ツトガ科	シロテンウスグロノメイガ	○										○
674	チョウ目	ツトガ科	モンウスグロノメイガ	○										○
675	チョウ目	ツトガ科	シロツトガ	○					○				○	○
676	チョウ目	ツトガ科	ヨシツトガ		○		○			○			○	○
677	チョウ目	ツトガ科	Chilo属										○	
678	チョウ目	ツトガ科	ニカメイガ	○	○									
679	チョウ目	ツトガ科	ウスクロスジツトガ	○										
680	チョウ目	ツトガ科	テンスジツトガ		○									○
681	チョウ目	ツトガ科	モリオカツガ						○					
682	チョウ目	ツトガ科	キホソノメイガ											○
683	チョウ目	ツトガ科	カギバナメイガ			○								
684	チョウ目	ツトガ科	コブノメイガ		○		○	○					○	
685	チョウ目	ツトガ科	ハカジモドキノメイガ						○					
686	チョウ目	ツトガ科	モモノコマダラノメイガ	○		○								
687	チョウ目	ツトガ科	クロスカシトガリノメイガ	○										
688	チョウ目	ツトガ科	シロスジツトガ						○					○
689	チョウ目	ツトガ科	ニセシロスジツトガ						○					
690	チョウ目	ツトガ科	トガリキノメイガ	○										
691	チョウ目	ツトガ科	ワタヘリクロノメイガ		○		○						○	
692	チョウ目	ツトガ科	キアヤヒメノメイガ										○	
693	チョウ目	ツトガ科	シロアヤヒメノメイガ										○	

表6.7-3(8) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20
694	チョウ目	ツトガ科	ヒメマダラミズメイガ		○			○	○			○	
695	チョウ目	ツトガ科	アヤナミノメイガ		○			○				○	
696	チョウ目	ツトガ科	シロエグリツトガ			○							
697	チョウ目	ツトガ科	ツゲノメイガ		○								
698	チョウ目	ツトガ科	シロマダラノメイガ						○	○			
699	チョウ目	ツトガ科	クロヘリキノメイガ								○		
700	チョウ目	ツトガ科	トビヘリキノメイガ	○	○		○		○			○	
701	チョウ目	ツトガ科	クロズノメイガ	○	○								
702	チョウ目	ツトガ科	ワタノメイガ							○			
703	チョウ目	ツトガ科	ウスオビクロノメイガ						○				
704	チョウ目	ツトガ科	クロオビクロノメイガ						○				
705	チョウ目	ツトガ科	モンキクロノメイガ	○	○	○	○	○	○			○	○
706	チョウ目	ツトガ科	マエキノメイガ		○	○			○			○	
707	チョウ目	ツトガ科	ミツデンノメイガ									○	
708	チョウ目	ツトガ科	マメノメイガ	○	○	○		○				○	○
709	チョウ目	ツトガ科	シロデンキノメイガ		○	○		○	○			○	
710	チョウ目	ツトガ科	サツマキノメイガ	○									
711	チョウ目	ツトガ科	クロフキノメイガ					○					
712	チョウ目	ツトガ科	クロフタオビツトガ						○				
713	チョウ目	ツトガ科	ホシオビホソノメイガ	○								○	
714	チョウ目	ツトガ科	ワモンノメイガ			○		○	○	○		○	○
715	チョウ目	ツトガ科	マエウスキノメイガ									○	
716	チョウ目	ツトガ科	クロミスジノメイガ		○				○				
717	チョウ目	ツトガ科	シロアシクロノメイガ									○	
718	チョウ目	ツトガ科	アワノメイガ	○		○		○				○	
719	チョウ目	ツトガ科	オナモミノメイガ		○				○	○			
720	チョウ目	ツトガ科	ユウグモノメイガ						○	○			○
721	チョウ目	ツトガ科	フキノメイガ	○	○							○	
722	チョウ目	ツトガ科	ヨスジノメイガ		○								
723	チョウ目	ツトガ科	ヘリジロキンノメイガ		○			○				○	
724	チョウ目	ツトガ科	マエウスモンキノメイガ						○			○	
725	チョウ目	ツトガ科	マエアカスカシノメイガ	○	○		○	○				○	
726	チョウ目	ツトガ科	ヒロバウスグロノメイガ		○								
727	チョウ目	ツトガ科	シバツトガ		○	○		○	○			○	
728	チョウ目	ツトガ科	イネコムズメイガ						○	○			
729	チョウ目	ツトガ科	キイロノメイガ	○									
730	チョウ目	ツトガ科	クビシロノメイガ									○	
731	チョウ目	ツトガ科	コガタシロモンノメイガ		○							○	
732	チョウ目	ツトガ科	ナガハマツトガ					○	○				
733	チョウ目	ツトガ科	シロハラノメイガ	○									
734	チョウ目	ツトガ科	コヨツメノメイガ	○			○	○					
735	チョウ目	ツトガ科	ウスイロキンノメイガ			○			○				
736	チョウ目	ツトガ科	ヨツメノメイガ									○	
737	チョウ目	ツトガ科	ウコンノメイガ	○		○						○	
738	チョウ目	ツトガ科	キオビミズメイガ						○			○	
739	チョウ目	ツトガ科	ナカキトガリノメイガ						○			○	
740	チョウ目	ツトガ科	キムジノメイガ			○						○	
741	チョウ目	ツトガ科	トモンノメイガ				○	○	○			○	
742	チョウ目	ツトガ科	タテシマノメイガ		○								
743	チョウ目	ツトガ科	セスジノメイガ						○			○	
744	チョウ目	ツトガ科	ウラグロシロノメイガ		○					○			
745	チョウ目	ツトガ科	シロオビノメイガ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
746	チョウ目	ツトガ科	モンシロクロノメイガ	○		○						○	
747	チョウ目	ツトガ科	ヨツボンノメイガ									○	
748	チョウ目	ツトガ科	トビモンシロノメイガ		○								
749	チョウ目	ツトガ科	クロスジノメイガ		○				○			○	
750	チョウ目	ツトガ科	ウスマルモンノメイガ						○				
751	チョウ目	ツトガ科	クロモンキノメイガ				○					○	
752	チョウ目	ツトガ科	ウスベニオオノメイガ		○								
753	チョウ目	ツトガ科	モンシロルリノメイガ	○					○			○	
754	チョウ目	メイガ科	ウスアカマダラメイガ					○					
755	チョウ目	メイガ科	オオアカオビマダラメイガ		○	○							
756	チョウ目	メイガ科	ヒメトビネマダラメイガ									○	
757	チョウ目	メイガ科	Acrobasis属								○		
758	チョウ目	メイガ科	ツマグロシマメイガ						○				
759	チョウ目	メイガ科	ウスアカムラサキマダラメイガ						○			○	
760	チョウ目	メイガ科	マツシシマダラメイガ		○								
761	チョウ目	メイガ科	ウスオビトガリメイガ						○				
762	チョウ目	メイガ科	オオウスベニトガリメイガ	○	○	○		○	○				
763	チョウ目	メイガ科	キモントガリメイガ									○	
764	チョウ目	メイガ科	キペルトガリメイガ										○
765	チョウ目	メイガ科	ウスベニトガリメイガ									○	
766	チョウ目	メイガ科	ヒエホソメイガ		○								
767	チョウ目	メイガ科	シロイチモンジマダラメイガ		○	○							
768	チョウ目	メイガ科	アカシマメイガ		○							○	
769	チョウ目	メイガ科	トビイロシマメイガ									○	
770	チョウ目	メイガ科	アカフツツリガ		○			○	○			○	
771	チョウ目	メイガ科	ナカムラサキフトメイガ									○	
772	チョウ目	メイガ科	トサカフトメイガ				○	○				○	
773	チョウ目	メイガ科	オオツツリガ									○	
774	チョウ目	メイガ科	シロスジクロマダラメイガ			○							
775	チョウ目	メイガ科	エチゴマダラメイガ		○		○						
776	チョウ目	メイガ科	ヤマトマダラメイガ									○	
777	チョウ目	メイガ科	マエナミマダラメイガ						○				
778	チョウ目	メイガ科	サンカクマダラメイガ									○	
779	チョウ目	メイガ科	アカマダラメイガ		○			○	○			○	○
780	チョウ目	メイガ科	ナカトビフトメイガ						○				
781	チョウ目	メイガ科	クロモンフトメイガ	○	○	○						○	
782	チョウ目	メイガ科	フタスジシマメイガ	○	○	○	○					○	
783	チョウ目	メイガ科	Phycitodes属									○	
784	チョウ目	メイガ科	マエジロホソマダラメイガ									○	
785	チョウ目	メイガ科	アカグロマダラメイガ									○	
786	チョウ目	メイガ科	ハイイロマダラメイガ						○				
787	チョウ目	メイガ科	オオフトメイガ					○					
788	チョウ目	メイガ科	ハラウスキマダラメイガ									○	
789	チョウ目	メイガ科	ヒメアカマダラメイガ						○				
790	チョウ目	メイガ科	トビイロフタスジシマメイガ									○	
791	チョウ目	メイガ科	フタグロマダラメイガ		○							○	
792	チョウ目	メイガ科	メイガ科	○									

表6.7-3(9) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20
793	チョウ目	マダガ科	アカジマダガ		○			○	○			○	
794	チョウ目	マダガ科	マダガ									○	
795	チョウ目	カギバカ科	ウコンカギバ		○								
796	チョウ目	トガリバガ科	アヤトガリバ	○	○			○					
797	チョウ目	トガリバガ科	モントガリバ			○							
798	チョウ目	シャクガ科	ヒトスジマダラエダシャク	○									
799	チョウ目	シャクガ科	ユウマダラエダシャク			○	○						
800	チョウ目	シャクガ科	チズモンアオシャク	○	○								
801	チョウ目	シャクガ科	ナカウスエダシャク		○						○	○	
802	チョウ目	シャクガ科	ヨモギエダシャク	○	○		○						
803	チョウ目	シャクガ科	ミスジコナフエダシャク		○								
804	チョウ目	シャクガ科	ヒラヤマシロエダシャク		○								
805	チョウ目	シャクガ科	ソトシロオビエダシャク	○									
806	チョウ目	シャクガ科	ギンスジエダシャク	○	○				○				
807	チョウ目	シャクガ科	フタテンオエダシャク	○	○	○	○	○	○			○	
808	チョウ目	シャクガ科	ウスオエダシャク	○	○	○	○	○	○		○	○	
809	チョウ目	シャクガ科	ハラアカアオシャク	○	○	○							
810	チョウ目	シャクガ科	ホソハラアカアオシャク	○			○						
811	チョウ目	シャクガ科	ウスハラアカアオシャク									○	
812	チョウ目	シャクガ科	コウスアオシャク	○	○	○	○		○	○			○
813	チョウ目	シャクガ科	ソトシロオビナミシャク			○							
814	チョウ目	シャクガ科	シロテンエダシャク	○	○			○					
815	チョウ目	シャクガ科	Cleora属								○		
816	チョウ目	シャクガ科	クロモンアオシャク			○							
817	チョウ目	シャクガ科	コヨツメアオシャク	○								○	
818	チョウ目	シャクガ科	オオハガタナミシャク		○								
819	チョウ目	シャクガ科	ウストビモンナミシャク					○					
820	チョウ目	シャクガ科	Eupithecia属								○		
821	チョウ目	シャクガ科	セアカカバナミシャク		○			○					
822	チョウ目	シャクガ科	セスジナミシャク		○		○						
823	チョウ目	シャクガ科	エグリエダシャク									○	
824	チョウ目	シャクガ科	ケブカチビナミシャク									○	
825	チョウ目	シャクガ科	コンシロスジアオシャク									○	
826	チョウ目	シャクガ科	ナミガタエダシャク	○									
827	チョウ目	シャクガ科	ウラベニエダシャク	○	○			○	○				
828	チョウ目	シャクガ科	フトオビエダシャク			○			○				
829	チョウ目	シャクガ科	オオバナミガタエダシャク							○			
830	チョウ目	シャクガ科	ハミスジエダシャク		○								
831	チョウ目	シャクガ科	ウスキヒメシャク					○		○			
832	チョウ目	シャクガ科	ウスモンキヒメシャク						○				
833	チョウ目	シャクガ科	クロテントビヒメシャク			○							
834	チョウ目	シャクガ科	オイウケヒメシャク			○			○	○			
835	チョウ目	シャクガ科	ベニヒメシャク	○	○			○	○			○	
836	チョウ目	シャクガ科	クロオビキヒメシャク										
837	チョウ目	シャクガ科	ミジンキヒメシャク						○				
838	チョウ目	シャクガ科	ナミスジコアオシャク			○							
839	チョウ目	シャクガ科	ナカモンキナミシャク								○		
840	チョウ目	シャクガ科	ジャンハイオエダシャク	○	○	○	○	○	○			○	
841	チョウ目	シャクガ科	ハガタツバメアオシャク						○				
842	チョウ目	シャクガ科	ナカジロナミシャク							○			
843	チョウ目	シャクガ科	フタモンクロナミシャク		○			○					
844	チョウ目	シャクガ科	マエキトビエダシャク									○	
845	チョウ目	シャクガ科	エグリツマエダシャク					○					
846	チョウ目	シャクガ科	キスジシロエダシャク	○									
847	チョウ目	シャクガ科	トビスジヒメナミシャク			○	○		○			○	
848	チョウ目	シャクガ科	シロツバメエダシャク			○							
849	チョウ目	シャクガ科	ウスキツバメエダシャク									○	
850	チョウ目	シャクガ科	ウスキオエダシャク		○								
851	チョウ目	シャクガ科	オオアヤシャク		○	○							
852	チョウ目	シャクガ科	ウスグロナミエダシャク		○							○	
853	チョウ目	シャクガ科	リンゴツノエダシャク				○					○	
854	チョウ目	シャクガ科	フタナミトビヒメシャク		○			○	○				
855	チョウ目	シャクガ科	クロテンシロヒメシャク		○	○							
856	チョウ目	シャクガ科	ウスキトガリヒメシャク	○									
857	チョウ目	シャクガ科	ギンハネヒメシャク					○					
858	チョウ目	シャクガ科	ヤスジマルバヒメシャク		○			○					
859	チョウ目	シャクガ科	ウスキクロテンヒメシャク	○				○	○				
860	チョウ目	シャクガ科	ハイヒロヒメシャク	○	○	○	○	○	○			○	
861	チョウ目	シャクガ科	モントビヒメシャク	○				○					
862	チョウ目	シャクガ科	マエキヒメシャク		○			○		○			
863	チョウ目	シャクガ科	ウスサカハチヒメシャク			○		○	○				
864	チョウ目	シャクガ科	Scopula属								○		
865	チョウ目	シャクガ科	ヨツボシウスキヒメシャク	○									
866	チョウ目	シャクガ科	キナシシロヒメシャク		○				○				
867	チョウ目	シャクガ科	ウンモンシオシロヒメシャク							○			
868	チョウ目	シャクガ科	ツマトビシロエダシャク	○								○	
869	チョウ目	シャクガ科	スジハグルマエダシャク				○						
870	チョウ目	シャクガ科	カギバアオシャク									○	
871	チョウ目	シャクガ科	ウスネズミエダシャク		○	○		○					
872	チョウ目	シャクガ科	ヨツメアオシャク	○								○	
873	チョウ目	シャクガ科	ミヤマツバメエダシャク			○							
874	チョウ目	シャクガ科	コベニスジヒメシャク	○	○	○	○						
875	チョウ目	シャクガ科	ウスベニスジヒメシャク										
876	チョウ目	シャクガ科	ベニスジヒメシャク		○		○			○		○	
877	チョウ目	シャクガ科	フタヒスジナミシャク									○	
878	チョウ目	シャクガ科	フトシマナミシャク									○	
879	チョウ目	シャクガ科	トガリエダシャク									○	
880	チョウ目	シャクガ科	シャクガ科	○									
881	チョウ目	カイコガ科	クワコ			○			○			○	
882	チョウ目	カレハガ科	マツカレハ						○			○	
883	チョウ目	カレハガ科	タケカレハ					○					
884	チョウ目	カレハガ科	ホシカレハ	○									
885	チョウ目	ヤマユガ科	オオミズアオ本州亜種	○									
886	チョウ目	スズメガ科	ブドウスズメ			○		○					
887	チョウ目	スズメガ科	エビガラスズメ			○							
888	チョウ目	スズメガ科	モンソバスズメ		○	○							
889	チョウ目	スズメガ科	ホシヒメホウジャク					○					
890	チョウ目	スズメガ科	トビイロスズメ		○	○						○	
891	チョウ目	スズメガ科	ベニスズメ						○				

表6.7-3(10) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近		
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20		
892	チョウ目	スズメガ科	サザナミスズメ		○										
893	チョウ目	スズメガ科	ホシホウジャク			○									
894	チョウ目	スズメガ科	クロホウジャク	○		○	○							○	
895	チョウ目	スズメガ科	ホウジャク		○			○	○						
896	チョウ目	スズメガ科	ウチスズメ	○											
897	チョウ目	スズメガ科	コスズメ	○	○	○		○	○					○	
898	チョウ目	スズメガ科	キロスズメ	○											
899	チョウ目	スズメガ科	セスジスズメ		○		○					○	○		
900	チョウ目	シャチホコガ科	ニセツマアカシャチホコ						○						
901	チョウ目	シャチホコガ科	セグロシャチホコ		○	○	○	○		○					
902	チョウ目	シャチホコガ科	パイバラシロシャチホコ											○	
903	チョウ目	シャチホコガ科	シロシャチホコ						○						
904	チョウ目	シャチホコガ科	シロテンシャチホコ											○	
905	チョウ目	シャチホコガ科	オオネグロシャチホコ											○	
906	チョウ目	シャチホコガ科	ホソバシャチホコ											○	
907	チョウ目	シャチホコガ科	ナカグロモクメシャチホコ												○
908	チョウ目	シャチホコガ科	クワゴモドキシャチホコ	○	○	○			○						
909	チョウ目	シャチホコガ科	ヒメシャチホコ	○	○	○			○						
910	チョウ目	シャチホコガ科	ムクツマキシャチホコ											○	
911	チョウ目	シャチホコガ科	モンクロシャチホコ											○	
912	チョウ目	シャチホコガ科	アオシャチホコ											○	
913	チョウ目	シャチホコガ科	ムラサキシャチホコ	○										○	
914	チョウ目	カノコガ科	カノコガ					○				○			
915	チョウ目	ヒトリガ科	ゴマダラベニコケガ	○											
916	チョウ目	ヒトリガ科	スジベニコケガ	○											○
917	チョウ目	ヒトリガ科	シロヒトリ	○	○	○						○	○		
918	チョウ目	ヒトリガ科	キシタソバ	○	○	○	○		○						
919	チョウ目	ヒトリガ科	ムジソバ							○				○	
920	チョウ目	ヒトリガ科	ヤネソバ	○	○										
921	チョウ目	ヒトリガ科	キマエソバ	○										○	
922	チョウ目	ヒトリガ科	キマエクロソバ						○						
923	チョウ目	ヒトリガ科	カクモンヒトリ	○											
924	チョウ目	ヒトリガ科	クビウスグロソバ		○										
925	チョウ目	ヒトリガ科	ハガタキコケガ	○	○			○						○	
926	チョウ目	ヒトリガ科	スジモンヒトリ											○	
927	チョウ目	ヒトリガ科	オビヒトリ		○									○	
928	チョウ目	ヒトリガ科	キハラゴマダラヒトリ		○	○		○	○	○				○	○
929	チョウ目	ヒトリガ科	アカハラゴマダラヒトリ					○							
930	チョウ目	ヒトリガ科	ゴマダラキコケガ	○											
931	チョウ目	ヒトリガ科	ヒトリガ科									○			
932	チョウ目	ドクガ科	マメドクガ		○			○						○	
933	チョウ目	ドクガ科	ゴマフリドクガ											○	
934	チョウ目	ドクガ科	モンシロドクガ	○	○			○							
935	チョウ目	ドクガ科	ドクガ											○	
936	チョウ目	ドクガ科	ブドウドクガ	○					○						
937	チョウ目	ドクガ科	マイマイガ						○						
938	チョウ目	ドクガ科	ヒメシロモントクガ	○	○	○	○	○				○	○	○	
939	チョウ目	ドクガ科	ウチジロマイマイ		○			○							
940	チョウ目	ヤガ科	オオケンモン		○										
941	チョウ目	ヤガ科	アケビコノハ		○										
942	チョウ目	ヤガ科	ナカジロシタバ			○								○	
943	チョウ目	ヤガ科	タマナヤガ	○	○							○		○	
944	チョウ目	ヤガ科	カブラヤガ		○									○	
945	チョウ目	ヤガ科	カラスヨトウ											○	
946	チョウ目	ヤガ科	オオシマカラスヨトウ											○	
947	チョウ目	ヤガ科	サビイロコヤガ					○						○	
948	チョウ目	ヤガ科	クロテンカバアツバ					○			○				
949	チョウ目	ヤガ科	ウリキンウバ		○		○								
950	チョウ目	ヤガ科	ワタアカキリバ		○										
951	チョウ目	ヤガ科	アカキリバ	○										○	
952	チョウ目	ヤガ科	アカモクメトウ		○										
953	チョウ目	ヤガ科	ハガタウスキヨトウ	○											
954	チョウ目	ヤガ科	ソトジロツマキリクチバ	○	○									○	
955	チョウ目	ヤガ科	シロテンウスグロヨトウ	○	○	○			○			○	○	○	○
956	チョウ目	ヤガ科	デンウスイロヨトウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
957	チョウ目	ヤガ科	シロモンオビヨトウ	○	○			○	○						
958	チョウ目	ヤガ科	Athetis属									○			
959	チョウ目	ヤガ科	ヒメサビスジトウ	○	○	○			○					○	
960	チョウ目	ヤガ科	ギンギシトウ						○						
961	チョウ目	ヤガ科	クロハナコヤガ					○							
962	チョウ目	ヤガ科	モクメトウ	○	○	○		○	○						
963	チョウ目	ヤガ科	キノカワガ											○	
964	チョウ目	ヤガ科	ヤマガタアツバ		○										
965	チョウ目	ヤガ科	イチモジキノコトウ		○			○						○	
966	チョウ目	ヤガ科	ウスアオモンコヤガ											○	
967	チョウ目	ヤガ科	Callopietria属									○			
968	チョウ目	ヤガ科	ウスエグリバ	○											
969	チョウ目	ヤガ科	オニベニシタバ					○							
970	チョウ目	ヤガ科	エゾベニシタバ											○	
971	チョウ目	ヤガ科	ショウフオオヨトウ	○											
972	チョウ目	ヤガ科	イチジクキンウバ	○					○						
973	チョウ目	ヤガ科	カクモンキシタバ											○	
974	チョウ目	ヤガ科	カクモンハナオイヤツバ											○	
975	チョウ目	ヤガ科	キンスジアツバ	○	○			○	○	○				○	
976	チョウ目	ヤガ科	オオホシミトウ											○	
977	チョウ目	ヤガ科	カバイロシマコヤガ											○	
978	チョウ目	ヤガ科	モモイロシマコヤガ											○	
979	チョウ目	ヤガ科	シマフコヤガ						○						
980	チョウ目	ヤガ科	シマキリガ					○						○	
981	チョウ目	ヤガ科	ニレキリガ						○					○	
982	チョウ目	ヤガ科	スジキノコトウ			○									
983	チョウ目	ヤガ科	キノコトウ		○	○	○	○	○					○	
984	チョウ目	ヤガ科	ミツモンキンウバ		○	○	○					○		○	
985	チョウ目	ヤガ科	エゾギクキンウバ	○	○	○								○	
986	チョウ目	ヤガ科	アオモンギンセダカモクメ		○	○		○							
987	チョウ目	ヤガ科	ハイイロセダカモクメ		○										
988	チョウ目	ヤガ科	オオバコヤガ	○	○	○	○	○	○					○	○
989	チョウ目	ヤガ科	ユウスチヤヤガ					○			○				○
990	チョウ目	ヤガ科	ウスイロアカフヤガ	○	○			○						○	

表6.7-3(11) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近		
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20		
991	チョウ目	ヤガ科	ウスツマクチバ	○				○							
992	チョウ目	ヤガ科	ホソオビアシフトクチバ		○	○	○						○		
993	チョウ目	ヤガ科	アシフトクチバ												○
994	チョウ目	ヤガ科	ウスベニアオリング				○			○					
995	チョウ目	ヤガ科	アカマエアオリング	○	○	○		○	○	○				○	
996	チョウ目	ヤガ科	ベニモンアオリング											○	
997	チョウ目	ヤガ科	キマダラコヤガ				○							○	
998	チョウ目	ヤガ科	モンシロムラサキクチバ											○	
999	チョウ目	ヤガ科	モンムラサキクチバ									○		○	
1000	チョウ目	ヤガ科	アカテンクチバ	○										○	
1001	チョウ目	ヤガ科	セアカキンウバ	○	○										
1002	チョウ目	ヤガ科	ギンシキンウバ		○										
1003	チョウ目	ヤガ科	トビイロアカガネトウ			○									
1004	チョウ目	ヤガ科	フサヤガ	○											
1005	チョウ目	ヤガ科	フタスジエクリアツバ												
1006	チョウ目	ヤガ科	ナカグロクチバ				○			○					○
1007	チョウ目	ヤガ科	フタデンヒメトウ	○	○				○					○	
1008	チョウ目	ヤガ科	ナカジロアツバ		○	○		○	○	○				○	
1009	チョウ目	ヤガ科	オオタバコガ			○								○	
1010	チョウ目	ヤガ科	タバコガ		○					○				○	
1011	チョウ目	ヤガ科	ツメクサガ	○	○	○	○	○	○	○				○	○
1012	チョウ目	ヤガ科	ウスキミスジアツバ	○	○	○	○	○	○	○					
1013	チョウ目	ヤガ科	フシキアツバ											○	
1014	チョウ目	ヤガ科	クロスジアツバ		○										
1015	チョウ目	ヤガ科	シラナミアツバ			○		○	○						
1016	チョウ目	ヤガ科	トビスジアツバ							○				○	
1017	チョウ目	ヤガ科	クロクモヤガ						○						
1018	チョウ目	ヤガ科	オオシラナミアツバ			○			○					○	
1019	チョウ目	ヤガ科	フキヨトウ											○	
1020	チョウ目	ヤガ科	ソトウスグロアツバ	○	○	○		○			○	○	○		○
1021	チョウ目	ヤガ科	クロキシタアツバ											○	
1022	チョウ目	ヤガ科	トビモンアツバ			○								○	○
1023	チョウ目	ヤガ科	ムラサキミツボシアツバ			○									
1024	チョウ目	ヤガ科	アオアツバ			○		○							○
1025	チョウ目	ヤガ科	タイワンキシタアツバ		○	○	○	○		○				○	
1026	チョウ目	ヤガ科	ミジンアツバ			○									
1027	チョウ目	ヤガ科	オオシロテンクチバ	○										○	
1028	チョウ目	ヤガ科	シロマダラヒメトウ											○	
1029	チョウ目	ヤガ科	ヤナギキリガ	○	○									○	
1030	チョウ目	ヤガ科	Leucania属									○			
1031	チョウ目	ヤガ科	マエアカシロトウ		○										
1032	チョウ目	ヤガ科	クビグロクチバ	○		○		○	○						
1033	チョウ目	ヤガ科	キクギンウバ	○											
1034	チョウ目	ヤガ科	ギンモンシロウバ	○			○								
1035	チョウ目	ヤガ科	ネジロコヤガ	○											
1036	チョウ目	ヤガ科	ヒメネジロコヤガ		○			○						○	
1037	チョウ目	ヤガ科	ヨトウガ		○			○						○	
1038	チョウ目	ヤガ科	ホシミシトウ											○	
1039	チョウ目	ヤガ科	スジモンアツバ		○									○	
1040	チョウ目	ヤガ科	ニセウンモンクチバ	○	○	○		○	○						○
1041	チョウ目	ヤガ科	ウンモンクチバ			○								○	
1042	チョウ目	ヤガ科	オオウンモンクチバ			○	○							○	○
1043	チョウ目	ヤガ科	アオハセダカヨトウ											○	
1044	チョウ目	ヤガ科	マダラキヨトウ											○	
1045	チョウ目	ヤガ科	クサシロキヨトウ											○	
1046	チョウ目	ヤガ科	ミヤマフタオビキヨトウ	○										○	
1047	チョウ目	ヤガ科	クロシタキヨトウ											○	
1048	チョウ目	ヤガ科	フタデンキヨトウ			○						○		○	
1049	チョウ目	ヤガ科	アワヨトウ	○		○			○					○	
1050	チョウ目	ヤガ科	ツマグロキヨトウ												○
1051	チョウ目	ヤガ科	マメチャイロキヨトウ											○	
1052	チョウ目	ヤガ科	スジシロキヨトウ	○		○								○	
1053	チョウ目	ヤガ科	フタオビキヨトウ		○	○		○	○	○				○	
1054	チョウ目	ヤガ科	フタオビコヤガ	○	○			○	○	○				○	
1055	チョウ目	ヤガ科	チャオビヨトウ	○	○									○	
1056	チョウ目	ヤガ科	ヒゲフトクロアツバ											○	
1057	チョウ目	ヤガ科	クロスジキノカワガ		○									○	
1058	チョウ目	ヤガ科	マエジロヤガ	○											
1059	チョウ目	ヤガ科	セアカヨトウ					○							
1060	チョウ目	ヤガ科	クサビヨトウ	○					○						
1061	チョウ目	ヤガ科	ベニモンヨトウ		○	○		○						○	
1062	チョウ目	ヤガ科	ヒメエグリバ					○							
1063	チョウ目	ヤガ科	アカエグリバ			○								○	
1064	チョウ目	ヤガ科	ヨモギキリガ			○									
1065	チョウ目	ヤガ科	キボシアツバ		○	○			○					○	
1066	チョウ目	ヤガ科	ヨモギコヤガ		○	○	○	○	○	○				○	
1067	チョウ目	ヤガ科	シロハラケンモン	○				○						○	
1068	チョウ目	ヤガ科	マダラエグリバ			○				○					
1069	チョウ目	ヤガ科	アオスジアオリング											○	
1070	チョウ目	ヤガ科	ウスオビヤガ		○										
1071	チョウ目	ヤガ科	キタバコガ	○	○										
1072	チョウ目	ヤガ科	マエホシヨトウ		○	○									
1073	チョウ目	ヤガ科	マエデンアツバ					○							
1074	チョウ目	ヤガ科	トガリアツバ		○			○							
1075	チョウ目	ヤガ科	タケアツバ					○							
1076	チョウ目	ヤガ科	デンクロアツバ		○			○	○	○					
1077	チョウ目	ヤガ科	Rivula属									○			
1078	チョウ目	ヤガ科	シロシタヨトウ	○	○										
1079	チョウ目	ヤガ科	クロスジヒメアツバ		○									○	
1080	チョウ目	ヤガ科	ハスオビヒメアツバ			○									
1081	チョウ目	ヤガ科	イネヨトウ		○	○		○						○	
1082	チョウ目	ヤガ科	デンオビヨトウ	○					○	○				○	
1083	チョウ目	ヤガ科	オオアカマエアツバ		○	○	○				○	○		○	
1084	チョウ目	ヤガ科	アミメリンガ								○			○	
1085	チョウ目	ヤガ科	マルモンシロガ					○							
1086	チョウ目	ヤガ科	ハグルマトモエ	○	○	○	○	○	○	○				○	
1087	チョウ目	ヤガ科	オスグロトモエ		○	○			○			○	○	○	
1088	チョウ目	ヤガ科	スジキヨトウ		○	○	○	○	○	○			○	○	
1089	チョウ目	ヤガ科	シロイチモジヨトウ			○								○	

表6.7-3(12) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20	
1090	チョウ目	ヤガ科	ハスモンヨトウ	○	○	○							○	
1091	チョウ目	ヤガ科	ウスアオキノヨトウ		○									
1092	チョウ目	ヤガ科	シロスジキノヨトウ										○	
1093	チョウ目	ヤガ科	ウンモンキノヨトウ		○			○					○	
1094	チョウ目	ヤガ科	キクキンウワハ		○			○		○				
1095	チョウ目	ヤガ科	シロスジアオヨトウ	○										
1096	チョウ目	ヤガ科	ナシケンモン	○									○	
1097	チョウ目	ヤガ科	シロモンヤガ		○								○	
1098	チョウ目	ヤガ科	キシタミドリヤガ					○		○			○	
1099	チョウ目	ヤガ科	ハイロクシタヤガ					○					○	
1100	チョウ目	ヤガ科	キバラムクメキリガ					○						
1101	チョウ目	ヤガ科	クロスジキリガ									○		
1102	チョウ目	ヤガ科	コウスグロアツバ										○	
1103	チョウ目	ヤガ科	チョウセンコウスグロアツバ	○	○									
1104	チョウ目	ヤガ科	ウラジロアツバ						○					
1105	チョウ目	ヤガ科	アヤナミアツバ	○	○	○		○	○	○			○	
1106	チョウ目	ヤガ科	ヤガ科									○		
1107	チョウ目	コブガ科	クロスジシロコブガ	○		○		○		○			○	
1108	チョウ目	コブガ科	トビモンシロコブガ			○								
1109	チョウ目	コブガ科	スミコブガ					○						
1110	チョウ目	コブガ科	オオコブガ	○										
1111	ハエ目	ガガンボ科	ヒメユレイガガンボ									○		
1112	ハエ目	ガガンボ科	オオキマダラヒメガガンボ			○								
1113	ハエ目	ガガンボ科	コマダラヒメガガンボ			○								
1114	ハエ目	ガガンボ科	オオヒゲナガガガンボ		○			○						
1115	ハエ目	ガガンボ科	カスリヒメガガンボ											○
1116	ハエ目	ガガンボ科	ホソバネヒメガガンボ									○		
1117	ハエ目	ガガンボ科	エゾホソガガンボ						○					
1118	ハエ目	ガガンボ科	オオマキハガガンボ	○		○				○				
1119	ハエ目	ガガンボ科	キイロホソガガンボ						○			○	○	
1120	ハエ目	ガガンボ科	キリウジガガンボ				○	○					○	
1121	ハエ目	ガガンボ科	キアシガガンボ			○			○					
1122	ハエ目	ガガンボ科	マダガガンボ		○			○					○	
1123	ハエ目	ガガンボ科	クロキリウジガガンボ									○		
1124	ハエ目	ガガンボ科	ヤチガガンボ			○			○					
1125	ハエ目	ガガンボ科	ガガンボ科									○		
1126	ハエ目	ユスリカ科	ユスリカ科									○		
1127	ハエ目	ケバエ科	メスアカケバエ			○	○	○	○	○				○
1128	ハエ目	ケバエ科	ハグロケバエ	○	○	○	○	○	○	○				
1129	ハエ目	ケバエ科	ヒメセアカケバエ	○	○	○	○	○	○	○				
1130	ハエ目	タマバエ科	タマバエ科									○		
1131	ハエ目	キノコバエ科	キノコバエ科									○		
1132	ハエ目	ミズアブ科	エゾホソルリミズアブ						○					
1133	ハエ目	ミズアブ科	アメリカミズアブ		○	○			○				○	○
1134	ハエ目	ミズアブ科	ハラキンミズアブ			○	○	○	○				○	○
1135	ハエ目	ミズアブ科	コガタミズアブ		○	○		○						
1136	ハエ目	ミズアブ科	コウカアブ	○	○	○	○	○	○				○	
1137	ハエ目	ミズアブ科	ルリミズアブ				○	○	○				○	○
1138	ハエ目	ミズアブ科	ミズアブ		○			○					○	
1139	ハエ目	アブ科	タイワンシロフアブ											
1140	ハエ目	アブ科	アカウシアブ		○									
1141	ハエ目	アブ科	アカアブ	○										
1142	ハエ目	アブ科	ウシアブ								○			
1143	ハエ目	ムシヒキアブ科	トラフムシヒキ					○						
1144	ハエ目	ムシヒキアブ科	アオメアブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1145	ハエ目	ムシヒキアブ科	チャイロムシヒキ										○	
1146	ハエ目	ムシヒキアブ科	ミノモホソムシヒキ			○								
1147	ハエ目	ムシヒキアブ科	マギリケムシヒキ	○	○	○		○	○					
1148	ハエ目	ムシヒキアブ科	シロスヒメムシヒキ		○	○	○	○	○	○			○	○
1149	ハエ目	ムシヒキアブ科	シオヤアブ		○	○	○	○	○	○			○	
1150	ハエ目	ムシヒキアブ科	サキグロムシヒキ			○							○	
1151	ハエ目	ムシヒキアブ科	Philonicus属									○		
1152	ハエ目	ツリアブ科	クロバネツリアブ	○	○	○	○	○	○			○	○	
1153	ハエ目	ツリアブ科	ニトベハラボツリアブ										○	
1154	ハエ目	ツリアブ科	スキバツリアブ					○						
1155	ハエ目	アシナガバエ科	アシナガキンバエ									○	○	
1156	ハエ目	アシナガバエ科	マダラアシナガバエ										○	
1157	ハエ目	アシナガバエ科	アシナガバエ科										○	
1158	ハエ目	オドリバエ科	オドリバエ科										○	
1159	ハエ目	ハナアブ科	ヨコジマオオヒラタアブ								○			
1160	ハエ目	ハナアブ科	フタバシヒラタアブ								○			
1161	ハエ目	ハナアブ科	ツマグロコシボリハナアブ										○	
1162	ハエ目	ハナアブ科	ナガヒラタアブ		○									
1163	ハエ目	ハナアブ科	ヤマトヒゲナガハナアブ		○	○		○						
1164	ハエ目	ハナアブ科	ヒゲナガハナアブ								○			○
1165	ハエ目	ハナアブ科	オビヒラタアブ			○							○	
1166	ハエ目	ハナアブ科	ホソヒラタアブ	○	○	○	○	○	○	○			○	
1167	ハエ目	ハナアブ科	キコシハナアブ										○	
1168	ハエ目	ハナアブ科	シマハナアブ				○	○	○			○	○	
1169	ハエ目	ハナアブ科	キョウコシマハナアブ										○	
1170	ハエ目	ハナアブ科	ハナアブ	○	○			○	○			○		
1171	ハエ目	ハナアブ科	マドリタアブ		○		○	○	○	○				○
1172	ハエ目	ハナアブ科	ナミホシヒラタアブ		○	○		○	○	○				
1173	ハエ目	ハナアブ科	アシトハナアブ				○		○	○				○
1174	ハエ目	ハナアブ科	ムツモンホソヒラタアブ		○			○						
1175	ハエ目	ハナアブ科	ホソツヤヒラタアブ		○	○		○	○	○		○	○	○
1176	ハエ目	ハナアブ科	ホシツヤヒラタアブ		○	○	○	○	○	○		○	○	○
1177	ハエ目	ハナアブ科	シマアシトハナアブ			○		○	○	○			○	
1178	ハエ目	ハナアブ科	エゾコヒラタアブ	○	○	○		○	○	○			○	
1179	ハエ目	ハナアブ科	アリスアブ			○	○	○						
1180	ハエ目	ハナアブ科	キアシマメヒラタアブ					○	○				○	
1181	ハエ目	ハナアブ科	ノヒラマメヒラタアブ					○	○				○	
1182	ハエ目	ハナアブ科	オオハナアブ				○	○	○	○		○	○	
1183	ハエ目	ハナアブ科	マギリケヒラタアブ		○	○		○	○	○		○	○	
1184	ハエ目	ハナアブ科	ナガヒメヒラタアブ		○							○		
1185	ハエ目	ハナアブ科	ホソヒメヒラタアブ		○	○		○	○				○	
1186	ハエ目	ハナアブ科	ヒメヒラタアブ		○	○		○	○	○		○	○	
1187	ハエ目	ハナアブ科	キタヒメヒラタアブ										○	
1188	ハエ目	ハナアブ科	シロスジベッコウハナアブ	○										

表6.7-3(13) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16		H20
1189	ハエ目	ノミバエ科	ノミバエ科									○		
1190	ハエ目	ハモグリバエ科	ハモグリバエ科									○		
1191	ハエ目	キモグリバエ科	イネキモグリバエ					○				○		
1192	ハエ目	キモグリバエ科	キモグリバエ科									○		
1193	ハエ目	メバエ科	ジョウザンメバエ						○					
1194	ハエ目	メバエ科	ムネクロメバエ										○	
1195	ハエ目	メバエ科	ヤマトクチフトメバエ						○					
1196	ハエ目	ショウジョウバエ科	ヒョウモンショウジョウバエ			○								
1197	ハエ目	ショウジョウバエ科	キイロショウジョウバエ								○		○	
1198	ハエ目	ショウジョウバエ科	オオホシショウジョウバエ			○								
1199	ハエ目	ショウジョウバエ科	コフキヒメショウジョウバエ						○					
1200	ハエ目	ショウジョウバエ科	ツヤカブトショウジョウバエ										○	
1201	ハエ目	ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ科									○		
1202	ハエ目	ベッコウバエ科	ベッコウバエ		○							○		
1203	ハエ目	ミギワバエ科	カマキリバエ		○			○						
1204	ハエ目	ミギワバエ科	ミギワバエ科									○		
1205	ハエ目	シマバエ科	ヤブクロシマバエ		○								○	
1206	ハエ目	クロツヤバエ科	ヤマトクロツヤバエ									○		
1207	ハエ目	マルズヤセバエ科	キアシアシナガヤセバエ										○	
1208	ハエ目	ナガスヤセバエ科	ホシアシナガヤセバエ						○				○	
1209	ハエ目	ヒロクチバエ科	ダイズコンリュウバエ						○				○	
1210	ハエ目	ヒロクチバエ科	ムネアカマダラバエ						○				○	
1211	ハエ目	デガシラバエ科	フトハチモドキバエ											○
1212	ハエ目	ヤチバエ科	ヒゲナガヤチバエ			○			○				○	
1213	ハエ目	ツヤホソバエ科	ヒトデツヤホソバエ			○						○	○	
1214	ハエ目	ミバエ科	ヒラヤマミメクワガミバエ				○	○					○	
1215	ハエ目	ミバエ科	ヨモギマルフシミバエ		○	○			○	○			○	
1216	ハエ目	ミバエ科	ネジクロミバエ		○				○					
1217	ハエ目	ミバエ科	ミスジハマダラミバエ										○	
1218	ハエ目	ハナバエ科	ハナバエ科									○		
1219	ハエ目	クロバエ科	オオクロバエ		○									
1220	ハエ目	クロバエ科	オビキンバエ			○			○					
1221	ハエ目	クロバエ科	ミドリバエ				○							
1222	ハエ目	クロバエ科	コガネキンバエ										○	
1223	ハエ目	クロバエ科	キンバエ		○							○		
1224	ハエ目	クロバエ科	ミドリキンバエ		○	○			○				○	
1225	ハエ目	クロバエ科	スネアカキンバエ		○				○				○	
1226	ハエ目	クロバエ科	ツマグロキンバエ			○	○		○	○			○	
1227	ハエ目	クロバエ科	クロバエ科									○		
1228	ハエ目	イエバエ科	ヒメクロバエ		○									
1229	ハエ目	イエバエ科	オオイエバエ		○				○					
1230	ハエ目	イエバエ科	イエバエ科									○		
1231	ハエ目	イエバエ科	セマダラハナバエ											○
1232	ハエ目	ニクバエ科	シリグロニクバエ			○							○	
1233	ハエ目	ニクバエ科	ナミニクバエ		○									
1234	ハエ目	ニクバエ科	ニクバエ科		○								○	
1235	ハエ目	フンバエ科	ヒメフンバエ			○				○				
1236	ハエ目	ヤドリバエ科	ノコギリハリバエ		○							○		
1237	ハエ目	ヤドリバエ科	Demoticoides pallidus			○						○		
1238	ハエ目	ヤドリバエ科	フランコヤドリバエ									○		
1239	ハエ目	ヤドリバエ科	マルボシヒラタヤドリバエ			○			○					
1240	ハエ目	ヤドリバエ科	クチナガハリバエ			○			○				○	
1241	ハエ目	ヤドリバエ科	セスジハリバエ		○		○		○	○				
1242	ハエ目	ヤドリバエ科	マルボシヒラタハナバエ										○	
1243	ハエ目	ヤドリバエ科	ヤドリバエ科									○		
1244	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	セグロホソクビゴミムシ			○								
1245	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	オオホソクビゴミムシ		○								○	
1246	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	コホソクビゴミムシ				○	○				○	○	
1247	コウチュウ目	ホソクビゴミムシ科	ミイデラゴミムシ									○	○	
1248	コウチュウ目	オサムシ科	キイロチビゴモクムシ		○	○	○		○	○			○	
1249	コウチュウ目	オサムシ科	アオグロヒラタゴミムシ		○	○	○		○	○	○			
1250	コウチュウ目	オサムシ科	セスジヒラタゴミムシ			○								
1251	コウチュウ目	オサムシ科	タンゴヒラタゴミムシ		○	○	○		○	○	○			○
1252	コウチュウ目	オサムシ科	アシミソヒメヒラタゴミムシ					○	○	○				
1253	コウチュウ目	オサムシ科	キアシマルガタゴミムシ			○								
1254	コウチュウ目	オサムシ科	マルガタゴミムシ				○					○		
1255	コウチュウ目	オサムシ科	コアオマルガタゴミムシ			○								
1256	コウチュウ目	オサムシ科	ニセマルガタゴミムシ						○				○	
1257	コウチュウ目	オサムシ科	アカアシマルガタゴミムシ							○				
1258	コウチュウ目	オサムシ科	オオマルガタゴミムシ		○	○	○		○	○			○	
1259	コウチュウ目	オサムシ科	イグチマルガタゴミムシ				○						○	
1260	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメツヤマルガタゴミムシ			○	○	○	○	○		○	○	○
1261	コウチュウ目	オサムシ科	ツヤマルガタゴミムシ									○		
1262	コウチュウ目	オサムシ科	コマルガタゴミムシ									○	○	
1263	コウチュウ目	オサムシ科	Amara属									○		
1264	コウチュウ目	オサムシ科	ホシボシゴミムシ		○	○	○	○	○	○				
1265	コウチュウ目	オサムシ科	オオホシボシゴミムシ										○	
1266	コウチュウ目	オサムシ科	ゴミムシ		○	○	○		○	○			○	
1267	コウチュウ目	オサムシ科	Anisodactylus属									○		
1268	コウチュウ目	オサムシ科	キベリゴモクムシ		○	○	○	○	○	○			○	
1269	コウチュウ目	オサムシ科	ムネミソチビゴモクムシ			○							○	○
1270	コウチュウ目	オサムシ科	スジミズアトキリゴミムシ										○	
1271	コウチュウ目	オサムシ科	フタモンクビナゴミムシ		○	○	○	○	○	○			○	
1272	コウチュウ目	オサムシ科	キアシヌレチゴミムシ		○	○	○	○	○	○	○		○	
1273	コウチュウ目	オサムシ科	キベリカタキバゴミムシ		○									
1274	コウチュウ目	オサムシ科	クロスカタキバゴミムシ				○							
1275	コウチュウ目	オサムシ科	ヨツモンカタキバゴミムシ			○			○				○	
1276	コウチュウ目	オサムシ科	ウスモンケシミスギワゴミムシ				○							
1277	コウチュウ目	オサムシ科	オオフタモンミスギワゴミムシ										○	
1278	コウチュウ目	オサムシ科	アオミスギワゴミムシ				○							
1279	コウチュウ目	オサムシ科	ウスモンミスギワゴミムシ		○								○	
1280	コウチュウ目	オサムシ科	エチゴアオミスギワゴミムシ										○	
1281	コウチュウ目	オサムシ科	マルミスギワゴミムシ										○	
1282	コウチュウ目	オサムシ科	ガロアミスギワゴミムシ						○				○	○
1283	コウチュウ目	オサムシ科	ヒョウゴミスギワゴミムシ						○	○				
1284	コウチュウ目	オサムシ科	オオアオミスギワゴミムシ				○				○		○	○
1285	コウチュウ目	オサムシ科	ハコネミスギワゴミムシ										○	
1286	コウチュウ目	オサムシ科	ニッコウミスギワゴミムシ										○	
1287	コウチュウ目	オサムシ科	ヨツボシミスギワゴミムシ				○						○	

表6.7-3(14) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ~鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20	
1288	コウチュウ目	オサムシ科	アトモンミズギワゴミムシ	○	○	○			○			○		
1289	コウチュウ目	オサムシ科	クロミズギワゴミムシ											○
1290	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメシジミズギワゴミムシ			○			○		○			
1291	コウチュウ目	オサムシ科	キモンナガミズギワゴミムシ						○					
1292	コウチュウ目	オサムシ科	ハマベミズギワゴミムシ		○				○					
1293	コウチュウ目	オサムシ科	ヨツアナミズギワゴミムシ											○
1294	コウチュウ目	オサムシ科	フタバシチビゴミムシ							○				○
1295	コウチュウ目	オサムシ科	マルヒメゴモクムシ											○
1296	コウチュウ目	オサムシ科	アカクビヒメゴモクムシ											○
1297	コウチュウ目	オサムシ科	ムネミノマルゴミムシ									○		○
1298	コウチュウ目	オサムシ科	アオアトキリゴミムシ											○
1299	コウチュウ目	オサムシ科	エソカタヒロオサムシ		○									
1300	コウチュウ目	オサムシ科	アカガネアオゴミムシ		○	○			○			○		○
1301	コウチュウ目	オサムシ科	キペリアオゴミムシ									○		
1302	コウチュウ目	オサムシ科	コアトワアオゴミムシ		○				○					
1303	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメキペリアオゴミムシ	○	○	○			○	○				○
1304	コウチュウ目	オサムシ科	オオアトホシアオゴミムシ	○	○	○			○					
1305	コウチュウ目	オサムシ科	アトホシアオゴミムシ											○
1306	コウチュウ目	オサムシ科	アオゴミムシ	○	○	○	○		○	○	○	○		○
1307	コウチュウ目	オサムシ科	キボシアオゴミムシ	○	○		○		○					○
1308	コウチュウ目	オサムシ科	ムナヒロアオゴミムシ				○				○			
1309	コウチュウ目	オサムシ科	コガシラアオゴミムシ	○		○			○					○
1310	コウチュウ目	オサムシ科	アトワアオゴミムシ	○	○									
1311	コウチュウ目	オサムシ科	ツヤヒメヒョウタンゴミムシ											○
1312	コウチュウ目	オサムシ科	コヒメヒョウタンゴミムシ	○	○	○			○					○
1313	コウチュウ目	オサムシ科	クロモリヒラタゴミムシ		○	○			○					○
1314	コウチュウ目	オサムシ科	オオアオモリヒラタゴミムシ	○					○					○
1315	コウチュウ目	オサムシ科	ハラアカモリヒラタゴミムシ		○	○	○	○	○	○				○
1316	コウチュウ目	オサムシ科	コハラアカモリヒラタゴミムシ	○	○	○	○	○	○	○				○
1317	コウチュウ目	オサムシ科	オサムシモドキ								○			
1318	コウチュウ目	オサムシ科	マイマイカブリ						○					
1319	コウチュウ目	オサムシ科	ミズギワアトキリゴミムシ		○	○			○					○
1320	コウチュウ目	オサムシ科	スナハラゴミムシ		○									
1321	コウチュウ目	オサムシ科	オオスナハラゴミムシ	○	○				○					
1322	コウチュウ目	オサムシ科	カワチゴミムシ				○	○	○	○				○
1323	コウチュウ目	オサムシ科	ニッポンヨツボシゴミムシ	○										
1324	コウチュウ目	オサムシ科	ヨツボシアトキリゴミムシ											○
1325	コウチュウ目	オサムシ科	セアカヒラタゴミムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
1326	コウチュウ目	オサムシ科	ホソアトキリゴミムシ					○	○	○				
1327	コウチュウ目	オサムシ科	イクビホソアトキリゴミムシ		○									
1328	コウチュウ目	オサムシ科	アオヘリホソアトキリゴミムシ	○		○								○
1329	コウチュウ目	オサムシ科	チビヒョウタンゴミムシ											○
1330	コウチュウ目	オサムシ科	ダイミョウチビヒョウタンゴミムシ			○			○					
1331	コウチュウ目	オサムシ科	オオキペリアオゴミムシ											○
1332	コウチュウ目	オサムシ科	クビボソゴミムシ	○										○
1333	コウチュウ目	オサムシ科	スジアオゴミムシ				○							○
1334	コウチュウ目	オサムシ科	マルガタゴモクムシ		○									
1335	コウチュウ目	オサムシ科	オオゴモクムシ	○	○	○		○	○	○				○
1336	コウチュウ目	オサムシ科	ツヤアオゴモクムシ	○	○	○	○	○	○	○		○		
1337	コウチュウ目	オサムシ科	オオズケゴモクムシ	○	○	○	○	○	○	○				○
1338	コウチュウ目	オサムシ科	ケウスゴモクムシ	○	○	○	○	○	○	○				○
1339	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメケゴモクムシ	○	○	○			○					○
1340	コウチュウ目	オサムシ科	クロゴモクムシ	○										○
1341	コウチュウ目	オサムシ科	ヒラタゴモクムシ	○	○				○					○
1342	コウチュウ目	オサムシ科	ウスアカクロゴモクムシ	○	○		○		○					○
1343	コウチュウ目	オサムシ科	アカアシマルガタゴモクムシ	○	○				○					○
1344	コウチュウ目	オサムシ科	コゴモクムシ	○	○	○	○	○	○	○				○
1345	コウチュウ目	オサムシ科	ケゴモクムシ			○								○
1346	コウチュウ目	オサムシ科	Harpalus属									○		
1347	コウチュウ目	オサムシ科	セアカオサムシ	○	○				○			○		○
1348	コウチュウ目	オサムシ科	ヤマトツクリゴミムシ						○					
1349	コウチュウ目	オサムシ科	トツクリゴミムシ											○
1350	コウチュウ目	オサムシ科	クビアオアトキリゴミムシ	○	○				○					○
1351	コウチュウ目	オサムシ科	フタバシアトキリゴミムシ											○
1352	コウチュウ目	オサムシ科	コルリアトキリゴミムシ				○				○			○
1353	コウチュウ目	オサムシ科	オオゴミムシ		○				○			○		
1354	コウチュウ目	オサムシ科	ノグチアオゴミムシ		○	○			○	○				○
1355	コウチュウ目	オサムシ科	マルクビゴミムシ	○					○					○
1356	コウチュウ目	オサムシ科	カワチマルクビゴミムシ	○										
1357	コウチュウ目	オサムシ科	オオマルクビゴミムシ											○
1358	コウチュウ目	オサムシ科	チャバネクビナガゴミムシ	○	○	○			○					○
1359	コウチュウ目	オサムシ科	オオオサムシ									○		
1360	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメオサムシ									○		
1361	コウチュウ目	オサムシ科	ヤコンオサムシ	○	○	○	○	○	○	○				○
1362	コウチュウ目	オサムシ科	クビナガゴミムシ									○		
1363	コウチュウ目	オサムシ科	メダカアトキリゴミムシ						○					
1364	コウチュウ目	オサムシ科	クビナガゴモクムシ						○					
1365	コウチュウ目	オサムシ科	クロオビコムズギワゴミムシ											○
1366	コウチュウ目	オサムシ科	ウスイロコムズギワゴミムシ											○
1367	コウチュウ目	オサムシ科	ウスオビコムズギワゴミムシ	○	○	○			○	○	○	○		○
1368	コウチュウ目	オサムシ科	クロヘリアトキリゴミムシ		○				○					
1369	コウチュウ目	オサムシ科	ホソチビゴミムシ						○	○				○
1370	コウチュウ目	オサムシ科	フタバシスジバネゴミムシ											○
1371	コウチュウ目	オサムシ科	オオヒラタゴミムシ	○										○
1372	コウチュウ目	オサムシ科	コヒラタゴミムシ	○	○									
1373	コウチュウ目	オサムシ科	ホソヒラタゴミムシ		○									
1374	コウチュウ目	オサムシ科	オオナガゴミムシ	○	○		○	○	○					○
1375	コウチュウ目	オサムシ科	トツクリナガゴミムシ				○		○					
1376	コウチュウ目	オサムシ科	クロオオナガゴミムシ											○
1377	コウチュウ目	オサムシ科	コホソナガゴミムシ				○		○			○		
1378	コウチュウ目	オサムシ科	コガシラナガゴミムシ	○	○	○	○	○	○	○				
1379	コウチュウ目	オサムシ科	ノグチナガゴミムシ									○		
1380	コウチュウ目	オサムシ科	キンナガゴミムシ						○					
1381	コウチュウ目	オサムシ科	オオクロナガゴミムシ	○	○	○			○	○				○
1382	コウチュウ目	オサムシ科	オオキンナガゴミムシ	○	○	○			○					
1383	コウチュウ目	オサムシ科	Pterostichus属									○		
1384	コウチュウ目	オサムシ科	アシミノナガゴミムシ	○			○	○	○					○
1385	コウチュウ目	オサムシ科	ヨリトモナガゴミムシ		○									
1386	コウチュウ目	オサムシ科	ナガヒョウタンゴミムシ											○

表6.7-3(15) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ~鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20
1387	コウチュウ目	オサムシ科	ナガマメゴモクムシ		○	○	○	○	○	○		○	○
1388	コウチュウ目	オサムシ科	ミドリマメゴモクムシ			○			○	○		○	○
1389	コウチュウ目	オサムシ科	マメゴモクムシ									○	○
1390	コウチュウ目	オサムシ科	ツヤマメゴモクムシ	○	○	○		○				○	○
1391	コウチュウ目	オサムシ科	ムネアカマメゴモクムシ				○			○		○	○
1392	コウチュウ目	オサムシ科	マルガタツヤヒラタゴミムシ									○	○
1393	コウチュウ目	オサムシ科	キアシツヤヒラタゴミムシ	○	○	○			○		○	○	○
1394	コウチュウ目	オサムシ科	クロツヤヒラタゴミムシ	○	○		○	○			○	○	○
1395	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメツヤヒラタゴミムシ								○	○	○
1396	コウチュウ目	オサムシ科	オオクロツヤヒラタゴミムシ		○							○	○
1397	コウチュウ目	オサムシ科	Synuchus属								○		
1398	コウチュウ目	オサムシ科	ヒラタゴミズギワゴミムシ					○	○	○		○	○
1399	コウチュウ目	オサムシ科	クリイロゴミズギワゴミムシ									○	○
1400	コウチュウ目	オサムシ科	ウスモンゴミズギワゴミムシ									○	○
1401	コウチュウ目	オサムシ科	ヨツモンゴミズギワゴミムシ		○	○	○	○	○			○	○
1402	コウチュウ目	オサムシ科	ヒラタキイロチビゴミムシ									○	○
1403	コウチュウ目	オサムシ科	ヒメツヤゴモクムシ			○	○	○	○	○		○	○
1404	コウチュウ目	オサムシ科	クビアカツヤゴモクムシ	○		○						○	○
1405	コウチュウ目	オサムシ科	アカガネオオゴミムシ	○		○	○		○				○
1406	コウチュウ目	オサムシ科	ツマキミズギワゴミムシ		○	○		○				○	○
1407	コウチュウ目	オサムシ科	コクロヒメゴモクムシ	○									○
1408	コウチュウ目	オサムシ科	オサムシ科								○		
1409	コウチュウ目	ハンミョウ科	ハンミョウ									○	○
1410	コウチュウ目	ハンミョウ科	エリザハンミョウ	○	○		○					○	○
1411	コウチュウ目	ハンミョウ科	アイヌハンミョウ	○		○							○
1412	コウチュウ目	ハンミョウ科	ニワハンミョウ	○									○
1413	コウチュウ目	ハンミョウ科	コハンミョウ		○	○		○				○	○
1414	コウチュウ目	ハンミョウ科	コニワハンミョウ			○		○		○			○
1415	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	クロズマゲンゴロウ					○	○				○
1416	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	マメゲンゴロウ					○	○				○
1417	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ホソセシゲンゴロウ	○	○	○		○	○	○		○	○
1418	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ハイロゲンゴロウ			○							○
1419	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	コンマゲンゴロウ	○	○	○		○	○			○	○
1420	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	チビゲンゴロウ	○	○	○		○	○			○	○
1421	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	コマルケシゲンゴロウ					○	○	○			○
1422	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ケシゲンゴロウ	○	○	○		○	○			○	○
1423	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ツブゲンゴロウ		○	○		○	○			○	○
1424	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ヒメシマチビゲンゴロウ			○		○	○				○
1425	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	キベリマメゲンゴロウ					○	○				○
1426	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	モンキマメゲンゴロウ		○								○
1427	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ゴシマチビゲンゴロウ	○	○								○
1428	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	ヒメゲンゴロウ	○	○	○		○	○	○		○	○
1429	コウチュウ目	コガシラミズムシ科	クビボソコガシラミズムシ			○				○		○	○
1430	コウチュウ目	コガシラミズムシ科	コガシラミズムシ					○				○	○
1431	コウチュウ目	ナガヒラタムシ科	ナガヒラタムシ			○							○
1432	コウチュウ目	ホソガムシ科	ヤマトホソガムシ		○								○
1433	コウチュウ目	ガムシ科	ヤマトゴマフガムシ		○	○	○	○	○			○	○
1434	コウチュウ目	ガムシ科	トゲバゴマフガムシ		○	○	○	○	○	○			○
1435	コウチュウ目	ガムシ科	ゴマフガムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1436	コウチュウ目	ガムシ科	コケシガムシ									○	○
1437	コウチュウ目	ガムシ科	ウスモンケシガムシ	○	○			○	○	○		○	○
1438	コウチュウ目	ガムシ科	アカケシガムシ	○				○	○	○		○	○
1439	コウチュウ目	ガムシ科	キバナケシガムシ									○	○
1440	コウチュウ目	ガムシ科	ケシガムシ	○	○	○		○	○				○
1441	コウチュウ目	ガムシ科	セマルケシガムシ									○	○
1442	コウチュウ目	ガムシ科	キベリヒラタガムシ	○	○	○		○	○	○		○	○
1443	コウチュウ目	ガムシ科	キイロヒラタガムシ	○	○	○						○	○
1444	コウチュウ目	ガムシ科	コガムシ	○	○	○		○	○			○	○
1445	コウチュウ目	ガムシ科	ガムシ					○	○				○
1446	コウチュウ目	ガムシ科	シジミガムシ	○	○	○		○	○	○		○	○
1447	コウチュウ目	ガムシ科	ホソケシガムシ					○	○	○		○	○
1448	コウチュウ目	ガムシ科	マメガムシ	○	○			○	○			○	○
1449	コウチュウ目	ガムシ科	ヒメガムシ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1450	コウチュウ目	エンマムシ科	ツヤハマベエンマムシ										○
1451	コウチュウ目	エンマムシ科	コエンマムシ									○	○
1452	コウチュウ目	エンマムシ科	ルリエンマムシ							○			○
1453	コウチュウ目	ハネカクシ科	マメダルマアリツカムシ									○	○
1454	コウチュウ目	ハネカクシ科	ナミエンマアリツカムシ									○	○
1455	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヘリアカタオキノコムシ					○					○
1456	コウチュウ目	タマキノコムシ科	オオヒメタマキノコムシ										○
1457	コウチュウ目	シテムシ科	オオヒラタシテムシ	○	○	○		○	○	○	○		○
1458	コウチュウ目	シテムシ科	オオモモフトシテムシ			○							○
1459	コウチュウ目	シテムシ科	モモフトシテムシ	○	○								○
1460	コウチュウ目	シテムシ科	クロシテムシ				○						○
1461	コウチュウ目	シテムシ科	マエモンシテムシ		○								○
1462	コウチュウ目	ハネカクシ科	ナカアカヒゲフトハネカクシ										○
1463	コウチュウ目	ハネカクシ科	ムネビロハネカクシ							○			○
1464	コウチュウ目	ハネカクシ科	セズジハネカクシ	○									○
1465	コウチュウ目	ハネカクシ科	ルイスセズジハネカクシ										○
1466	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオシリグロハネカクシ										○
1467	コウチュウ目	ハネカクシ科	ズグロアカチビハネカクシ										○
1468	コウチュウ目	ハネカクシ科	チャイロコガシラハネカクシ										○
1469	コウチュウ目	ハネカクシ科	キベリカワベハネカクシ										○
1470	コウチュウ目	ハネカクシ科	Bledius属								○		○
1471	コウチュウ目	ハネカクシ科	チビニセユミセミソハネカクシ									○	○
1472	コウチュウ目	ハネカクシ科	ニセユミセミソハネカクシ									○	○
1473	コウチュウ目	ハネカクシ科	セミソキノカワハネカクシ									○	○
1474	コウチュウ目	ハネカクシ科	オオマルズハネカクシ										○
1475	コウチュウ目	ハネカクシ科	コマルズハネカクシ										○
1476	コウチュウ目	ハネカクシ科	Gabrius属								○		○
1477	コウチュウ目	ハネカクシ科	ニセトガリハネカクシ										○
1478	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバチビナガハネカクシ										○
1479	コウチュウ目	ハネカクシ科	キアシナガハネカクシ										○
1480	コウチュウ目	ハネカクシ科	キイロマルケシハネカクシ										○
1481	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロズトガリハネカクシ										○
1482	コウチュウ目	ハネカクシ科	サキアカバナガハネカクシ										○
1483	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヨコモントガリハネカクシ										○
1484	コウチュウ目	ハネカクシ科	エビイロマルムネハネカクシ									○	○
1485	コウチュウ目	ハネカクシ科	スゾアカヒメホソハネカクシ										○

表6.7-3(16) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20
1486	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバヒメホソハネカクシ									○	
1487	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロナガエハネカクシ									○	
1488	コウチュウ目	ハネカクシ科	ツマアカナガエハネカクシ									○	
1489	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバナガエハネカクシ		○			○				○	
1490	コウチュウ目	ハネカクシ科	ナミヨコセミソハネカクシ									○	
1491	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロバネアリガタハネカクシ									○	
1492	コウチュウ目	ハネカクシ科	ナガサキヨツメハネカクシ									○	
1493	コウチュウ目	ハネカクシ科	セミノツツメハネカクシ									○	
1494	コウチュウ目	ハネカクシ科	ウスアカバホソハネカクシ									○	
1495	コウチュウ目	ハネカクシ科	アオハアリガタハネカクシ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1496	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカセマルマルクビハネカクシ								○		
1497	コウチュウ目	ハネカクシ科	ドウガネコガシラハネカクシ									○	
1498	コウチュウ目	ハネカクシ科	キアシチビコガシラハネカクシ									○	
1499	コウチュウ目	ハネカクシ科	カクコガシラハネカクシ		○							○	
1500	コウチュウ目	ハネカクシ科	Philonthus属								○		
1501	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカバクビフトハネカクシ		○			○		○		○	
1502	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロガネハネカクシ						○				
1503	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロヒメカワベハネカクシ									○	
1504	コウチュウ目	ハネカクシ科	ツマキクビボソハネカクシ									○	
1505	コウチュウ目	ハネカクシ科	クビボソハネカクシ									○	
1506	コウチュウ目	ハネカクシ科	チビクビボソハネカクシ									○	
1507	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヒメキノコハネカクシ			○							
1508	コウチュウ目	ハネカクシ科	アメイロセミソハネカクシ									○	
1509	コウチュウ目	ハネカクシ科	ホソフタボシメダカハネカクシ									○	
1510	コウチュウ目	ハネカクシ科	ドウボソメダカハネカクシ									○	
1511	コウチュウ目	ハネカクシ科	コクロメダカハネカクシ									○	
1512	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロズマルクビハネカクシ			○		○				○	
1513	コウチュウ目	ハネカクシ科	ホソクロチビハネカクシ									○	
1514	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヒゲアカアリツカハネカクシ									○	
1515	コウチュウ目	ハネカクシ科	アカアシユミセミソハネカクシ									○	
1516	コウチュウ目	ハネカクシ科	ヤマトニセユミセミソハネカクシ									○	
1517	コウチュウ目	ハネカクシ科	ユミセミソハネカクシ									○	
1518	コウチュウ目	ハネカクシ科	Xantholinus属								○		
1519	コウチュウ目	ハネカクシ科	シロヒゲアリノスハネカクシ						○			○	
1520	コウチュウ目	ハネカクシ科	クビアカアリノスハネカクシ									○	
1521	コウチュウ目	ハネカクシ科	クロゲヒメキノコハネカクシ									○	
1522	コウチュウ目	ハネカクシ科	ハネカクシ科								○		
1523	コウチュウ目	マルハナノミ科	ウスチャチビマルハナノミ									○	
1524	コウチュウ目	マルハナノミ科	クロチビマルハナノミ			○							
1525	コウチュウ目	マルハナノミ科	ホソチビマルハナノミ		○	○		○	○	○			
1526	コウチュウ目	マルハナノミ科	トビイロマルハナノミ	○	○	○		○	○	○			○
1527	コウチュウ目	クワガタムシ科	クワガタ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1528	コウチュウ目	クワガタムシ科	ノギリクワガタ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1529	コウチュウ目	クワガタムシ科	ヒラタクワガタ本土亜種	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1530	コウチュウ目	コガネムシ科	コイチャコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1531	コウチュウ目	コガネムシ科	カフトムシ										
1532	コウチュウ目	コガネムシ科	ドウガネフライ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1533	コウチュウ目	コガネムシ科	サクラコガネ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1534	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメサクラコガネ		○								
1535	コウチュウ目	コガネムシ科	ヤマトアオドウガネ			○							
1536	コウチュウ目	コガネムシ科	ツヤコガネ	○									
1537	コウチュウ目	コガネムシ科	ハンノヒメコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1538	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1539	コウチュウ目	コガネムシ科	チビサクラコガネ									○	
1540	コウチュウ目	コガネムシ科	マグソコガネ									○	
1541	コウチュウ目	コガネムシ科	カタモンコガネ		○	○	○	○	○	○			
1542	コウチュウ目	コガネムシ科	セマダラコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1543	コウチュウ目	コガネムシ科	ナミハナムグリ									○	
1544	コウチュウ目	コガネムシ科	クロハナムグリ						○				
1545	コウチュウ目	コガネムシ科	ナガチャコガネ		○				○			○	
1546	コウチュウ目	コガネムシ科	クロコガネ		○	○			○			○	○
1547	コウチュウ目	コガネムシ科	オオクロコガネ		○	○			○				
1548	コウチュウ目	コガネムシ科	コクロコガネ									○	
1549	コウチュウ目	コガネムシ科	アカビロウドコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1550	コウチュウ目	コガネムシ科	ビロウドコガネ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1551	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメビロウドコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1552	コウチュウ目	コガネムシ科	オオビロウドコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1553	コウチュウ目	コガネムシ科	オオコフコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1554	コウチュウ目	コガネムシ科	コフキコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1555	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒメスジコガネ	○								○	○
1556	コウチュウ目	コガネムシ科	コガネムシ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1557	コウチュウ目	コガネムシ科	スジコガネ		○							○	
1558	コウチュウ目	コガネムシ科	クイロコガネ									○	
1559	コウチュウ目	コガネムシ科	ワタリビロウドコガネ		○			○	○				
1560	コウチュウ目	コガネムシ科	ヒラタハナムグリ		○	○		○	○	○			○
1561	コウチュウ目	コガネムシ科	コブマルエンマコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1562	コウチュウ目	コガネムシ科	コアハナムグリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1563	コウチュウ目	コガネムシ科	ウスチャコガネ									○	
1564	コウチュウ目	コガネムシ科	アオウスチャコガネ			○							
1565	コウチュウ目	コガネムシ科	キスジコガネ					○					
1566	コウチュウ目	コガネムシ科	マメコガネ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1567	コウチュウ目	コガネムシ科	ナラノチャイロコガネ					○	○	○		○	○
1568	コウチュウ目	コガネムシ科	ムラサキツヤハナムグリ									○	
1569	コウチュウ目	コガネムシ科	シロテンハナムグリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1570	コウチュウ目	コガネムシ科	セマルケシマグソコガネ		○	○	○	○	○	○			
1571	コウチュウ目	コガネムシ科	カナブン	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1572	コウチュウ目	コガネムシ科	クロカナブン					○					
1573	コウチュウ目	コガネムシ科	ツヤチャイロコガネ									○	
1574	コウチュウ目	コガネムシ科	ホソケシマグソコガネ			○							
1575	コウチュウ目	コブスジコガネ科	ヘリトゲコブスジコガネ							○			
1576	コウチュウ目	マルトゲムシ科	シラフチビマルトゲムシ		○				○			○	○
1577	コウチュウ目	ドロムシ科	ムナビロツヤドロムシ									○	○
1578	コウチュウ目	ヒメドロムシ科	キスジミゾドロムシ			○	○	○	○	○		○	○
1579	コウチュウ目	ヒメドロムシ科	アシナガミゾドロムシ			○	○	○	○	○		○	○
1580	コウチュウ目	ヒメドロムシ科	アワツヤドロムシ					○	○	○			○
1581	コウチュウ目	ヒメドロムシ科	ツヤドロムシ			○	○	○	○	○		○	○
1582	コウチュウ目	ナガドロムシ科	タテスジナガドロムシ		○			○	○	○		○	○
1583	コウチュウ目	ナガドロムシ科	タマガワナガドロムシ			○			○	○		○	○
1584	コウチュウ目	チビドロムシ科	チビドロムシ									○	

表6.7-3(17) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16		H20
1585	コウチュウ目	ヒラタドロムシ科	マルヒラタドロムシ											
1586	コウチュウ目	ヒラタドロムシ科	ヒラタドロムシ		○	○			○	○		○		○
1587	コウチュウ目	ヒラタドロムシ科	マスタチビヒラタドロムシ		○						○			○
1588	コウチュウ目	タマムシ科	ヒモンナガタマムシ									○		○
1589	コウチュウ目	タマムシ科	ヒメアサギナガタマムシ										○	
1590	コウチュウ目	タマムシ科	ブドウナガタマムシ					○	○					
1591	コウチュウ目	タマムシ科	アサギナガタマムシ					○			○			
1592	コウチュウ目	タマムシ科	ヤナギナガタマムシ			○								
1593	コウチュウ目	タマムシ科	ムツボシタマムシ								○			
1594	コウチュウ目	タマムシ科	ナガヒラタチビタマムシ										○	
1595	コウチュウ目	タマムシ科	ホソツツタマムシ											
1596	コウチュウ目	タマムシ科	アラメホソツツタマムシ			○					○			
1597	コウチュウ目	タマムシ科	クスノチビタマムシ						○		○			○
1598	コウチュウ目	タマムシ科	ナミガタチビタマムシ											○
1599	コウチュウ目	タマムシ科	マルガタチビタマムシ											○
1600	コウチュウ目	タマムシ科	ヤナギチビタマムシ		○	○	○	○	○		○			○
1601	コウチュウ目	コメツクムシ科	ヒメカヒロコメツク											
1602	コウチュウ目	コメツクムシ科	サビキコリ		○	○	○	○	○	○			○	
1603	コウチュウ目	コメツクムシ科	ホソサビキコリ		○	○	○	○	○	○			○	○
1604	コウチュウ目	コメツクムシ科	ヒメサビキコリ		○	○	○	○	○	○			○	○
1605	コウチュウ目	コメツクムシ科	オオアカコメツク			○								
1606	コウチュウ目	コメツクムシ科	アカコメツク			○	○							
1607	コウチュウ目	コメツクムシ科	クロハナコメツク											○
1608	コウチュウ目	コメツクムシ科	メスグロベニコメツク										○	
1609	コウチュウ目	コメツクムシ科	オオハナコメツク		○	○	○	○	○	○				○
1610	コウチュウ目	コメツクムシ科	Ectinus属										○	
1611	コウチュウ目	コメツクムシ科	ミスギワコメツク											○
1612	コウチュウ目	コメツクムシ科	ヨツモンミスギワコメツク											○
1613	コウチュウ目	コメツクムシ科	キアシミスギワコメツク										○	○
1614	コウチュウ目	コメツクムシ科	クロシクチボソコメツク			○								○
1615	コウチュウ目	コメツクムシ科	クロツヤハダコメツク											○
1616	コウチュウ目	コメツクムシ科	ニセクチフトコメツク			○								○
1617	コウチュウ目	コメツクムシ科	タテジマカネコメツク		○									
1618	コウチュウ目	コメツクムシ科	クロツヤクシコメツク		○									
1619	コウチュウ目	コメツクムシ科	クシコメツク											○
1620	コウチュウ目	コメツクムシ科	チャバネクシコメツク		○			○						
1621	コウチュウ目	コメツクムシ科	クロツヤミスギワコメツク											○
1622	コウチュウ目	コメツクムシ科	クロコハナコメツク											○
1623	コウチュウ目	コメツクムシ科	コハナコメツク									○		○
1624	コウチュウ目	コメツクムシ科	クリロアシフトコメツク											○
1625	コウチュウ目	コメツクムシ科	クロホソキコメツク											○
1626	コウチュウ目	コメツクムシ科	マダラチビコメツク		○									○
1627	コウチュウ目	コメツクムシ科	クチフトコメツク											○
1628	コウチュウ目	コメツクムシ科	カタモンチビコメツク											○
1629	コウチュウ目	コメツクムシ科	コメツクムシ科		○									
1630	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ミヤマクビボソジョウカイ										○	
1631	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ウスイロクビボソジョウカイ			○								
1632	コウチュウ目	ジョウカイボン科	クロジョウカイ		○									○
1633	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ヒメジョウカイ		○	○	○	○	○	○				○
1634	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ジョウカイボン		○	○	○	○	○	○	○			○
1635	コウチュウ目	ジョウカイボン科	セボシジョウカイ		○	○	○	○	○	○	○			○
1636	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ムネアカフトジョウカイ				○							○
1637	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ホッカイジョウカイ		○									
1638	コウチュウ目	ジョウカイボン科	クビボソジョウカイ								○			○
1639	コウチュウ目	ジョウカイボン科	マルムネジョウカイ		○									
1640	コウチュウ目	ジョウカイボン科	カタキンイロジョウカイ											○
1641	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ムネアカジョウカイ											○
1642	コウチュウ目	ジョウカイボン科	ジョウカイボン科											○
1643	コウチュウ目	ホタル科	オハボタル		○	○		○	○				○	
1644	コウチュウ目	ベニボタル科	コクロハナボタル			○								
1645	コウチュウ目	ベニボタル科	クロハナボタル		○									
1646	コウチュウ目	ベニボタル科	ニセクロハナボタル											○
1647	コウチュウ目	カツオブシムシ科	カマキリタマコカツオブシムシ											○
1648	コウチュウ目	シバムシ科	ツツガタシバムシ											○
1649	コウチュウ目	カクウムシ科	キムネツツカクウムシ			○								
1650	コウチュウ目	ジョウカイモドキ科	ヒロオビジョウカイモドキ											○
1651	コウチュウ目	ジョウカイモドキ科	キアシオビジョウカイモドキ		○	○	○	○	○	○				
1652	コウチュウ目	ジョウカイモドキ科	ツマキアジョウカイモドキ		○	○	○	○	○	○				○
1653	コウチュウ目	キスイモドキ科	キスイモドキ		○	○	○	○	○	○				
1654	コウチュウ目	テントウムシ科	カメノコテントウ			○								
1655	コウチュウ目	テントウムシ科	シロトホシテントウ											○
1656	コウチュウ目	テントウムシ科	ムーアシロホシテントウ											○
1657	コウチュウ目	テントウムシ科	シロジョウシホシテントウ		○									○
1658	コウチュウ目	テントウムシ科	ヒメアカホシテントウ		○	○				○				○
1659	コウチュウ目	テントウムシ科	ナナホシテントウ		○	○		○	○	○	○			○
1660	コウチュウ目	テントウムシ科	フタモンクロテントウ											○
1661	コウチュウ目	テントウムシ科	オオニジュウヤホシテントウ				○							
1662	コウチュウ目	テントウムシ科	ナミテントウ		○	○	○	○	○	○				○
1663	コウチュウ目	テントウムシ科	ジュウサンホシテントウ		○	○	○	○	○	○				○
1664	コウチュウ目	テントウムシ科	ツマフタホシテントウ											○
1665	コウチュウ目	テントウムシ科	フタホシテントウ											○
1666	コウチュウ目	テントウムシ科	キイロテントウ			○								○
1667	コウチュウ目	テントウムシ科	オシマヒメテントウ											○
1668	コウチュウ目	テントウムシ科	セスジヒメテントウ			○								○
1669	コウチュウ目	テントウムシ科	アトホシヒメテントウ											○
1670	コウチュウ目	テントウムシ科	ヒメカメノコテントウ		○	○	○	○	○	○				○
1671	コウチュウ目	テントウムシ科	コカメノコテントウ											○
1672	コウチュウ目	テントウムシ科	ハレヤヒメテントウ											○
1673	コウチュウ目	テントウムシ科	ババヒメテントウ			○								○
1674	コウチュウ目	テントウムシ科	チュウジョウヒメテントウ			○								○
1675	コウチュウ目	テントウムシ科	クロヘリヒメテントウ		○	○								○
1676	コウチュウ目	テントウムシ科	クロヒメテントウ			○								○
1677	コウチュウ目	テントウムシ科	カワムラヒメテントウ											○
1678	コウチュウ目	テントウムシ科	コクロヒメテントウ			○	○	○	○					○
1679	コウチュウ目	テントウムシ科	クロツヤテントウ		○									○
1680	コウチュウ目	テントウムシ科	キアシクロヒメテントウ											○
1681	コウチュウ目	テントウムシ科	クロテントウ			○								○
1682	コウチュウ目	キスイムシ科	ケナガセマルキスイ											○
1683	コウチュウ目	キスイムシ科	キイロセマルキスイ											○

表.6.7-3(18) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ~鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20
1684	コウチュウ目	クシイ目シ科	マルガタクシイ										○
1685	コウチュウ目	テントウムシダマシ科	ヨツボシテントウダマシ	○	○	○		○		○	○		
1686	コウチュウ目	テントウムシダマシ科	キボシテントウダマシ				○			○			
1687	コウチュウ目	オオクシイ目シ科	ヨツボシオオクシイ							○			
1688	コウチュウ目	コムツキモドキ科	キムネヒメコムツキモドキ										○
1689	コウチュウ目	コムツキモドキ科	ツマクロヒメコムツキモドキ					○					○
1690	コウチュウ目	コムツキモドキ科	ルイスコムツキモドキ										○
1691	コウチュウ目	コムツキモドキ科	コムツキモドキ科							○			
1692	コウチュウ目	ヒメマキムシ科	ウスチャケシマキムシ										○
1693	コウチュウ目	ヒメマキムシ科	ヤマトケシマキムシ										○
1694	コウチュウ目	ヒゲボソケシキス目科	コクロチビハナケシキス										○
1695	コウチュウ目	ケシキス目科	ホソキヒラタケシキス							○			
1696	コウチュウ目	ケシキス目科	ネアカマルケシキス							○			
1697	コウチュウ目	ケシキス目科	クロハナケシキス		○	○				○			
1698	コウチュウ目	ケシキス目科	クリイロテオキス							○			
1699	コウチュウ目	ケシキス目科	ナミモンケシキス						○				
1700	コウチュウ目	ケシキス目科	ツバキヒラタケシキス										○
1701	コウチュウ目	ケシキス目科	セグロヒラタケシキス									○	
1702	コウチュウ目	ケシキス目科	コゲチャヒラタケシキス										○
1703	コウチュウ目	ケシキス目科	キバナガヒラタケシキス						○				
1704	コウチュウ目	ケシキス目科	マメヒラタケシキス										○
1705	コウチュウ目	ケシキス目科	Haptoncurina属									○	
1706	コウチュウ目	ケシキス目科	ツヤチビヒラタケシキス									○	
1707	コウチュウ目	ケシキス目科	モンチビヒラタケシキス						○				
1708	コウチュウ目	ケシキス目科	アカマダラケシキス	○									○
1709	コウチュウ目	ケシキス目科	ヨツボシケシキス	○	○	○		○	○				○
1710	コウチュウ目	ケシキス目科	キムネチビケシキス					○	○				
1711	コウチュウ目	ケシキス目科	キペリチビケシキス			○			○				
1712	コウチュウ目	ケシキス目科	キボシヒラタケシキス		○					○			
1713	コウチュウ目	ケシキス目科	ウスグロキバケシキス						○				○
1714	コウチュウ目	ケシキス目科	オオキマダラケシキス		○								
1715	コウチュウ目	ミジムシモドキ科	ミジムシモドキ						○				
1716	コウチュウ目	ヒメハナムシ科	ニセクロマルヒメハナムシ										○
1717	コウチュウ目	ヒメハナムシ科	クロズマルヒメハナムシ										○
1718	コウチュウ目	ヒメハナムシ科	アカボシチビヒメハナムシ										○
1719	コウチュウ目	ヒメハナムシ科	エムモンチビヒメハナムシ										○
1720	コウチュウ目	ヒメハナムシ科	チビヒメハナムシ										○
1721	コウチュウ目	ホソヒラタムシ科	ミツモンセマルヒラタムシ						○				○
1722	コウチュウ目	ホソヒラタムシ科	ホソムネホソヒラタムシ										○
1723	コウチュウ目	ホソヒラタムシ科	ホソヒラタキス										○
1724	コウチュウ目	アリモドキ科	クロソアリモドキ										○
1725	コウチュウ目	アリモドキ科	ウスモンホソアリモドキ										○
1726	コウチュウ目	アリモドキ科	ヒラタホソアリモドキ										○
1727	コウチュウ目	アリモドキ科	コクロホソアリモドキ		○		○	○	○	○			○
1728	コウチュウ目	アリモドキ科	ホソクビアリモドキ		○	○	○	○	○		○		○
1729	コウチュウ目	アリモドキ科	キアシクビホソムシ			○							
1730	コウチュウ目	アリモドキ科	ホソアシツカク										○
1731	コウチュウ目	アリモドキ科	クロモンツカク									○	
1732	コウチュウ目	アリモドキ科	ヨツボシホソアリモドキ			○	○	○	○	○			○
1733	コウチュウ目	アリモドキ科	ムナグロホソアリモドキ							○			○
1734	コウチュウ目	アリモドキ科	クロホソアリモドキ							○			○
1735	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	フタオビホソナガクチキ										○
1736	コウチュウ目	ナガクチキムシ科	コイチャニセハナノミ										○
1737	コウチュウ目	ツチハンミョウ科	マメハンミョウ			○							
1738	コウチュウ目	ツチハンミョウ科	キイロゲンセイ										○
1739	コウチュウ目	ハナノミ科	クリイロヒメハナノミ									○	
1740	コウチュウ目	ハナノミ科	シズオカヒメハナノミ										○
1741	コウチュウ目	ハナノミ科	クロヒメハナノミ			○			○			○	
1742	コウチュウ目	ハナノミ科	コクロヒメハナノミ										○
1743	コウチュウ目	カミキリモドキ科	モモフトカミキリモドキ			○	○	○	○	○			○
1744	コウチュウ目	カミキリモドキ科	キイロカミキリモドキ						○				○
1745	コウチュウ目	カミキリモドキ科	キバナカミキリモドキ	○	○				○				○
1746	コウチュウ目	カミキリモドキ科	アオカミキリモドキ	○	○	○			○				○
1747	コウチュウ目	ハナノミダマシ科	コフナガタハナノミ										○
1748	コウチュウ目	アカハネムシ科	オニアカハネムシ										○
1749	コウチュウ目	アカハネムシ科	ムナピロアカハネムシ				○			○			○
1750	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	クチキムシ					○					○
1751	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ウスイロクチキムシ						○				
1752	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	クリイロクチキムシ	○									
1753	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	トビイロクチキムシ		○				○				○
1754	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒメツノゴミムシダマシ			○		○	○				
1755	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	モンキゴミムシダマシ	○									
1756	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	コスナゴミムシダマシ	○	○				○	○			○
1757	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒメスナゴミムシダマシ	○		○			○	○			
1758	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	カクスナゴミムシダマシ										○
1759	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ホソスナゴミムシダマシ										○
1760	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒメカクスナゴミムシダマシ		○	○			○	○			○
1761	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	スジコガシラゴミムシダマシ							○			
1762	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ハムシダマシ		○								○
1763	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヒゲブトゴミムシダマシ				○						
1764	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ナガハムシダマシ										○
1765	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	キマワリ							○			○
1766	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	コクヌストモドキ			○				○			
1767	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	ヨツコブゴミムシダマシ		○				○				
1768	コウチュウ目	ゴミムシダマシ科	エグリゴミムシダマシ										○
1769	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニセビロウドカミキリ										○
1770	コウチュウ目	カミキリムシ科	ゴマダラカミキリ	○	○	○		○	○	○			○
1771	コウチュウ目	カミキリムシ科	クワカミキリ			○							
1772	コウチュウ目	カミキリムシ科	サビカミキリ										○
1773	コウチュウ目	カミキリムシ科	コブスジサビカミキリ							○			
1774	コウチュウ目	カミキリムシ科	シロスジカミキリ	○	○	○			○				○
1775	コウチュウ目	カミキリムシ科	イチジクカミキリ			○							
1776	コウチュウ目	カミキリムシ科	トゲヒゲトラカミキリ										○
1777	コウチュウ目	カミキリムシ科	ホタルカミキリ			○							
1778	コウチュウ目	カミキリムシ科	ガロアケシカミキリ	○									
1779	コウチュウ目	カミキリムシ科	クロハナカミキリ						○				
1780	コウチュウ目	カミキリムシ科	ムネアカクロハナカミキリ			○							
1781	コウチュウ目	カミキリムシ科	ウスバカミキリ			○							○
1782	コウチュウ目	カミキリムシ科	オニグルミノキモンカミキリ						○				

表6.7-3(19) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	
1783	コウチュウ目	カミキリムシ科	ナガゴマフカミキリ			○					○		
1784	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒシカミキリ		○	○	○	○	○	○			
1785	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒメヒゲナガカミキリ			○							
1786	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヘリグロリンゴカミキリ									○	
1787	コウチュウ目	カミキリムシ科	キクスイカミキリ	○	○	○		○	○				○
1788	コウチュウ目	カミキリムシ科	セズジメハナカミキリ			○			○	○			
1789	コウチュウ目	カミキリムシ科	ニセノコギリカミキリ									○	
1790	コウチュウ目	カミキリムシ科	キボシカミキリ		○				○			○	
1791	コウチュウ目	カミキリムシ科	マルモンサビカミキリ						○				
1792	コウチュウ目	カミキリムシ科	トガリシロオビサビカミキリ		○				○				
1793	コウチュウ目	カミキリムシ科	アトモンサビカミキリ	○					○				
1794	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒメナガサビカミキリ		○				○	○			
1795	コウチュウ目	カミキリムシ科	アトシロサビカミキリ		○	○			○	○			
1796	コウチュウ目	カミキリムシ科	フタオビアラゲカミキリ		○	○							
1797	コウチュウ目	カミキリムシ科	ヒトオビアラゲカミキリ		○						○		
1798	コウチュウ目	カミキリムシ科	ケンカミキリ		○								
1799	コウチュウ目	カミキリムシ科	クロカミキリ		○				○			○	
1800	コウチュウ目	ハムシ科	アカガネサルハムシ		○	○			○	○			
1801	コウチュウ目	ハムシ科	ハンノキハムシ						○				○
1802	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメカミナリハムシ										
1803	コウチュウ目	ハムシ科	アザミカミナリハムシ										○
1804	コウチュウ目	ハムシ科	カミナリハムシ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
1805	コウチュウ目	ハムシ科	スジカミナリハムシ本州以南亜種		○				○	○		○	○
1806	コウチュウ目	ハムシ科	ニホンカミナリハムシ	○									
1807	コウチュウ目	ハムシ科	Altica属								○		
1808	コウチュウ目	ハムシ科	コカミナリハムシ		○	○	○	○	○	○			○
1809	コウチュウ目	ハムシ科	ツブノミハムシ										○
1810	コウチュウ目	ハムシ科	サメハダツブノミハムシ			○			○				○
1811	コウチュウ目	ハムシ科	ホソリトビハムシ								○		
1812	コウチュウ目	ハムシ科	オオキイロマルノミハムシ			○	○	○	○	○			
1813	コウチュウ目	ハムシ科	アカイロマルノミハムシ										○
1814	コウチュウ目	ハムシ科	ジンガサハムシ		○	○						○	
1815	コウチュウ目	ハムシ科	ウリハムシモドキ	○	○				○			○	
1816	コウチュウ目	ハムシ科	ウリハムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1817	コウチュウ目	ハムシ科	クロウリハムシ		○	○	○	○	○	○	○	○	○
1818	コウチュウ目	ハムシ科	アオハネサルハムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1819	コウチュウ目	ハムシ科	ハネナシトビハムシ										○
1820	コウチュウ目	ハムシ科	サムライマゾウムシ		○	○			○	○			
1821	コウチュウ目	ハムシ科	ネムノキマゾウムシ	○	○	○			○	○			○
1822	コウチュウ目	ハムシ科	シリアカマゾウムシ							○			
1823	コウチュウ目	ハムシ科	エンドウゾウムシ				○						○
1824	コウチュウ目	ハムシ科	アズキマゾウムシ		○	○			○	○		○	
1825	コウチュウ目	ハムシ科	オオルリヒメハムシ		○	○			○				
1826	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメジンガサハムシ						○				○
1827	コウチュウ目	ハムシ科	フタイロヒサゴトビハムシ									○	○
1828	コウチュウ目	ハムシ科	テンサイトビハムシ									○	
1829	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメドウガネトビハムシ		○	○							○
1830	コウチュウ目	ハムシ科	キイチゴトビハムシ						○			○	○
1831	コウチュウ目	ハムシ科	ヒサゴトビハムシ			○			○			○	○
1832	コウチュウ目	ハムシ科	アオバドウガネトビハムシ		○				○	○		○	○
1833	コウチュウ目	ハムシ科	ムシクソハムシ			○	○	○	○	○		○	○
1834	コウチュウ目	ハムシ科	ヨモギハムシ		○	○	○	○	○	○		○	○
1835	コウチュウ目	ハムシ科	ハッカハムシ				○						
1836	コウチュウ目	ハムシ科	ヤナギハムシ	○		○			○				
1837	コウチュウ目	ハムシ科	サクラサルハムシ			○	○			○			
1838	コウチュウ目	ハムシ科	キムネアオハムシ						○				
1839	コウチュウ目	ハムシ科	イモサルハムシ	○		○							○
1840	コウチュウ目	ハムシ科	ミドリトビハムシ		○	○			○	○			○
1841	コウチュウ目	ハムシ科	ルリツツハムシ	○									
1842	コウチュウ目	ハムシ科	キアシチビツツハムシ						○	○			
1843	コウチュウ目	ハムシ科	バラルリツツハムシ		○	○	○	○	○	○			○
1844	コウチュウ目	ハムシ科	コヤツボシツツハムシ	○									
1845	コウチュウ目	ハムシ科	タテスジキツツハムシ						○				○
1846	コウチュウ目	ハムシ科	クロボシツツハムシ	○		○	○	○	○	○			○
1847	コウチュウ目	ハムシ科	クワハムシ		○	○	○	○	○	○			○
1848	コウチュウ目	ハムシ科	イチゴハムシ										○
1849	コウチュウ目	ハムシ科	ジュンサイハムシ						○	○			
1850	コウチュウ目	ハムシ科	イタドリハムシ			○	○				○	○	
1851	コウチュウ目	ハムシ科	クルマハムシ				○			○			
1852	コウチュウ目	ハムシ科	コガタルリハムシ			○			○				
1853	コウチュウ目	ハムシ科	ヤツボシハムシ			○							
1854	コウチュウ目	ハムシ科	フジハムシ									○	
1855	コウチュウ目	ハムシ科	ルリクビボソハムシ										○
1856	コウチュウ目	ハムシ科	トゲアシクビボソハムシ		○								
1857	コウチュウ目	ハムシ科	トホシクビボソハムシ										○
1858	コウチュウ目	ハムシ科	キオビクビボソハムシ				○						
1859	コウチュウ目	ハムシ科	アカクビボソハムシ		○				○	○			
1860	コウチュウ目	ハムシ科	ヤマイモハムシ						○				
1861	コウチュウ目	ハムシ科	セアカクビボソハムシ			○						○	○
1862	コウチュウ目	ハムシ科	イヌノフグリトビハムシ		○	○							
1863	コウチュウ目	ハムシ科	ヨモギトビハムシ		○	○			○	○			○
1864	コウチュウ目	ハムシ科	コフキサルハムシ			○			○	○			
1865	コウチュウ目	ハムシ科	フタスジヒメハムシ		○	○	○	○	○	○			○
1866	コウチュウ目	ハムシ科	ホタルハムシ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1867	コウチュウ目	ハムシ科	アオバアシナガハムシ								○		
1868	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメウスイロハムシ			○	○	○	○	○			
1869	コウチュウ目	ハムシ科	キイロクワハムシ										○
1870	コウチュウ目	ハムシ科	カクムネトビハムシ						○				○
1871	コウチュウ目	ハムシ科	オオキイロノミハムシ	○									
1872	コウチュウ目	ハムシ科	ルリマルノミハムシ										○
1873	コウチュウ目	ハムシ科	ドウガネツヤハムシ										
1874	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメツヤハムシ							○			
1875	コウチュウ目	ハムシ科	フタクサハムシ						○	○			
1876	コウチュウ目	ハムシ科	イネクビボソハムシ		○				○	○			○
1877	コウチュウ目	ハムシ科	ハギツツハムシ		○	○	○	○	○	○			○
1878	コウチュウ目	ハムシ科	ヒメキバナサルハムシ		○	○	○	○	○	○			○
1879	コウチュウ目	ハムシ科	アトボシハムシ						○	○			
1880	コウチュウ目	ハムシ科	ヨツボシハムシ	○		○	○						
1881	コウチュウ目	ハムシ科	タマアシトビハムシ			○	○						

表6.7-3(20) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20
1882	コウチュウ目	ハムシ科	チャバナツヤハムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1883	コウチュウ目	ハムシ科	チュウジョウキスジノミハムシ										○
1884	コウチュウ目	ハムシ科	ホソキスジノミハムシ								○		
1885	コウチュウ目	ハムシ科	キスジノミハムシ						○	○		○	○
1886	コウチュウ目	ハムシ科	ヤナギルリハムシ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1887	コウチュウ目	ハムシ科	クビボトビハムシ			○							
1888	コウチュウ目	ハムシ科	ルリナガスネトビハムシ								○		
1889	コウチュウ目	ハムシ科	ミノハギハムシ									○	
1890	コウチュウ目	ハムシ科	イタヤハムシ				○						
1891	コウチュウ目	ハムシ科	ニレハムシ		○				○				
1892	コウチュウ目	ハムシ科	エノキハムシ							○			
1893	コウチュウ目	ハムシ科	ドウガネサルハムシ	○	○	○	○	○	○	○		○	
1894	コウチュウ目	ハムシ科	ムナキルリハムシ	○	○	○	○	○	○	○			○
1895	コウチュウ目	ハムシ科	イクビマメゾウムシ		○	○			○				
1896	コウチュウ目	ハムシ科	ツマキタマノミハムシ			○							
1897	コウチュウ目	ハムシ科	キイロタマノミハムシ								○	○	
1898	コウチュウ目	ハムシ科	ルリウスバハムシ			○		○					
1899	コウチュウ目	ハムシ科	ワモンナガハムシ			○		○					
1900	コウチュウ目	ハムシ科	ガマズミトビハムシ									○	
1901	コウチュウ目	ハムシ科	シロモンマメゾウムシ									○	○
1902	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	ウスモンツツヒゲナガゾウムシ									○	○
1903	コウチュウ目	ヒゲナガゾウムシ科	クロホシメナガヒゲナガゾウムシ		○							○	○
1904	コウチュウ目	ホソクチゾウムシ科	マメホソクチゾウムシ			○	○			○		○	○
1905	コウチュウ目	ホソクチゾウムシ科	ケブカホソクチゾウムシ						○			○	○
1906	コウチュウ目	ホソクチゾウムシ科	クチナガホソクチゾウムシ									○	○
1907	コウチュウ目	ホソクチゾウムシ科	セアカホソクチゾウムシ									○	○
1908	コウチュウ目	ホソクチゾウムシ科	キンキンホソクチゾウムシ									○	○
1909	コウチュウ目	チビゾウムシ科	ホソチビゾウムシ			○				○			
1910	コウチュウ目	オシブミ科	ヒメクロオシブミ									○	○
1911	コウチュウ目	オシブミ科	ブドウハマキチョッキリ								○		
1912	コウチュウ目	オシブミ科	クロケシツブチョッキリ	○							○	○	
1913	コウチュウ目	オシブミ科	ナラルリオシブミ						○				
1914	コウチュウ目	オシブミ科	カシルリオシブミ			○							
1915	コウチュウ目	オシブミ科	オオケブカチョッキリ									○	○
1916	コウチュウ目	オシブミ科	ヒメケブカチョッキリ					○	○	○			
1917	コウチュウ目	オシブミ科	クチナガチョッキリ		○	○			○	○		○	○
1918	コウチュウ目	ゾウムシ科	コブマルクチカクシゾウムシ								○		
1919	コウチュウ目	ゾウムシ科	イチゴバナゾウムシ		○	○	○	○	○	○		○	
1920	コウチュウ目	ゾウムシ科	コブバナゾウムシ										○
1921	コウチュウ目	ゾウムシ科	カギアシゾウムシ								○	○	
1922	コウチュウ目	ゾウムシ科	エゾヒメゾウムシ		○	○		○	○	○		○	
1923	コウチュウ目	ゾウムシ科	マダラヒメゾウムシ			○						○	
1924	コウチュウ目	ゾウムシ科	チビメナガゾウムシ	○	○	○		○	○	○		○	
1925	コウチュウ目	ゾウムシ科	カナムグラサルゾウムシ	○	○		○	○	○	○		○	○
1926	コウチュウ目	ゾウムシ科	ボウサンクチカクシゾウムシ								○		
1927	コウチュウ目	ゾウムシ科	オオアオゾウムシ			○							
1928	コウチュウ目	ゾウムシ科	ワモントゲトゲゾウムシ	○									
1929	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヤナギシリジロゾウムシ		○			○			○		
1930	コウチュウ目	ゾウムシ科	アイノシギゾウムシ	○									
1931	コウチュウ目	ゾウムシ科	セダカシギゾウムシ		○			○					
1932	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヤノシギゾウムシ						○				
1933	コウチュウ目	ゾウムシ科	クリイロクチフトゾウムシ		○								
1934	コウチュウ目	ゾウムシ科	ケナガイネゾウムシ	○	○	○		○	○	○			
1935	コウチュウ目	ゾウムシ科	モンイネゾウムシ	○	○	○		○	○	○			○
1936	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヤナギイネゾウムシ	○	○	○		○	○	○			○
1937	コウチュウ目	ゾウムシ科	アカイネゾウムシ		○	○				○			○
1938	コウチュウ目	ゾウムシ科	Elleschus属								○		○
1939	コウチュウ目	ゾウムシ科	コフキゾウムシ	○	○	○	○	○	○	○		○	○
1940	コウチュウ目	ゾウムシ科	アシナガオニゾウムシ							○			
1941	コウチュウ目	ゾウムシ科	ムシクサコバンゾウムシ									○	○
1942	コウチュウ目	ゾウムシ科	タデトゲサルゾウムシ			○						○	○
1943	コウチュウ目	ゾウムシ科	クロトゲサルゾウムシ									○	○
1944	コウチュウ目	ゾウムシ科	オオタコゾウムシ			○			○	○			
1945	コウチュウ目	ゾウムシ科	チャバナキクイゾウムシ			○		○	○	○			
1946	コウチュウ目	ゾウムシ科	フタキボシゾウムシ	○	○		○	○	○	○		○	
1947	コウチュウ目	ゾウムシ科	ハスジカッツオゾウムシ		○	○		○	○	○		○	○
1948	コウチュウ目	ゾウムシ科	ナガカッツオゾウムシ		○	○		○	○	○		○	○
1949	コウチュウ目	ゾウムシ科	カッツオゾウムシ			○							○
1950	コウチュウ目	ゾウムシ科	トゲハラヒラセクモゾウムシ			○						○	
1951	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヒラセクモゾウムシ		○	○							
1952	コウチュウ目	ゾウムシ科	クワヒメゾウムシ									○	○
1953	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヒゲトクチフトゾウムシ		○	○		○	○	○		○	○
1954	コウチュウ目	ゾウムシ科	ケブカクチフトゾウムシ								○		
1955	コウチュウ目	ゾウムシ科	コシワクチフトゾウムシ								○		
1956	コウチュウ目	ゾウムシ科	カシワクチフトゾウムシ		○	○						○	○
1957	コウチュウ目	ゾウムシ科	チビヒョウタンゾウムシ						○			○	○
1958	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヒレルクチフトゾウムシ									○	○
1959	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヤドリノミゾウムシ			○							
1960	コウチュウ目	ゾウムシ科	カンワノミゾウムシ			○							
1961	コウチュウ目	ゾウムシ科	マダラノミゾウムシ										○
1962	コウチュウ目	ゾウムシ科	アカアシノミゾウムシ										○
1963	コウチュウ目	ゾウムシ科	オジロアシナガゾウムシ		○			○	○	○		○	○
1964	コウチュウ目	ゾウムシ科	タカオマルクチカクシゾウムシ					○		○			
1965	コウチュウ目	ゾウムシ科	マルメサルゾウムシ									○	
1966	コウチュウ目	ゾウムシ科	ワシバナヒメキクイゾウムシ		○			○					
1967	コウチュウ目	ゾウムシ科	リンゴコフキゾウムシ		○						○		
1968	コウチュウ目	ゾウムシ科	コブヒゲボソゾウムシ								○		
1969	コウチュウ目	ゾウムシ科	クリアナキゾウムシ									○	○
1970	コウチュウ目	ゾウムシ科	ハリゲスグリゾウムシ									○	○
1971	コウチュウ目	ゾウムシ科	スグリゾウムシ								○	○	
1972	コウチュウ目	ゾウムシ科	チビスグリゾウムシ		○	○		○				○	○
1973	コウチュウ目	ゾウムシ科	ケナガスグリゾウムシ								○		
1974	コウチュウ目	ゾウムシ科	ウンモンナガクチカクシゾウムシ									○	○
1975	コウチュウ目	ゾウムシ科	クロクチフトサルゾウムシ		○				○				
1976	コウチュウ目	ゾウムシ科	アカアシクチフトサルゾウムシ									○	○
1977	コウチュウ目	ゾウムシ科	ギシギシクチフトサルゾウムシ									○	○
1978	コウチュウ目	ゾウムシ科	タデノクチフトサルゾウムシ					○					
1979	コウチュウ目	ゾウムシ科	サビヒョウタンゾウムシ				○						○
1980	コウチュウ目	ゾウムシ科	クワヒョウタンゾウムシ	○	○	○							

表6.7-3(21) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ~鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20	
1981	コウチュウ目	ゾウムシ科	ニセマツノシラホシゾウムシ		○	○	○	○						
1982	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヒサゴクチカクシゾウムシ									○		
1983	コウチュウ目	ゾウムシ科	ケチビコフキゾウムシ			○			○					
1984	コウチュウ目	ゾウムシ科	チビコフキゾウムシ		○			○			○			
1985	コウチュウ目	ゾウムシ科	マダラケシツゾウムシ									○		
1986	コウチュウ目	ゾウムシ科	ワモンヒョウタンゾウムシ	○	○	○		○	○			○		
1987	コウチュウ目	ゾウムシ科	ヤナギノミゾウムシ									○		
1988	コウチュウ目	ゾウムシ科	クロノミゾウムシ	○								○		
1989	コウチュウ目	ゾウムシ科	ケシツチゾウムシ									○		
1990	コウチュウ目	ゾウムシ科	クロツヤサルゾウムシ		○	○								○
1991	コウチュウ目	ゾウムシ科	ゾウムシ科	○										
1992	コウチュウ目	イネゾウムシ科	イネゾウムシ			○								○
1993	コウチュウ目	イネゾウムシ科	オオミズゾウムシ	○		○							○	
1994	コウチュウ目	イネゾウムシ科	イネミズゾウムシ		○	○		○	○		○		○	○
1995	コウチュウ目	オサゾウムシ科	トホシオサゾウムシ		○								○	
1996	コウチュウ目	キクイムシ科	トサキクイムシ											○
1997	コウチュウ目	キクイムシ科	ルイスザイノクイムシ						○					○
1998	ハチ目	ミフシハバチ科	アカスジチュウレンジ											○
1999	ハチ目	ミフシハバチ科	ニホンチュウレンジ	○	○	○		○	○		○			
2000	ハチ目	ミフシハバチ科	ルリチュウレンジ									○		
2001	ハチ目	コンボウハバチ科	ホシアシフトハバチ				○							
2002	ハチ目	ハバチ科	ハグロハバチ			○			○					
2003	ハチ目	ハバチ科	セグロカブラハバチ			○			○					
2004	ハチ目	ハバチ科	ニホンカブラハバチ	○	○				○					
2005	ハチ目	ハバチ科	カブラハバチ										○	
2006	ハチ目	ハバチ科	オオムネアカハバチ			○								
2007	ハチ目	ハバチ科	オスグロハバチ	○										
2008	ハチ目	ハバチ科	カタアカスギナハバチ			○								
2009	ハチ目	ハバチ科	クロハバチ	○		○		○	○					
2010	ハチ目	ハバチ科	チャイロハバチ	○										○
2011	ハチ目	ハバチ科	コシマハバチ			○								
2012	ハチ目	ハバチ科	クロイロシマハバチ	○	○									
2013	ハチ目	ハバチ科	セマダラハバチ	○			○	○						
2014	ハチ目	ハバチ科	ゼンマイハバチ	○										
2015	ハチ目	ハバチ科	キコシホソハバチ			○								
2016	ハチ目	ハバチ科	ルリバラハバチ	○										
2017	ハチ目	コマユバチ科	ハネグロアカコマユバチ						○					
2018	ハチ目	コマユバチ科	アオモリコマユバチ			○								
2019	ハチ目	コマユバチ科	ヒメキイロウラコマユバチ										○	
2020	ハチ目	コマユバチ科	Chelonogastra属									○		
2021	ハチ目	コマユバチ科	コマユバチ科									○		
2022	ハチ目	ヒメバチ科	クロヒゲフシオナガヒメバチ										○	
2023	ハチ目	ヒメバチ科	チビフシオナガヒメバチ											○
2024	ハチ目	ヒメバチ科	ハラボトガリヒメバチ	○										
2025	ハチ目	ヒメバチ科	ハキヒメバチ			○								
2026	ハチ目	ヒメバチ科	クロモンアメバチ	○									○	
2027	ハチ目	ヒメバチ科	Diplazon laetatorius									○		
2028	ハチ目	ヒメバチ科	シコクホシアメバチ											○
2029	ハチ目	ヒメバチ科	ハコネフシオナガヒメバチ	○										
2030	ハチ目	ヒメバチ科	アオムシヒラタヒメバチ		○									
2031	ハチ目	ヒメバチ科	キオビコシトヒメバチ		○			○						
2032	ハチ目	ヒメバチ科	トゲクロヒメバチ	○										
2033	ハチ目	ヒメバチ科	Coccygomimus属										○	
2034	ハチ目	ヒメバチ科	Dictyonotus属									○	○	
2035	ハチ目	ヒメバチ科	ヒメバチ科									○	○	
2036	ハチ目	アシフトコバチ科	チビアシフトコバチ			○								
2037	ハチ目	アシフトコバチ科	キアシフトコバチ			○			○				○	
2038	ハチ目	アシフトコバチ科	ハエヤドリアシフトコバチ			○							○	
2039	ハチ目	アシフトコバチ科	オニアシフトコバチ											○
2040	ハチ目	アシフトコバチ科	ハネマダラアシフトコバチ						○					
2041	ハチ目	トビコバチ科	トビコバチ科										○	
2042	ハチ目	ヒメコバチ科	ヒメコバチ科										○	
2043	ハチ目	カタビロコバチ科	カタビロコバチ科										○	
2044	ハチ目	タマバチ科	タマバチ科										○	
2045	ハチ目	アリガタバチ科	ムカシアリガタバチ		○	○			○					○
2046	ハチ目	アリガタバチ科	コメツキアリガタバチ			○			○					
2047	ハチ目	アリガタバチ科	ハゴロモアリガタバチ			○								
2048	ハチ目	アリガタバチ科	ハマキアリガタバチ			○								
2049	ハチ目	セイボウ科	ミツハセイボウ		○									
2050	ハチ目	セイボウ科	ムツハセイボウ					○	○					
2051	ハチ目	セイボウ科	ミドリセイボウ											○
2052	ハチ目	セイボウ科	ツマムラサキセイボウ			○			○					
2053	ハチ目	セイボウ科	ホシツヤセイボウ			○	○							○
2054	ハチ目	セイボウ科	オオセイボウ						○					
2055	ハチ目	カマバチ科	トビイロカマバチ											○
2056	ハチ目	アリ科	アшинаガアリ										○	
2057	ハチ目	アリ科	クロオアリ	○		○		○	○		○	○	○	○
2058	ハチ目	アリ科	ナフヨツボシオアリ									○		
2059	ハチ目	アリ科	ヒラスオアリ			○						○		
2060	ハチ目	アリ科	ウメマツオアリ			○	○	○	○	○			○	○
2061	ハチ目	アリ科	ヤマヨツボシオアリ											○
2062	ハチ目	アリ科	ケブカクロオアリ		○	○		○	○					○
2063	ハチ目	アリ科	ハリブツシリアゲアリ		○	○		○	○					○
2064	ハチ目	アリ科	キイロシリアゲアリ	○	○	○		○	○			○	○	○
2065	ハチ目	アリ科	クボシリアゲアリ				○				○			○
2066	ハチ目	アリ科	シベリアカタアリ				○							
2067	ハチ目	アリ科	ハヤシクロヤマアリ								○	○		○
2068	ハチ目	アリ科	クロヤマアリ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
2069	ハチ目	アリ科	ヒトビイロケアリ				○	○	○	○	○	○	○	○
2070	ハチ目	アリ科	トビイロケアリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2071	ハチ目	アリ科	クロクサアリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2072	ハチ目	アリ科	ヒゲナガケアリ			○			○					
2073	ハチ目	アリ科	カワラケアリ								○			○
2074	ハチ目	アリ科	クサアリモドキ				○						○	○
2075	ハチ目	アリ科	クロナガアリ									○		
2076	ハチ目	アリ科	ヒメアリ			○	○	○	○	○			○	○
2077	ハチ目	アリ科	キイロヒメアリ			○	○		○				○	
2078	ハチ目	アリ科	カドフシアリ											○
2079	ハチ目	アリ科	ルリアリ										○	

表6.7-3(22) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目と名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20	
2080	ハチ目	アリ科	オオハリアリ		○	○	○	○	○	○		○	○	○
2081	ハチ目	アリ科	アメロアリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2082	ハチ目	アリ科	サクラアリ			○		○	○			○	○	
2083	ハチ目	アリ科	アズマオオズアリ			○		○	○			○	○	
2084	ハチ目	アリ科	アミメアリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2085	ハチ目	アリ科	イトウカギバラアリ									○		
2086	ハチ目	アリ科	トフシアリ			○			○					
2087	ハチ目	アリ科	アシジロヒラフシアリ								○			
2088	ハチ目	アリ科	ムネボソアリ			○		○	○			○	○	○
2089	ハチ目	アリ科	ハリナガムネボソアリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2090	ハチ目	アリ科	トビイロシワアリ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2091	ハチ目	アリ科	ウメマツアリ	○										
2092	ハチ目	アリ科	アリ科	○							○			
2093	ハチ目	ドロバチ科	アトボシキタドロバチ							○				
2094	ハチ目	ドロバチ科	ケブカスジドロバチ							○				
2095	ハチ目	ドロバチ科	オオフタオビドロバチ	○		○		○	○	○				
2096	ハチ目	ドロバチ科	オオフタオビドロバチ				○						○	
2097	ハチ目	ドロバチ科	ヤマトフタスジズバチ	○				○	○	○				
2098	ハチ目	ドロバチ科	キボシトックリバチ	○			○	○	○	○			○	
2099	ハチ目	ドロバチ科	ミカドトックリバチ	○		○	○	○	○	○			○	○
2100	ハチ目	ドロバチ科	キアシトックリバチ		○	○	○	○	○	○		○		○
2101	ハチ目	ドロバチ科	ムモントックリバチ			○	○	○	○	○				
2102	ハチ目	ドロバチ科	カバオビドロバチ			○		○	○				○	
2103	ハチ目	ドロバチ科	ミカドドロバチ		○	○		○	○			○		○
2104	ハチ目	ドロバチ科	ジユウジドロバチ									○		
2105	ハチ目	ドロバチ科	エントツドロバチ											
2106	ハチ目	ドロバチ科	スズバチ	○		○	○	○	○			○	○	
2107	ハチ目	ドロバチ科	ナミカバドロバチ										○	
2108	ハチ目	ドロバチ科	フカイオドロバチ				○		○					
2109	ハチ目	ドロバチ科	カタクロチドロバチ			○	○	○	○	○				
2110	ハチ目	ドロバチ科	フトカギチドロバチ			○	○	○	○	○				○
2111	ハチ目	ドロバチ科	キタドロバチ	○		○		○	○	○				
2112	ハチ目	ドロバチ科	チビドロバチ					○	○	○		○	○	
2113	ハチ目	スズメバチ科	フタモンアシナガバチ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2114	ハチ目	スズメバチ科	セグロアシナガバチ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2115	ハチ目	スズメバチ科	ヤマトアシナガバチ					○	○	○			○	○
2116	ハチ目	スズメバチ科	キボシアシナガバチ					○	○	○			○	○
2117	ハチ目	スズメバチ科	キアシナガバチ	○	○		○	○	○	○			○	○
2118	ハチ目	スズメバチ科	コアシナガバチ									○	○	
2119	ハチ目	スズメバチ科	コガタスズメバチ				○	○	○	○				
2120	ハチ目	スズメバチ科	モンズメバチ						○	○			○	○
2121	ハチ目	スズメバチ科	オオスズメバチ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2122	ハチ目	スズメバチ科	キイロスズメバチ			○	○	○	○	○			○	○
2123	ハチ目	スズメバチ科	ヒメスズメバチ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2124	ハチ目	スズメバチ科	クロスズメバチ									○		
2125	ハチ目	ベッコウバチ科	リュウキュウクロベッコウ			○	○							
2126	ハチ目	ベッコウバチ科	オオモンクロベッコウ	○		○	○	○	○	○		○	○	○
2127	ハチ目	ベッコウバチ科	キバナオオベッコウ											
2128	ハチ目	ベッコウバチ科	コフタスジベッコウ				○							
2129	ハチ目	ベッコウバチ科	オオシロフベッコウ				○	○						
2130	ハチ目	ベッコウバチ科	コトゲアシベッコウ											○
2131	ハチ目	ベッコウバチ科	ヒメベッコウ						○	○				
2132	ハチ目	ベッコウバチ科	ベッコウバチ			○	○		○	○			○	
2133	ハチ目	アリバチ科	ミカドアリバチ						○					
2134	ハチ目	アリバチ科	アリバチモドキ			○								
2135	ハチ目	アリバチ科	ヒトホシアリバチ			○	○	○	○	○				
2136	ハチ目	アリバチ科	フタホシアリバチ			○	○	○	○	○				
2137	ハチ目	コツチバチ科	ハヤコツチバチ							○				
2138	ハチ目	コツチバチ科	サキスジコガネコツチバチ	○										
2139	ハチ目	コツチバチ科	スネアカコツチバチ			○	○							
2140	ハチ目	コツチバチ科	マメコツチバチ				○							
2141	ハチ目	コツチバチ科	クロコガネコツチバチ			○								
2142	ハチ目	コツチバチ科	マメコガネコツチバチ			○	○	○	○	○				○
2143	ハチ目	コツチバチ科	ハルコツチバチ	○										
2144	ハチ目	ツチバチ科	Campsomeris属									○		
2145	ハチ目	ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ			○	○	○	○	○		○	○	○
2146	ハチ目	ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ			○	○	○	○	○			○	○
2147	ハチ目	ツチバチ科	ハラナガツチバチ	○										○
2148	ハチ目	ツチバチ科	アカスジツチバチ			○								
2149	ハチ目	ツチバチ科	オオハラナガツチバチ											○
2150	ハチ目	ツチバチ科	コモンツチバチ			○		○	○	○			○	○
2151	ハチ目	ツチバチ科	オオモンツチバチ			○		○	○	○			○	○
2152	ハチ目	ツチバチ科	キオビツチバチ						○	○			○	
2153	ハチ目	ギンギチバチ科	トゲアシギンギチ			○								
2154	ハチ目	ギンギチバチ科	クララギンギチ			○	○							
2155	ハチ目	ギンギチバチ科	イワタギンギチ			○	○			○				
2156	ハチ目	ギンギチバチ科	Ectemnius属									○		
2157	ハチ目	ギンギチバチ科	クロケラトリバチ			○								
2158	ハチ目	ギンギチバチ科	ヒメコオロギバチ			○								
2159	ハチ目	ギンギチバチ科	ヤマトコガタバチ							○				
2160	ハチ目	ギンギチバチ科	ヤマトコゲアナバチ							○				
2161	ハチ目	ギンギチバチ科	チャタテギンギチ			○								
2162	ハチ目	ギンギチバチ科	ニッポンハヤバチ						○					
2163	ハチ目	ギンギチバチ科	ヒメジガバチモドキ			○			○					
2164	ハチ目	ギンギチバチ科	オオジガバチモドキ			○								
2165	ハチ目	ギンギチバチ科	アシジロフセン			○	○							
2166	ハチ目	ギンギチバチ科	ヌカダカバチ			○								
2167	ハチ目	アリマキバチ科	アシジロヨコバイバチ											○
2168	ハチ目	アリマキバチ科	ヒメイスカバチ			○			○					
2169	ハチ目	アリマキバチ科	アバタアリマキバチ											
2170	ハチ目	アリマキバチ科	オオグシアリマキバチ			○				○				
2171	ハチ目	アリマキバチ科	キアシマエダテバチ			○								
2172	ハチ目	ドロバチモドキ科	ヤマトスナハキバチ			○			○					
2173	ハチ目	アナバチ科	サトジガバチ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
2174	ハチ目	アナバチ科	コクロアナバチ	○									○	○
2175	ハチ目	アナバチ科	アメリカシジガバチ			○	○	○	○	○			○	○
2176	ハチ目	アナバチ科	クロアナバチ	○	○	○	○	○	○	○			○	○
2177	ハチ目	アナバチ科	フクイアナバチ	○										
2178	ハチ目	アナバチ科	ルリジガバチ			○							○	

表6.7-3(23) 陸上昆虫類等確認種リスト

No.	目和名	科和名	種和名	福井大橋周辺				五松橋周辺			九頭竜川橋 ～鳴鹿橋上流		鳴鹿橋 付近	
				H4	H9	H14	H20	H9	H14	H20	H2・3	H16	H20	
2179	ハチ目	フシダカバチ科	ヒメツチスガリ										○	
2180	ハチ目	フシダカバチ科	マルモンツチスガリ		○	○			○	○			○	○
2181	ハチ目	ヒメハナバチ科	アブラナヒメハナバチ				○							
2182	ハチ目	ヒメハナバチ科	ウズキヒメハナバチ						○	○				
2183	ハチ目	ヒメハナバチ科	キバナヒメハナバチ		○	○	○		○					○
2184	ハチ目	ヒメハナバチ科	ミカドヒメハナバチ	○										
2185	ハチ目	ヒメハナバチ科	ツヤマヒメハナバチ					○						○
2186	ハチ目	ミツバチ科	ニホンミツバチ	○	○	○	○	○	○	○			○	○
2187	ハチ目	ミツバチ科	セイヨウミツバチ			○	○		○	○	○			
2188	ハチ目	ミツバチ科	コマルハナバチ						○	○				
2189	ハチ目	ミツバチ科	オオマルハナバチ											○
2190	ハチ目	ミツバチ科	クロマルハナバチ								○			○
2191	ハチ目	ミツバチ科	キオビツヤハナバチ	○		○	○		○	○				
2192	ハチ目	ミツバチ科	イワタチビツヤハナバチ		○	○		○	○	○				
2193	ハチ目	ミツバチ科	ヤマトツヤハナバチ	○	○	○		○	○					○
2194	ハチ目	ミツバチ科	ニッポンヒゲナガハナバチ	○										
2195	ハチ目	ミツバチ科	シロスジヒゲナガハナバチ	○			○	○	○	○				○
2196	ハチ目	ミツバチ科	ヤマトキマダラハナバチ	○										
2197	ハチ目	ミツバチ科	ダイミョウキマダラハナバチ						○					
2198	ハチ目	ミツバチ科	ミツクリヒゲナガハナバチ		○	○	○	○	○	○				
2199	ハチ目	ミツバチ科	キムネクマバチ	○	○	○	○	○	○	○			○	○
2200	ハチ目	ムカシハナバチ科	アシトムカシハナバチ			○								
2201	ハチ目	ムカシハナバチ科	コムカシハナバチ					○		○				
2202	ハチ目	ムカシハナバチ科	マツムラメンハナバチ				○							○
2203	ハチ目	ムカシハナバチ科	スミスチビムカシハナバチ			○								
2204	ハチ目	ムカシハナバチ科	ホソチビムカシハナバチ			○								
2205	ハチ目	ムカシハナバチ科	マツムラチビムカシハナバチ			○			○					
2206	ハチ目	コハナバチ科	アカガネコハナバチ	○	○	○	○	○	○	○			○	○
2207	ハチ目	コハナバチ科	アドジマコハナバチ			○			○	○				
2208	ハチ目	コハナバチ科	ニッポシコハナバチ	○										
2209	ハチ目	コハナバチ科	シロスジカタコハナバチ		○			○						
2210	ハチ目	コハナバチ科	オバケチビハナバチ		○	○			○					
2211	ハチ目	コハナバチ科	フタモンカタコハナバチ			○	○	○	○	○				○
2212	ハチ目	コハナバチ科	ヒラタチビハナバチ				○							○
2213	ハチ目	コハナバチ科	ニセキオビコハナバチ					○	○					
2214	ハチ目	コハナバチ科	アオスジハナバチ						○	○				
2215	ハチ目	コハナバチ科	ミスホヤドリコハナバチ							○				
2216	ハチ目	コハナバチ科	オクエツヤドリコハナバチ											○
2217	ハチ目	コハナバチ科	ヅマルコハナバチ		○	○		○	○					
2218	ハチ目	コハナバチ科	ニッポシチビコハナバチ			○								
2219	ハチ目	コハナバチ科	ツヤハラナガコハナバチ					○						
2220	ハチ目	コハナバチ科	オオエチビコハナバチ		○	○			○					
2221	ハチ目	コハナバチ科	ヅマルツヤコハナバチ			○								
2222	ハチ目	コハナバチ科	ヒラシマチビコハナバチ		○	○		○	○					
2223	ハチ目	コハナバチ科	オクエツハラアカハナバチ			○								
2224	ハチ目	コハナバチ科	コハナバチ科								○			
2225	ハチ目	ハキリバチ科	ヤトガリハナバチ						○				○	
2226	ハチ目	ハキリバチ科	スミスハキリバチ										○	
2227	ハチ目	ハキリバチ科	ヤマトハキリバチ										○	
2228	ハチ目	ハキリバチ科	バラハキリバチ		○	○	○	○	○	○			○	
2229	ハチ目	ハキリバチ科	オオハキリバチ		○			○	○	○			○	○
2230	ハチ目	ハキリバチ科	ヒメハキリバチ		○	○			○	○				
2231	ハチ目	ハキリバチ科	ツルガハキリバチ											
2232	ハチ目	ハキリバチ科	キバラハキリバチ								○			
2233	ハチ目	ハキリバチ科	キヌゲハキリバチ					○	○					
2234	ハチ目	ハキリバチ科	バラハキリバチモドキ		○	○								
合計				541	781	766	447	694	798	451	391	1160	348	